

愛媛県感染症発生動向調査事業報告書

平成 30 年 (2018 年)

愛媛県感染症情報センター

(愛媛県立衛生環境研究所)

はじめに

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）に基づき、感染症の患者発生及び原因病原体を把握・分析することにより、感染症を予防し、流行拡大を防止することを目的としています。近年、健康危機管理における各種感染症対策の重要性が増大していることを鑑み、平成 26 年に感染症法が改正され、感染症に関する情報の収集体制の強化が図られるとともに、法に基づいた病原体検査が開始されることとなり、新しい時代に入りました（平成 28 年 4 月 1 日より施行）。

来年開催の東京オリンピック・パラリンピック競技大会のような国際的イベントでは、莫大な数の訪日客が訪れ、観戦や観光のため国内を移動し、地方の隅々にまで影響が及ぶことが予想されており、感染症危機管理対策を事前に整備しておくことが重要です。このため、これまで以上に的確に感染症を探知し、感染症発生動向調査システムに基づく迅速な感染症情報の収集・共有体制が重要になります。

さて、平成 30 年に愛媛県では、インフルエンザ、RS ウイルス感染症、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎が例年より多く発生し、ヘルパンギーナ、ロタウイルス胃腸炎、マイコプラズマ肺炎、性器ヘルペス感染症、淋菌感染症についても前年より多く発生しており、健康危機管理において感染症対策は依然として最重要課題の一つです。

関係各位の皆様には、平素から本事業の推進にご支援、ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。今回、お陰様をもちまして、本報告書を取りまとめることができました。感染予防対策の資料として、広くご活用いただければ幸いです。今後とも、感染症情報センターと関係各位とのより一層の緊密な情報網の構築に努めてまいりますので、引き続きご協力並びにご指導、ご鞭撻をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

令和元年 12 月

愛媛県立衛生環境研究所

所長 四宮博人

目 次

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要	1
指定届出機関一覧	4
2018年(平成30年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -	
報告週対応表	6
1 全数把握対象 ー 五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症	
(1) 一類感染症	7
(2) 二類感染症	7
(3) 三類感染症	7
(4) 四類感染症	9
(5) 五類感染症	13
(6) 新型インフルエンザ等感染症	24
表2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)	25
表2-1-2 2018年全数把握対象疾患発生状況(月別)	26
表2-1-3 2018年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)	27
表2-1-4 2018年全数把握対象疾患発生状況(年齢別)	28
2 定点把握対象 五類感染症	
(1) 定点把握対象疾患 発生動向の概況	30
表2-2-1 週報対象疾患 - 週別患者報告数	32
表2-2-2 週報対象疾患 - 週別定点当たり患者報告数	34
表2-2-3 週報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数	36
表2-2-4 月報対象疾患 - 月別患者報告数	37
表2-2-5 月報対象疾患 - 月別定点当たり患者報告数	38
表2-2-6 月報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数	39
(2) インフルエンザ定点対象疾患(週報)	40
(3) 小児科定点対象疾患(週報)	44
(4) 眼科定点対象疾患(週報)	68
(5) 基幹定点対象疾患(週報)	72
(6) STD定点対象疾患(月報)	80
(7) 基幹定点対象疾患(月報)	86
2018年(平成30年)感染症発生動向調査結果 - 病原体検査結果 -	
1 細菌検査状況	89
(1) 全数把握対象感染症	89
(2) 定点把握対象感染症	93
2 ウイルス検査状況	95
(1) 全数把握対象感染症	95
(2) 定点把握対象感染症	95

2018年(平成30年)結核登録者情報

1 概況	105
2 新登録患者の状況	105
(1) 患者数及び罹患率の動向	105
(2) 性・年齢階級別	106
(3) 保健所別	107
(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者数の動向	108
(5) 発見の遅れ	109
3 年末現在結核登録者の状況	110
表4-1 2018年新登録患者数 - 保健所別	111
表4-2 2018年新登録患者数 - 性、年齢階級別	111
表4-3 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別	112
表4-4 新登録結核患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別	112
表4-5 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別	112
表4-6 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別	112
表4-7 2018年新登録患者数 - 結核病類、性、年齢階級別	113
表4-8 2018年新登録肺結核患者数 - 職業、菌情報、保健所別	114
表4-9 2018年新登録患者数 - 発見方法別	115
表4-10 2018年新登録有症状肺結核患者数 - 発見の遅れの期間別	115
表4-11 2018年新登録患者数 - 化療内容、保健所別	116
表4-12 2018年年末現在登録者数 - 保健所別	118
表4-13 2018年年末現在登録者数 - 性、年齢階級別	118

参考資料

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱	119
愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱	132
愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領	134
感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律 第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について(届出基準等通知)	144

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要

愛媛県感染症発生動向調査事業の概要

本事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第114号)に基づく施策として、「愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱」(平成13年1月施行)の定めにより実施しているもので、指定届出機関(定点)からの感染症の患者発生に関する情報(患者情報)及び疑似症の患者発生に関する情報(疑似症情報)と、感染症の病原体に関する情報(病原体情報)を迅速かつ的確に収集及び分析し、その結果を感染症情報として速やかに地域に公表することにより、感染症の予防、医療、研究等に役立て、有効かつ的確な感染症対策の確立に資することを目的としている。

対象疾患は一類から五類感染症までの112疾患に、新型インフルエンザ等感染症及び疑似症の各2疾患を加えた116疾患である。このうち全医療機関を対象とする全数把握感染症は、一類から四類感染症までの63疾患と五類感染症のうち24疾患に、新型インフルエンザ等感染症2疾患を加えた89疾患で、定点が報告する定点把握感染症は、五類感染症のうち25疾患(週単位あるいは月単位で報告)に疑似症2疾患(患者発生時に直ちに報告)を加えた27疾患である。

1 全数把握の対象(89疾患)

(1) 一類感染症(7疾患)

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

(2) 二類感染症(7疾患)

急性灰白髄炎、結核、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)

(3) 三類感染症(5疾患)

コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス

(4) 四類感染症(44疾患)

E型肝炎、ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、A型肝炎、エキノコックス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、マラリア、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レジオネラ症、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱

(5) 五類感染症(24疾患)

アメーバ赤痢、ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症、急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)、急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)、クリプトスポリジウム症、クロイツフェルト・ヤコブ病、劇症型溶血性レンサ球菌感染症、後天性免疫不全症候群、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、侵襲性髄膜炎菌感染症、侵襲性肺炎球菌感染症、水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)、先天性風しん症候群、梅毒、播種性クリプトコックス症、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、百日咳、風しん、麻しん、薬剤耐性アシネトバクター感染症

(6) 新型インフルエンザ等感染症(2疾患)

新型インフルエンザ、再興型インフルエンザ

2 定点把握の対象(27 疾患)

(1) 五類感染症(25 疾患)

インフルエンザ定点の対象(1 疾患)

インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)

小児科定点の対象(10 疾患)

R S ウイルス感染症、咽頭結膜熱、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、水痘、手足口病、伝染性紅斑、突発性発しん、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎

眼科定点の対象(2 疾患)

急性出血性結膜炎、流行性角結膜炎

STD 定点の対象(4 疾患)

性器クラミジア感染症、性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、淋菌感染症

基幹定点の対象(8 疾患)

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)、クラミジア肺炎(オウム病を除く。)、細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症、マイコプラズマ肺炎、無菌性髄膜炎、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症、薬剤耐性緑膿菌感染症

(2) 疑似症(2 疾患)*

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)、発熱及び発しん又は水疱

*: いずれも当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く

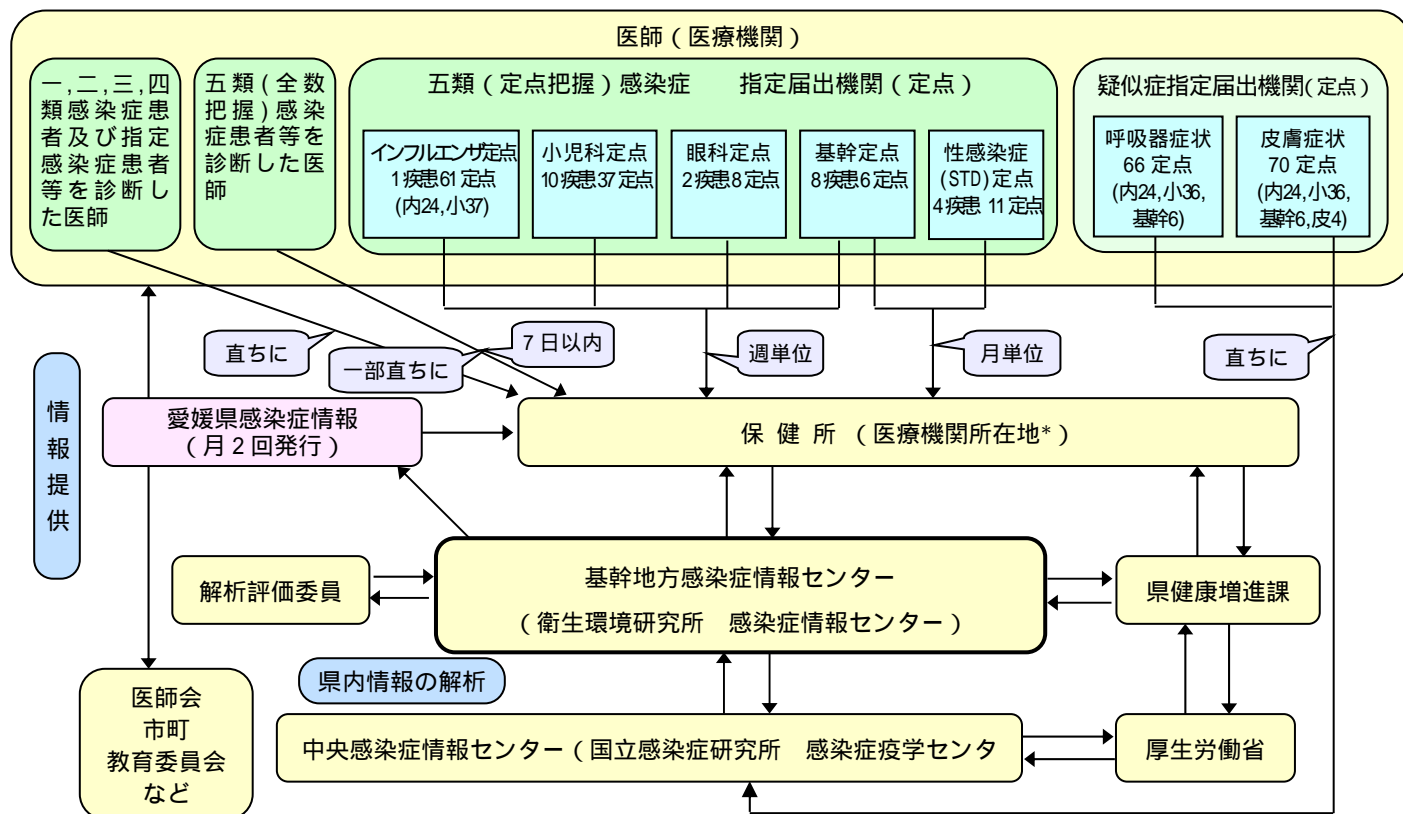
定点には患者定点と疑似症定点、病原体定点がある。患者定点はインフルエンザ定点(内科と小児科)、小児科定点、眼科定点、性感染症(STD)定点(皮膚科、泌尿器科、婦人科)、基幹定点(内科と小児科を持つ300床以上の病院)の5種類であり、疑似症定点は第一号疑似症定点(内科と小児科)と第二号疑似症定点(内科、小児科、皮膚科)の2種類である。それぞれ、地域の流行状況について全体の傾向を可能な限り反映できるように、保健所ごとに設定されている。また、患者定点の中から病原体定点を設定し、病原体の分離等の検査情報を収集している。

表 保健所別定点数

保健所	患者定点					疑似症定点		病原体定点
	インフルエンザ	小児科	眼科	性感染症(STD)	基幹	第一号	第二号	
四国中央	5	3	—	1	1	6	6	2
西条	10	6	1	2	1	11	12	3
今治	8	5	1	1	1	9	10	3
松山市	17	11	3	4	—	17	17	4
中予	7	4	1	1	1	8	8	3
八幡浜	7	4	1	1	1	8	9	3
宇和島	7	4	1	1	1	7	8	2
合計	61	37	8	11	6	66	70	20

※ 小児科定点はインフルエンザ定点を兼ねる。

医療機関からの患者情報は保健所を通じて基幹地方感染症情報センター（衛生環境研究所 感染症情報センター）へ集約され、中央感染症情報センター（国立感染症研究所 感染症疫学センター）へ報告するとともに関係機関へ週報単位で還元している。疑似症情報については中央感染症情報センターに集約された情報を随時解析し関係機関へ還元している。また月2回、解析評価委員による県内情報の解析・評価が行われ、その結果を「愛媛県感染症情報」として関係機関に提供している。これらの情報はホームページでも公開している。



* 但し、結核については患者等住所地

図 平成30年（2018年）愛媛県における感染症発生動向調査事業のながれ

指定届出機関一覧(平成30年)

(平成30年末現在)

保健所	定点種別	医療機関名	所在地	病原体定点
四国中央	インフルエンザ	川関高橋医院	四国中央市金生町下分257	
		矢部内科	四国中央市三島宮川4丁目6-71	
	小児科	川上こどもクリニック	四国中央市金生町山田井895-2	
		鈴木医院	四国中央市土居町小林1200	○
		ふじえだファミリークリニック	四国中央市中曾根町5074	
	STD	大西泌尿器科クリニック*1	四国中央市中曾根366-1	
		公立学校共済組合 四国中央病院*2	四国中央市川之江町2233	
基幹	公立学校共済組合 四国中央病院	四国中央市川之江町2233	○	
西条	インフルエンザ	井石内科医院	新居浜市西原町1-1-65	
		土岐医院	西条市神拝甲538-6	○
		中萩診療所	新居浜市萩生1061	
		福田医院	西条市丹原町願連寺278	
	小児科	かとうクリニック	新居浜市船木甲4322-2	
		キッズクリニックパパ	西条市周布486-3	
		県立新居浜病院	新居浜市本郷3丁目1-1	
		こにしクリニック	新居浜市庄内町1丁目13-35	
		高橋こどもクリニック	西条市朔日市313-5	○
		星加小児科内科ファミリークリニック	西条市大町612-1	
	眼科	いしづち眼科	新居浜市庄内町1丁目8-30	
	STD	西条市立周桑病院	西条市壬生川131	
		なめだ皮膚科医院	新居浜市一宮町2丁目3-48	
	基幹	住友別子病院	新居浜市王子町3-1	○
	今治	インフルエンザ	重見内科医院	今治市国分3丁目13-45
消化器科久保病院			今治市内堀1丁目1-19	
瀬戸内海病院			今治市北宝来町2丁目4-9	
小児科		あおい小児科	今治市東村5丁目9-37	○
		喜多嶋診療所	今治市伯方町木浦甲3449	
		丹こどもクリニック	今治市末広町3丁目4-12	
		まつうらバンビクリニック	今治市北宝来町3丁目3-34	
みぶ小児科		今治市北宝来町3丁目1-27		
眼科		高木眼科病院	今治市北宝来町2丁目3-1	○
STD		今井皮膚泌尿器科医院	今治市共栄町2丁目1-24	
基幹	県立今治病院	今治市石井町4丁目5-5	○	
松山市	インフルエンザ	今村循環器科内科	松山市古川西2丁目3-23	
		沖永内科医院	松山市北斎院町85-1	
		しげまつ内科クリニック	松山市居相1丁目10-20	
		永山内科	松山市北梅本町666-2	
		久野内科	松山市此花町8-24	
		矢野内科	松山市東長戸1丁目10-18	○
	小児科	石丸小児科	松山市三番町6丁目5-1	○
		いとう小児科	松山市土居町805-1	
		加賀田小児科	松山市古川北1丁目21-28	
		くす小児科	松山市西長戸町274-2	
		河野小児科	松山市久米窪田町781-3	

*1:平成30年9月までの指定届出機関 *2:平成30年10月からの指定届出機関

(平成30年末現在)

保健所	定点種別	医療機関名	所在地	病原体定点
松山市	小児科	児玉小児科医院	松山市桑原4丁目13-24	○
		徳丸小児科	松山市古川北3丁目4-15	
		檜垣小児科内科医院	松山市北条辻415-3	
		平井こどもクリニック	松山市和気町1丁目714-3	
		まつうら小児科	松山市愛光町1-8	
		山田小児科医院	松山市余戸中2丁目15-30	
	眼科	一色眼科	松山市小坂5丁目7-7	
		たかのこみどり眼科クリニック	松山市鷹子町236-1	
		吉田眼科	松山市道後町2丁目1-12	○
	STD	NTT西日本松山病院(産婦人科)	松山市喜与町1丁目7-1	
		ほこいし泌尿器科	松山市柳井町1丁目14-8	
		松山赤十字病院(泌尿器科)	松山市文京町1	
米本産婦人科医院		松山市松末2丁目17-23		
中予	インフルエンザ	きむら内科クリニック	伊予市灘町151	
		久万高原町立病院	上浮穴郡久万高原町久万65	
		辻井循環器科内科	東温市田窪2030	○
	小児科	いのうえ小児科	東温市野田2丁目485-1	○
		宇山小児科	伊予市米湊815-6	
		みかわクリニック	上浮穴郡久万高原町上黒岩2920	
		むかいだ小児科	伊予郡松前町恵久美792-1	
	眼科	いずみだ眼科	東温市田窪2228-1	
	STD	重信クリニック	東温市志津川246-6	
	基幹	愛媛大学医学部附属病院	東温市志津川	○
八幡浜	インフルエンザ	市立大洲病院	大洲市西大洲甲570	○
		西予市立野村病院	西予市野村町野村9-53	
		三瓶病院	西予市三瓶町朝立2-1-18	
	小児科	おおむら小児科	喜多郡内子町城廻846-30	
		ごとう小児科	大洲市東大洲74-2	
		みかんこどもクリニック	八幡浜市白浜1536-5	○
		山下小児科	西予市宇和町伊賀上1656-57	
	眼科	東大洲城戸眼科	大洲市東大洲149-2	
	STD	牧野皮フ科	八幡浜市広瀬2丁目1-43	
	基幹	市立八幡浜総合病院	八幡浜市大平1-638	○
宇和島	インフルエンザ	宇和島市立吉田病院	宇和島市吉田町北小路甲217	
		粉川ファミリークリニック	南宇和郡愛南町城辺甲86	
		田中循環器科内科	宇和島市堀端町29	
	小児科	県立南宇和病院	南宇和郡愛南町城辺甲2433-1	
		桑折小児科	宇和島市中央町1丁目10-5	
		こばやし小児科	宇和島市長堀3丁目5-12	
		市立宇和島病院	宇和島市御殿町1-1	○
	眼科	阿部眼科	宇和島市堀端町1-4	
	STD	秋山医院	宇和島市堀端町1-16	
	基幹	市立宇和島病院	宇和島市御殿町1-1	○

2018年(平成30年)感染症発生動向調査結果

一患者情報一

2018年(平成30年)感染症発生動向調査事業 報告週対応表

1月							
週	月	火	水	木	金	土	日
1	1	2	3	4	5	6	7
2	8	9	10	11	12	13	14
3	15	16	17	18	19	20	21
4	22	23	24	25	26	27	28
5	29	30	31				

7月							
週	月	火	水	木	金	土	日
26							1
27	2	3	4	5	6	7	8
28	9	10	11	12	13	14	15
29	16	17	18	19	20	21	22
30	23	24	25	26	27	28	29
31	30	31					

2月							
週	月	火	水	木	金	土	日
5				1	2	3	4
6	5	6	7	8	9	10	11
7	12	13	14	15	16	17	18
8	19	20	21	22	23	24	25
9	26	27	28				

8月							
週	月	火	水	木	金	土	日
31			1	2	3	4	5
32	6	7	8	9	10	11	12
33	13	14	15	16	17	18	19
34	20	21	22	23	24	25	26
35	27	28	29	30	31		

3月							
週	月	火	水	木	金	土	日
9				1	2	3	4
10	5	6	7	8	9	10	11
11	12	13	14	15	16	17	18
12	19	20	21	22	23	24	25
13	26	27	28	29	30	31	

9月							
週	月	火	水	木	金	土	日
35						1	2
36	3	4	5	6	7	8	9
37	10	11	12	13	14	15	16
38	17	18	19	20	21	22	23
39	24	25	26	27	28	29	30

4月							
週	月	火	水	木	金	土	日
13							1
14	2	3	4	5	6	7	8
15	9	10	11	12	13	14	15
16	16	17	18	19	20	21	22
17	23	24	25	26	27	28	29
18	30						

10月							
週	月	火	水	木	金	土	日
40	1	2	3	4	5	6	7
41	8	9	10	11	12	13	14
42	15	16	17	18	19	20	21
43	22	23	24	25	26	27	28
44	29	30	31				

5月							
週	月	火	水	木	金	土	日
18		1	2	3	4	5	6
19	7	8	9	10	11	12	13
20	14	15	16	17	18	19	20
21	21	22	23	24	25	26	27
22	28	29	30	31			

11月							
週	月	火	水	木	金	土	日
44				1	2	3	4
45	5	6	7	8	9	10	11
46	12	13	14	15	16	17	18
47	19	20	21	22	23	24	25
48	26	27	28	29	30		

6月							
週	月	火	水	木	金	土	日
22					1	2	3
23	4	5	6	7	8	9	10
24	11	12	13	14	15	16	17
25	18	19	20	21	22	23	24
26	25	26	27	28	29	30	

12月							
週	月	火	水	木	金	土	日
48						1	2
49	3	4	5	6	7	8	9
50	10	11	12	13	14	15	16
51	17	18	19	20	21	22	23
52	24	25	26	27	28	29	30
1	31						

2018年(平成30年)感染症発生動向調査結果 - 患者情報 -

1 全数把握対象 一～五類感染症、新型インフルエンザ等感染症

感染経路、感染原因、感染地域については、確定あるいは推定として届出票に記載されていたものを示す。

(1) 一類感染症

一類感染症 7 疾患(エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱)の届出はなかった。

(2) 二類感染症

結核

結核は 176 人の届出があり、前年(200 人)から 24 人減少した。病型は、患者 141 人、無症状病原体保有者(潜在性結核感染症) 34 人、感染症死亡者 1 人であった。性別は男性 89 人、女性 87 人で、年齢は 10 歳未満 2 人、20 歳代 11 人、30 歳代 9 人、40 歳代 9 人、50 歳代 10 人、60 歳代 27 人、70 歳代 39 人、80 歳代以上 69 人であった。感染経路は飛沫・飛沫核感染が 123 人、その他(不明を含む)が 53 人であった。感染地域は国内 162 人(うち県内 156 人、県外 3 人、都道府県不明 3 人)、国外 4 人(うち、ベトナム 1 人、大韓民国 1 人、フィリピン 1 人、ミャンマー 1 人)であった。

なお、結核の動向の詳細は、結核登録者情報システムでの集計に基づき、別章(2018年(平成30年)結核登録者情報)に掲載した。

その他 6 疾患(急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 SARS コロナウイルスであるものに限る。)、中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属 MERS コロナウイルスであるものに限る。)、鳥インフルエンザ(H5N1)、鳥インフルエンザ(H7N9)の届出はなかった。

(3) 三類感染症

細菌性赤痢

細菌性赤痢は 60 歳代女性 1 人(患者)の届出があった。検出された菌種はソンネで、感染地域は国外(ペルー)、感染経路は経口感染であった。

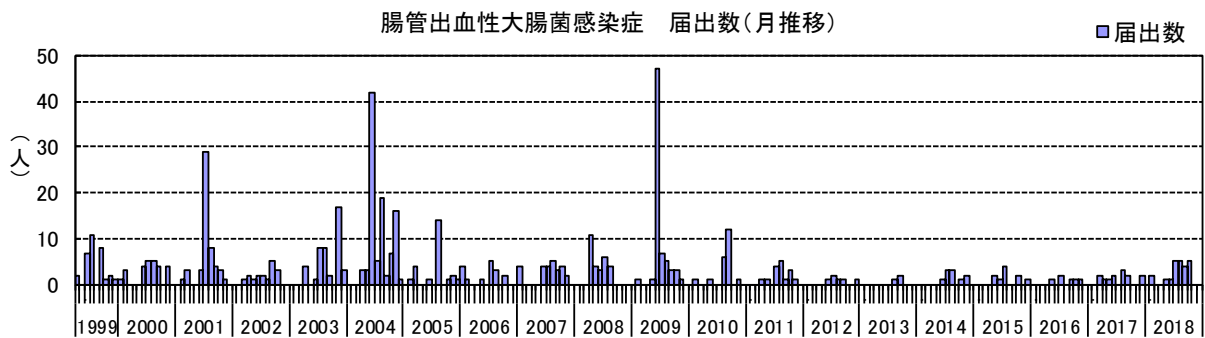
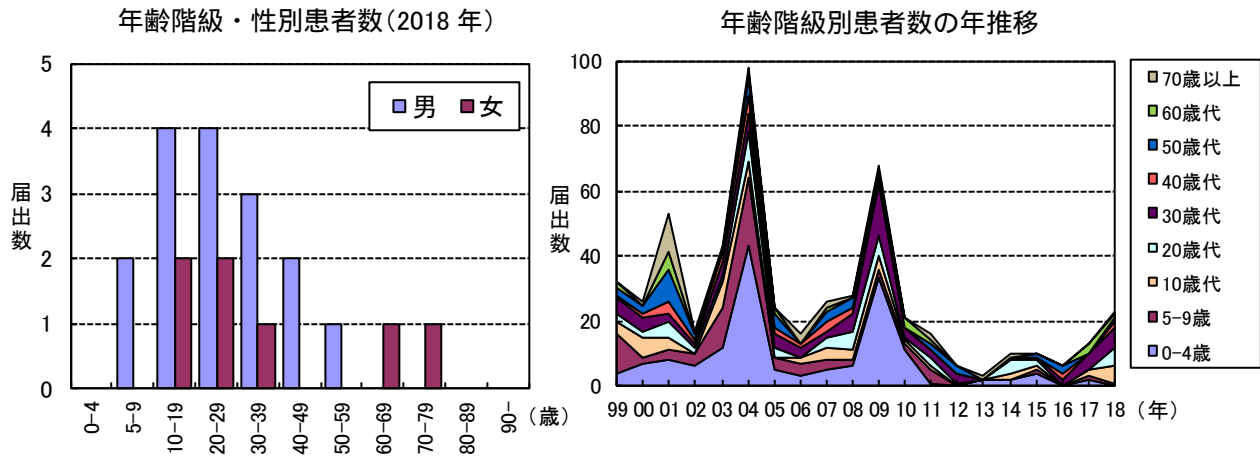
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	菌型	感染地域
5月11日	19週	今治	女	60歳代	下痢	ソンネ	国外 (ペルー)

腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は 17 事例 23 人(患者 16 人、無症状病原体保有者 7 人)の届出があっ

た。性別は男性 16 人、女性 7 人で、年齢は 10 歳未満 2 人、10 歳代 6 人、20 歳代 6 人、30 歳代 4 人、40 歳代 2 人、50 歳代 1 人、60 歳代 1 人、70 歳代 1 人であった。血清型及び Vero 毒素は、O157 VT1・VT2 が 11 人、O26 VT1 が 5 人、O157 VT2 が 3 人、O91 VT1・VT2、O112ab VT1、O121 VT2、O165 VT1・2 が各 1 人であった。感染地域は国内 22 人（県内 20 人、県外 1 人、都道府県不明 1 人）、不明 1 人で、感染経路は経口感染が 5 人、接触感染が 2 人、不明が 16 人であった。溶血性尿毒素症候群（HUS）発症等、重症例の報告はなかった。

事例番号	診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	血清型	ベロ毒素
1	2月 9日	6週	松山市	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157	VT1・VT2
2	2月 19日	8週	松山市	女	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、発熱	O157	VT2
3	5月 15日	20週	西条	女	60歳代	腹痛、血便	O157	VT1・VT2
4	6月 27日	26週	今治	女	10歳代	腹痛、水様性下痢、発熱	O26	VT1
5	7月 2日	27週	中予	男	30歳代	なし	O157	VT2
6	7月 6日	27週	松山市	女	70歳代	腹痛、水様性下痢	O26	VT1
7	7月 18日	29週	松山市	女	20歳代	なし	O157	VT1・VT2
8	7月 19日	29週	今治	男	30歳代	なし	O112ab	VT1
9	7月 26日	30週	西条	男	10歳代	腹痛、水様性下痢	O121	VT2
10	8月 22日	34週	松山市	男	10歳代	腹痛、軟便	O157	VT1・VT2
	8月 24日	34週	松山市	男	10歳未満	腹痛、水様性下痢	O26	VT1
11	8月 28日	35週	松山市	男	40歳代	水様性下痢	O26	VT1
	8月 28日	35週	松山市	男	10歳未満	水様性下痢	O26	VT1
12	8月 24日	34週	西条	男	50歳代	なし	O165	VT1・VT2
	9月 3日	36週	今治	男	10歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔気	O157	VT1・VT2
13	9月 6日	36週	今治	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、嘔気	O157	VT1・VT2
	9月 6日	36週	今治	女	10歳代	なし	O157	VT1・VT2
14	9月 10日	37週	松山市	男	30歳代	なし	O91	VT1・VT2
15	10月 9日	41週	宇和島	女	30歳代	軟便	O157	VT2
	10月 24日	43週	今治	男	10歳代	腹痛、水様性下痢、嘔気、泥状便	O157	VT1・VT2
16	10月 27日	43週	今治	男	20歳代	腹痛、水様性下痢、血便、嘔吐、発熱、粘液から水溶性下痢	O157	VT1・VT2
	10月 27日	43週	今治	男	40歳代	腹痛、水様性下痢	O157	VT1・VT2
17	10月 30日	44週	今治	男	20歳代	なし	O157	VT1・VT2



その他 3 疾患 (コレラ、腸チフス、パラチフス) の届出はなかった。

(4) 四類感染症

A 型肝炎

A 型肝炎は 3 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 1 人で、年齢は 20 歳代が 1 人、30 歳代 1 人、60 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路は経口感染 2 人、性的接触 1 人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
2月 6日	6週	中予	男	60歳代	発熱、黄疸、肝機能異常	県内	経口感染
3月 12日	11週	四国中央	女	20歳代	全身倦怠感、発熱、食欲不振、黄疸、肝腫大、肝機能異常	県内	経口感染
11月 14日	46週	中予	男	30歳代	全身倦怠感、発熱、黄疸、肝機能異常	県内	性的接触

重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)

重症熱性血小板減少症候群 (SFTS) は 3 人の届出があった。性別は男性 1 人、女性 2 人で、年齢は 70 歳代 1 人、80 歳代 2 人であった。感染地域はすべて国内 (県内 2 人、県外 1 人) で、感染経路はすべて動物・蚊・昆虫等からの感染であった。なお、全国では 77 人の届出があった。

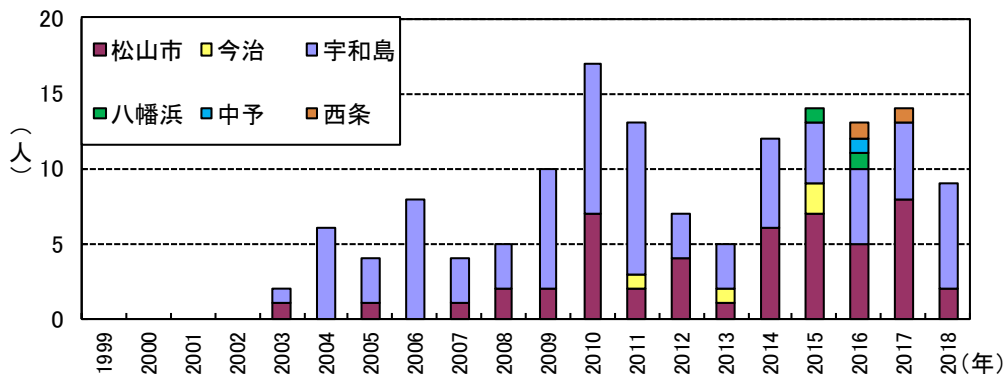
診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	初診日	症状	感染地域 (保健所)	感染経路
5月 10日	19週	宇和島	女	80歳代	5月 8日	発熱、頭痛、筋肉痛、下痢、 食欲不振、血小板減少、 白血球減少、肝機能異常	県外	動物・蚊・昆虫等 からの感染
7月 10日	28週	中予	女	80歳代	7月 9日	発熱、神経症状、下痢、嘔吐、 食欲不振、全身倦怠感、 血小板減少、白血球減少	中予	動物・蚊・昆虫等 からの感染
9月 11日	37週	中予	男	70歳代	9月 11日	発熱、神経症状、下痢、食欲不振、 全身倦怠感、血小板減少、 白血球減少	今治	動物・蚊・昆虫等 からの感染

日本紅斑熱

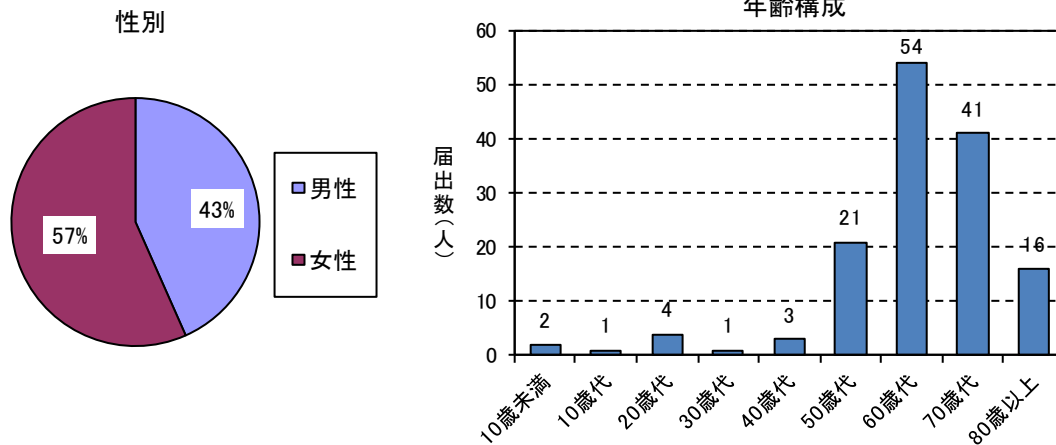
日本紅斑熱は9人の届出があった。性別は男性4人、女性5人で、年齢は20歳代1人、60歳代4人、70歳代1人、80歳代1人、90歳代2人であった。感染地域はすべて県内（宇和島保健所管内7人、松山市保健所管内1人、今治保健所管内1人）で、9人中6人にマダニ類による刺し口が確認された。感染症法施行（1999年4月）以降に届出された患者143人のうち、性別は男性62人（43.4%）、女性81人（56.6%）であり、年齢は50歳以上の壮高年者が132人（92.3%）を占めている。また、患者の届出は、宇和島保健所が85人（59.4%）と多く、次いで松山市保健所が49人（34.3%）、今治保健所が4人（2.8%）、西条保健所2人（1.4%）、八幡浜保健所が2人（1.4%）、中予保健所1人（0.7%）であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	初診日	症状	感染地域 (保健所)	感染経路
5月 7日	19週	松山市	女	60歳代	4月 12日	発熱、刺し口、発疹	今治	動物・蚊・昆虫 等からの感染
6月 7日	23週	宇和島	男	90歳代	5月 6日	発熱、刺し口、発疹、 肝機能異常	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染
6月 8日	23週	宇和島	女	90歳代	5月 8日	発熱、刺し口、発疹、DIC、 肝機能異常、CK高値	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染
6月 26日	26週	宇和島	男	70歳代	5月 19日	発熱、発疹、肝機能異常	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染
8月 10日	32週	宇和島	男	20歳代	6月 6日	発熱、刺し口、発疹	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染
8月 10日	32週	宇和島	男	60歳代	5月 21日	発熱、刺し口、発疹、 肝機能異常	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染
10月 18日	42週	宇和島	女	60歳代	9月 15日	発熱、頭痛、発疹、DIC、 肝機能異常	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染
11月 2日	44週	松山市	女	80歳代	10月 10日	発熱、発疹、肝機能異常	松山市	不明
11月 8日	45週	宇和島	女	60歳代	9月 11日	発熱、刺し口、肝機能異常	宇和島	動物・蚊・昆虫 等からの感染

日本紅斑熱 保健所別届出数の年推移



感染症法施行(1999年4月)以降に届出された日本紅斑熱患者(143人)の内訳



マラリア

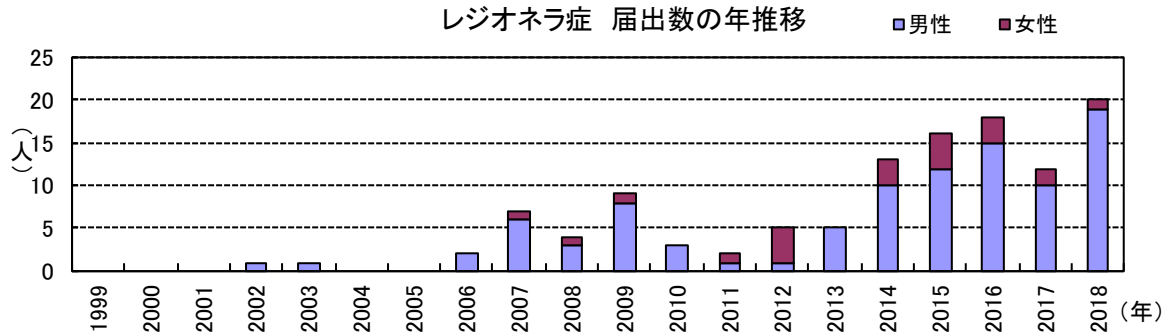
マラリアは 30 歳代男性 1 人の届出があった。病型は三日熱で、感染地域は国外（パキスタンまたはアフガニスタン）、感染経路は動物・蚊・昆虫等からの感染であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
9月12日	37週	西条	男	30歳代	三日熱	発熱、悪寒、頭痛、関節痛、脾腫、貧血	国外 (パキスタン、アフガニスタン)	動物・蚊・昆虫等からの感染

レジオネラ症

レジオネラ症は 20 人の届出があり、病型はすべて肺炎型であった。性別は男性 19 人、女性 1 人で、年齢は 30 歳代 1 人、40 歳代 3 人、50 歳代 5 人、60 歳代 2 人、70 歳代 5 人、80 歳代 2 人、90 歳代 2 人であった。感染地域は県内 18 人（西条保健所管内 7 人、今治保健所管内 1 人、松山市保健所管内 2 人、八幡浜保健所管内 1 人、宇和島保健所管内 5 人、地域不明 2 人）、不明 2 人であった。感染経路は水系感染が 3 人、塵埃感染が 3 人、その他が 1 人、不明が 13 人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域 (保健所)	感染経路
1月 25日	4週	西条	男	40歳代	肺炎型	発熱、肺炎	西条	不明
2月 2日	5週	宇和島	男	80歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、肺炎	宇和島	不明
2月 14日	7週	西条	女	90歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、肺炎	西条	不明
2月 21日	8週	松山市	男	50歳代	肺炎型	発熱、下痢、肺炎	県内	水系感染
2月 27日	9週	今治	男	70歳代	肺炎型	発熱、肺炎、筋肉痛、 下肢脱力感	今治	不明
5月 23日	21週	宇和島	男	40歳代	肺炎型	発熱、腹痛、肺炎、 嘔吐、頭痛、咽頭痛	宇和島	不明
5月 29日	22週	西条	男	50歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、 意識障害、肺炎、 多臓器不全、DIC	西条	不明
6月 7日	23週	西条	男	90歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、肺炎	県内	不明
6月 8日	23週	宇和島	男	70歳代	肺炎型	発熱、呼吸困難、 意識障害、肺炎	宇和島	不明
6月 13日	24週	西条	男	50歳代	肺炎型	発熱、肺炎	西条	不明
7月 17日	29週	西条	男	70歳代	肺炎型	発熱、肺炎	不明	不明
7月 17日	29週	西条	男	80歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、 呼吸困難、肺炎	西条	塵埃感染
7月 20日	29週	松山市	男	60歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、 呼吸困難、意識障害、 肺炎、多臓器不全	松山市	不明
7月 25日	30週	西条	男	30歳代	肺炎型	発熱、肺炎	西条	塵埃感染
9月 3日	36週	西条	男	40歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎	西条	その他
9月 26日	39週	宇和島	男	50歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎	宇和島	塵埃感染
10月 10日	41週	宇和島	男	70歳代	肺炎型	発熱、肺炎	八幡浜	不明
10月 16日	42週	宇和島	男	50歳代	肺炎型	発熱、咳嗽、肺炎	宇和島	水系感染
11月 9日	45週	西条	男	60歳代	肺炎型	発熱、肺炎	不明	不明
12月 21日	51週	松山市	男	70歳代	肺炎型	発熱、肺炎、筋力低下、 全身倦怠感	松山市	水系感染



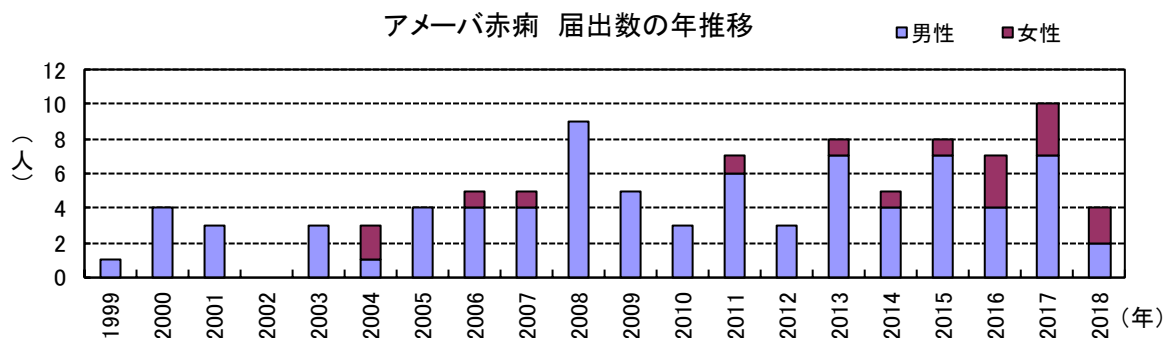
その他 39 疾患 (E 型肝炎、ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)、エキノкокクス症、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、Q 熱、狂犬病、コクシジオイデス症、サル痘、ジカウイルス感染症、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、チクングニア熱、つつが虫病、デング熱、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ(H5N1 及び H7N9 を除く。)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、ライム病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、レプトスピラ症、ロッキー山紅斑熱)の届出はなかった。

(5) 五類感染症

アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は 4 人の届出があり、病型は腸管アメーバ症 3 人、腸管外アメーバ症 1 人であった。性別は男性 2 人、女性 2 人で、年齢は 30 歳代 1 人、40 歳代 2 人、50 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路は経口感染が 1 人、不明が 3 人であった。

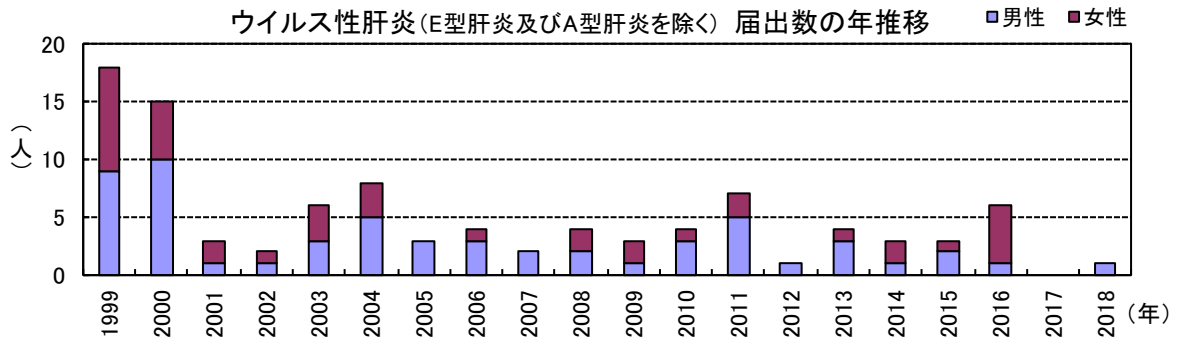
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
1月 25日	4週	西条	男	40歳代	腸管アメーバ症	粘血便、大腸粘膜異常所見	県内	不明
7月 25日	30週	松山市	女	50歳代	腸管アメーバ症	下痢、便潜血陽性	県内	不明
9月 28日	39週	宇和島	男	40歳代	腸管アメーバ症	大腸粘膜異常所見、便潜血陽性	県内	経口感染
10月 19日	42週	松山市	女	30歳代	腸管外アメーバ症	肝膿瘍	県内	不明



ウイルス性肝炎(A型及びE型を除く。)

ウイルス性肝炎は10歳代男性1人の届出があった。病型はB型で、感染地域は県内、感染経路は不明であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
12月4日	49週	松山市	男	10歳代	B型	全身倦怠感、肝機能異常、黄疸	県内	不明



カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症は7人の届出があった。性別は男性3人、女性4人で、年齢は60歳代3人、70歳代1人、90歳代3人であった。感染地域はすべて国内(うち県内6人)で、感染経路は、医療器具関連感染が3人、以前からの保菌が3人、手術部位感染が1人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
1月12日	2週	松山市	女	90歳代	尿路感染症	県内	以前からの保菌
4月12日	15週	西条	男	60歳代	皮膚潰瘍に伴う感染	県内	手術部位感染
7月21日	29週	宇和島	男	60歳代	尿路感染症	県内	医療器具関連感染
7月30日	31週	松山市	女	90歳代	尿路感染症	県内	以前からの保菌
8月6日	32週	西条	女	90歳代	尿路感染症	県内	医療器具関連感染
9月14日	37週	宇和島	男	70歳代	肺炎	国内	以前からの保菌
12月10日	50週	西条	女	60歳代	尿路感染症	県内	医療器具関連感染

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)

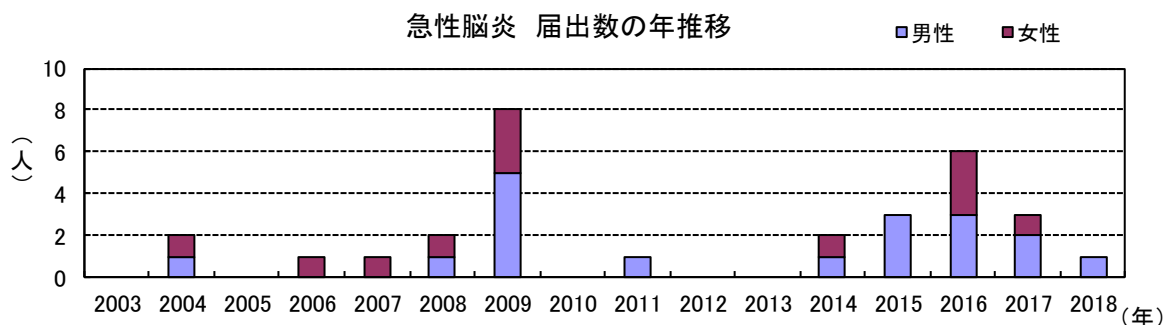
急性弛緩性麻痺は2018年5月1日から五類感染症に指定され、県内では3人の届出があった。性別は男性2人、女性1人で、年齢は1~4歳が2人、5~9歳が1人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路はすべて不明であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
9月 21日	38週	松山市	男	1～4歳	弛緩性麻痺(左右上肢、左右下肢)、深部腱反射低下、髄液細胞数増加、発熱、脊髄の画像異常所見	県内	不明
10月 18日	42週	松山市	男	5～9歳	弛緩性麻痺(左右上肢)、髄液細胞数増加、発熱、咳	県内	不明
11月 8日	45週	四国中央	女	1～4歳	弛緩性麻痺(右下肢)、脊髄の画像異常所見	県内	不明

急性脳炎(ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)

急性脳炎は 40 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域、感染経路はともに不明であった。

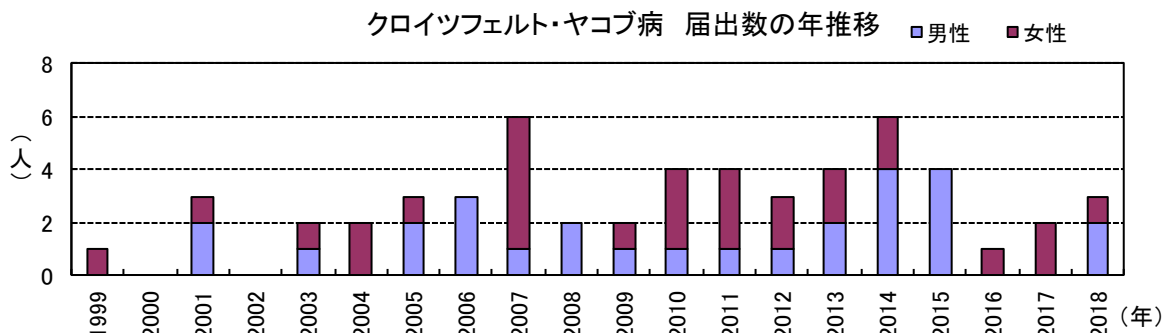
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
6月 8日	23週	西条	男	40歳代	意識障害、人格変化	不明	不明



クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は 3 人の届出があった。性別は男性 2 人、女性 1 人で、年齢は 70 歳代 2 人、80 歳代 1 人であった。病型は孤発性 2 人、家族性 1 人で、診断の確実度はほぼ確実が 2 人、疑いが 1 人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型 (診断の確実度)	症状
2月 26日	9週	松山市	男	80歳代	家族性 (ほぼ確実)	進行性認知症
7月 13日	28週	松山市	女	70歳代	孤発性 (疑い)	進行性認知症、ミオクローヌス、錐体外路症状、記憶障害、精神・知能障害、筋強剛
10月 1日	40週	中予	男	70歳代	孤発性 (ほぼ確実)	進行性認知症、ミオクローヌス、視覚異常、無動性無言状態

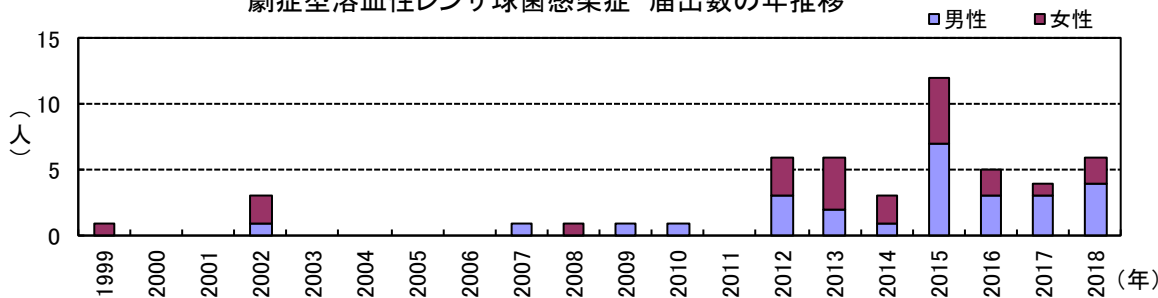


劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 6 人の届出があった。性別は男性 4 人、女性 2 人で、年齢は 10 歳代 1 人、40 歳代 1 人、60 歳代 1 人、70 歳代 1 人、80 歳代 2 人であった。感染地域はすべて国内（うち県内 5 人）で、感染経路は創傷感染が 3 人、その他が 2 人、不明が 1 人であった。検出された病原体の血清群は A 群が 3 人、G 群が 2 人、C 群が 1 人であった。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病原体	症状	感染地域	感染経路
2月 5日	6週	松山市	男	10歳代	A群	ショック、腎不全、全身性紅斑性発疹、DIC、急性呼吸窮迫症候群	県内	その他
4月 9日	15週	宇和島	男	80歳代	G群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、急性呼吸窮迫症候群、中枢神経症状	県内	創傷感染
4月 18日	16週	西条	女	80歳代	C群	ショック、軟部組織炎、中枢神経症状	県内	創傷感染
7月 3日	27週	宇和島	女	60歳代	G群	ショック、腎不全、DIC、中枢神経症状	県内	その他
11月 13日	46週	松山市	男	40歳代	A群	ショック、肝不全、DIC、軟部組織炎、中枢神経症状	国内	不明
12月 8日	49週	宇和島	男	70歳代	A群	ショック、腎不全、軟部組織炎	県内	創傷感染

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 届出数の年推移



後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は 7 人の届出があり、病型は無症候性キャリアが 5 人、AIDS が 2 人であった。性別は男性 6 人、女性 1 人で、年齢は 20 歳代 1 人（無症候性キャリア）、30 歳代 2 人（無症候性キャリア 2 人）、40 歳代 2 人（無症候性キャリア 1 人、AIDS 1 人）、50 歳代 1 人（無症候性キャリア）、60 歳代 1 人（AIDS）であった。感染地域は国内 4 人、国外 2 人、不明 1 人で、感染経路は同性間性的接触が 3 人、異性間性的接触が 4 人であった。

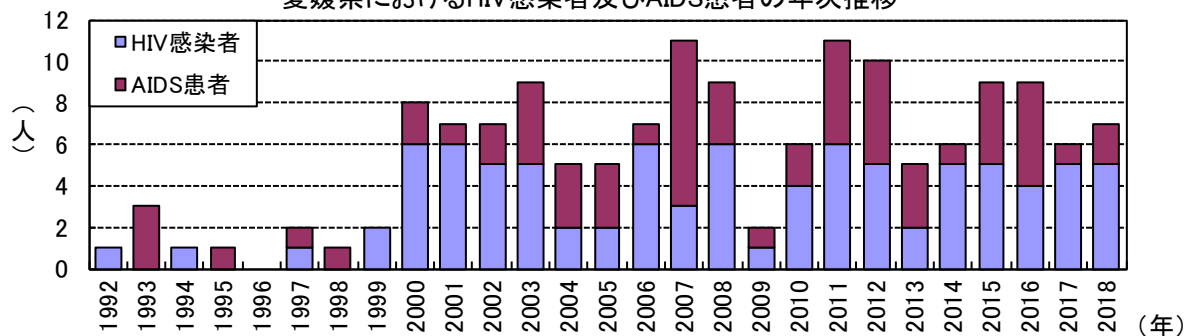
県内の HIV 感染者（無症候性キャリア、その他）及び AIDS 患者数の年次推移をみると、1992 年から 1999 年までは毎年 1～2 人程度で推移していたが、2000 年以降は年間 5～11 人と多い状態が続いている。

1999 年 4 月以降、感染症法に基づいて届出された 141 人のうち、性別は男性が 131 人と全体の 92.9% を占めている。男性 131 人の年齢は、20 歳未満が 1 人（0.8%）、20 歳代が 29 人（22.1%）、30 歳代が 54 人（41.2%）、40 歳代が 25 人（19.1%）、50 歳代が 15 人（11.5%）、60 歳以上が 7 人（5.3%）であり、20～30 歳代が 83 人（63.4%）と多い。感染経路は性的接触が 119 人（同性間（両性間を含む）73 人、異性間 46 人）と 84.4% を占め、感染地域は国内感染例が 115 人（81.6%）を占める。これらのことから、県内における HIV 感染者及び AIDS 患者は、20 歳代から 50 歳代の男性を中心に、国内での性的接触によるものが多いと言える。特に、40 歳以上では、AIDS を発症してはじめて感染が確認される割合が 6 割以上、50 歳以上では 8 割以上

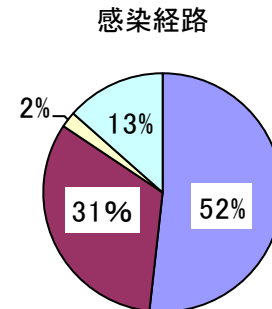
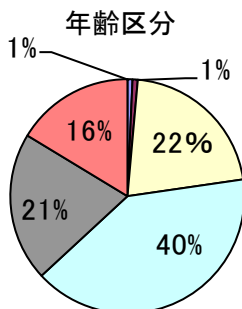
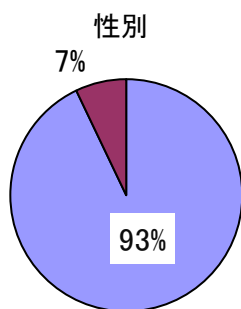
に上ることから、発症前の検査で早期に発見することが重要である。

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
1月 26日	4週	中予	男	50歳代	無症候性キャリア	国外	同性間性的接触
2月 19日	8週	中予	男	30歳代	無症候性キャリア	不明	異性間性的接触
3月 19日	12週	中予	男	30歳代	無症候性キャリア	国内	異性間性的接触
6月 11日	24週	中予	男	60歳代	AIDS	国内	同性間性的接触
7月 23日	30週	中予	男	20歳代	無症候性キャリア	国内	同性間性的接触
11月 9日	45週	中予	男	40歳代	AIDS	国外	異性間性的接触
11月 13日	46週	中予	女	40歳代	無症候性キャリア	国内	異性間性的接触

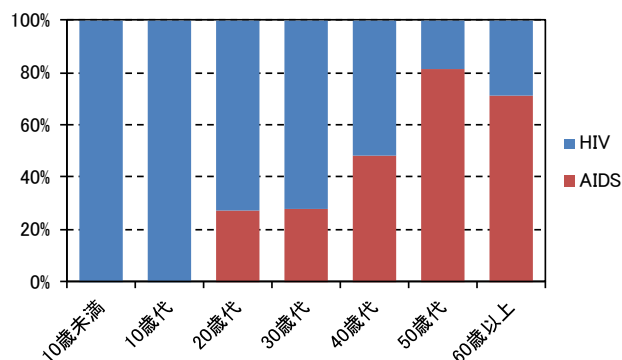
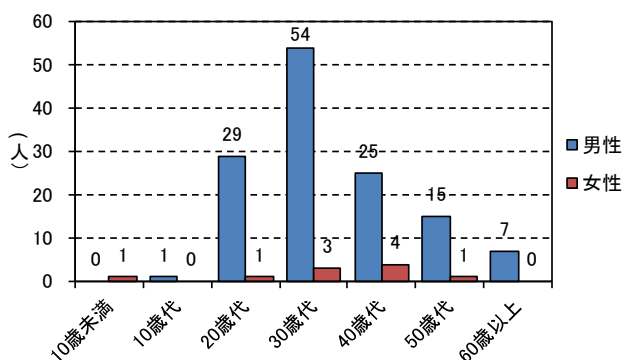
愛媛県におけるHIV感染者及びAIDS患者の年次推移



1999年4月以降 感染症法に基づいて届出されたHIV感染者及びAIDS患者(141人)の内訳



1999年4月以降 感染症法に基づいて届出された HIV 感染者及び AIDS 患者の年齢分布(n=141)



侵襲性髄膜炎菌感染症

侵襲性髄膜炎菌感染症は 40 歳代男性 1 人の届出があり、感染地域は県内で、感染経路はその他であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
7月 12日	28週	松山市	男	40歳代	頭痛、発熱、全身倦怠感、 嘔吐、菌血症	県内	その他

侵襲性肺炎球菌感染症

侵襲性肺炎球菌感染症は 16 人の届出があった。性別は男性 11 人、女性 5 人で、年齢は 10 歳未満 1 人、50 歳代 1 人、60 歳代 3 人、70 歳代 6 人、80 歳代 4 人、90 歳代 1 人であった。感染地域はすべて県内で、感染経路は飛沫・飛沫核感染が 3 人、不明が 13 人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
1月 11日	2週	西条	男	50歳代	頭痛、発熱、全身倦怠感、嘔吐、意識障害、 項部硬直、髄膜炎、菌血症	県内	不明
1月 14日	2週	宇和島	女	80歳代	発熱、全身倦怠感、肺炎	県内	飛沫・飛沫核感染
2月 5日	6週	西条	女	80歳代	発熱、全身倦怠感、菌血症	県内	不明
2月 16日	7週	松山市	男	70歳代	咳、全身倦怠感、意識障害、肺炎、菌血症	県内	不明
4月 18日	16週	松山市	男	70歳代	発熱、全身倦怠感、肺炎、菌血症	県内	不明
4月 19日	16週	宇和島	男	60歳代	発熱、肺炎、菌血症	県内	不明
5月 2日	18週	松山市	男	10歳未満	発熱、中耳炎、菌血症	県内	飛沫・飛沫核感染
5月 16日	20週	西条	女	80歳代	発熱、咳、全身倦怠感	県内	不明
5月 19日	20週	松山市	男	60歳代	発熱、全身倦怠感、嘔吐、肺炎、菌血症	県内	不明
8月 26日	34週	宇和島	女	80歳代	発熱、全身倦怠感、意識障害、肺炎、菌血症	県内	不明
11月 30日	48週	八幡浜	男	70歳代	発熱、肺炎	県内	不明
12月 6日	49週	四国中央	男	70歳代	菌血症	県内	不明
12月 12日	50週	松山市	女	70歳代	発熱、咳、全身倦怠感、嘔吐、意識障害、 肺炎、菌血症	県内	不明
12月 17日	51週	中予	男	90歳代	発熱、咳、全身倦怠感、意識障害、肺炎、 菌血症	県内	飛沫・飛沫核感染
12月 21日	51週	松山市	男	70歳代	発熱、左肩関節腫脹	県内	不明
12月 23日	51週	宇和島	男	60歳代	発熱、全身倦怠感	県内	不明

水痘（患者が入院を要すると認められるものに限る。）（入院例）

水痘（入院例）は10歳代男性1人と70歳代女性1人の届出があった。感染地域はともに県内で、感染経路は接触感染1人と不明1人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	感染経路
4月14日	15週	松山市	男	10歳代	臨床診断例	発熱、発疹	県内	接触感染
4月23日	17週	松山市	女	70歳代	検査診断例	発熱、発疹、脳炎	県内	不明

梅毒

梅毒は76人の届出があった。性別は男性51人、女性25人で、男性の年齢は10歳代3人、20歳代8人、30歳代7人、40歳代16人、50歳代4人、60歳代9人、70歳代3人、80歳代1人で、30～40歳代が60.8%を占め、女性の年齢は10歳代1人、20歳代13人、30歳代5人、40歳代3人、50歳代2人、90歳代1人で、20～30歳代が72.0%を占めた。病型は無症候13人、早期顕症梅毒58人（I期28人、II期30人）、晚期顕症梅毒5人で、感染地域は国内70人（うち県内59人）、不明6人で、感染経路は性的接触が66人、不明が10人であった。感染症法が施行された1999年以降、最も多い届出数であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
1月6日	1週	松山市	男	30歳代	早期顕症梅毒II期	県内	性的接触
1月11日	2週	松山市	男	60歳代	早期顕症梅毒II期	県内	性的接触
1月11日	2週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒I期	国内	性的接触
1月22日	4週	松山市	男	60歳代	無症候	県内	不明
2月14日	7週	中予	男	40歳代	早期顕症梅毒I期	県内	性的接触
2月19日	8週	松山市	女	30歳代	早期顕症梅毒II期	国内	性的接触
2月21日	8週	西条	女	20歳代	無症候	県内	性的接触
2月23日	8週	松山市	男	60歳代	早期顕症梅毒II期	県内	性的接触
2月23日	8週	西条	男	40歳代	早期顕症梅毒I期	県内	性的接触
2月28日	9週	松山市	男	60歳代	早期顕症梅毒I期	県内	性的接触
2月28日	9週	松山市	男	50歳代	早期顕症梅毒I期	国内	性的接触
3月2日	9週	今治	女	40歳代	早期顕症梅毒II期	不明	不明
3月2日	9週	中予	女	50歳代	晚期顕症梅毒	不明	不明
3月3日	9週	今治	男	40歳代	早期顕症梅毒II期	国内	性的接触
3月12日	11週	松山市	男	50歳代	早期顕症梅毒I期	県内	性的接触
3月14日	11週	宇和島	女	20歳代	早期顕症梅毒I期	県内	性的接触

(続き)

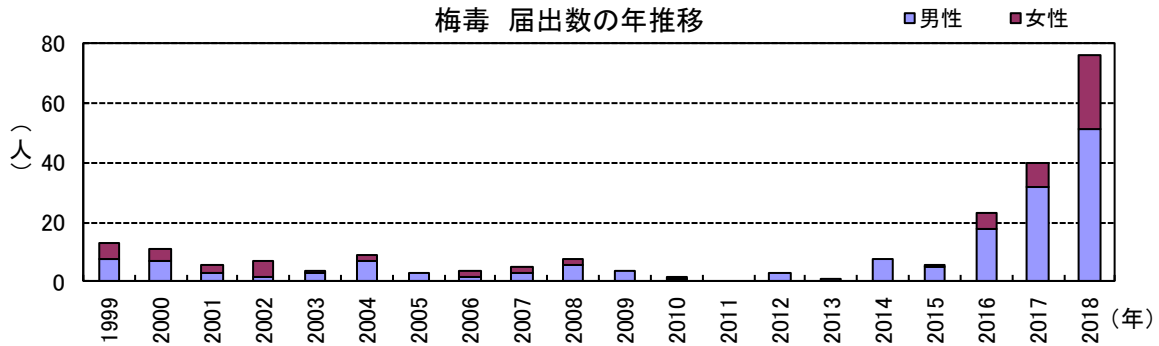
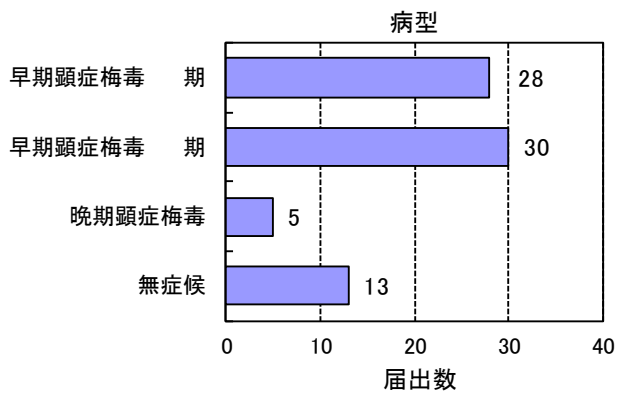
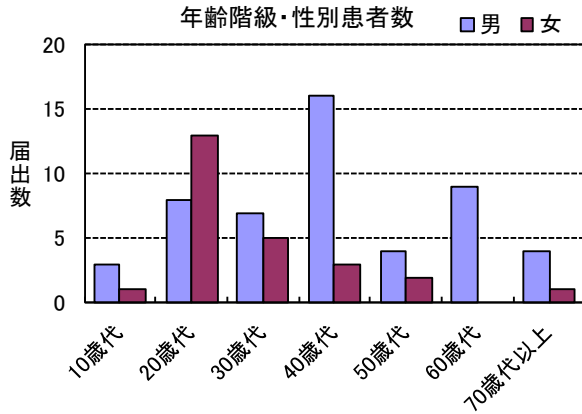
診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
3月 19日	12週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
3月 19日	12週	中予	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
3月 29日	13週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
3月 30日	13週	西条	男	30歳代	無症候	県内	性的接触
4月 5日	14週	松山市	女	50歳代	無症候	県内	性的接触
4月 14日	15週	松山市	女	40歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
4月 16日	16週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
4月 16日	16週	宇和島	男	70歳代	無症候	県内	不明
4月 17日	16週	八幡浜	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
4月 27日	17週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
5月 1日	18週	宇和島	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内	性的接触
5月 18日	20週	松山市	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
5月 25日	21週	今治	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
5月 31日	22週	松山市	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
6月 15日	24週	西条	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
6月 19日	25週	中予	男	60歳代	晩期顕症梅毒	国内	不明
6月 22日	25週	松山市	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
6月 22日	25週	四国中央	女	90歳代	無症候	不明	不明
6月 23日	25週	中予	男	10歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
6月 27日	26週	西条	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
6月 29日	26週	西条	女	30歳代	無症候	県内	性的接触
7月 2日	27週	西条	女	30歳代	無症候	県内	性的接触
7月 13日	28週	松山市	女	30歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
7月 23日	30週	八幡浜	女	30歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	国内	性的接触
7月 24日	30週	西条	男	60歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	不明	性的接触
7月 26日	30週	西条	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
8月 6日	32週	西条	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内	性的接触
8月 9日	32週	西条	男	20歳代	無症候	県内	性的接触

(続き)

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
8月 23日	34週	西条	男	80歳代	晩期顕症梅毒	不明	不明
8月 27日	35週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	不明
8月 29日	35週	松山市	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
8月 31日	35週	松山市	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
8月 31日	35週	四国中央	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
9月 1日	35週	松山市	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
9月 10日	37週	松山市	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
9月 12日	37週	西条	女	20歳代	無症候	県内	性的接触
9月 19日	38週	中予	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
9月 21日	38週	松山市	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
9月 26日	39週	松山市	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
9月 28日	39週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
9月 28日	39週	松山市	男	50歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
10月 3日	40週	松山市	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
10月 4日	40週	西条	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
10月 11日	41週	松山市	男	50歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
10月 13日	41週	今治	男	60歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
10月 15日	42週	宇和島	女	40歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
10月 18日	42週	松山市	女	20歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	県内	性的接触
10月 23日	43週	松山市	男	10歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
10月 24日	43週	今治	男	10歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
11月 6日	45週	松山市	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
11月 7日	45週	西条	男	30歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内	性的接触
11月 9日	45週	松山市	男	70歳代	晩期顕症梅毒	国内	性的接触
11月 30日	48週	西条	男	60歳代	晩期顕症梅毒	不明	不明
12月 4日	49週	八幡浜	男	30歳代	無症候	県内	性的接触
12月 6日	49週	松山市	男	70歳代	無症候	県内	不明
12月 14日	50週	今治	男	60歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触

(続き)

診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	病型	感染地域	感染経路
12月 19日	51週	西条	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
12月 20日	51週	松山市	男	20歳代	早期顕症梅毒Ⅰ期	県内	性的接触
12月 28日	52週	四国中央	男	40歳代	早期顕症梅毒Ⅱ期	国内	性的接触
12月 29日	52週	宇和島	女	10歳代	無症候	県内	性的接触



播種性クリプトコックス症

播種性クリプトコックス症は 80 歳代男性 1 人の届出があった。感染地域は県内で、感染経路・感染原因は免疫不全であった。

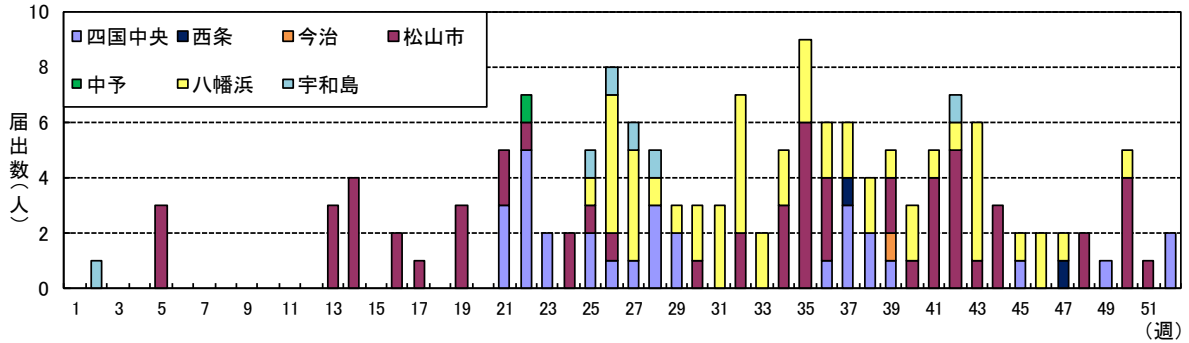
診断日	診断週	届出保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
9月 21日	38週	中予	男	80歳代	発熱、意識障害、皮疹	県内	免疫不全

百日咳

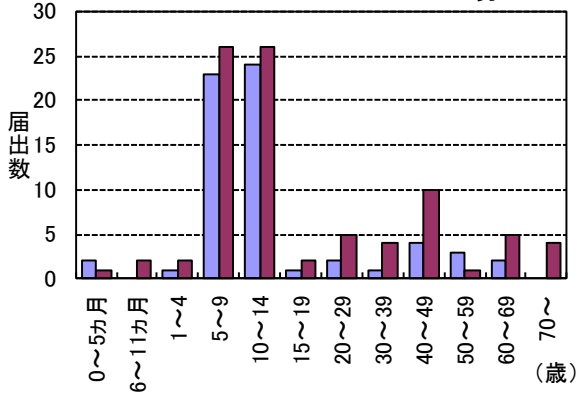
百日咳は 2018 年 1 月 1 日から五類感染症に指定され、県内では 151 人の届出があった。性別は男性 63 人、女性 88 人で、年齢は 10 歳未満 57 人、10 歳代 53 人、20 歳代 7 人、30 歳代 5 人、40 歳代 14 人、50 歳代 4 人、60 歳代 7 人、70 歳代 2 人、80 歳代 2 人で、20 歳未満が 72.8%を占めた。感染地域はすべて国内（県内 147 人、県内または県外 2 人、県外 2 人）で、感染経路は

家族感染が 49 人、学校または幼稚園で流行が 25 人、地域での流行が 2 人、不明が 75 人であった。また、患者の届出は、松山市保健所が 61 人(40.4%)と多く、次いで八幡浜保健所が 50 人(33.1%)、四国中央保健所 30 人(19.9%)、宇和島保健所 6 人(4.0%)、西条保健所 2 人(1.3%)、今治保健所 1 人(0.7%)、中予保健所 1 人(0.7%)であった。

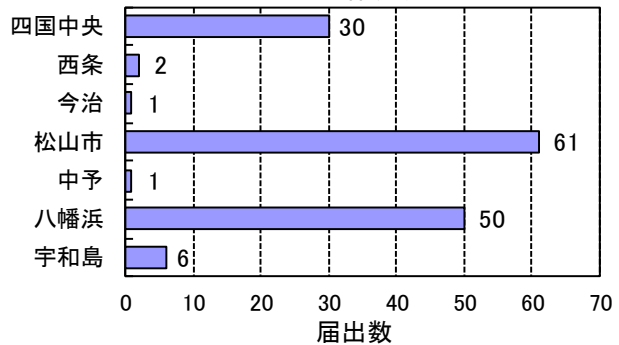
百日咳 保健所別届出数の週推移



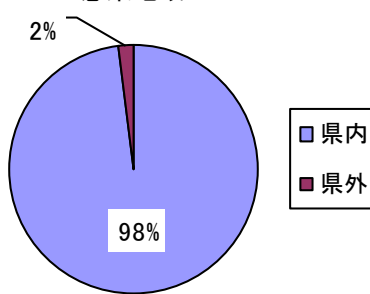
年齢階級・性別患者数



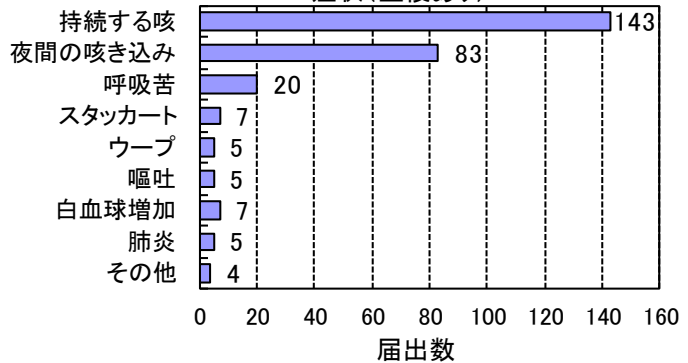
届出保健所



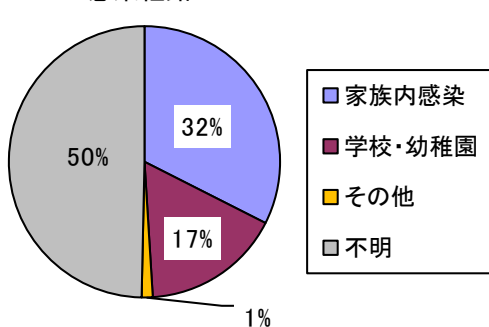
感染地域



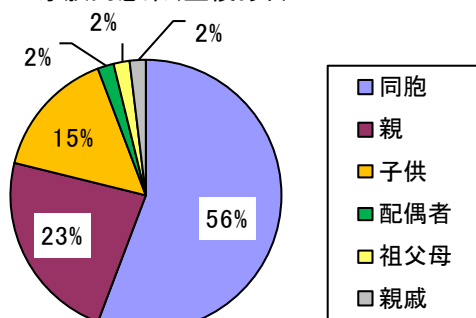
症状(重複あり)



感染経路



家族内感染(重複あり)



風しん

風しんは7人の届出があった。性別は男性6人、女性1人で、年齢は20歳代1人、30歳代3人、40歳代2人、50歳代1人であった。病型は検査診断例が7人であった。感染地域は国内6人(県内5人、県内または県外1人)、不明1人で、ワクチン接種歴は無しが1人、不明が6人であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	病型	症状	感染地域	ワクチン 接種歴
9月11日	37週	松山市	男	40歳代	検査診断例	発熱、咳、鼻汁、発疹、 関節痛・関節炎、頭痛	県内	不明
9月14日	37週	今治	男	20歳代	検査診断例	発熱、発疹、 リンパ節腫脹	県内	不明
10月19日	42週	松山市	男	50歳代	検査診断例	咳、発疹、咽頭炎	県内	不明
11月16日	46週	松山市	男	30歳代	検査診断例	発疹、リンパ節腫脹	県内	無
11月19日	47週	西条	男	30歳代	検査診断例	発熱、発疹、 リンパ節腫脹、咽頭炎	不明	不明
12月20日	51週	西条	男	40歳代	検査診断例	発熱、発疹、 両側耳介後部痛	県内	不明
12月27日	52週	松山市	女	30歳代	検査診断例	発疹、リンパ節腫脹	県内・県外	不明

薬剤耐性アシネトバクター感染症

薬剤耐性アシネトバクター感染症は80歳代男性1人の届出があり、検体は喀痰であった。感染地域は国外で、感染経路は医療器具関連感染であった。

診断日	診断週	届出 保健所	性別	年齢	症状	感染地域	感染経路
8月1日	31週	四国中央	男	80歳代	肺炎	国外	医療器具関連感染

その他8疾患(クリプトスポリジウム症、ジアルジア症、侵襲性インフルエンザ菌感染症、先天性風しん症候群、破傷風、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症、バンコマイシン耐性腸球菌感染症、麻しん)の届出はなかった。

(6) 新型インフルエンザ等感染症

新型インフルエンザ及び再興型インフルエンザの届出はなかった。

表 2-1-1 全数把握対象疾患発生状況(年推移)

感染症類型	疾病名	年	愛媛県					全国							
			2018	2017	2016	2015	2014	2013	2018	2017	2016	2015	2014	2013	
一類	エボラ出血熱														
	クリミア・コンゴ出血熱														
	痘そう														
	南米出血熱														
	ペスト														
	マールブルグ病 ラッサ熱														
二類	急性灰白髄炎													1	
	結核	176	200	191	203	237	208	22,448	23,427	24,669	24,523	26,629	27,052		
	ジフテリア														
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る) 中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*1}					-	-							-	
	鳥インフルエンザ(H5N1) 鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*1}					-	-							-	
三類	コレラ							4	7	9	7	5	4		
	細菌性赤痢	1			1		1	268	141	121	156	158	143		
	腸管出血性大腸菌感染症	23	13	6	10	10	3	3,854	3,904	3,647	3,573	4,151	4,044		
	腸チフス		2					35	37	52	37	53	65		
	パラチフス		1					23	14	20	32	16	50		
四類	E型肝炎		3			3	1	1	446	305	356	212	154	127	
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む) A型肝炎	3	5	8	4	10		926	285	272	243	433	128		
	エキノコックス症 黄熱							19	30	27	25	28	20		
	オウム病 オムスク出血熱							6	13	6	5	8	6		
	回帰熱 キャサスル森林病							6	8	7	4	1	1		
	Q熱 狂犬病							3				1	6		
	コクシジオイデス症 サル痘							2	4	3	3	2	4		
	ジカウイルス感染症 ^{*2} 重症熱性血小板減少症候群(SFTSVに限る) ^{*3}	3	4	1	1	11	8	77	90	60	60	61	48		
	腎症候性出血熱 西部ウマ脳炎 ダニ媒介脳炎 炭疽														
	チクングニア熱 つつが虫病			2		1		456	447	505	422	320	344		
	デング熱 東部ウマ脳炎		4	3	1	2	1	201	245	342	293	341	249		
	鳥インフルエンザ(H5N1, H7N9を除く) ニパウイルス感染症 日本紅斑熱	9	14	13	14	12	5	305	337	277	215	241	175		
	日本脳炎 ハンタウイルス肺症候群 Bウイルス病 鼻疽														
	ブルセラ症 ベネズエラウマ脳炎 ヘンドライウイルス感染症							3	2	2	5	10	2		
	発しんチフス ボツリヌス症 マラリア	1			1			50	61	54	40	60	47		
	野兔病 ライム病							13	19	8	9	17	20		
	リッサウイルス感染症 リフトバレー熱 類鼻疽							2	1		1		4		
	レジオネラ症 レプトスピラ症 ロッキュー山紅斑熱	20	12	18	16	13	5	2,142	1,733	1,602	1,592	1,248	1,124		
								32	46	76	33	48	29		
	五類	アメーバ赤痢 ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	4	10	7	8	5	8	843	1,089	1,151	1,109	1,134	1,047	
		カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 ^{*4} 急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) ^{*5} 急性脳炎 ^{*6}	7	12	9	10	1	-	2,289	1,660	1,573	1,671	314	-	
		クリプトスポリジウム症 クロイツフェルト・ヤコブ病	3	2	1	4	6	4	221	200	175	192	177	203	
		劇型溶血性レンサ球菌感染症 後天性免疫不全症候群	6	4	5	12	3	6	694	587	494	415	268	203	
		ジアルジア症 侵襲性インフルエンザ菌感染症 ^{*7} 侵襲性髄膜炎菌感染症 ^{*7}	7	6	9	9	6	5	1,301	1,395	1,443	1,431	1,538	1,586	
		髄膜炎菌性髄膜炎 ^{*8} 侵襲性肺炎球菌感染症 ^{*7} 水痘(入院例) ^{*4}	1				1	2	488	372	312	252	200	108	
		梅毒 播種性クリプトコックス症 ^{*4} 破傷風	1	1	1	1	1	-	180	137	137	120	37	-	
		バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 バンコマイシン耐性腸球菌感染症 百日咳 ^{*9} 風しん 麻しん	76	40	23	6	8	1	7,007	5,826	4,575	2,690	1,661	1,228	
		薬剤耐性アシネトバクター感染症 ^{*4} 新型インフルエンザ 再興型インフルエンザ	1	1	1	1	1	-	24	28	33	38	15	-	
		中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る) ^{*10} 鳥インフルエンザ(H7N9) ^{*11}													
		計		523	358	326	325	352	307	64,945	47,571	46,756	43,426	43,177	54,667

*1:2015年1月21日からの集計 *2:2016年2月15日からの集計 *3:2013年3月4日からの集計 *4:2014年9月19日からの集計 *5:2018年5月1日からの集計 *6:ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。 *7:2013年4月1日からの集計 *8:2013年3月31日までの集計(2013年4月1日以降、侵襲性髄膜炎菌感染症に変更) *9:2018年1月1日からの集計 *10:2014年7月26日から2015年1月20日までの集計(2015年1月21日以降、二類感染症に変更) *11:2013年5月6日から2015年1月20日までの集計(2015年1月21日以降、二類感染症に変更) *12:診断日2014年12月29日(2015年第1週分)1例含む

表 2-1-2 2018年全数把握対象疾患発生状況(月別)

2018年1月1日～2018年12月31日

感染症 類型	疾病名	計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12
一類	エボラ出血熱													
	クリミア・コンゴ出血熱													
	痘そう													
	南米出血熱													
	ペスト													
	マールブルグ病													
	ラッサ熱													
二類	急性灰白髄炎													
	結核	176	13	14	7	15	16	12	19	10	13	21	13	23
	ジフテリア													
	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)													
	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る)													
	鳥インフルエンザ(H5N1)													
	鳥インフルエンザ(H7N9)													
三類	コレラ													
	細菌性赤痢	1					1							
	腸管出血性大腸菌感染症	23		2			1	1	5	5	4	5		
	腸チフス													
	バラチフス													
四類	E型肝炎													
	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)													
	A型肝炎	3		1	1								1	
	エキノкокクス症													
	黄熱													
	オウム病													
	オムスク出血熱													
	回帰熱													
	キャサスル森林病													
	Q熱													
	狂犬病													
	コクシジオイデス症													
	サル痘													
	ジカウイルス感染症													
	重症熱性血小板減少症候群(SFTSVに限る)	3						1		1		1		
	腎症候性出血熱													
	西部ウマ脳炎													
	ダニ媒介脳炎													
	炭疽													
	チクングニア熱													
	つつが虫病													
	デング熱													
	東部ウマ脳炎													
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)													
	ニバウイルス感染症													
	日本紅斑熱	9						1	3		2		1	2
	日本脳炎													
	ハンタウイルス肺症候群													
	Bウイルス病													
	鼻疽													
	ブルセラ症													
	ベネズエラウマ脳炎													
	ヘンドラウイルス感染症													
	発しんチフス													
ボツリヌス症														
マラリア	1										1			
野兎病														
ライム病														
リッサウイルス感染症														
リフトバレー熱														
類鼻疽														
レジオネラ症	20	1	4				2	3	4		2	2	1	1
レプトスピラ症														
ロッキー山紅斑熱														
アメーバ赤痢	4	1							1		1	1		
ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)	1													1
カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	7	1				1			2	1	1			1
急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) ¹⁾	3										1	1	1	
急性脳炎 ²⁾	1								1					
クリプトスポリジウム症														
クロイツフェルト・ヤコブ病	3		1							1		1		
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	6		1			2			1				1	1
後天性免疫不全症候群	7	1	1	1				1	1				2	
ジアルジア症														
侵襲性インフルエンザ菌感染症														
侵襲性髄膜炎菌感染症	1								1					
侵襲性肺炎球菌感染症	16	2	2			2	3			1			1	5
水痘(入院例)	2					2								
先天性風しん症候群														
梅毒	76	4	7	9	6	4	7	5	7	8	8	4	7	
播種性クリプトкокクス症	1										1			
破傷風														
バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症														
バンコマイシン耐性腸球菌感染症														
百日咳 ³⁾	151	4		3	7	14	18	18	22	24	23	9	9	
風しん	7										2	1	2	2
麻しん														
薬剤耐性アシネトバクター感染症	1									1				
新型インフル エンザ等	新型インフルエンザ													
	再興型インフルエンザ													
	計	523	27	33	21	35	43	46	59	49	59	64	37	50

(診断年月日による集計)

*1:2018年5月1日からの集計 *2:ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。 *3:2018年1月1日からの集計

表 2-1-3 2018年全数把握対象疾患発生状況(保健所別)

2018年1月1日～2018年12月31日

感染症 類型	疾病名	保健所	計	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島
一類	エボラ出血熱									
	クリミア・コンゴ出血熱									
	痘そう									
	南米出血熱									
	ペスト									
二類	マールブルグ病									
	ラッサ熱									
	急性灰白髄炎									
	結核		176	7	17	20	65	11	30	26
	ジフテリア									
三類	重症急性呼吸器症候群(SARS-CoVに限る)									
	中東呼吸器症候群(MERS-CoVに限る)									
	鳥インフルエンザ(H5N1)									
	鳥インフルエンザ(H7N9)									
	コレラ									
四類	細菌性赤痢		1			1				
	腸管出血性大腸菌感染症		23		3	9	9	1		1
	腸チフス									
	バラチフス									
	E型肝炎									
五類	ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む)									
	A型肝炎		3	1				2		
	エキノコックス症									
	黄熱									
	オウム病									
	オムスク出血熱									
	回帰熱									
	キャサスル森林病									
	Q熱									
	狂犬病									
	コクシジオイデス症									
	サル痘									
	ジカウイルス感染症									
	重症熱性血小板減少症候群(SFTSVに限る)		3						2	1
	腎症候性出血熱									
	西部ウマ脳炎									
	ダニ媒介脳炎									
	炭疽									
	チクングニア熱									
	つつが虫病									
	デング熱									
	東部ウマ脳炎									
	鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)									
	ニバウイルス感染症									
	日本紅斑熱		9					2		7
	日本脳炎									
	ハンタウイルス肺症候群									
	Bウイルス病									
	鼻疽									
	ブルセラ症									
	ベネズエラウマ脳炎									
	ヘンドラウイルス感染症									
	発しんチフス									
	ボツリヌス症									
	マラリア		1		1					
野兔病										
ライム病										
リッサウイルス感染症										
リフトバレー熱										
類鼻疽										
レジオネラ症		20		10	1	3			6	
レプトスピラ症										
ロッキー山紅斑熱										
五類	アメーバ赤痢		4		1		2			1
	ウイルス性肝炎(E型肝炎、A型肝炎を除く)		1				1			
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症		7		3		1			2
	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く) ^{*1}		3	1			2			
	急性脳炎 ^{*2}		1		1					
	クリプトスポリジウム症									
	クロイツフェルト・ヤコブ病		3				2	1		
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症		6		1		2			3
	後天性免疫不全症候群		7					7		
	ジアルジア症									
	侵襲性インフルエンザ菌感染症									
	侵襲性髄膜炎菌感染症		1				1			
	侵襲性肺炎球菌感染症		16	1	3		6	1	1	4
	水痘(入院例)		2				2			
	先天性風しん症候群									
	梅毒		76	3	17	6	36	6	3	5
	播種性クリプトコックス症		1					1		
	破傷風									
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症									
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症									
百日咳 ^{*3}		151	30	2	1	61	1	50	6	
風しん		7		2	1	4				
麻しん										
薬剤耐性アシネトバクター感染症		1	1							
新型インフルエンザ等	新型インフルエンザ 再興型インフルエンザ									
計		523	44	61	39	200	33	84	62	

(届出受理保健所による集計)

*1:2018年5月1日からの集計 *2:ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。 *3:2018年1月1日からの集計

2 定点把握対象 五類感染症

(1) 定点把握対象疾患 発生動向の概況

2018年(平成30年)における定点把握感染症の流行状況を、愛媛県内の流行規模で分類した。週報対象疾患は以下のとおりであった。なお、(イ)はインフルエンザ定点、(小)は小児科定点、(眼)は眼科定点、(基)は基幹定点からの報告疾患であることを示す。

例年と比較し、大きな流行となった疾患

インフルエンザ(イ):2017/2018シーズンの患者報告数は27,753人(定点当たり454.97人/シーズン)で、前年に比べ1.5倍に増加し、過去10シーズンで最も大きな流行規模となった。9月上旬から東予・中予地区で散発し、県下全域に拡大した後、第47週(11月下旬)に流行が始まった。第50週(12月中旬)に注意報レベル、第3週(1月中旬)に警報レベルを超え、定点当たり53.72人/週と流行のピークを迎えた。その後、第11週(3月中旬)まで注意報レベルが継続し、第16週(4月中旬)に終息した。ウイルス型はB型が多く検出された。

RSウイルス感染症(小):2017/2018シーズンの患者報告数は、2,586人(定点当たり69.89人/シーズン)で、前シーズンに比べ1.9倍に増加し、2003年の調査開始以降、最も大きな流行規模となった。第29週(7月中旬)から報告数が増加し、第48週(11月下旬)までの4ヶ月にわたり患者数の多い状態が続いた。地域別では、西条保健所、今治保健所からの報告が多かった。年齢別では1歳以下の乳幼児が全体の62.2%を占めた。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(小):2018年の患者報告数は5,075人(定点当たり137.90人/年)で、前年と同程度の発生であった。本年は、1月中旬から2月中旬の冬季と、4月下旬から6月下旬の初夏と、11月下旬から12月下旬の晩秋冬季に増加傾向を示した。中予保健所では1月から8月、11月から12月に多発した。年齢別では4~6歳が全体の40.9%を占めた。

例年と同程度の流行となった疾患

咽頭結膜熱(小):2018年の患者報告数は598人(定点当たり16.29人/年)で、前年に比べ0.9倍に減少した。第19週(5月中旬)から第25週(6月下旬)と、第49週(12月上旬)から第52週(12月下旬)にかけて報告数が増加し、第52週(12月下旬)に定点当たり1.03人/週と最高値を示した。地域別では今治保健所、松山市保健所からの報告が多く、年齢別では1~5歳までの幼児が全体の82.9%を占めた。

手足口病(小):2018年の患者報告数は3,106人(定点当たり84.45人/年)で、前年に比べ0.6倍に減少し、過去10年と同程度の発生規模であった。本年は6月中旬から増加し始め、県内各地に広がり、第32週(8月上旬)に定点当たり8.35人/週と最高値を示した。地域別では八幡浜保健所からの報告が最も多く、年齢別では1~3歳の幼児が全体の68.0%を占めた。病原体は主にコクサッキーウイルスA16型が多く検出された。

伝染性紅斑(小):2018年の患者報告数は153人(定点当たり4.20人/年)で、前年に比べ0.5倍に減少した。過去10年と比較して小規模な発生となり、2018年は非流行期と考えられた。地域別では西条保健所からの報告が多く、年齢別では乳幼児から20歳代まで幅広い年齢層にみられた。

ヘルパンギーナ(小):2018年の患者報告数は1,094人(定点当たり29.77人/年)で、前年に比べ1.6倍に増加した。地域別では西条保健所からの報告が最も多く、年齢別では1~4歳が全体の77.5%を占めた。

流行性角結膜炎(眼):2018年の患者報告数は813人(定点当たり103.02人/年)で、前年と同程度の発生であった。7月と11月中旬から12月下旬にかけて患者数が増加し、第50週(12月中旬)に定点当たり4.38人/週とピークを迎えた。地域別では四国中央保健所、今治保健所、八幡浜保健所が

らの報告が多く、年齢別では20歳以上の成人が全体の69.5%を占めた。

感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る)(基):2018年の患者報告数は48人(定点当たり8.00人/年)で、前年に比べ1.5倍に増加した。主に3月上旬から6月上旬にかけて発生がみられた。地域別では今治保健所からの報告が最も多く、年齢別では1~4歳が全体の68.8%を占めた。

マイコプラズマ肺炎(基):2018年の患者報告数は147人(定点当たり24.50人/年)で、前年に比べ1.3倍に増加した。主に7月下旬から10月中旬にかけて患者数が増加した。地域別では八幡浜保健所からの報告が最も多く、年齢別では14歳以下が全体の93.2%を占めた。

例年と比較し、小さな流行となった疾患

感染性胃腸炎(小):2017/2018シーズンの患者報告数は15,455人(定点当たり418.07人/シーズン)で、前シーズンに比べ0.9倍に減少し、過去10シーズンで2番目に少ない発生規模であった。10月下旬から松山市保健所で増加し始め、その後県下に広がりがみられ、第50週(12月中旬)に定点当たり14.59人/週と最高値を示した。地域別では西条保健所、松山市保健所からの報告が多く、年齢別では1~6歳の幼児が全体の65.0%を占めた。病原体はノロウイルス、ロタウイルス、カンピロバクターが検出された。

水痘(小):2017/2018シーズンの患者報告数は459人(定点当たり12.42人/シーズン)で、前シーズンと同程度の発生規模となり、1999年以降最も少ない発生規模であった。地域別では四国中央保健所、西条保健所、中予保健所からの報告が多く、年齢別では4~7歳が全体の49.2%を占めた。

突発性発しん(小):2018年の患者報告数は1,208人(定点当たり32.83人/年)で、前年と同様の発生規模であった。地域別では西条保健所、今治保健所、中予保健所からの報告が多く、年齢別では1歳以下が全体の87.1%を占めた。

流行性耳下腺炎(小):2018年の患者報告数は286人(定点当たり7.76人/年)で、前年に比べ0.1倍に減少し、過去10年で最も少ない発生規模となった。地域別では、今治保健所からの報告が最も多く、次いで西条保健所からの報告が多かった。年齢別では2~6歳が全体の57.0%を占めた。

報告が少なかった疾患

急性出血性結膜炎(眼):2018年の患者報告数は2人(定点当たり0.25人/年)で、前年と同様、少数の報告であった。本疾患は、2004年9~10月に宇和島地区で地域的な短期流行があって以降、県内各地でごく少数例の報告に留まっている。

細菌性髄膜炎(基):2018年の患者報告数は1人(定点当たり0.17人/年)であった。中予保健所からの報告で、病原体は黄色ブドウ球菌であった。

無菌性髄膜炎(基):2018年の患者報告数は2人(定点当たり0.33人/年)で、前年と同様の報告数であった。四国中央保健所と宇和島保健所からの報告で、病原体はコクサッキーウイルスが1人、不明が1人であった。

クラミジア肺炎(基):2018年の患者報告はなかった。

STD 定点対象疾患(月報)では、性器ヘルペスウイルス感染症(51人)、淋菌感染症(47人)は2017年に比べて増加し、性器クラミジア感染症(65人)、尖圭コンジローマ(12人)は減少した。

基幹定点対象疾患(月報)では、メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症(103人)は2017年に比べ減少し、ペニシリン耐性肺炎球菌感染症(2人)は少数例の報告に留まった。薬剤耐性緑膿菌感染症の報告はなかった。

表2-2-1 週報対象疾患 - 週別患者報告数

週	期間	インフルエンザ 定点	小児科定点							
		イン*1 フルエンザ	R S ウ ィ ル ス 感 染 症	咽 頭 結 膜 熱	咽 頭 炎 A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん
1	1/1 ~ 1/7	1,119	8	4	47	193	11	5		10
2	1/8 ~ 1/14	1,794	12	5	92	263	6	5	1	16
3	1/15 ~ 1/21	3,277	23	2	168	309	7	2		15
4	1/22 ~ 1/28	3,049	17	4	144	249	5	4	1	18
5	1/29 ~ 2/4	2,982	16	6	158	259	4	4		20
6	2/5 ~ 2/11	2,747	13	1	177	246	6	3	1	18
7	2/12 ~ 2/18	2,386	27	4	105	203	10	2		16
8	2/19 ~ 2/25	1,771	20	7	105	264	4	3	1	24
9	2/26 ~ 3/4	1,400	20	5	138	254	15	1		12
10	3/5 ~ 3/11	885	22	5	89	247	1		3	16
11	3/12 ~ 3/18	731	17	3	129	269	4	2	1	19
12	3/19 ~ 3/25	431	11	8	124	263	9		2	15
13	3/26 ~ 4/1	225	22	10	103	287	9	5	2	33
14	4/2 ~ 4/8	144	31		79	276	6	1		20
15	4/9 ~ 4/15	67	36	12	100	320	8	1	1	27
16	4/16 ~ 4/22	51	22	10	106	391	12	1		25
17	4/23 ~ 4/29	50	16	18	130	500	7	1	1	34
18	4/30 ~ 5/6	55	9	10	49	256	5	2	2	20
19	5/7 ~ 5/13	29	17	27	137	439	14	2		35
20	5/14 ~ 5/20	33	25	14	147	491	4	3	3	29
21	5/21 ~ 5/27	18	15	28	128	429	9		6	32
22	5/28 ~ 6/3	8	10	19	148	475	7	1	1	33
23	6/4 ~ 6/10	3	7	24	129	415	12	9		30
24	6/11 ~ 6/17		5	27	110	351	15	17		29
25	6/18 ~ 6/24		8	34	139	318	20	28	2	32
26	6/25 ~ 7/1	3	10	13	146	349	24	63	2	30
27	7/2 ~ 7/8	3	6	15	99	252	10	69	5	27
28	7/9 ~ 7/15		29	15	98	259	10	158		31
29	7/16 ~ 7/22		27	8	44	177	4	171	1	30
30	7/23 ~ 7/29	1	23	18	54	225	9	265	1	26
31	7/30 ~ 8/5		59	10	63	203	2	272	1	26
32	8/6 ~ 8/12		77	6	44	155	4	309	1	22
33	8/13 ~ 8/19		120	6	29	144	8	182	3	25
34	8/20 ~ 8/26		125	7	65	128	3	154	1	24
35	8/27 ~ 9/2		191	3	64	158	8	172	3	29
36	9/3 ~ 9/9	11	185	4	58	178	5	143	2	19
37	9/10 ~ 9/16	32	202	9	65	182	18	169	5	22
38	9/17 ~ 9/23	41	131		47	144	4	144		22
39	9/24 ~ 9/30	8	118	3	50	131	8	117	5	9
40	10/1 ~ 10/7	11	84	3	78	178	3	102	3	22
41	10/8 ~ 10/14	2	50	3	55	118	11	85	2	21
42	10/15 ~ 10/21	10	37	2	54	133	5	86	2	25
43	10/22 ~ 10/28	18	40	5	67	163	13	80	4	18
44	10/29 ~ 11/4	15	24	12	61	150	11	72	1	19
45	11/5 ~ 11/11	5	29	15	87	195	12	51	14	27
46	11/12 ~ 11/18	6	20	11	84	228	13	33	8	27
47	11/19 ~ 11/25	7	12	12	103	270	14	23	15	29
48	11/26 ~ 12/2	11	19	17	119	287	14	22	7	24
49	12/3 ~ 12/9	35	22	22	115	357	24	17	16	23
50	12/10 ~ 12/16	103	26	27	127	327	28	27	7	19
51	12/17 ~ 12/23	214	24	27	133	406	15	10	13	18
52	12/24 ~ 12/30	332	29	38	85	403	24	8	3	16
合計		24,123	2,148	598	5,075	13,867	514	3,106	153	1,208
男性		12,304	1,185	344	2,712	7,455	265	1,690	75	633
女性		11,819	963	254	2,363	6,412	249	1,416	78	575

*1:鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *2:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

(人)

		眼科定点		基幹定点					定点数			
ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	ロタウイルス胃腸炎*2	細菌性髄膜炎*3	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
	11		9	1			4		61	37	8	6
1	15		20				5		61	37	8	6
2	12		15				4		61	37	8	6
1	14		7				5		61	37	8	6
	5		6						61	37	8	6
	12		11				2		61	37	8	6
	5		8				1		61	37	8	6
	5		13	1			5		61	37	8	6
1	8		17				4		61	37	8	6
	3		6	2			1		61	37	8	6
	8		6	1			3		61	37	8	6
	9		8	4					61	37	8	6
	7		13	3					61	37	8	6
1	7		13	3			1		61	37	8	6
	4		9	4			1		61	37	8	6
1	8		14	1			2		61	37	8	6
	7		21	1					61	37	8	6
	5		5	5					61	37	8	6
1	4		20	1			1		61	37	8	6
3	10		14	2			2		61	37	8	6
9	3		14	3			3		61	37	8	6
8	6		15	7			2		61	37	8	6
18	7		13	5			5		61	37	8	6
37	5		18	1			3		61	37	8	6
58	6		21				2		61	37	8	6
69	5	1	16						61	37	8	6
72	4		12				2		61	37	7	6
98	8		27						60	36	7	6
77	5		16				3		61	37	7	6
77	4		23				6		60	36	7	6
72	2		19				2		61	37	8	6
48	2		18			1	7		61	37	8	6
38	3		10				1		61	37	8	6
34	6		17				2		61	37	8	6
30	2		10		1		4		61	37	8	6
25	5		12				2		61	37	8	6
26	3		21	1			11		61	37	8	6
22	5		20				1		61	37	8	6
32	3		14				4		61	37	8	6
25	3		16				4		61	37	8	6
20	6		7				10		61	37	8	6
42	2		7				5		61	37	8	6
41	3		13				5		61	37	8	6
24	4		18				5		60	36	8	6
13	5	1	15				4		60	36	8	6
20	2		18				1		60	36	8	6
16	2		28						60	36	8	6
8	3		18				3		60	36	8	6
4	1		26				2		60	36	8	6
9	4		35	1		1	1		60	36	8	6
5	5		30				3		60	36	8	6
6	3		31	1			3		61	37	8	6
1,094	286	2	813	48	1	2	147					
566	159	1	382	24		2	78					
528	127	1	431	24	1		69					

*3：インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表2-2-2 週報対象疾患 - 週別定点当たり患者報告数

週	期間	インフルエンザ 定点	小児科定点								
		イン*1 フルエンザ	R S ウイルス 感染症	咽 頭 結 膜 熱	咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん
1	1/1 ~ 1/7	18.34	0.22	0.11	1.27	5.22	0.30	0.14			0.27
2	1/8 ~ 1/14	29.41	0.32	0.14	2.49	7.11	0.16	0.14	0.03		0.43
3	1/15 ~ 1/21	53.72	0.62	0.05	4.54	8.35	0.19	0.05			0.41
4	1/22 ~ 1/28	49.98	0.46	0.11	3.89	6.73	0.14	0.11	0.03		0.49
5	1/29 ~ 2/4	48.89	0.43	0.16	4.27	7.00	0.11	0.11			0.54
6	2/5 ~ 2/11	45.03	0.35	0.03	4.78	6.65	0.16	0.08	0.03		0.49
7	2/12 ~ 2/18	39.11	0.73	0.11	2.84	5.49	0.27	0.05			0.43
8	2/19 ~ 2/25	29.03	0.54	0.19	2.84	7.14	0.11	0.08	0.03		0.65
9	2/26 ~ 3/4	22.95	0.54	0.14	3.73	6.86	0.41	0.03			0.32
10	3/5 ~ 3/11	14.51	0.59	0.14	2.41	6.68	0.03		0.08		0.43
11	3/12 ~ 3/18	11.98	0.46	0.08	3.49	7.27	0.11	0.05	0.03		0.51
12	3/19 ~ 3/25	7.07	0.30	0.22	3.35	7.11	0.24		0.05		0.41
13	3/26 ~ 4/1	3.69	0.59	0.27	2.78	7.76	0.24	0.14	0.05		0.89
14	4/2 ~ 4/8	2.36	0.84		2.14	7.46	0.16	0.03			0.54
15	4/9 ~ 4/15	1.10	0.97	0.32	2.70	8.65	0.22	0.03	0.03		0.73
16	4/16 ~ 4/22	0.84	0.59	0.27	2.86	10.57	0.32	0.03			0.68
17	4/23 ~ 4/29	0.82	0.43	0.49	3.51	13.51	0.19	0.03	0.03		0.92
18	4/30 ~ 5/6	0.90	0.24	0.27	1.32	6.92	0.14	0.05	0.05		0.54
19	5/7 ~ 5/13	0.48	0.46	0.73	3.70	11.86	0.38	0.05			0.95
20	5/14 ~ 5/20	0.54	0.68	0.38	3.97	13.27	0.11	0.08	0.08		0.78
21	5/21 ~ 5/27	0.30	0.41	0.76	3.46	11.59	0.24		0.16		0.86
22	5/28 ~ 6/3	0.13	0.27	0.51	4.00	12.84	0.19	0.03	0.03		0.89
23	6/4 ~ 6/10	0.05	0.19	0.65	3.49	11.22	0.32	0.24			0.81
24	6/11 ~ 6/17		0.14	0.73	2.97	9.49	0.41	0.46			0.78
25	6/18 ~ 6/24		0.22	0.92	3.76	8.59	0.54	0.76	0.05		0.86
26	6/25 ~ 7/1	0.05	0.27	0.35	3.95	9.43	0.65	1.70	0.05		0.81
27	7/2 ~ 7/8	0.05	0.16	0.41	2.68	6.81	0.27	1.86	0.14		0.73
28	7/9 ~ 7/15		0.81	0.42	2.72	7.19	0.28	4.39			0.86
29	7/16 ~ 7/22		0.73	0.22	1.19	4.78	0.11	4.62	0.03		0.81
30	7/23 ~ 7/29	0.02	0.64	0.50	1.50	6.25	0.25	7.36	0.03		0.72
31	7/30 ~ 8/5		1.59	0.27	1.70	5.49	0.05	7.35	0.03		0.70
32	8/6 ~ 8/12		2.08	0.16	1.19	4.19	0.11	8.35	0.03		0.59
33	8/13 ~ 8/19		3.24	0.16	0.78	3.89	0.22	4.92	0.08		0.68
34	8/20 ~ 8/26		3.38	0.19	1.76	3.46	0.08	4.16	0.03		0.65
35	8/27 ~ 9/2		5.16	0.08	1.73	4.27	0.22	4.65	0.08		0.78
36	9/3 ~ 9/9	0.18	5.00	0.11	1.57	4.81	0.14	3.86	0.05		0.51
37	9/10 ~ 9/16	0.52	5.46	0.24	1.76	4.92	0.49	4.57	0.14		0.59
38	9/17 ~ 9/23	0.67	3.54		1.27	3.89	0.11	3.89			0.59
39	9/24 ~ 9/30	0.13	3.19	0.08	1.35	3.54	0.22	3.16	0.14		0.24
40	10/1 ~ 10/7	0.18	2.27	0.08	2.11	4.81	0.08	2.76	0.08		0.59
41	10/8 ~ 10/14	0.03	1.35	0.08	1.49	3.19	0.30	2.30	0.05		0.57
42	10/15 ~ 10/21	0.16	1.00	0.05	1.46	3.59	0.14	2.32	0.05		0.68
43	10/22 ~ 10/28	0.30	1.08	0.14	1.81	4.41	0.35	2.16	0.11		0.49
44	10/29 ~ 11/4	0.25	0.67	0.33	1.69	4.17	0.31	2.00	0.03		0.53
45	11/5 ~ 11/11	0.08	0.81	0.42	2.42	5.42	0.33	1.42	0.39		0.75
46	11/12 ~ 11/18	0.10	0.56	0.31	2.33	6.33	0.36	0.92	0.22		0.75
47	11/19 ~ 11/25	0.12	0.33	0.33	2.86	7.50	0.39	0.64	0.42		0.81
48	11/26 ~ 12/2	0.18	0.53	0.47	3.31	7.97	0.39	0.61	0.19		0.67
49	12/3 ~ 12/9	0.58	0.61	0.61	3.19	9.92	0.67	0.47	0.44		0.64
50	12/10 ~ 12/16	1.72	0.72	0.75	3.53	9.08	0.78	0.75	0.19		0.53
51	12/17 ~ 12/23	3.57	0.67	0.75	3.69	11.28	0.42	0.28	0.36		0.50
52	12/24 ~ 12/30	5.44	0.78	1.03	2.30	10.89	0.65	0.22	0.08		0.43
合計		395.57	58.23	16.29	137.90	376.81	14.00	84.45	4.20		32.83
男性		201.76	32.12	9.38	73.68	202.59	7.22	45.95	2.06		17.20
女性		193.81	26.10	6.92	64.22	174.23	6.79	38.50	2.14		15.63

*1:鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *2:感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)

(人/定点当たり)

		眼科定点		基幹定点					定点数			
ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	ロタウイルス胃腸炎*2	細菌性髄膜炎*3	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	インフルエンザ	小児科	眼科	基幹
	0.30		1.13	0.17			0.67		61	37	8	6
0.03	0.41		2.50				0.83		61	37	8	6
0.05	0.32		1.88				0.67		61	37	8	6
0.03	0.38		0.88				0.83		61	37	8	6
	0.14		0.75						61	37	8	6
	0.32		1.38				0.33		61	37	8	6
	0.14		1.00				0.17		61	37	8	6
	0.14		1.63	0.17			0.83		61	37	8	6
0.03	0.22		2.13				0.67		61	37	8	6
	0.08		0.75	0.33			0.17		61	37	8	6
	0.22		0.75	0.17			0.50		61	37	8	6
	0.24		1.00	0.67					61	37	8	6
	0.19		1.63	0.50					61	37	8	6
0.03	0.19		1.63	0.50			0.17		61	37	8	6
	0.11		1.13	0.67			0.17		61	37	8	6
0.03	0.22		1.75	0.17			0.33		61	37	8	6
	0.19		2.63	0.17					61	37	8	6
	0.14		0.63	0.83					61	37	8	6
0.03	0.11		2.50	0.17			0.17		61	37	8	6
0.08	0.27		1.75	0.33			0.33		61	37	8	6
0.24	0.08		1.75	0.50			0.50		61	37	8	6
0.22	0.16		1.88	1.17			0.33		61	37	8	6
0.49	0.19		1.63	0.83			0.83		61	37	8	6
1.00	0.14		2.25	0.17			0.50		61	37	8	6
1.57	0.16		2.63				0.33		61	37	8	6
1.86	0.14	0.13	2.00						61	37	8	6
1.95	0.11		1.71				0.33		61	37	7	6
2.72	0.22		3.86						60	36	7	6
2.08	0.14		2.29				0.50		61	37	7	6
2.14	0.11		3.29				1.00		60	36	7	6
1.95	0.05		2.38				0.33		61	37	8	6
1.30	0.05		2.25			0.17	1.17		61	37	8	6
1.03	0.08		1.25				0.17		61	37	8	6
0.92	0.16		2.13				0.33		61	37	8	6
0.81	0.05		1.25		0.17		0.67		61	37	8	6
0.68	0.14		1.50				0.33		61	37	8	6
0.70	0.08		2.63	0.17			1.83		61	37	8	6
0.59	0.14		2.50				0.17		61	37	8	6
0.86	0.08		1.75				0.67		61	37	8	6
0.68	0.08		2.00				0.67		61	37	8	6
0.54	0.16		0.88				1.67		61	37	8	6
1.14	0.05		0.88				0.83		61	37	8	6
1.11	0.08		1.63				0.83		61	37	8	6
0.67	0.11		2.25				0.83		60	36	8	6
0.36	0.14	0.13	1.88				0.67		60	36	8	6
0.56	0.06		2.25				0.17		60	36	8	6
0.44	0.06		3.50						60	36	8	6
0.22	0.08		2.25				0.50		60	36	8	6
0.11	0.03		3.25				0.33		60	36	8	6
0.25	0.11		4.38	0.17		0.17	0.17		60	36	8	6
0.14	0.14		3.75				0.50		60	36	8	6
0.16	0.08		3.88	0.17			0.50		61	37	8	6
29.77	7.76	0.25	103.02	8.00	0.17	0.33	24.50					
15.41	4.32	0.13	48.45	4.00		0.33	13.00					
14.36	3.44	0.13	54.57	4.00	0.17		11.50					

*3：インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

表2-2-3 週報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数

年齢区分	小児科定点										眼科定点				基幹定点				
	インフルエンザ 定点	R S ウイルス感染症	咽 頭 結 膜 熱	咽 頭 炎 溶 血 性 レ ン サ 球 菌	A	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	ヘル パ ン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	急 性 出 血 性 結 膜 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	ロ*2 タ ウ イ ル ス 胃 腸 炎	細菌*3 性 髄 膜炎	無 菌 性 髄 膜炎	マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	クラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 を 除 く)
年齢区分																			
0歳	57	260	5	4	97	6	12		18	10				4	6		9		
1~4歳	234	355	38	9	696	22	150	4	398	115			6		33		71		
5~9歳	719	717	190	164	1,859	45	782	10	636	360	9		27		8	1	43		
10~14歳	874	371	78	301	1,529	28	766	11	111	267	14		27		1		14		
15~19歳	1,145	226	96	529	1,574	33	564	13	30	137	32		28				3		
20~24歳	1,480	128	76	643	1,580	56	349	26	11	84	37		30						
25~29歳	1,720	44	56	754	1,349	67	222	19	2	53	44		29			1	1		
30~34歳	1,927	11	23	677	981	72	111	26		18	36		26				1		
35~39歳	1,585	11	9	544	721	60	50	21		12	31		15				1		
40~44歳	1,539	5	8	434	588	43	35	10	1	12	21		9						
45~49歳	1,425	3	8	306	536	36	23	8		8	26		8			1	1		
50~54歳	4,762	9	10	605	1,381	39	36	4	1	14	33		24						
55~59歳	1,015	4		34	176	2	2			2			15						
60~64歳	581	4	1	71	800	5	4	1		2	3		70				1		
65~69歳	1,047												129						
70歳以上	1,263												109						
合計	930	2,148	598	5,075	13,867	514	3,106	153	1,208	1,094	286		64	48	1	2	147		
合計	24,123	2,148	598	5,075	13,867	514	3,106	153	1,208	1,094	286	2	813						

*1:鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。 *2:2013年10月14日から対象疾患に追加。 *3:インフルエンザ菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。
*4:小児科定点疾患については20歳以上の全患者数を"20~29歳"に計上。 *5:眼科定点疾患については70歳以上の全患者数を"70~79歳"に計上。

表2-2-4 月報対象疾患 - 月別患者報告数

月	STD定点 (定点数:11)						基幹定点 (定点数:6)						定点数				
	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		STD	基幹	
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男			女
1	3	3	3	3			5	5	4	10	6	4				11	6
2	4	3	1	6	4	2	9	9	1	3	2	1	1	1		11	6
3	4	4		2	2	2	1	1	3	12	9	3	1	1		11	6
4	3	3		11	9	2	4	4	2	5	3	2				11	6
5	9	5	4	5	5	2	4	4	7	12	5	7				11	6
6	5	3	2	7	7		4	4	6	8	2	6				11	6
7	7	5	2	1	1	2	1	1	1	7	6	1				11	6
8	8	6	2	3	3	1	3	3	3	13	10	3				11	6
9	4	3	1	3	2	2	1	1	5	9	4	5				11	6
10	8	5	3	1	1	1	7	7	1	8	7	1				11	6
11	4	2	2	4	4		4	4	2	9	7	2				11	6
12	6	6		5	5	1	4	4	3	7	4	3				11	6
合計	65	48	17	51	45	6	47	47	38	103	65	38	2	2			

(人)

表2-2-5 月報対象疾患 - 月別定点当たり患者報告数

月	(人/定点当たり)												定点数				
	STD定点 (定点数:11)				淋菌感染症				基幹定点 (定点数:6)				合計	男	女		
	性器クラミジア感染症	性器ヘルペスウイルス感染症	尖圭コンジローマ	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女					
1	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.27	0.45	0.45	0.45	0.67	1.00	0.67	1.67	1.00	0.67	11	6
2	0.36	0.27	0.09	0.55	0.36	0.18	0.09	0.82	0.82	0.17	0.33	0.17	0.50	0.33	0.17	11	6
3	0.36	0.36	0.18	0.18	0.18	0.18	0.09	0.09	0.09	0.50	1.50	0.50	2.00	1.50	0.50	11	6
4	0.27	0.27	0.18	1.00	0.82	0.18	0.36	0.36	0.36	0.33	0.50	0.33	0.83	0.50	0.33	11	6
5	0.82	0.45	0.36	0.45	0.45	0.18	0.36	0.36	0.36	1.17	0.83	1.17	2.00	0.83	1.17	11	6
6	0.45	0.27	0.18	0.64	0.64	0.18	0.36	0.36	0.36	1.00	0.33	1.00	1.33	0.33	1.00	11	6
7	0.64	0.45	0.18	0.09	0.09	0.18	0.09	0.09	0.09	0.17	1.00	0.17	1.17	1.00	0.17	11	6
8	0.73	0.55	0.18	0.27	0.27	0.09	0.27	0.27	0.27	0.50	1.67	0.50	2.17	1.67	0.50	11	6
9	0.36	0.27	0.09	0.27	0.18	0.18	0.09	0.09	0.09	0.83	0.67	0.83	1.50	0.67	0.83	11	6
10	0.73	0.45	0.27	0.09	0.09	0.09	0.64	0.64	0.64	0.17	1.17	0.17	1.33	1.17	0.17	11	6
11	0.36	0.18	0.18	0.36	0.36	0.18	0.36	0.36	0.36	0.33	1.17	0.33	1.50	1.17	0.33	11	6
12	0.55	0.55	0.18	0.45	0.45	0.09	0.36	0.36	0.36	0.50	0.67	0.50	1.17	0.67	0.50	11	6
合計	5.91	4.36	1.55	4.64	4.09	0.55	1.09	4.27	4.27	6.33	10.83	6.33	17.17	10.83	6.33	0.33	0.33

表2-2-6 月報対象疾患 - 年齢区分別患者報告数

年齢区分	STD定点 (定点数:11)						基幹定点 (定点数:6)								
	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローム		淋菌感染症		メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症		
	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女	合計	男	女
0歳															
1~4歳										4	3	1			
5~9歳										4		4			
10~14歳										5	4	1			
15~19歳	7	3	4	1	1		2	2	1						
20~24歳	11	6	5	4	1	1	12	12							
25~29歳	10	9	1	7	1		10	10	2	2					
30~34歳	12	8	4	6	6	3	3	3							
35~39歳	9	6	3	6	6		5	5							
40~44歳	8	8		5	3	2	6	6	3	1	2				
45~49歳	5	5		4	2	2	5	5							
50~54歳	3	3		5	5	1			2	1	1				
55~59歳				3	3	1	1	1	4	3	1				
60~64歳				6	6	1	1	1	1	1					
65~69歳				1			2	2	9	9					
70歳以上				2	2				68	40	28	2	2		
合計	65	48	17	51	45	6	47	47	103	65	38	2	2		

(人)

(2) インフルエンザ定点対象疾患(週報)

インフルエンザ(鳥インフルエンザを除く)

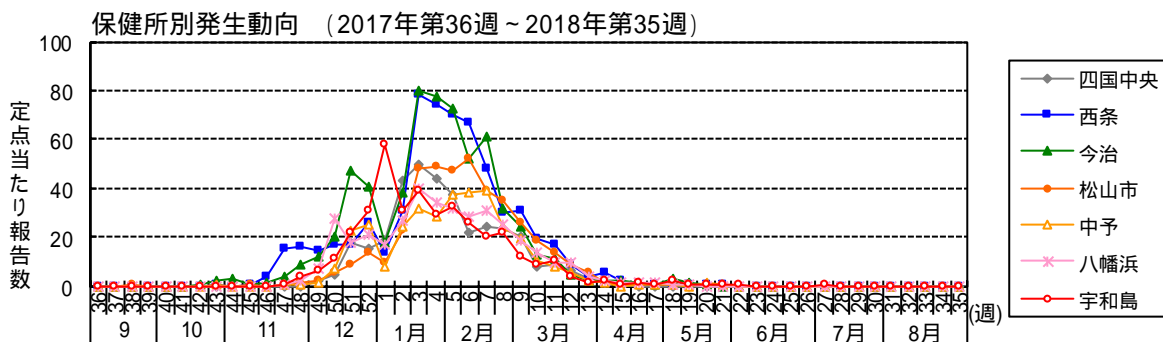
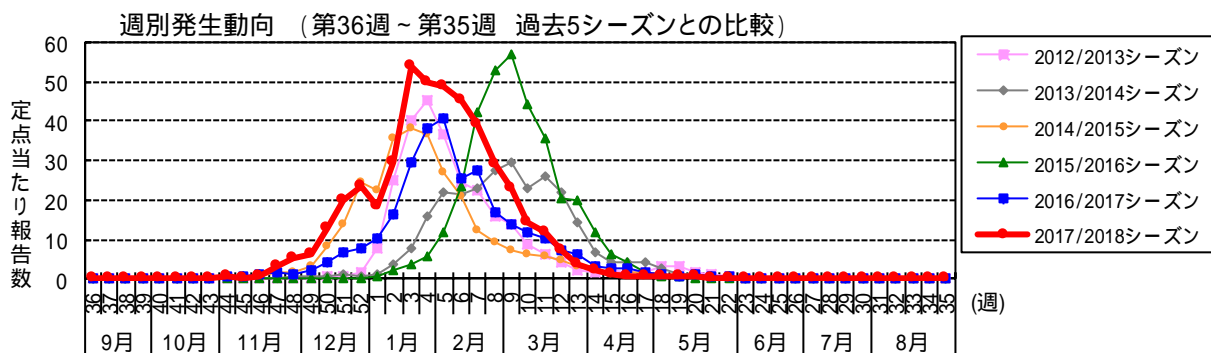
2017/2018シーズン(2017年第36週~2018年第35週)の患者報告数は27,753人(定点当たり454.97人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数18,208人、定点当たり298.49人/シーズン)から9,545人増加し、過去10シーズンで最も大きい流行規模となった。9月上旬から東予・中予地区で散発し、県下全域に拡大した後、第47週(11月下旬)に流行開始の目安となる定点当たり1.0人/週を超えた。第50週(12月中旬)には注意報レベル(定点当たり10人/週)を超え、県内全域で増加が始まった。第3週(1月中旬)に警報レベル(定点当たり30人/週)を超え、定点当たり53.72人/週と流行のピークを迎えた。その後、第11週(3月中旬)まで注意報レベルが継続し、第16週(4月中旬)に1.0人/週を下回った。

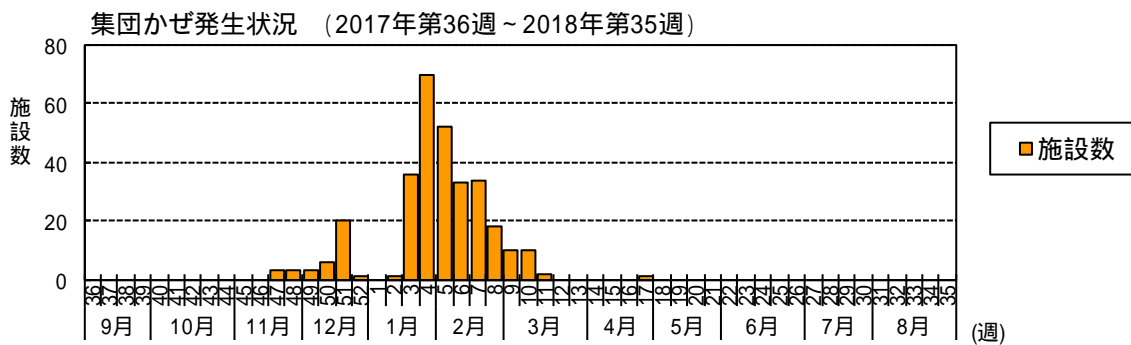
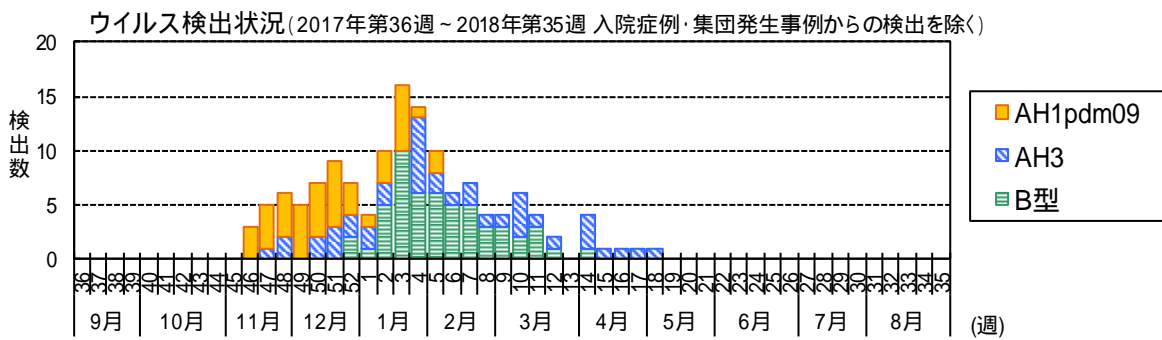
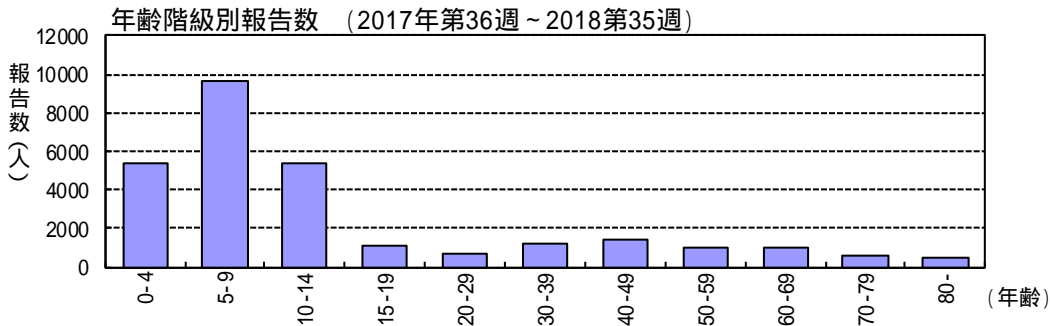
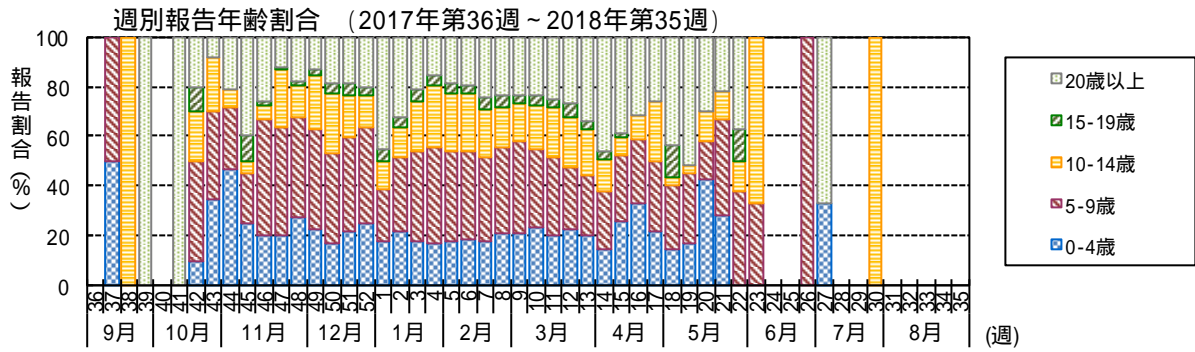
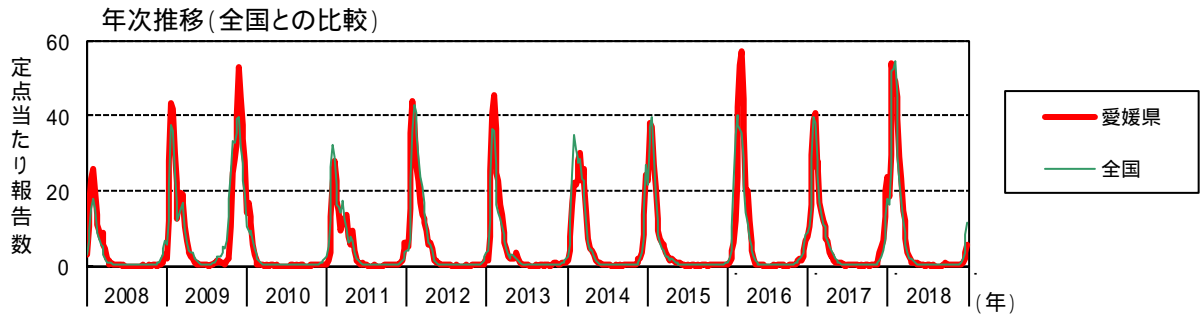
地域別の定点当たり報告数は、今治保健所の639.88人/シーズンが最も多く、西条保健所616.50人/シーズン、松山市保健所414.53人/シーズンと続いた。ピーク時の報告数が最も高かった保健所は、第3週の今治保健所(80.00人/週)であり、第3週の西条保健所(78.60人/週)、第1週の宇和島保健所(58.29人/週)が続いた。松山市保健所は第6週(52.53人/週)、四国中央保健所は第3週(49.80人/週)、八幡浜保健所は第3週(40.29人/週)、中予保健所は第7週(38.71人/週)に最高値を示し、県内各保健所におけるピークの時期は、1月上旬から2月中旬であった。

年齢別では、5~9歳が9,650人(34.8%)と最も多く、次いで0~4歳が5,390人(19.4%)、10~14歳が5,326人(19.2%)と続き、14歳以下の小児の割合が73.4%を占めた。

検出されたウイルス型別は、AH1pdm09が43件、AH3が41件、B型が53件であった。

学校等における集団かぜ発生報告数は303施設/シーズンあり、前シーズンの181施設/シーズンと比べ増加した。学校(施設)の種別は、保育所・幼稚園45件、小学校187件、中学校44件、高等学校21件、その他6件で、措置の内訳は、休校・休園11件、学年閉鎖98件、学級閉鎖194件であった。





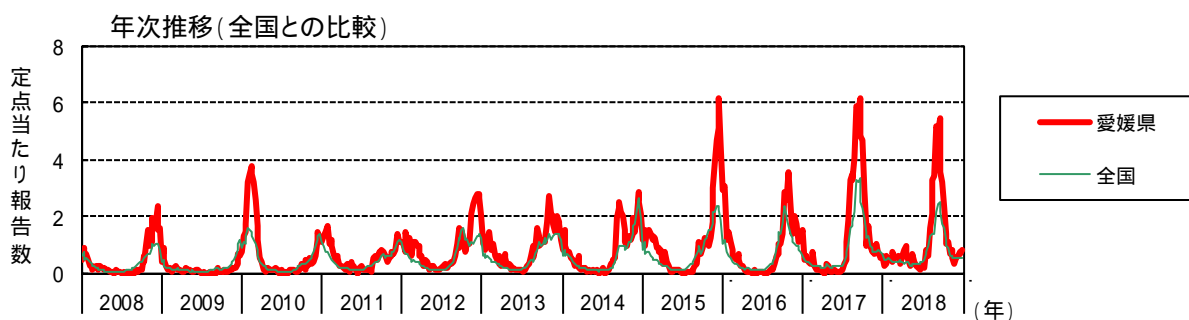
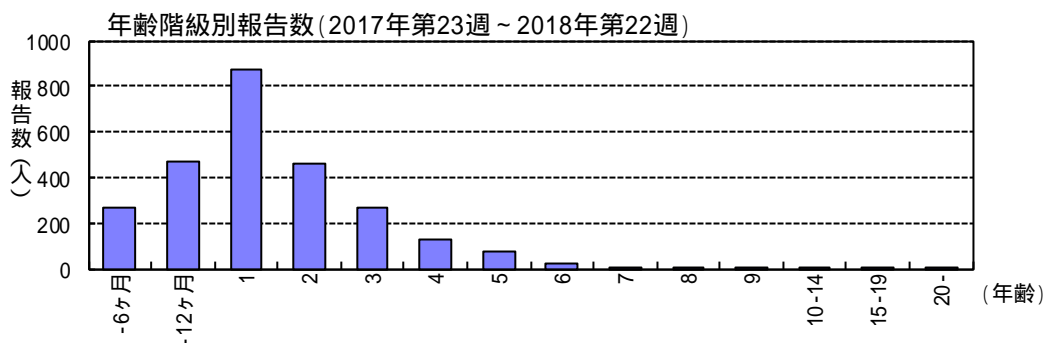
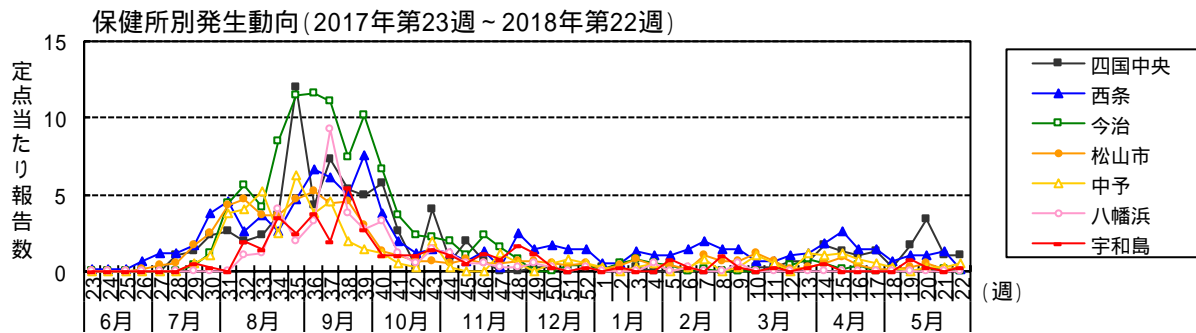
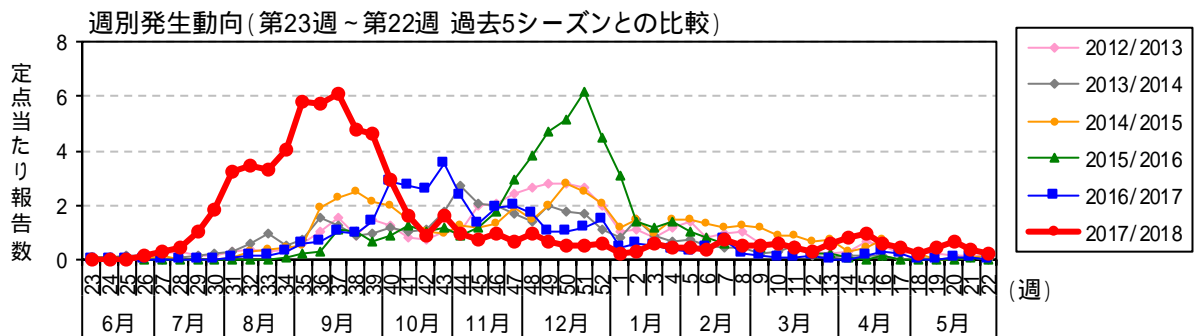
インフルエンザ [2017/2018シーズン(2017年第36週~2018年第35週)]

Main data table with columns for Date (年月週), Region (都道府県), Health District (保健所別), Prefecture (愛媛県), and National Total (全国). Includes sub-totals for the 2017/2018 season and a grand total at the bottom.

(3) 小児科定点対象疾患(週報)

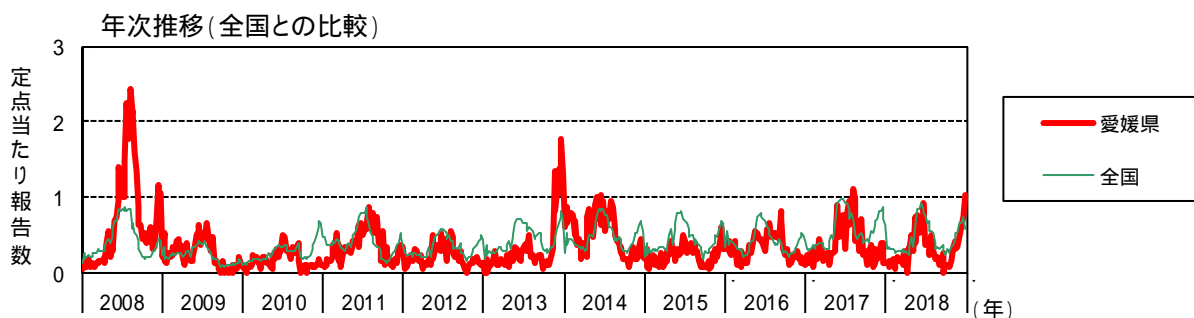
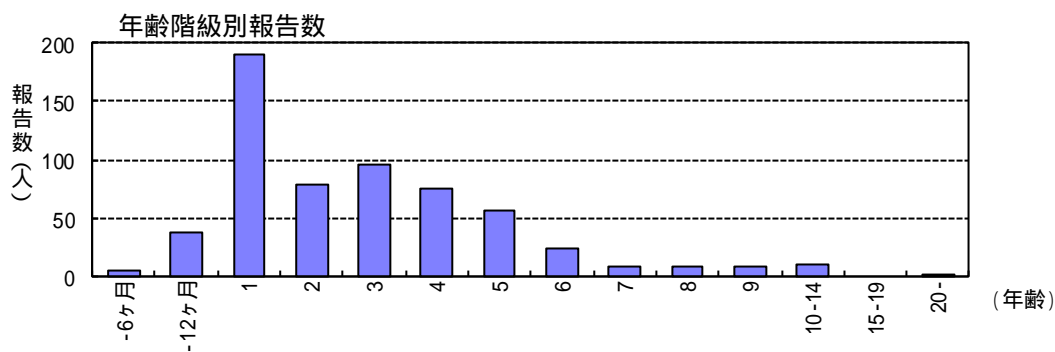
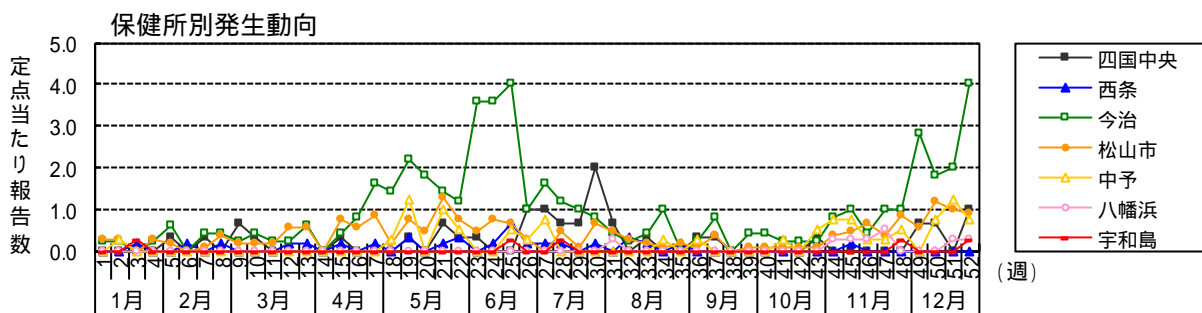
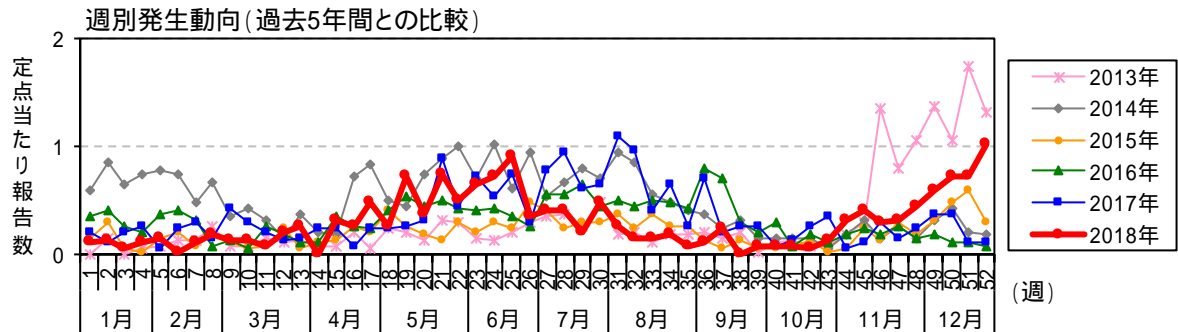
RS ウイルス感染症

2017/2018 シーズン(2017年第23週~2018年第22週)の患者報告数は2,586人(定点当たり69.89人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数1,358人、定点当たり36.70人/シーズン)の1.9倍に増加し、2003年の調査開始以降、最も大きな流行規模となった。第29週(7月中旬)から報告数が増加し、第48週(11月下旬)までの4ヶ月にわたり患者数の多い状態が続いた。第37週(9月中旬)の226人/週(定点当たり6.11人/週)が本シーズンの最高値となり、過去のシーズンより早く流行を迎えた。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所の105.20人/シーズンが最も多く、西条保健所99.17人/シーズン、四国中央保健所81.67人/シーズン、松山市保健所63.00人/シーズン、中予保健所52.50人/シーズン、宇和島保健所40.50人/シーズン、八幡浜保健所38.75人/シーズンの順であり、今治保健所、西条保健所からの報告が多くみられた。年齢別の患者報告数は、1歳が870人(33.6%)、1歳未満が739人(28.6%)、2歳が463人(17.9%)と多く、1歳以下の乳幼児が1,609人と全体の62.2%を占めた。



咽頭結膜熱

2018年の患者報告数は598人(定点当たり16.29人/年)で、前年(患者報告数691人、定点当たり18.68人/年)の0.9倍に減少した。第19週(5月中旬)から第25週(6月下旬)と、第49週(12月上旬)から第52週(12月下旬)にかけて報告数が増加し、第52週(12月下旬)に定点当たり1.03人/週と最高値を示した。今治保健所、松山市保健所では、年間を通して報告がみられた。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所の50.40人/年が最も多く、次いで松山市保健所20.18人/年、四国中央保健所13.33人/年、中予保健所11.25人/年、西条保健所4.37人/年、八幡浜保健所2.00人/年、宇和島保健所1.25人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1～5歳までの幼児が496人と全体の82.9%を占めた。

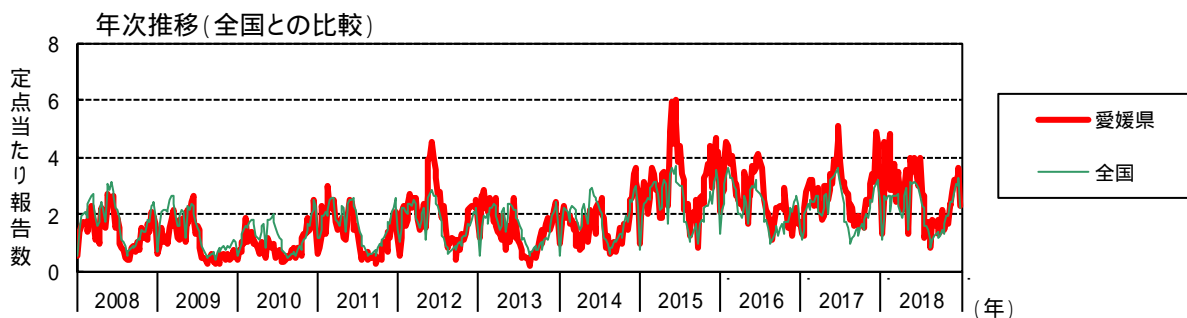
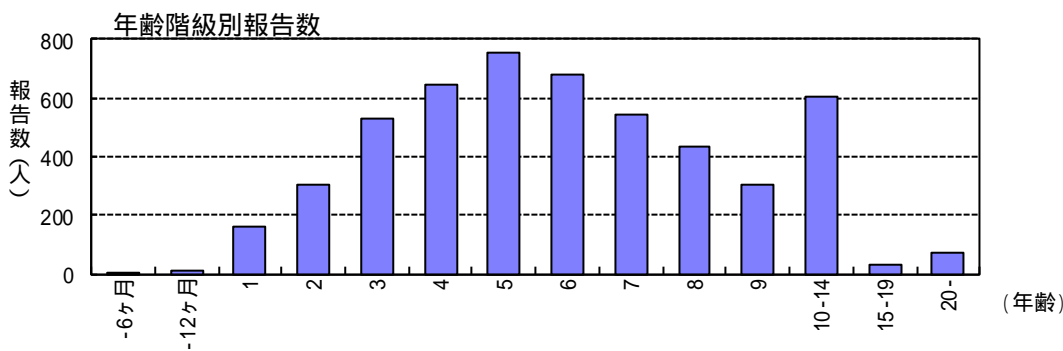
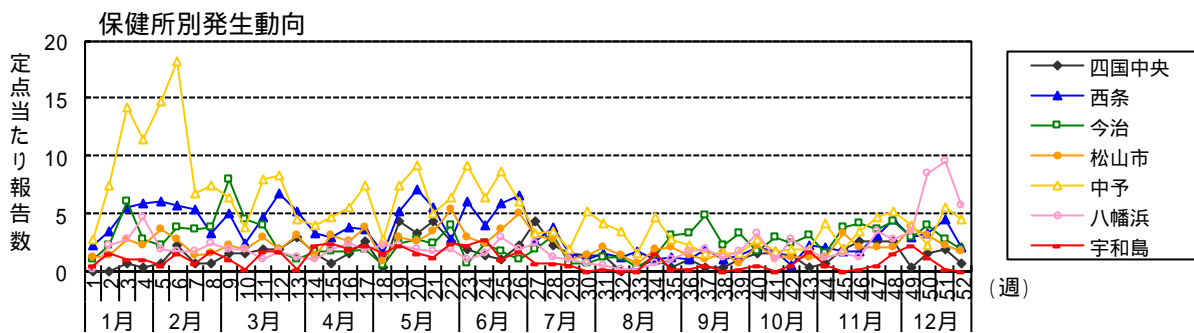
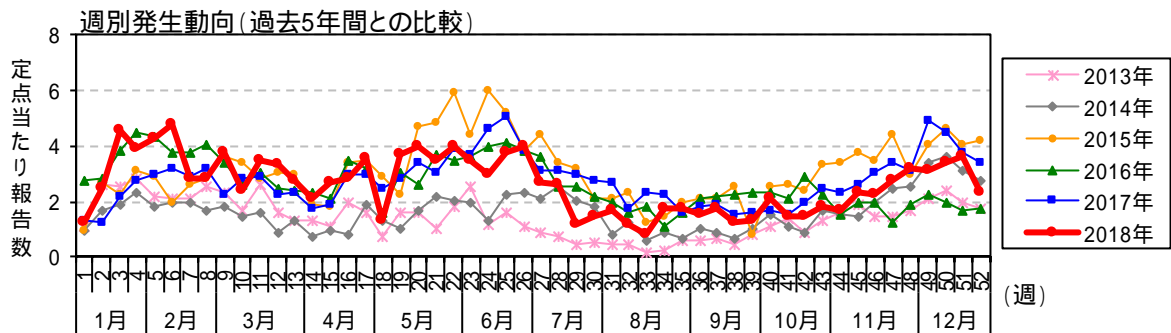


咽頭結膜熱

月 週	患者報告数										定点当たり報告数												
	2018年 保健所別					愛媛県					全国												
	四国中央	西 奈	今 治	松 山市	中 予	八 幡 浜	宇 和 島	2018	2017	2016	四国中央	西 奈	今 治	松 山市	中 予	八 幡 浜	宇 和 島	2018	2017	2016			
1			1	3	1		4	8	13	949	984	1,707			0.20	0.27		0.11	0.22	0.35	0.30	0.31	0.54
2			1	3	1		5	4	15	1,043	906	1,124			0.20	0.27		0.14	0.11	0.41	0.33	0.29	0.36
3		1					2	8	10	961	951	1,291			0.17			0.05	0.22	0.27	0.30	0.30	0.41
4			1	3			4	10	8	977	976	1,287			0.20	0.27		0.11	0.27	0.22	0.31	0.31	0.41
5	1		3	2			6	2	14	985	1,148	1,210			0.60	0.18		0.16	0.05	0.38	0.31	0.36	0.38
6	1	1		1			1	9	15	899	967	1,151			0.40	0.09		0.03	0.24	0.41	0.28	0.31	0.36
7	1		2	1			4	11	12	820	1,138	1,145			0.40	0.36		0.11	0.30	0.32	0.26	0.36	0.36
8		1	2	4			7	6	3	904	1,156	970			0.17	0.17		0.19	0.16	0.08	0.29	0.36	0.31
9	2		1	2			5	16	5	870	1,257	939			0.20	0.18		0.14	0.43	0.14	0.28	0.40	0.30
10	1		2	2			5	11	2	862	1,252	886			0.40	0.18		0.14	0.30	0.05	0.27	0.40	0.28
11			1	2			3	8	10	946	1,155	936			0.20	0.18		0.08	0.22	0.27	0.30	0.37	0.30
12		1	1	6			8	5	7	830	1,060	678			0.17	0.55		0.22	0.14	0.19	0.26	0.33	0.21
13		1	3	6			10	6	4	878	984	718			0.17	0.60		0.27	0.16	0.11	0.28	0.31	0.23
14							9	4	4	799	972	718			0.40	0.73		0.32	0.24	0.11	0.25	0.31	0.23
15	1	1	2	8			12	9	13	741	1,006	847			0.80	0.55		0.27	0.08	0.27	0.34	0.42	0.35
16			4	6			10	3	10	1,080	1,327	1,102			1.60	0.82		0.49	0.24	0.24	0.47	0.48	0.40
17		1	8	9			18	9	9	1,465	1,510	1,270			1.40	0.18		0.27	0.24	0.41	0.33	0.43	0.41
18			7	2	1		10	9	15	1,022	1,368	1,284			1.40	0.18		0.41	0.24	0.24	0.41	0.33	0.43
19	1	2	11	8	5		27	10	20	1,952	2,081	1,707			2.20	0.73		0.73	0.27	0.54	0.62	0.66	0.54
20			9	5			14	12	17	2,012	2,054	1,754			1.80	0.45		0.38	0.32	0.46	0.64	0.65	0.55
21	2	1	7	14	4		28	33	19	2,656	2,872	2,316			1.40	1.27		0.76	0.89	0.51	0.84	0.91	0.73
22	1	2	6	8	2		19	17	16	2,631	3,004	2,369			1.20	0.73		0.51	0.46	0.43	0.83	0.95	0.75
23	1		18	5	5		24	27	15	2,909	3,082	2,508			3.60	0.45		0.65	0.73	0.41	0.92	0.97	0.79
24		1	18	8			27	20	16	2,641	3,067	2,293			3.60	0.73		0.73	0.54	0.43	0.83	0.97	0.73
25		4	20	7	2		34	28	13	2,482	3,086	2,206			4.00	0.64		0.92	0.76	0.35	0.78	0.98	0.70
26	3	1	5	3	1		13	11	10	2,415	2,935	2,186			1.00	0.27		0.35	0.30	0.27	0.76	0.93	0.69
27	3	1	8	5	3		15	29	21	2,037	2,927	1,927			1.60	0.75		0.41	0.78	0.57	0.64	0.93	0.61
28	2	1	6	5			15	35	21	2,138	2,619	1,816			1.20	0.45		0.42	0.95	0.57	0.68	0.83	0.58
29	2	1	5	1			8	23	24	1,733	2,236	1,507			1.00	0.09		0.22	0.62	0.65	0.55	0.71	0.48
30	6	1	4	7			18	24	17	1,735	2,455	1,479			0.80	0.64		0.50	0.65	0.46	0.55	0.78	0.47
31	2		2	5			10	41	19	1,594	2,248	1,312			0.40	0.45	0.25	0.27	1.11	0.51	0.51	0.71	0.42
32		2	1	3			6	36	17	1,280	1,709	1,120			0.20	0.27		0.16	0.97	0.46	0.42	0.55	0.36
33	1	1	2	2			6	15	19	974	1,513	1,183			0.40	0.18		0.16	0.41	0.51	0.32	0.49	0.38
34			5	1	1		7	24	18	1,037	1,395	1,135			1.00	0.09	0.25	0.19	0.65	0.49	0.33	0.45	0.36
35		1		2			3	10	16	996	1,528	1,351			0.17	0.18		0.08	0.27	0.43	0.32	0.48	0.43
36	1		1	1	1		4	26	30	1,048	1,607	1,221			0.20	0.09	0.25	0.11	0.70	0.81	0.33	0.51	0.39
37	1		4	4			9	8	26	1,104	1,463	1,188			0.80	0.36		0.24	0.22	0.70	0.35	0.46	0.38
38							10	11	11	868	1,206	778			0.20	0.09		0.27	0.30	0.30	0.28	0.38	0.25
39			2	1			3	10	8	741	1,309	872			0.40	0.09		0.08	0.27	0.22	0.23	0.41	0.28
40			2	1			3	3	11	954	1,389	809			0.40	0.09		0.08	0.08	0.30	0.30	0.44	0.26
41			1	1	1		3	5	3	776	1,234	670			0.20	0.09	0.25	0.08	0.14	0.08	0.25	0.39	0.21
42			1	1			2	10	7	893	1,391	700			0.20	0.09		0.05	0.27	0.19	0.28	0.44	0.22
43	1		1	1			5	13	4	1,037	1,688	774			0.20	0.09	0.50	0.14	0.35	0.11	0.33	0.53	0.24
44			4	4	3		12	2	7	1,102	1,624	768			0.80	0.36	0.75	0.33	0.05	0.19	0.35	0.51	0.24
45		1	5	5	3		15	4	9	1,416	1,987	878			1.00	0.45	0.75	0.42	0.11	0.24	0.45	0.63	0.28
46			2	7	1		11	11	7	1,646	2,128	987			0.40	0.64	0.25	0.31	0.30	0.19	0.52	0.67	0.31
47			5	4	1	2	12	6	10	1,640	2,190	1,181			1.00	0.36	0.25	0.33	0.16	0.27	0.52	0.69	0.37
48			5	9	2		17	9	6	2,069	2,603	1,359			1.00	0.82	0.50	0.47	0.24	0.16	0.65	0.82	0.43
49	2		14	6			22	14	7	2,087	2,588	1,476			2.80	0.55		0.61	0.38	0.19	0.66	0.82	0.47
50	2		9	13	3		27	14	4	2,308	2,693	1,613			1.80	1.18	0.75	0.75	0.38	0.11	0.73	0.85	0.51
51			10	11	5	1	27	4	4	2,213	2,248	1,527			2.00	1.00	0.25	0.75	0.11	0.11	0.70	0.71	0.48
52	3		20	10	3	1	38	4	3	1,804	1,993	1,254			4.00	0.91	0.75	1.03	0.11	0.08	0.58	0.64	0.40
合計	40	26	252	222	45	8	598	691	624	73,959	92,269	67,487			50.40	20.18	11.25	16.29	18.68	16.86	23.46	29.23	21.38

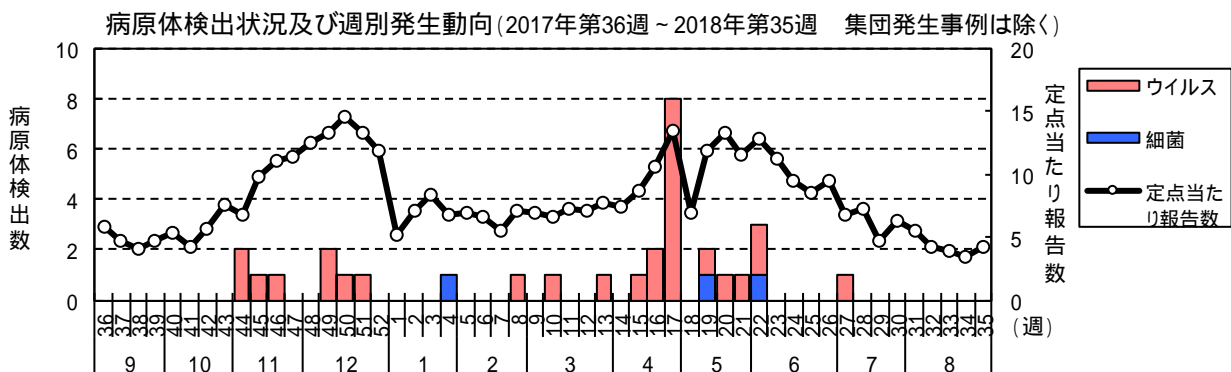
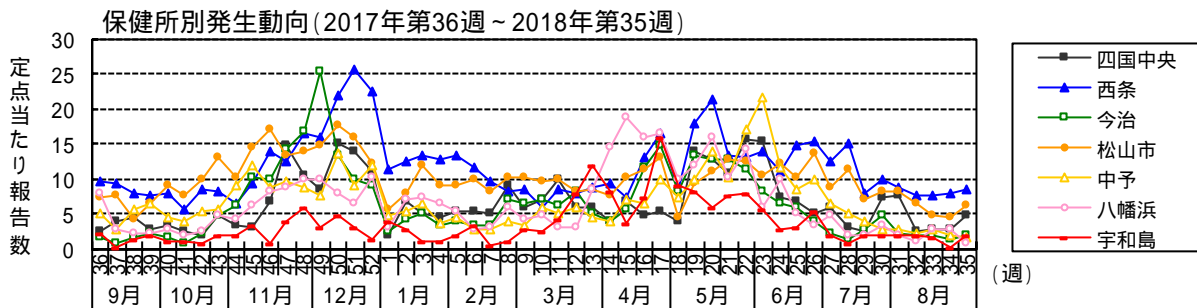
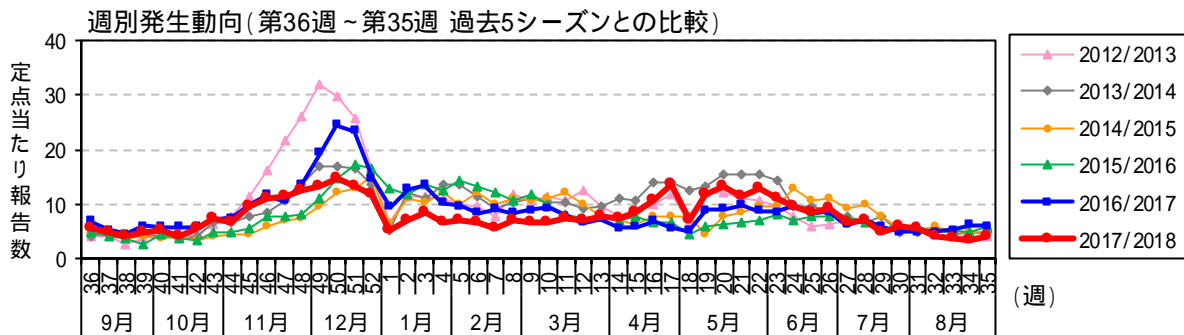
A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2018年の患者報告数は5,075人(定点当たり137.90人/年)で、前年(患者報告数5,303人、定点当たり143.32人/年)と同程度の発生であった。本疾患は、例年初夏と晩秋冬季に多発する傾向を示し、本年も同様に、1月中旬から2月中旬、4月下旬から6月下旬、11月下旬から12月下旬に増加傾向を示した。中予保健所では1月から8月、11月から12月に多発し、県全体では第6週(2月上旬)に定点当たり4.78人/週と最高値を示した。さらに、第22週(5月下旬)に定点当たり4.00人/週と初夏のピークを形成した。地域別の定点当たり報告数は、中予保健所が279.50人/年と突出して多く、次いで西条保健所179.87人/年、今治保健所138.20人/年、松山市保健所119.36人/年、八幡浜保健所113.17人/年、四国中央保健所79.67人/年、宇和島保健所53.50人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、5歳が754人(14.9%)と最も多く、次いで6歳が677人(13.3%)、4歳が643人(12.7%)で、4~6歳が2,074人と全体の40.9%を占めた。

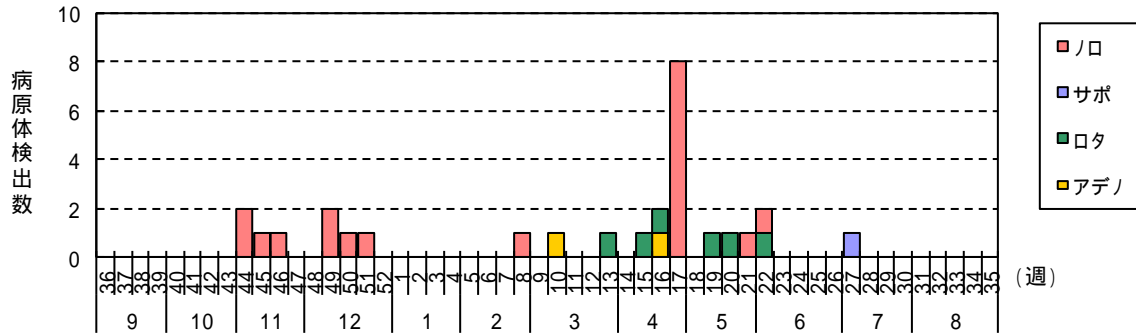


感染性胃腸炎

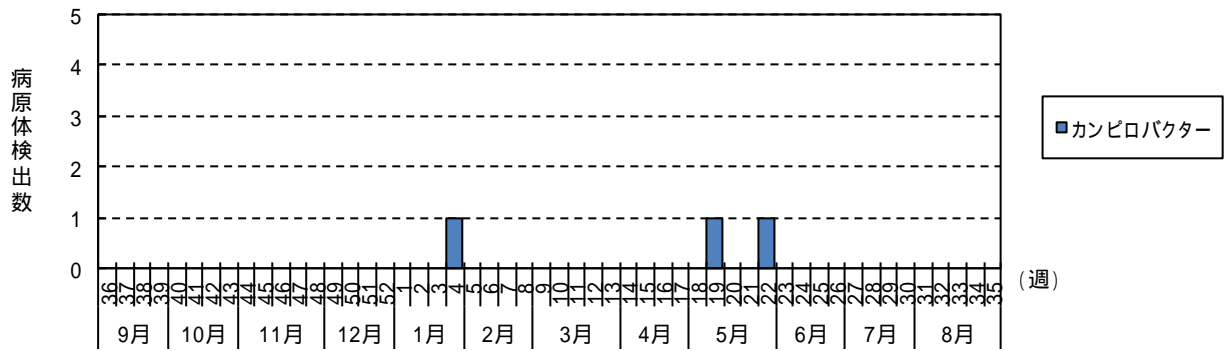
2017/2018 シーズン(2017年第36週～2018年第35週)の患者報告数は15,455人(定点当たり418.07人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数16,956人、定点当たり458.27人/シーズン)の0.9倍に減少し、過去10シーズンで2番目に少ない発生規模であった。本疾患は例年12月から患者数が急増し、年末の急峻なピークと3～4月の穏やかなピークの二峰性の動向を示す。本シーズンは、10月下旬から松山市保健所で増加し始め、その後県下に広がりがみられ、第50週(12月中旬)に定点当たり14.59人/週と最高値を示した。地域別の定点当たり報告数は、西条保健所601.17人/シーズンと、それに次ぐ松山市保健所515.00人/シーズンが多く、中予保健所352.25人/シーズン、四国中央保健所340.33人/シーズン、八幡浜保健所336.92人/シーズン、今治保健所334.00人/シーズン、宇和島保健所185.50人/シーズンが続いた。乳幼児から成人まで全年齢層にわたって報告があったが、1歳が2,307人(14.9%)と最も多く、1～6歳の幼児が10,040人と全体の65.0%を占めた。病原体は、11月から12月と2月から4月にノロウイルス、4月から5月にロタウイルスが多く検出され、その他、アデノウイルス、カンピロバクターが検出された。



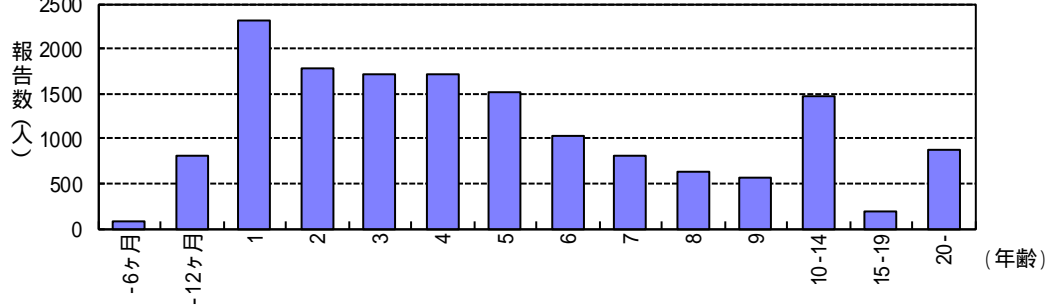
(ウイルス検出状況 詳細)



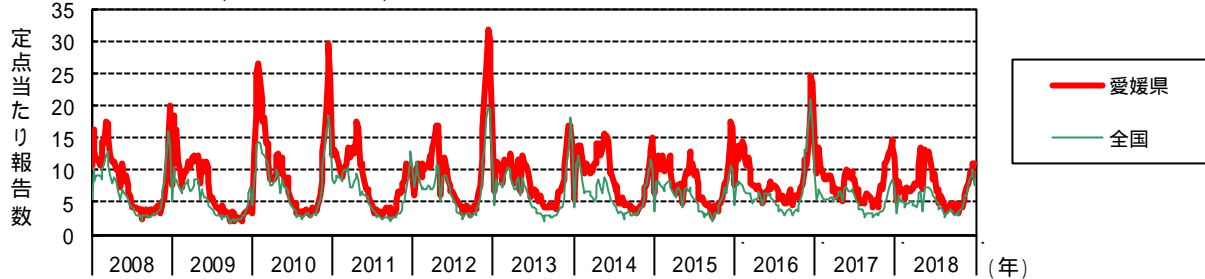
(細菌検出状況 詳細)



年齢階級別報告数(2017年第36週~2018年第35週)

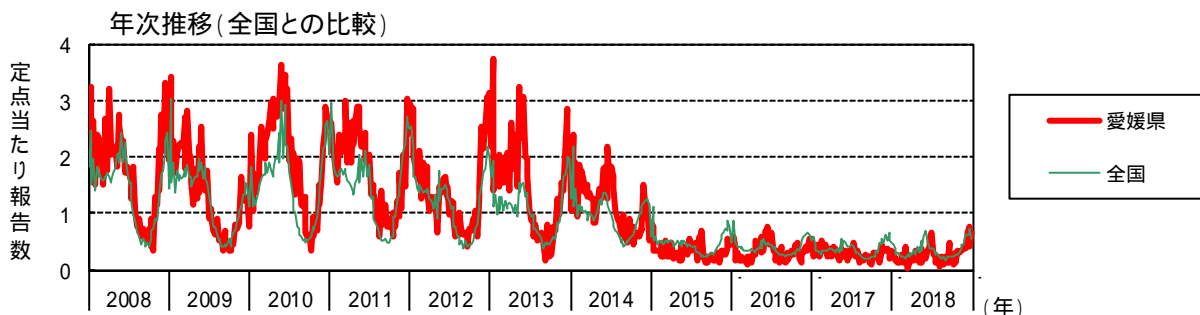
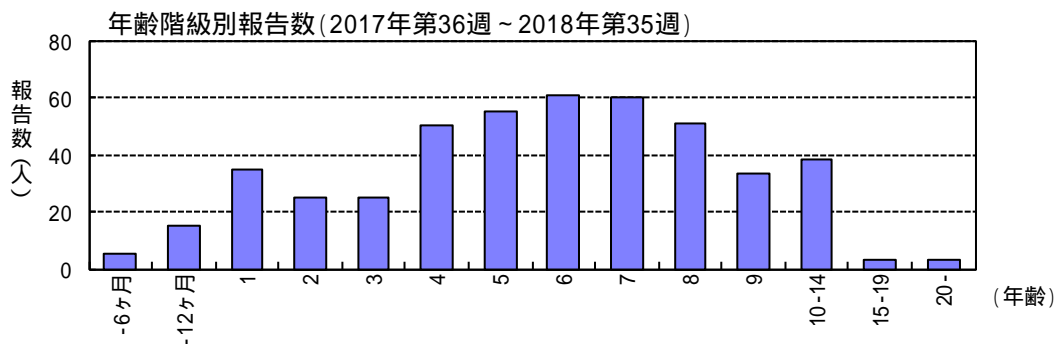
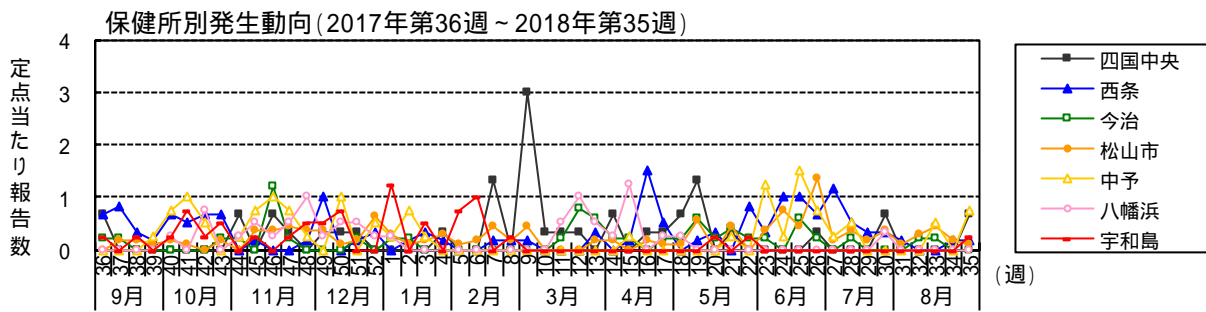
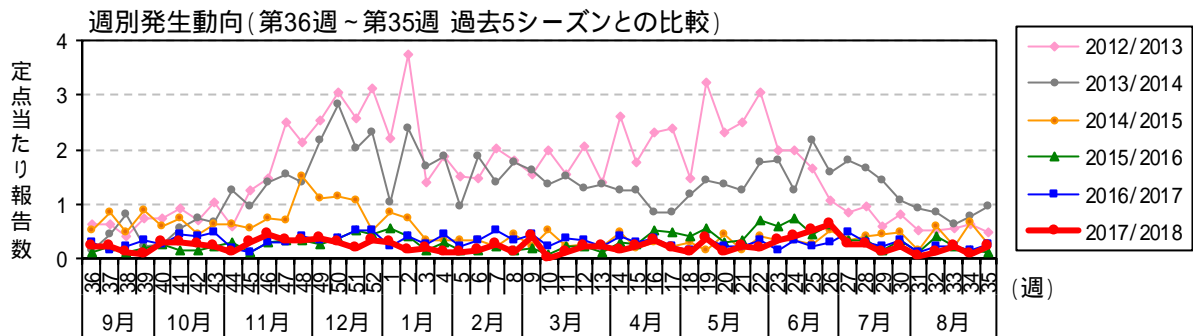


年次推移(全国との比較)



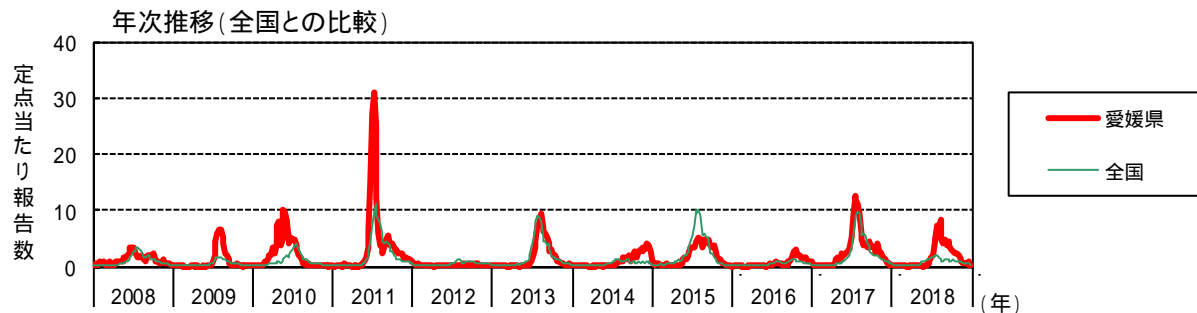
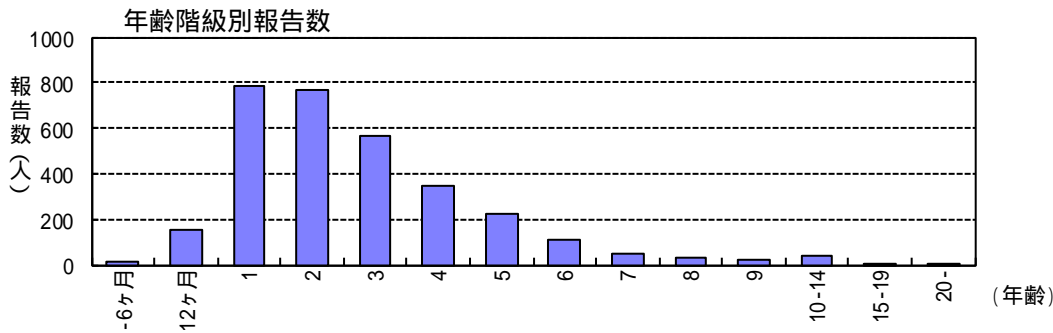
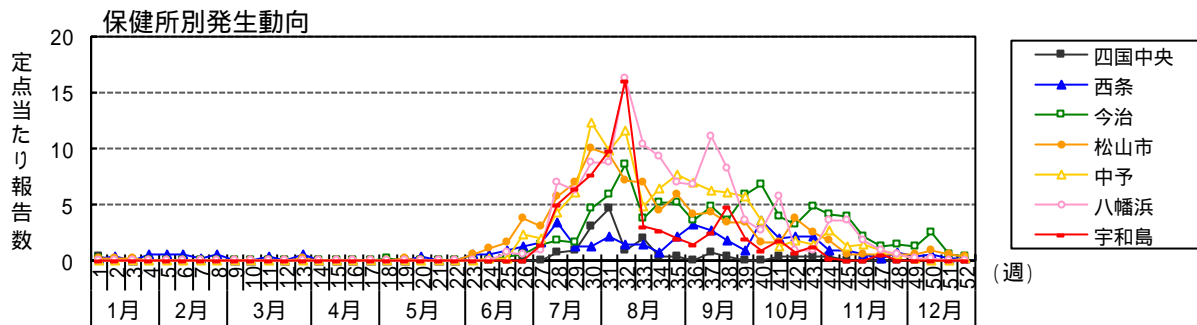
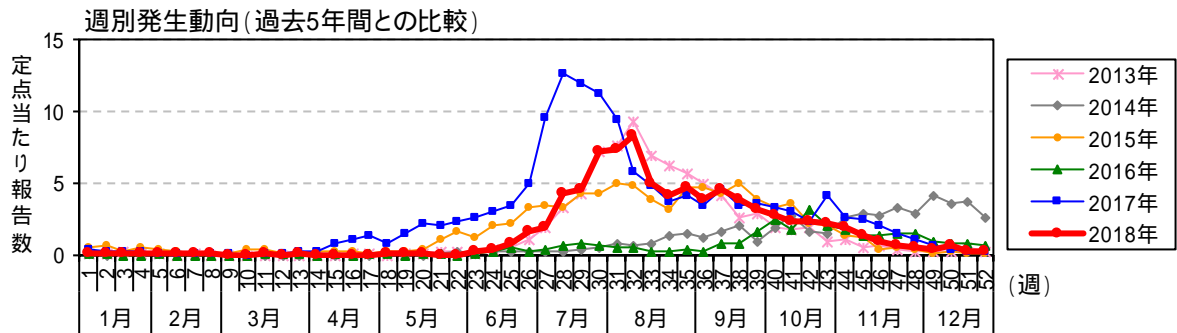
水痘

2017/2018 シーズン(2017年第36週~2018年第35週)の患者報告数は459人(定点当たり12.42人/シーズン)で、前シーズン(患者報告数600人、定点当たり16.22人/年)と同程度の発生規模となり、1999年以降最も少ない発生規模であった。本疾患は、例年冬季のピークと、春から初夏にかけてのなだらかなピークの二峰性の動向を示す。本シーズンは、年間を通して散發程度の発生でピークは形成せず、第26週(6月下旬)の定点当たり0.65人/週が最高値であった。地域別の定点当たり報告数は、西条保健所17.17人/シーズン、中予保健所14.50人/シーズン、四国中央保健所14.33人/シーズン、松山市保健所12.73人/シーズン、八幡浜保健所9.58人/シーズン、宇和島保健所9.00人/シーズン、今治保健所8.20人/シーズンの順であった。年齢別の患者報告数は、6歳が61人(13.3%)と最も多く、次いで7歳が60人(13.1%)、5歳が55人(12.0%)で、4~7歳が226人と全体の49.2%を占めた。2~3歳の割合は10.9%(50人)で、前年と同様に減少傾向であった。



手足口病

2018年の患者報告数は3,106人(定点当たり84.45人/年)で、前年(患者報告数5,231人、定点当たり141.38人/年)の0.6倍に減少し、過去10年と同程度の発生規模であった。本疾患は、例年4月から9月にかけて流行地域を移動しながら3~4カ月間流行するが、本年は第24週(6月中旬)から松山市保健所で増加し始め、その後6月下旬に西条保健所、中予保健所でも増加し、各地に広がった。県全体では、第32週(8月上旬)に定点当たり8.35人/週と最高値を示した。地域別の定点当たり報告数は、八幡浜保健所131.75人/年、中予保健所108.00人/年、松山市保健所99.91人/年、今治保健所93.80人/年、宇和島保健所70.50人/年、西条保健所45.97人/年、四国中央保健所15.67人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1歳が782人(25.2%)と最も多く、1~3歳の幼児が2,112人と全体の68.0%を占めた。病原体は、コクサッキーウイルスA16型が最も多く、次いでコクサッキーウイルスA6型が多く検出された。その他、コクサッキーウイルスA10型、アデノウイルス1型、2型及び5型、エンテロウイルス68型もみられた。

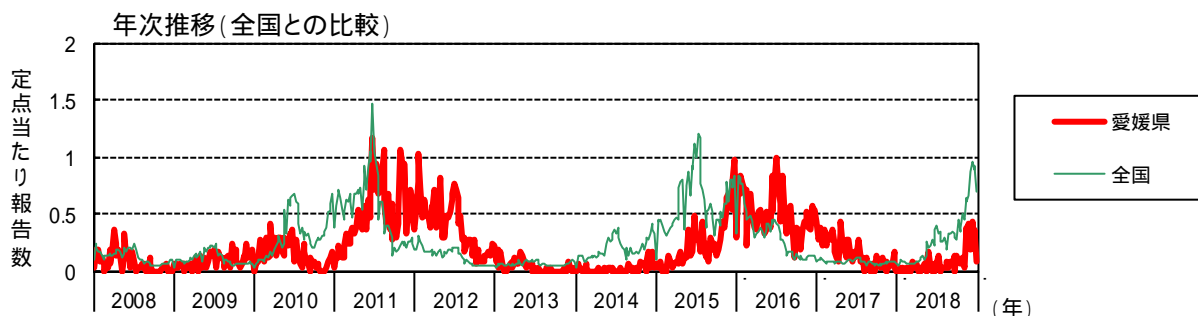
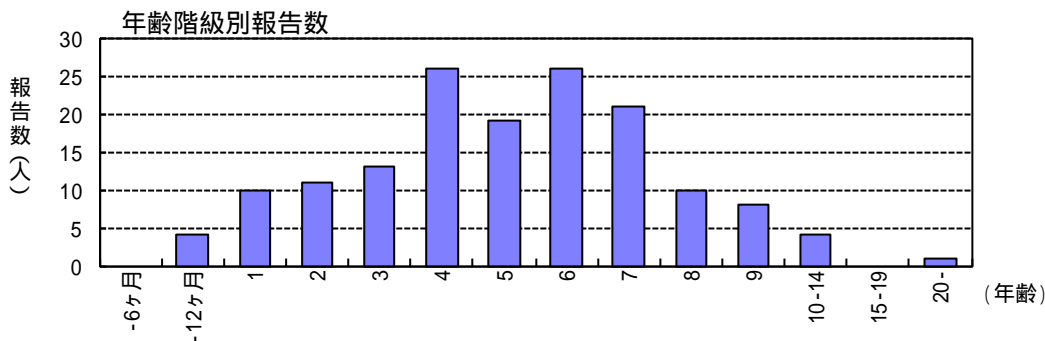
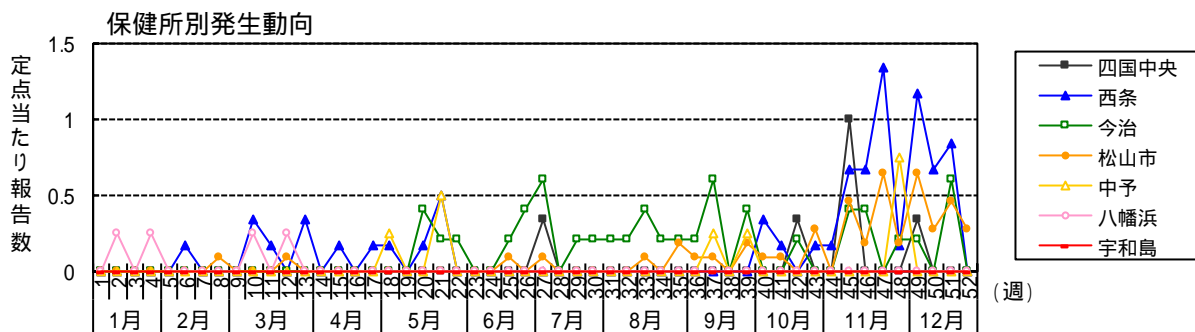
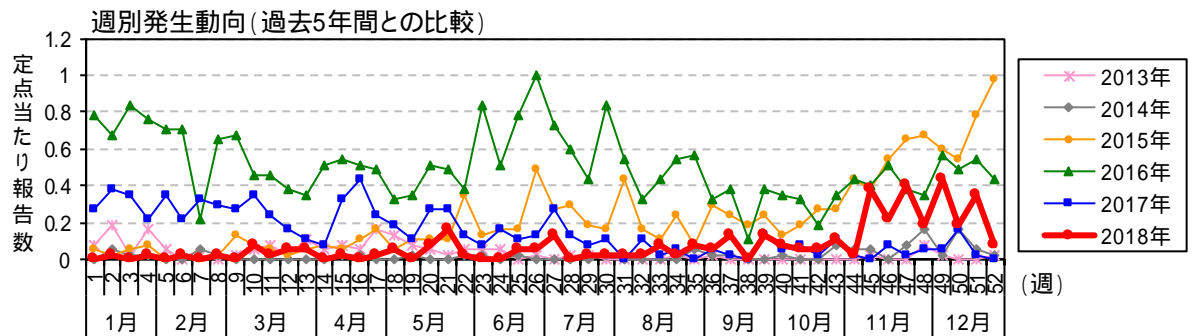


手足口病

月	週	患者報告数													定点当たり報告数							
		2018年 保健所別						愛媛県						全国								
		四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016		
1	1	1	1	1	2		5	13	2	546	515	160	0.33	0.17	0.20	0.18	0.14	0.35	0.05	0.17	0.16	0.05
1	2	2	3		3		5	8	4	521	448	129	0.33	0.33		0.27	0.14	0.22	0.11	0.16	0.14	0.04
3	3	2	2		2		2	9	1	742	682	123				0.18	0.05	0.24	0.03	0.23	0.22	0.04
4	4	3	1		4		4	10	1	724	168		0.50	0.50		0.09	0.11	0.27	0.05	0.23	0.17	0.05
5	5	3	1		4		4	2	2	564	509	108	0.50	0.50		0.09	0.11	0.05	0.05	0.18	0.16	0.03
6	6	3	3		3		3	4	1	469	432	95	0.50	0.50		0.09	0.08	0.11	0.03	0.15	0.14	0.03
7	7	1	1		2		2	5		362	459	76	0.17	0.17		0.09	0.05	0.14		0.11	0.15	0.02
8	8	3	3		3		3	5		341	397	77	0.50	0.50		0.09	0.08	0.14		0.11	0.13	0.02
9	9				1		1	6		333	93					0.09	0.03	0.16		0.12	0.11	0.03
10	10				1		1	1		421	404	53					0.03	0.03		0.13	0.13	0.02
3	11	2			2		2	2		482	361	68	0.33	0.33			0.05	0.05		0.15	0.11	0.02
12	12				3		3	5		417	337	78					0.14	0.14		0.13	0.11	0.02
13	13	3			3		3	8		483	395	61	0.50	0.50		0.18	0.14	0.22		0.15	0.12	0.02
14	14				1		1	8		533	399	74					0.03	0.22		0.17	0.13	0.02
4	15				1		1	28		739	807	109					0.03	0.76		0.23	0.26	0.03
16	16	2			1		1	42		1,238	1,566	156					0.03	0.03		0.25	0.39	0.05
17	17				1		1	53		962	1,370	176					0.03	1.14		0.31	0.43	0.06
18	18				1		2	30		896	1,402	185			0.20		0.05	0.81		0.29	0.44	0.06
19	19				2		2	58		1,349	1,644	282				0.18	0.05	1.57		0.43	0.52	0.09
20	20	2			1		3	79		2,406	2,711	439	0.33	0.33		0.09	0.08	2.14		0.76	0.86	0.14
21	21				1		1	77		2,490	3,079	568					0.09	2.08		0.79	0.97	0.18
22	22				1		1	88		3,021	4,257	595				0.09	0.03	2.38		0.96	1.34	0.19
23	23	3			6		9	99		3,518	5,031	811		0.50		0.55	0.24	2.68		1.11	1.59	0.26
24	24	5			13		17	114		3,898	6,537	1,093		0.50		1.18	0.46	3.08		1.23	2.07	0.35
6	25	5			3		28	130		8,332	7,628	1,289	0.83	0.83	0.40	0.55	3.51		1.24	2.41	0.41	
26	26	8			3		63	186		11,222	15,059	2,511	1.33	1.33	0.60	3.73	2.25		1.70	3.55	0.48	
27	27	10			7		69	332		5,338	18,200	2,014	0.67	1.67	1.40	3.09	2.00		1.86	5.76	0.64	
28	28	2			9		20	158		6,598	26,048	2,305	3.33	3.33	1.80	5.64	4.25		4.39	12.70	2.09	
29	29	3			8		77	24		5,927	28,340	2,251	1.00	1.00	3.60	7.00	6.00		4.62	11.97	0.81	
30	30	9			8		23	110		5,684	31,151	2,247	3.00	3.33	4.60	10.00	12.25		7.36	11.19	0.68	
31	31	14			13		29	103		5,398	30,130	2,385	4.67	2.17	5.80	9.36	9.75		7.35	9.49	0.51	
32	32	3			9		43	79		4,470	23,099	1,806	1.00	1.50	8.60	7.18	11.50		8.35	5.81	0.51	
8	33	6			9		19	76		3,092	17,096	1,546	2.00	1.50	3.80	6.91	4.75		4.92	4.86	0.24	
34	34	1			4		26	49		3,108	18,443	1,935	0.33	0.67	5.20	4.45	6.50		4.16	3.68	0.27	
35	35	1			13		26	65		3,668	17,650	2,204	0.33	2.17	5.20	5.91	7.75		4.65	4.16	0.38	
36	36	19			18		45	28		3,582	13,198	2,303		3.17	3.60	4.09	7.00		3.86	3.51	0.27	
37	37	2			16		24	48		3,608	12,264	2,536	0.67	2.67	4.80	4.36	6.25		4.57	4.51	0.78	
38	38	1			11		38	24		3,177	7,440	3,420	0.33	1.83	3.60	3.60	6.00		3.89	3.41	0.76	
39	39	5			5		29	38		2,713	7,469	3,420		0.83	5.80	3.45	5.75		3.16	3.62	1.65	
40	40				21		34	18		3,415	6,720	4,396		3.50	6.80	1.64	3.50		2.76	3.30	2.51	
10	41	1			12		20	17		6,889	5,893	3,453	0.33	2.00	4.00	1.55	1.25		2.30	3.11	1.78	
42	42	1			13		16	42		3,134	5,656	3,280	0.33	2.17	3.20	3.82	1.75		2.32	2.32	3.16	
43	43	1			13		24	27		3,046	6,534	3,359	0.33	2.17	4.80	2.42	1.50		2.16	4.16	2.11	
44	44	1			5		21	19		6,445	5,135	2,893	0.33	1.00	4.20	1.73	2.75		2.00	2.59	1.78	
45	45	5			5		20	7		2,393	4,450	2,323		1.00	4.00	0.64	1.25		1.42	2.43	1.35	
11	46	3			3		11	6		2,494	4,051	2,304		0.60	2.20	0.55	1.50		0.92	2.03	1.41	
47	47	1			6		6	4		57	2,060	3,886	0.20	0.20	1.20	0.55	1.00		0.64	1.49	1.54	
48	48	4			4		7	7		1,993	2,978	1,922		0.80	1.40	0.64	0.50		0.47	1.08	1.49	
49	49	2			7		17	25		1,943	2,985	1,639		0.40	1.20	0.64	0.25		0.47	0.68	0.97	
50	50	3			13		27	14		1,939	2,547	1,373		0.60	2.60	0.91	0.25		0.75	0.38	0.76	
51	51	1			1		10	10		1,577	1,950	1,223		0.20	0.60	0.55			0.28	0.27	0.81	
52	52	1			2		8	7		990	1,354	750		0.17	0.40	0.36	0.25		0.22	0.19	0.73	
合計	合計	47	271	1,099	469	432	282	506	282	3,106	5,231	1,135	15.67	45.97	93.80	99.91	108.00	131.75	70.50	84.45	113.65	21.91

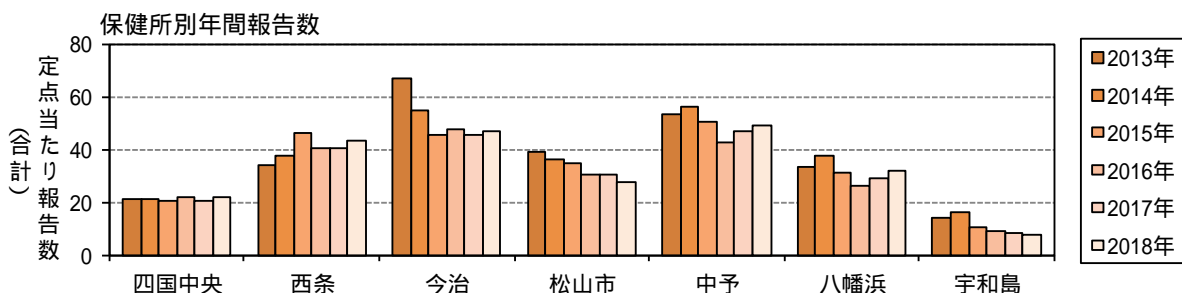
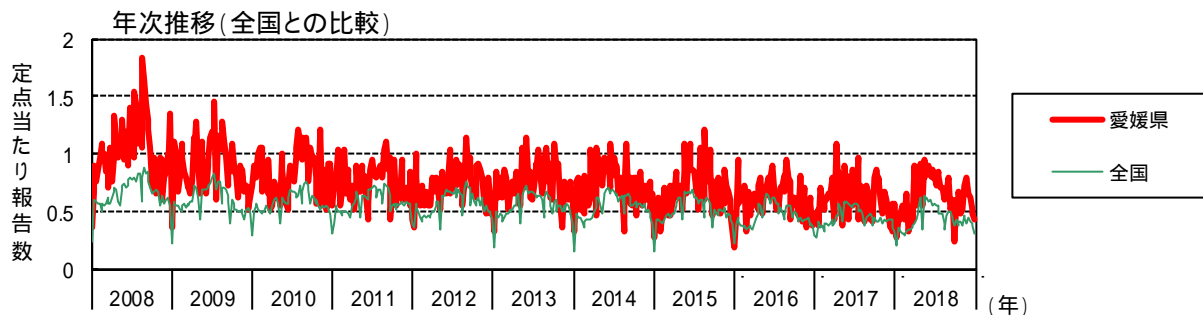
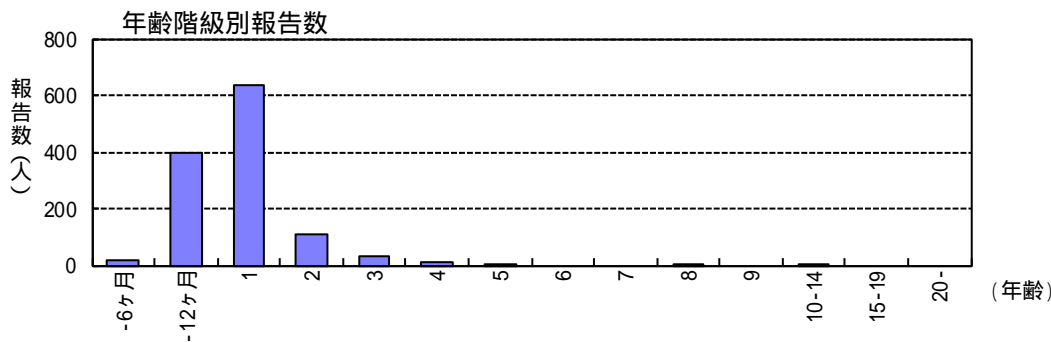
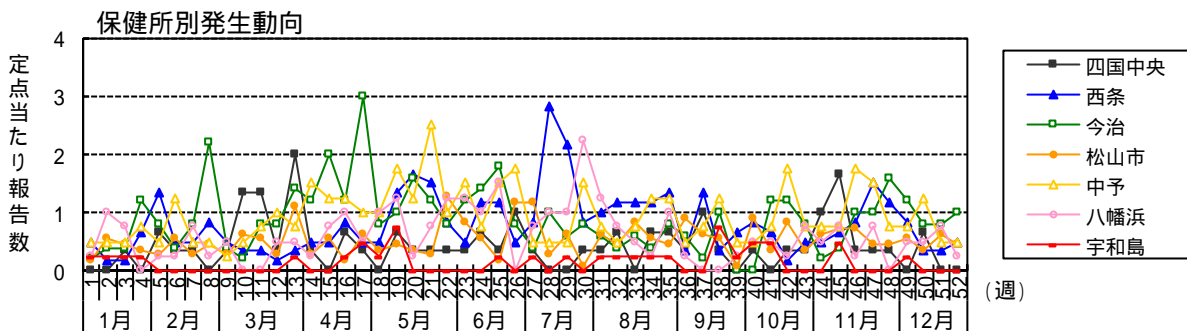
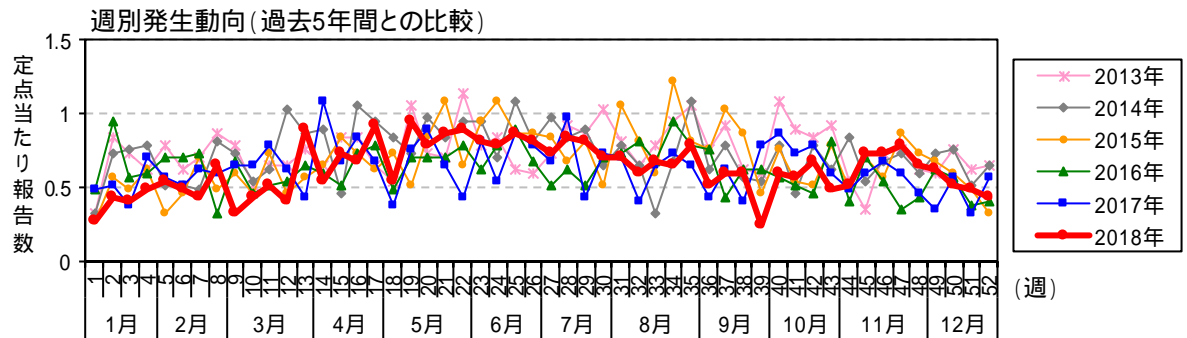
伝染性紅斑

2018年の患者報告数は153人(定点当たり4.20人/年)で、前年(患者報告数288人、定点当たり7.78人/年)の0.5倍に減少した。本疾患は、1992年、1997年、2001～2002年、2006～2007年、2011～2012年、2015～2016年と4、5年おきに流行期を迎えており、本年は小規模な発生であることから、非流行期と考えられる。本年は、10月まで散發程度の発生であったが、11月上旬から増加する傾向がみられた。第45週(11月上旬)に四国中央保健所、西条保健所、今治保健所、松山市保健所、第48週(11月下旬)に中予保健所で増加し、第49週(12月上旬)に定点当たり報告数0.44人/週となりピークを迎えた。地域別の定点当たり報告数は、西条保健所9.63人/年、今治保健所6.80人/年、松山市保健所4.55人/年、四国中央保健所及び中予保健所2.00人/年、八幡浜保健所1.00人/年の順で、宇和島保健所は患者報告がなかった。年齢別の患者報告数は、4歳及び6歳が26人(17.0%)と最も多かったが、乳幼児から20歳代まで幅広い年齢層にみられた。



突発性発しん

2018年の患者報告数は1,208人(定点当たり32.83人/年)で、前年(患者報告数1,209人、定点当たり32.68人/年)と同程度の発生規模であった。本疾患は夏季にやや増加する傾向があるが、本年は第19週(5月上旬)に定点当たり0.95人/週と最高値を示したものの、年間を通じて大きな変動を示さずに推移した。地域別の定点当たり報告数は、中予保健所49.00人/年、次いで今治保健所46.60人/年、西条保健所43.07人/年、八幡浜保健所32.33人/年、松山市保健所27.73人/年、四国中央保健所22.33人/年、宇和島保健所7.75人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1歳が636人(52.6%)、6~12ヶ月が398人(32.9%)で、1歳以下が1,052人と全体の87.1%を占めた。

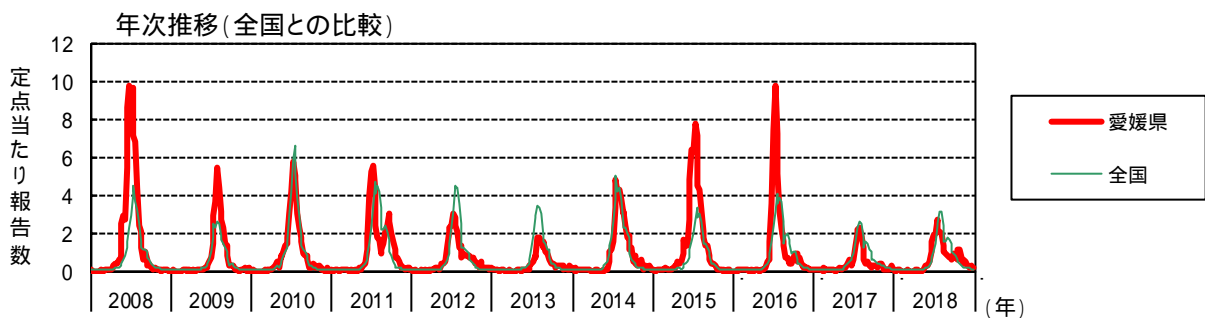
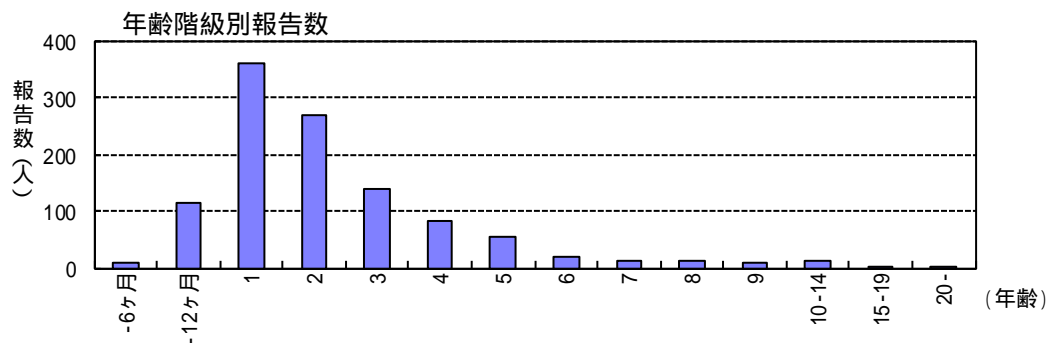
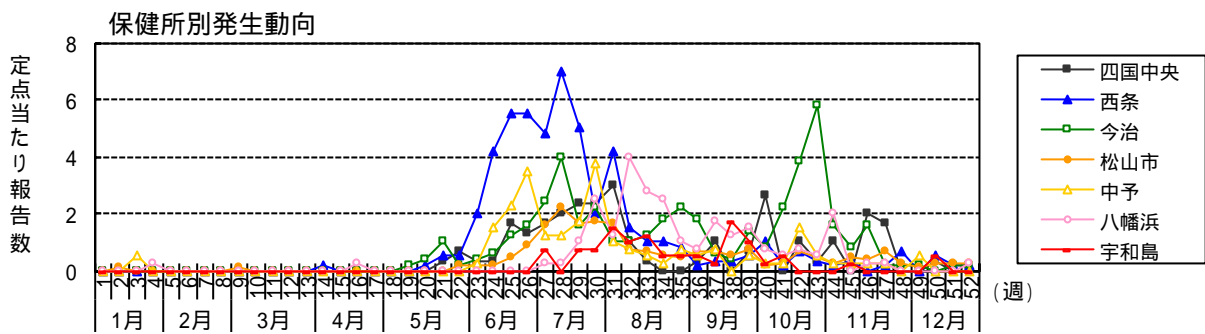
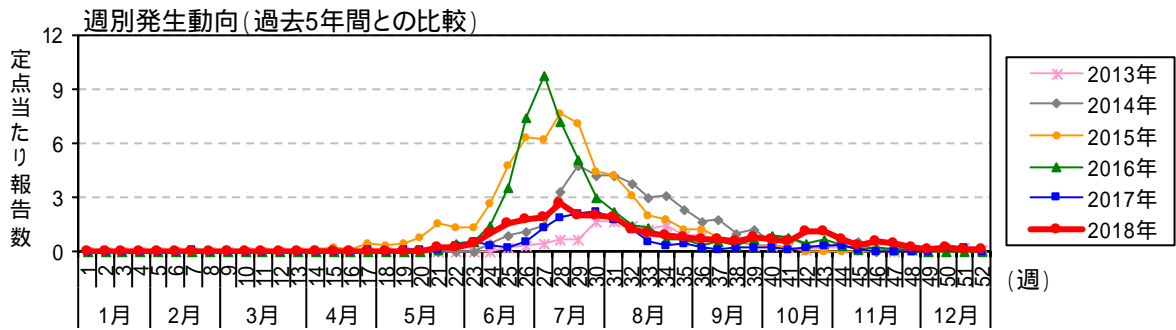


突発性発疹

Table with columns for Month, Week, and various municipalities (四国中央, 西条, 今治, 松山市, 中予, 八幡浜, 宇和島) under '2018年保健所別' and '愛媛県'. It includes a '全国' (National) column for comparison. The table shows weekly and monthly counts of cases.

ヘルパンギーナ

2018年の患者報告数は1,094人(定点当たり29.77人/年)で、前年(患者報告数697人、定点当たり18.84人/年)の1.6倍に増加した。6月上旬から西条保健所で増加し始め、東予・中予地域では流行がみられたが、県下では大きな流行とならないまま9月以降徐々に減少し、終息に向かった。地域別の定点当たり報告数は、西条保健所が51.90人/年と最も多く、次いで今治保健所44.80人/年、四国中央保健所28.33人/年、八幡浜保健所27.42人/年、中予保健所25.00人/年、松山市保健所20.18人/年、宇和島保健所12.00人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、1歳が360人(32.9%)と最も多く、1~4歳が848人と全体の77.5%を占めた。



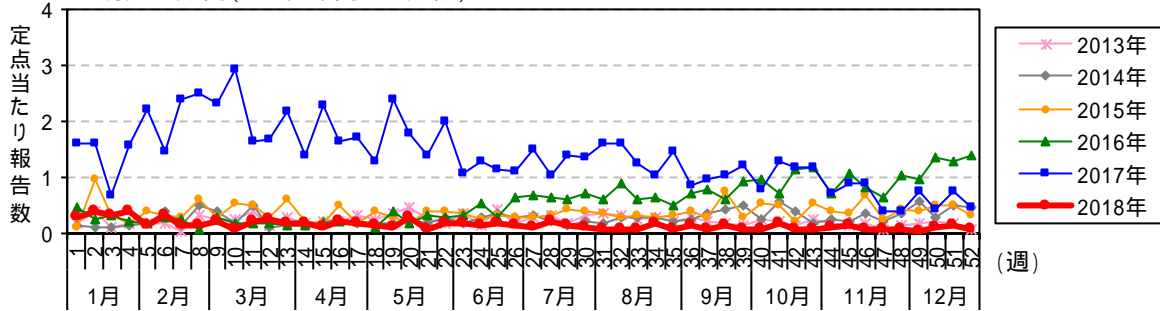
ヘルパンギーナ

月 週	患者報告数										定点当たり報告数																			
	2018年 保健所別					愛媛県					全国					2018年 保健所別					愛媛県					全国				
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016		
1	1																													
2	2																													
3	3																													
4	4																													
5	5																													
6	6																													
7	7																													
8	8																													
9	9																													
10	10																													
11	11																													
12	12																													
13	13																													
14	14																													
15	15																													
16	16																													
17	17																													
18	18																													
19	19																													
20	20																													
21	21																													
22	22																													
23	23																													
24	24																													
25	25																													
26	26																													
27	27																													
28	28																													
29	29																													
30	30																													
31	31																													
32	32																													
33	33																													
34	34																													
35	35																													
36	36																													
37	37																													
38	38																													
39	39																													
40	40																													
41	41																													
42	42																													
43	43																													
44	44																													
45	45																													
46	46																													
47	47																													
48	48																													
49	49																													
50	50																													
51	51																													
52	52																													
合計	合計	85	309	224	222	100	48	1,094	697	1,936	99,304	86,045	129,371	28.33	51.90	44.80	20.18	25.00	27.42	12.00	29.77	18.84	52.32	31.50	27.26	40.99	29.77	18.84	52.32	

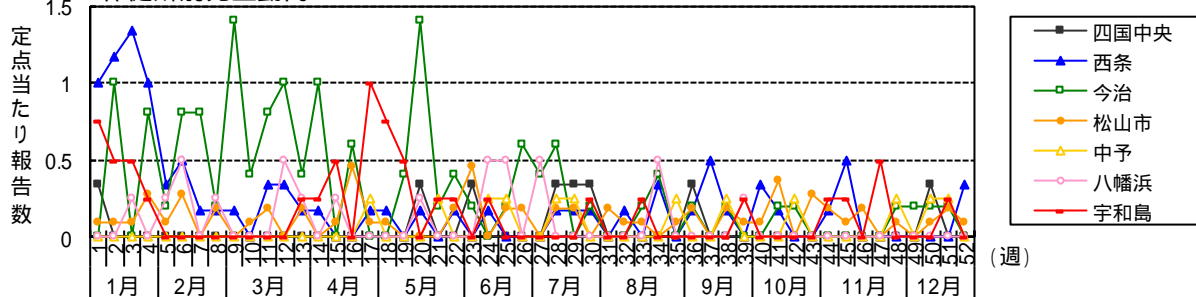
流行性耳下腺炎

2018年の患者報告数は286人(定点当たり7.76人/年)で、前年(患者報告数2,654人、定点当たり71.73人/年)の0.1倍に減少し、過去10年で最も少ない発生規模であった。本疾患は3~4年周期で流行する特徴があり、本年は非流行期であると考えられた。本年は、年間を通して散發程度の発生でピークは形成せず、第2週(1月中旬)の定点当たり0.41人/週が最高値であった。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所で16.20人/年と多く、次いで西条保健所11.13人/年、宇和島保健所8.00人/年、松山市保健所6.18人/年、八幡浜保健所4.75人/年、中予保健所3.00人/年、四国中央保健所2.67人/年の順であった。患者の年齢は、幼児から成人まで幅広い年齢層にわたっていたが、5歳が44人(15.4%)と最も多く、2~6歳が163人と全体の57.0%を占めた。

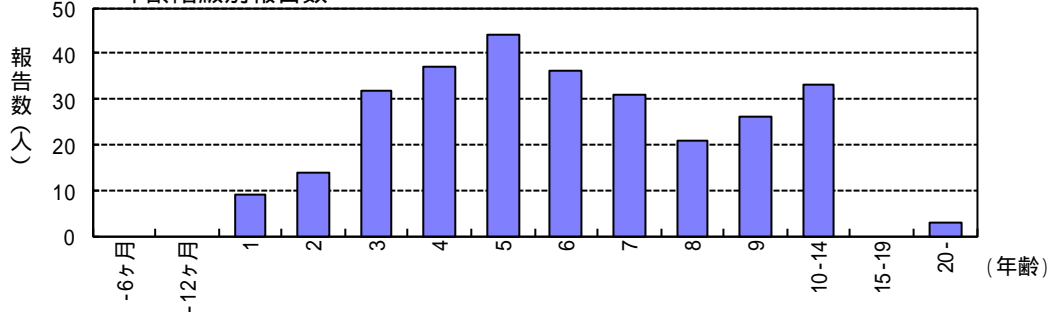
週別発生動向(過去5年間との比較)



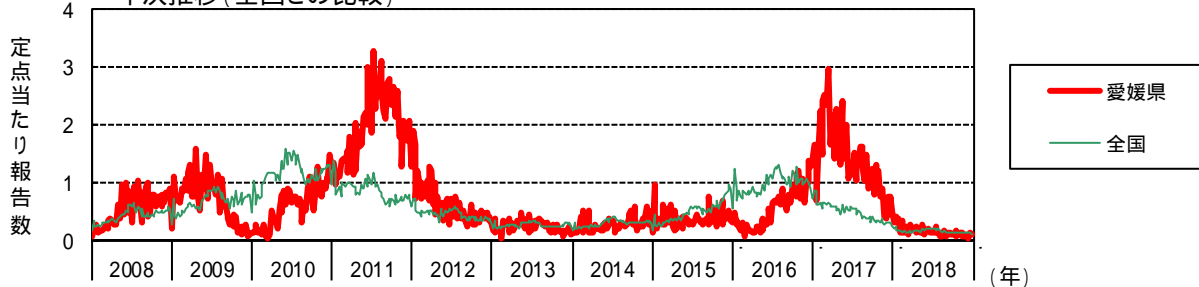
保健所別発生動向



年齢階級別報告数



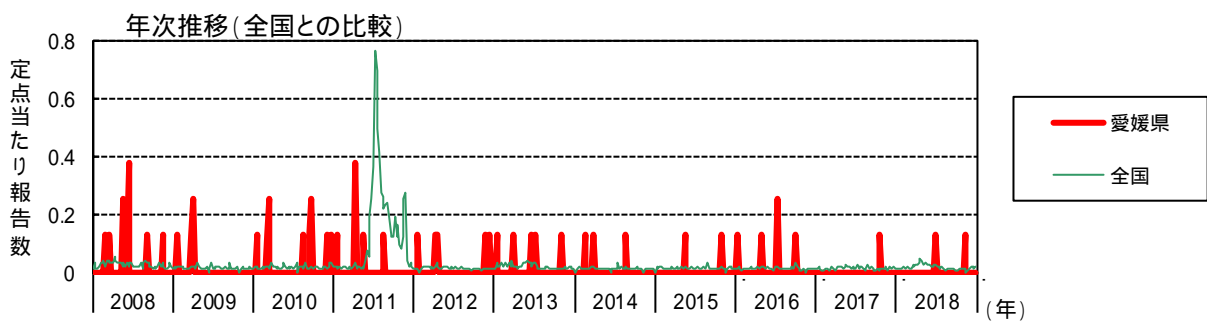
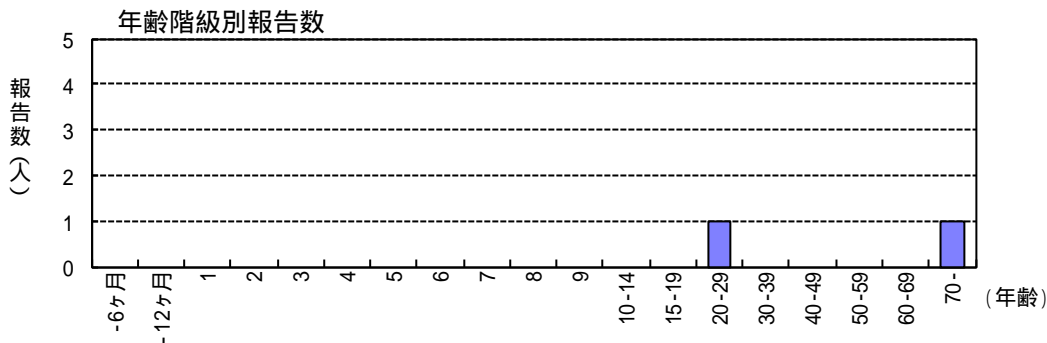
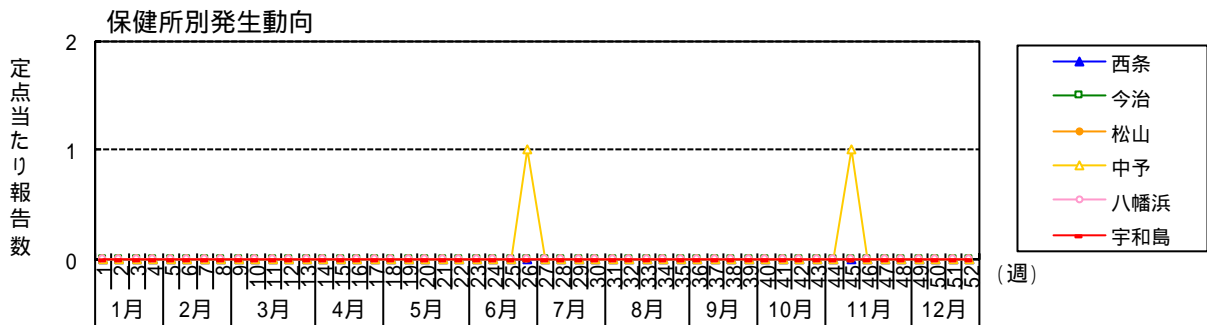
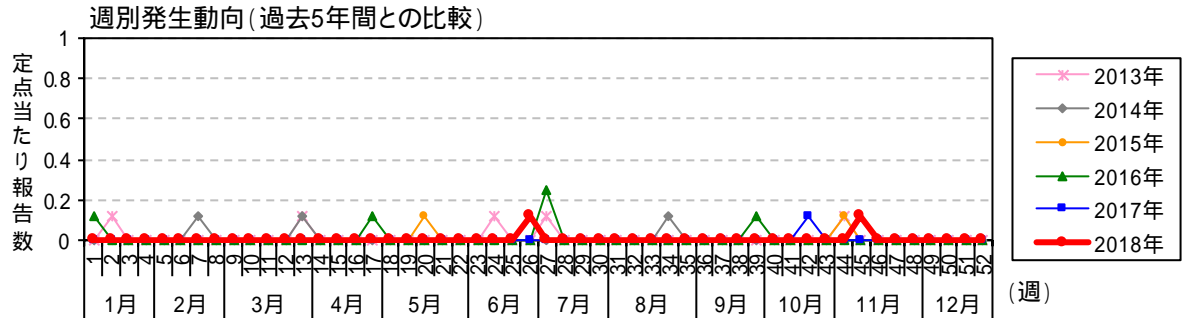
年次推移(全国との比較)



(4) 眼科定点対象疾患(週報)

急性出血性結膜炎

2018年の患者報告数は2人(定点当たり0.25人/年)で、前年(患者報告数1人、定点当たり0.13人/年)と同様、少数の報告であった。本疾患は、2004年9~10月に宇和島地区で地域的な短期流行があって以降、県内各地でごく少数例の報告に留まっている。本年の患者報告数は中予保健所が2人で、年齢は20~29歳、70歳以上が各1人であった。

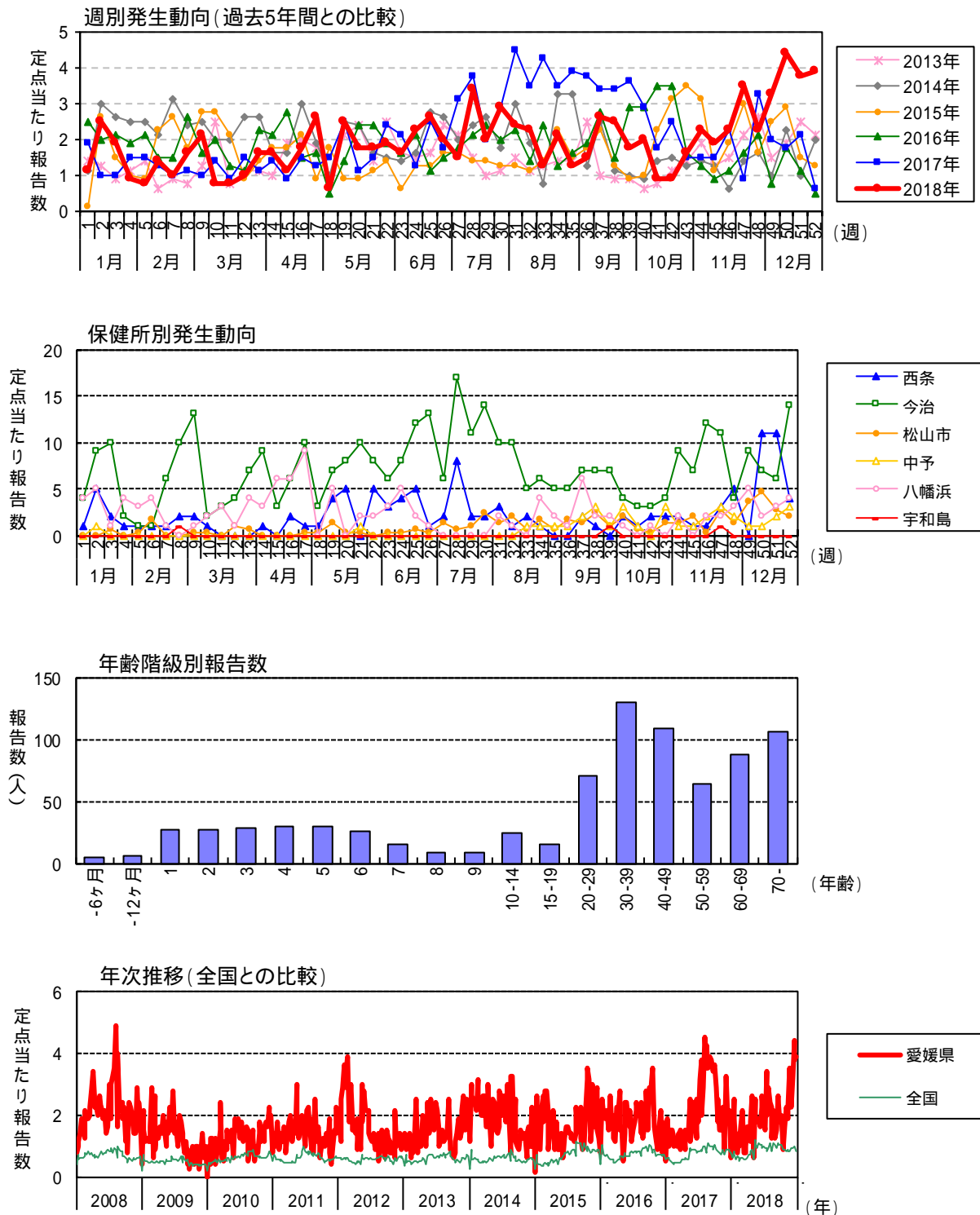


急性性出血性結膜炎

月 週			患者報告数												定点当たり報告数							
			2018年 保健所別						愛媛県						愛媛県					全国		
			西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016		
			西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016		
1	1							1				5	11	10	0.01				0.01			
2												9	5		0.02				0.02			
3												5	9		0.01				0.01			
4												5	3		0.01				0.01			
5												11	3		0.02				0.01			
6												8	6		0.01				0.01			
7												8	11		0.01				0.01			
8												10	6		0.01				0.01			
9												8	3		0.01				0.01			
10												9	14		0.01				0.02			
11												15	8		0.02				0.01			
12												10	6		0.01				0.01			
13												18	2		0.03				0.01			
14												17	12		0.02				0.02			
15												21	10		0.03				0.01			
16												29	11		0.04				0.01			
17												26	10		0.04				0.02			
18												15	7		0.02				0.01			
19												22	14		0.03				0.02			
20												20	16		0.03				0.01			
21												19	11		0.02				0.02			
22												17	11		0.02				0.01			
23												11	8		0.02				0.01			
24												11	13		0.02				0.01			
25												18	6		0.03				0.01			
26												17	9		0.02				0.02			
27												14	15		0.02				0.02			
28												14	9		0.02				0.01			
29												9	14		0.01				0.01			
30												12	10		0.02				0.01			
31												9	7		0.01				0.01			
32												3	5		0.00				0.01			
33												2	6		0.00				0.01			
34												8	16		0.01				0.01			
35												5	5		0.01				0.01			
36												6	9		0.01				0.01			
37												6	5		0.01				0.02			
38												5	4		0.01				0.01			
39												3	3		0.00				0.03			
40												3	6		0.00				0.02			
41												9	4		0.01				0.01			
42												9	10		0.01				0.00			
43												9	6		0.01				0.00			
44												6	8		0.01				0.01			
45												8	6		0.01				0.00			
46												13	3		0.00				0.01			
47												3	5		0.01				0.01			
48												9	10		0.01				0.01			
49												11	6		0.02				0.01			
50												10	12		0.01				0.01			
51												9	11		0.01				0.01			
52												14	9		0.02				0.01			
合計												560	441	401	0.80	0.63	0.63	0.63	0.58			

流行性角結膜炎

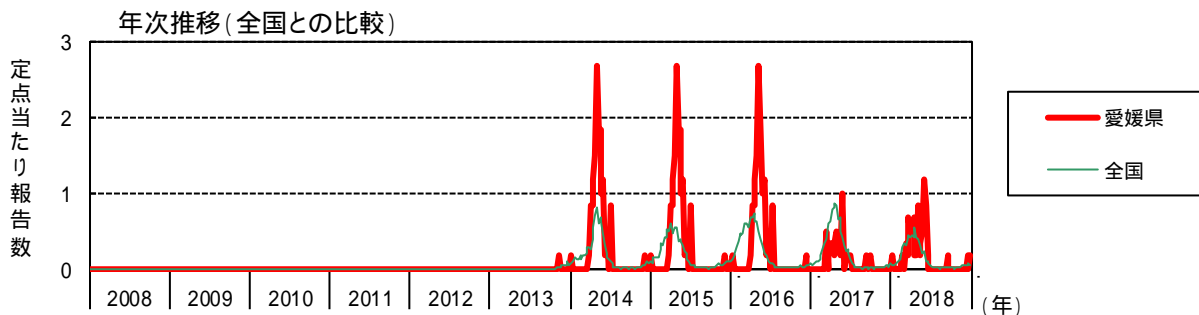
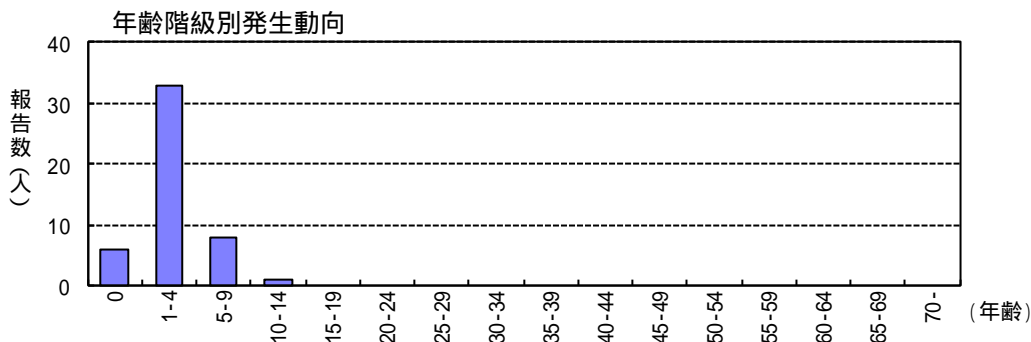
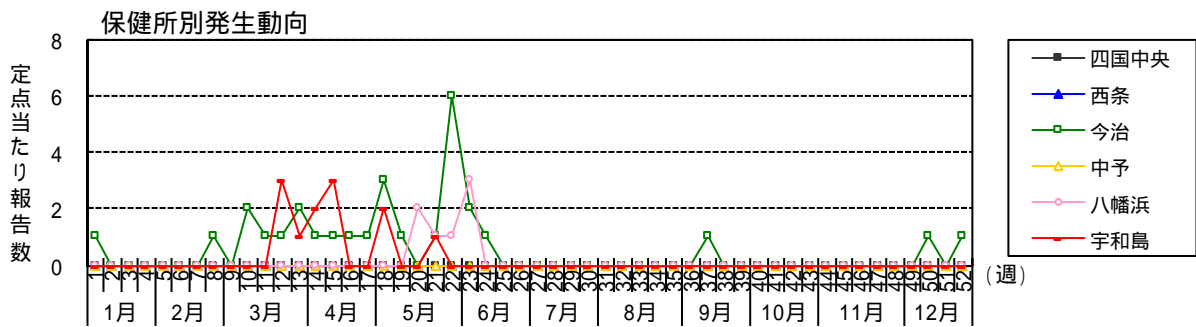
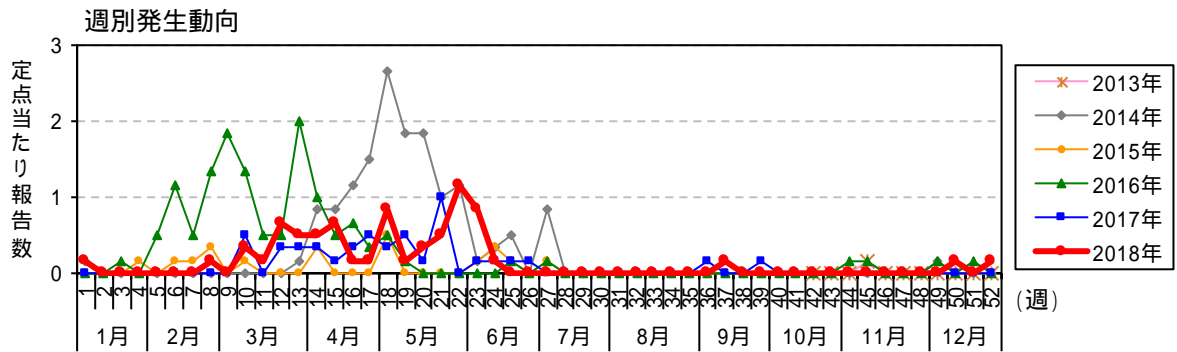
2018年の患者報告数は813人(定点当たり103.02人/年)で、前年(患者報告数862人、定点当たり107.75人/年)と同程度の発生であった。例年8~9月に患者数の増加がみられるが、本年は、7月と11月中旬から12月下旬にかけて患者数が増加し、第50週(12月中旬)に定点当たり4.38人/週とピークを迎えた。今治保健所は年間を通じて報告数が多かった。地域別の定点当たり報告数は、今治保健所が378.00人/年と多く、八幡浜保健所122.00人/年、西条保健所118.00人/年、松山市保健所52.33人/年、中予保健所35.00人/年、宇和島保健所3.00人/年の順であった。年齢別の患者報告数は、30~39歳が129人(15.9%)、40~49歳が109人(13.4%)と多く、20歳以上の成人が565人と全体の69.5%を占めた。



(5) 基幹定点対象疾患(週報)

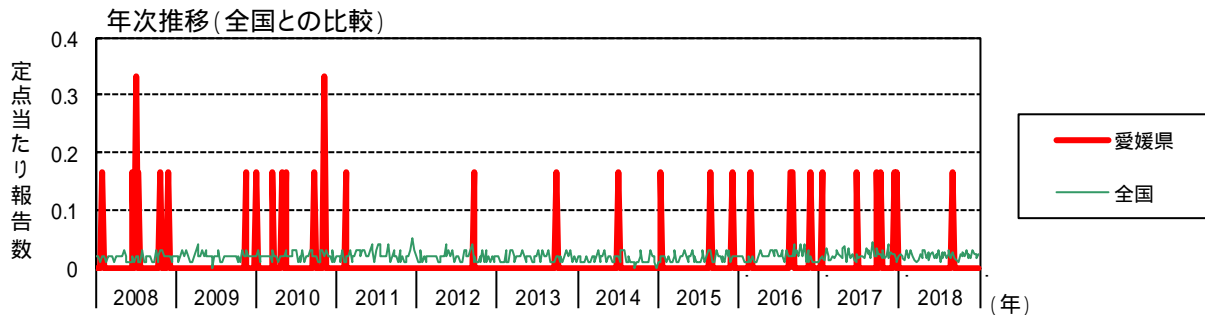
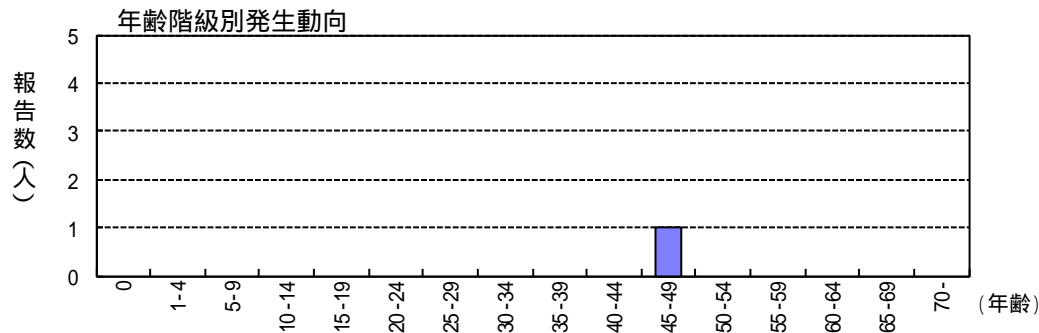
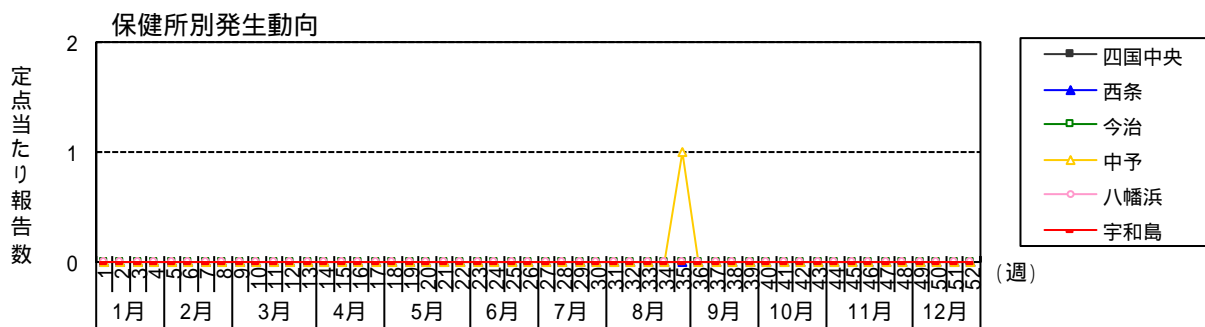
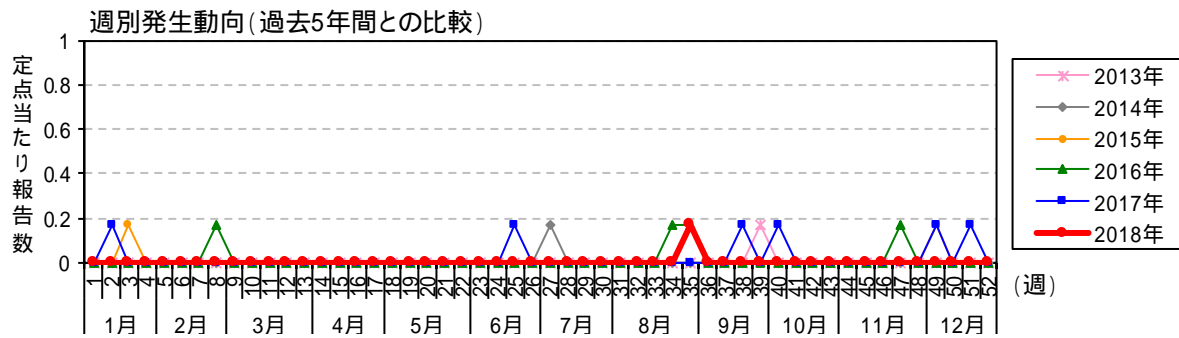
感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)(ロタウイルス胃腸炎)

2018年の患者報告数は48人(定点当たり8.00人/年)で、前年(患者報告数33人、定点当たり5.50人/年)の1.5倍に増加した。主に3月上旬から6月上旬にかけて発生がみられた。地域別の患者報告数は、今治保健所で29人と全体の60.4%を占め、その他、宇和島保健所12人、八幡浜保健所7人であった。年齢別での患者報告数は、1~4歳が33人と全体の68.8%を占めた。



細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)

2018年の患者報告数は1人(定点当たり0.17人/年)で、前年(患者報告数6人、定点当たり1.00人/年)の0.2倍に減少した。患者は中予保健所管内からの報告で、年齢は45~49歳、病原体はその他(黄色ブドウ球菌)であった。



細菌性髄膜炎

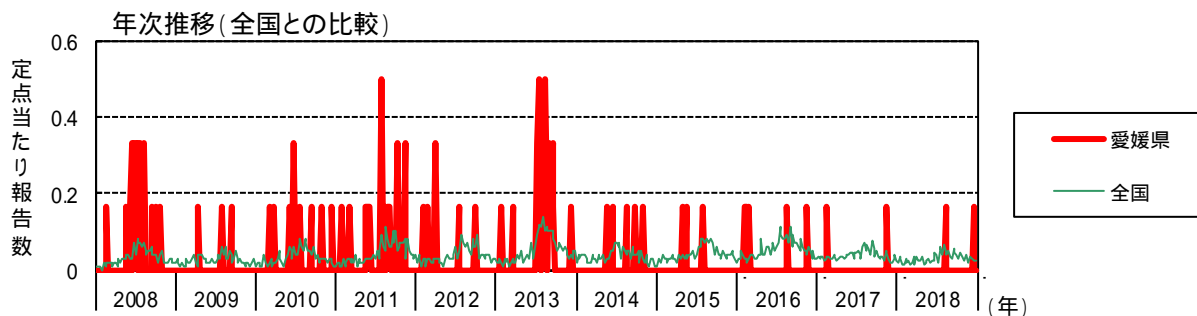
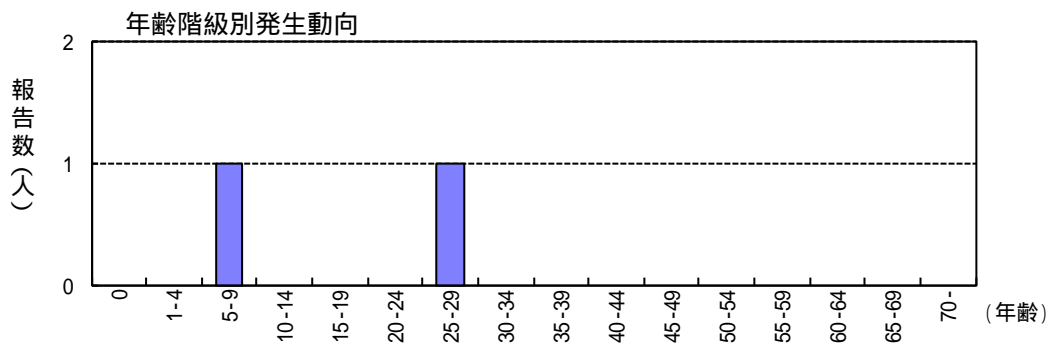
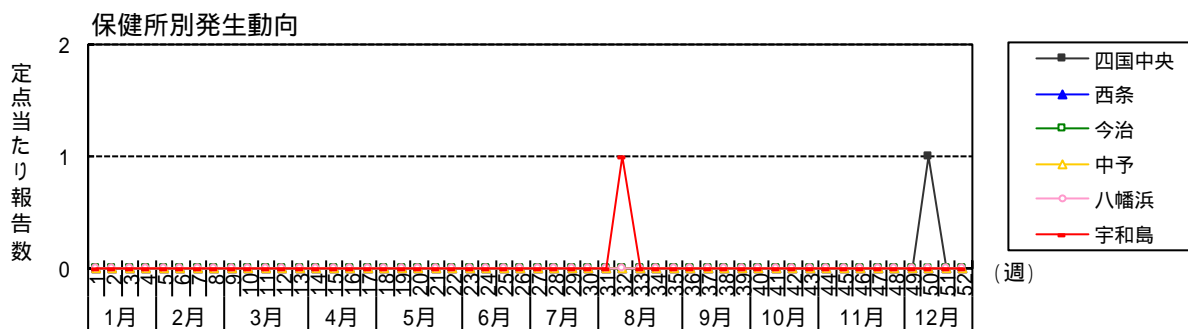
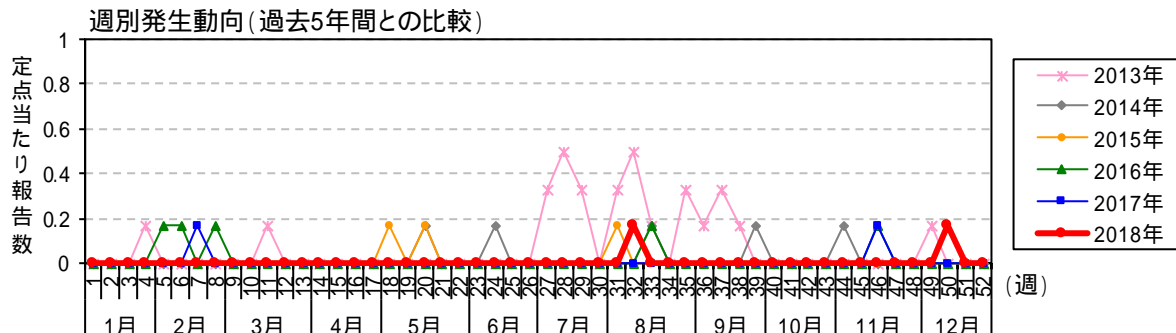
Table showing bacterial meningitis data for 2018. Columns include month, prefecture, health district, number of patients, and incidence rate. Sub-sections for '患者報告数' and '定点当たり報告数' are present.

ロタウイルス胃腸炎

Table showing rotavirus gastroenteritis data for 2018. Columns include month, prefecture, health district, number of patients, and incidence rate. Sub-sections for '患者報告数' and '定点当たり報告数' are present.

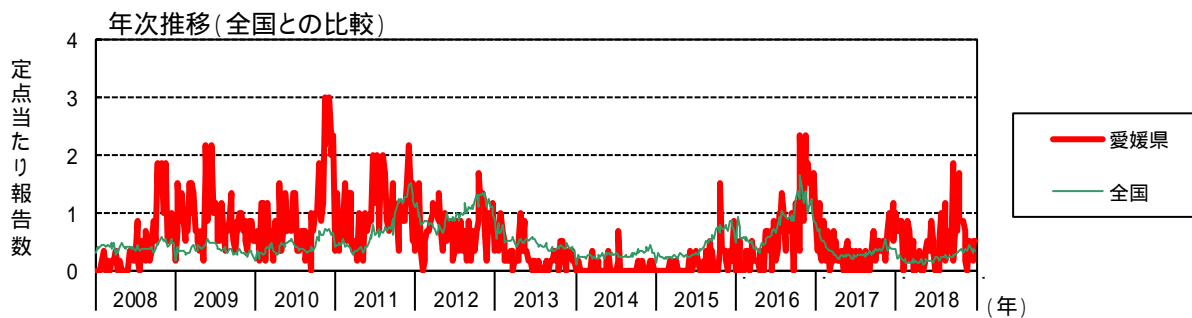
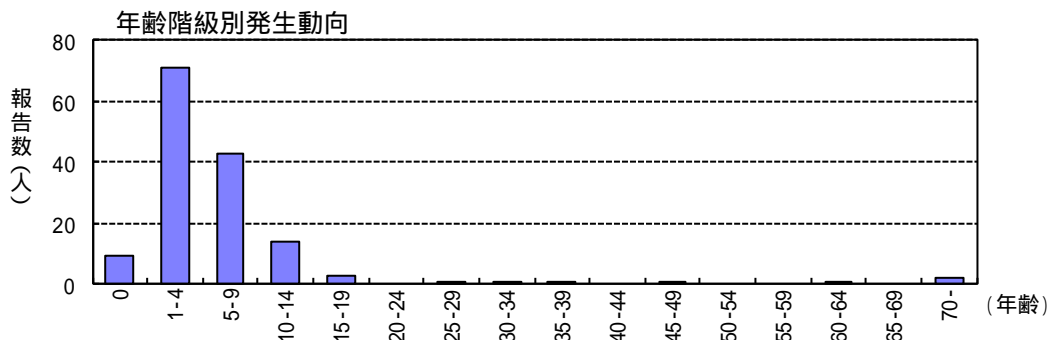
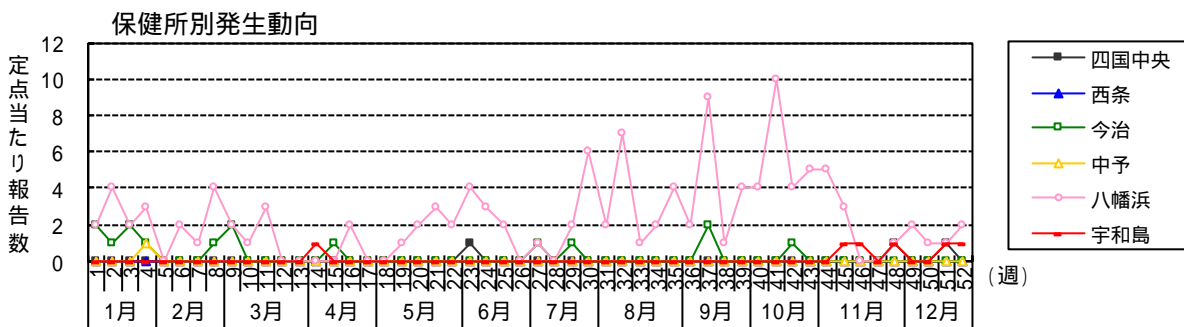
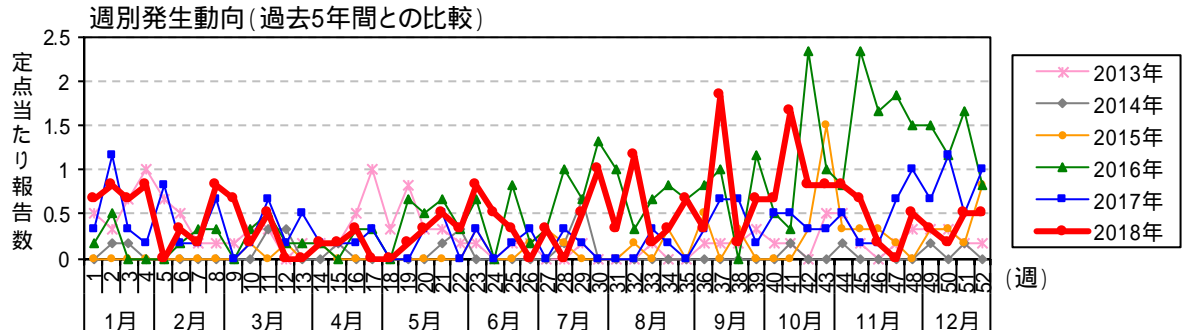
無菌性髄膜炎

2018年の患者報告数は2人(定点当たり0.33人/年)で、前年(患者報告数2人、定点当たり0.33人/年)と同程度の発生であった。発生は8月、12月にみられた。地域別の患者報告数は、四国中央保健所、宇和島保健所が各1人であった。年齢別の患者報告数は、5~9歳、25~29歳が各1人であった。病原体は、コクサッキーウイルスが1人、不明が1人であった。



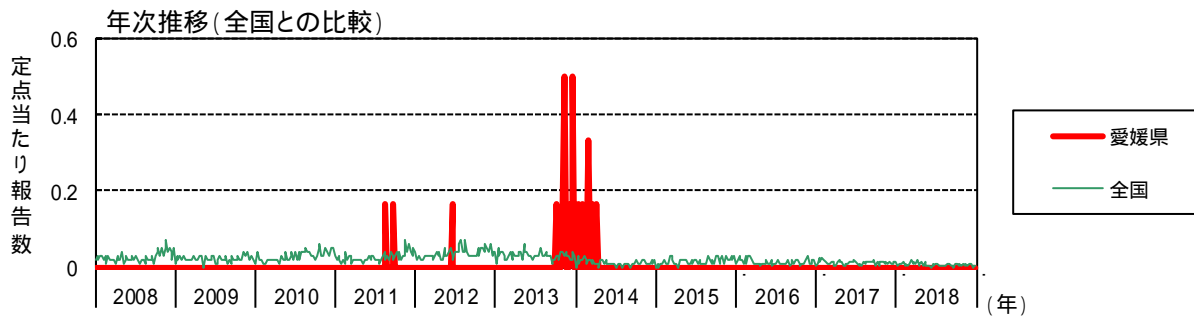
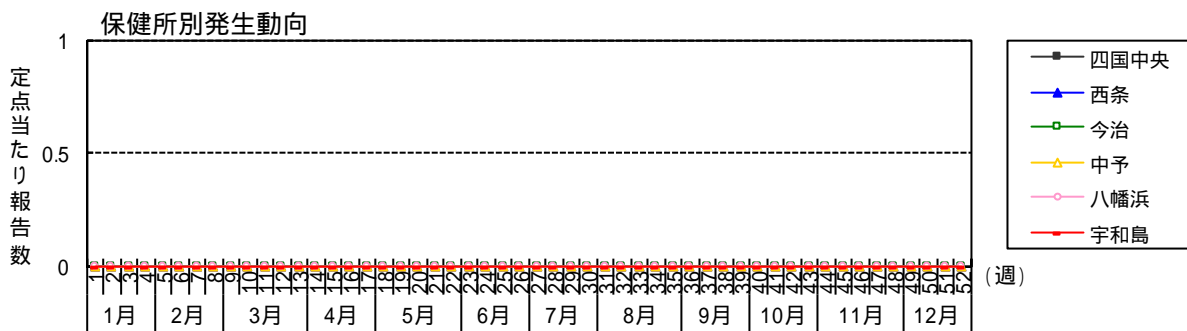
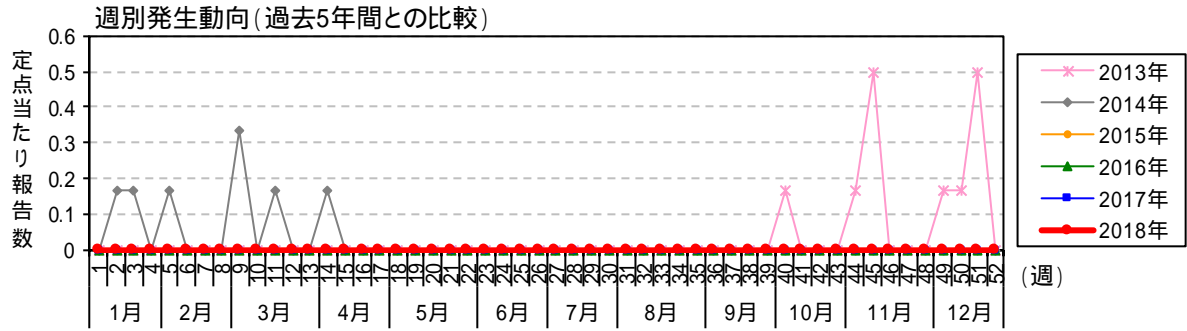
マイコプラズマ肺炎

2018年の患者報告数は147人(定点当たり24.50人/年)で、前年(患者報告数109人、定点当たり18.17人/年)の1.3倍に増加した。主に7月下旬から10月中旬にかけて患者数が増加した。地域別の患者報告数は、八幡浜保健所が122人と最も多く、次いで今治保健所15人、宇和島保健所6人、四国中央保健所3人、中予保健所1人であった。年齢別の患者報告数は、1～4歳が71人(48.3%)と多く、14歳以下が137人と93.2%を占めた。



クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2018年の患者報告は前年同様なかった。1999年の感染症法施行以降、2004年に4人、2013年に10人、2014年に7人の報告があった以外は、年間0~2人と少数の報告で推移している。



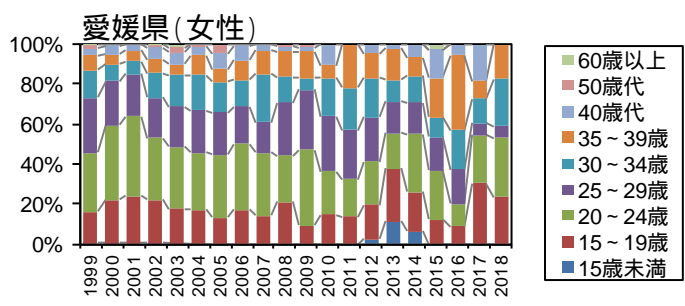
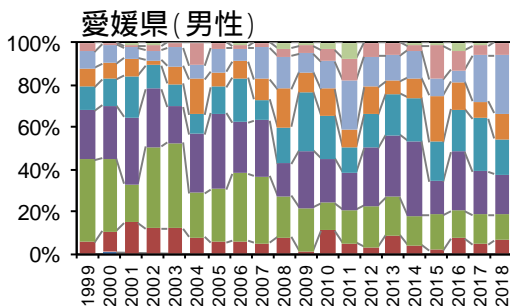
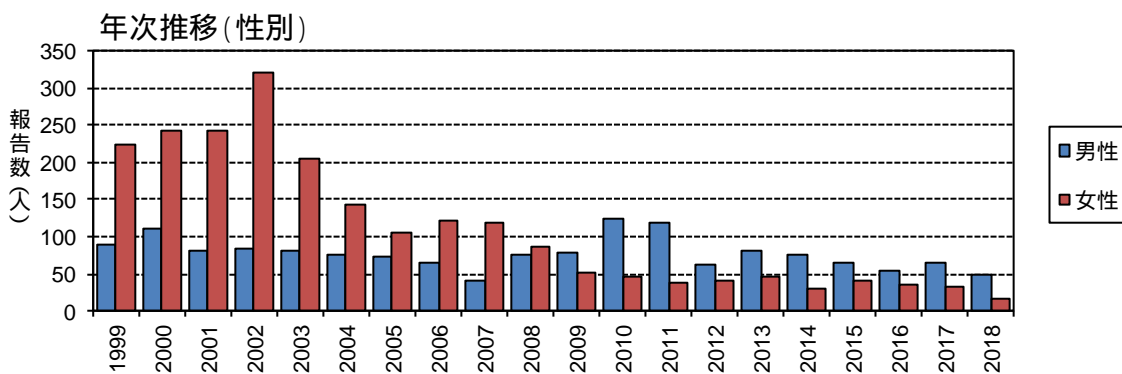
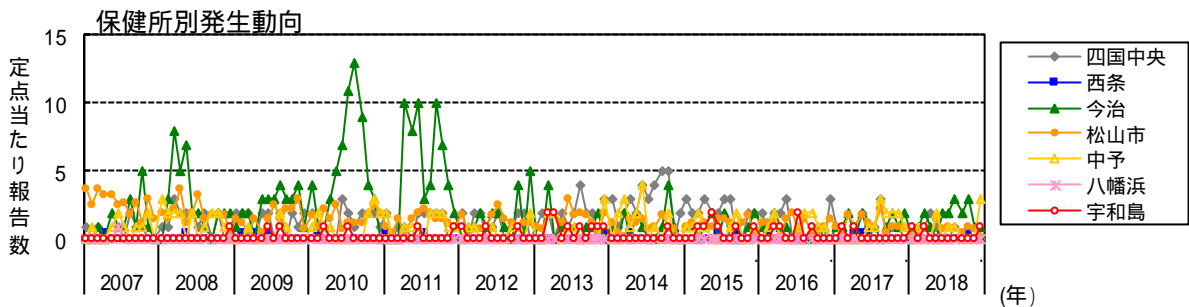
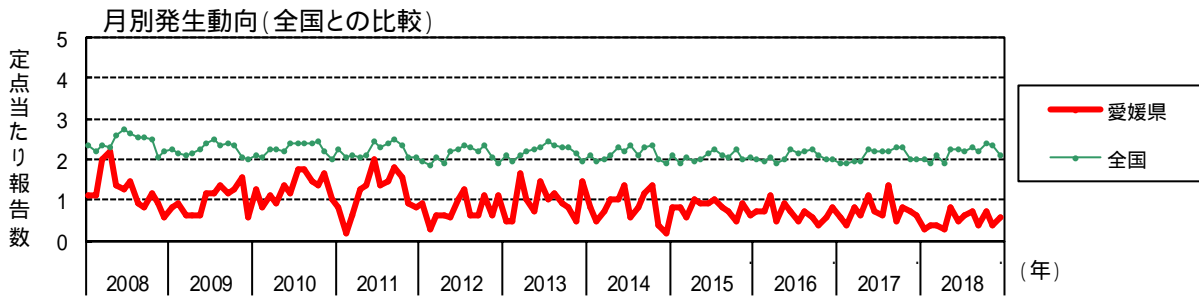
クラミジア肺炎(オウム病は除く)

月 週	2018年 保健所別					患者報告数			定点当たり報告数					
	愛媛県				全 国	愛媛県		全 国						
	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016			
1						2	3	9				0.00	0.01	0.02
2						4	10	13				0.01	0.02	0.03
3						5	8	10				0.01	0.02	0.02
4						4	10	10				0.01	0.02	0.02
5						5	9	6				0.01	0.02	0.01
6						1	7	12				0.00	0.01	0.03
7						4	5	6				0.01	0.01	0.01
8						2	4	12				0.00	0.01	0.03
9						4	3	13				0.01	0.01	0.03
10						9	5	11				0.02	0.01	0.02
11						3	6	10				0.01	0.01	0.02
12						5	2	4				0.01	0.00	0.01
13						3	2	6				0.01	0.00	0.01
14						7	5	6				0.01	0.01	0.01
15						2	8	6				0.00	0.02	0.01
16						3	6	1				0.01	0.01	0.00
17						5	6	5				0.01	0.01	0.01
18						2	2	4				0.00	0.00	0.01
19						6	2	7				0.01	0.00	0.01
20						2	3	9				0.00	0.01	0.02
21						2	3	6				0.00	0.01	0.01
22						2	6	4				0.00	0.01	0.01
23							5	8					0.01	0.02
24						3	6	2				0.01	0.01	0.00
25						1	9	5				0.00	0.02	0.01
26						4	6	7				0.01	0.01	0.01
27						5	4	8				0.01	0.01	0.02
28						1	1	7				0.00	0.00	0.01
29						1	4	3				0.00	0.01	0.01
30						2	2	4				0.00	0.00	0.01
31						1	4	5				0.00	0.01	0.01
32						1	4	4				0.00	0.01	0.01
33						1	6	7				0.00	0.01	0.01
34						3	6	9				0.01	0.01	0.02
35						4	5	2				0.01	0.01	0.00
36						1	7	4				0.00	0.01	0.01
37						2	5	8				0.00	0.01	0.02
38						8	7					0.02	0.01	
39						5	2	8				0.01	0.00	0.02
40						3	7	9				0.01	0.01	0.02
41						2	2	6				0.00	0.00	0.01
42						3	7	1				0.01	0.01	0.00
43						2	7	5				0.00	0.01	0.01
44						3	4	3				0.01	0.01	0.01
45						1	4	8				0.00	0.01	0.02
46						4	5	9				0.01	0.01	0.02
47						1	3	15				0.00	0.01	0.03
48						3	7	4				0.01	0.01	0.01
49						3	3	5				0.01	0.01	0.01
50						4	4	9				0.01	0.01	0.02
51						1	6	10				0.00	0.01	0.02
52						1	5	2				0.00	0.01	0.00
合計						144	263	354				0.30	0.55	0.74

(6)STD 定点対象疾患(月報)

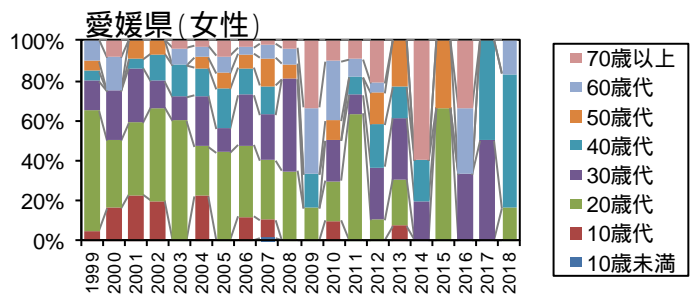
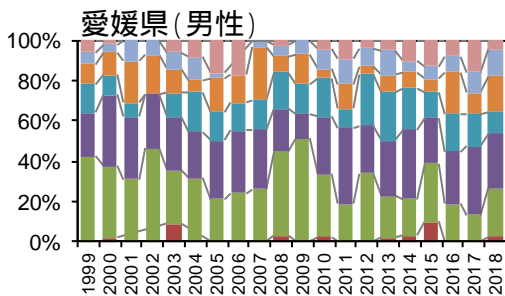
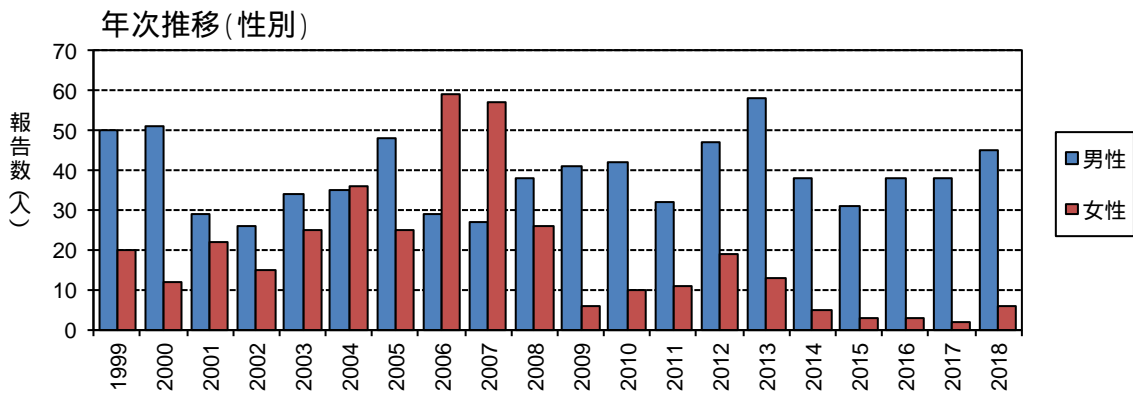
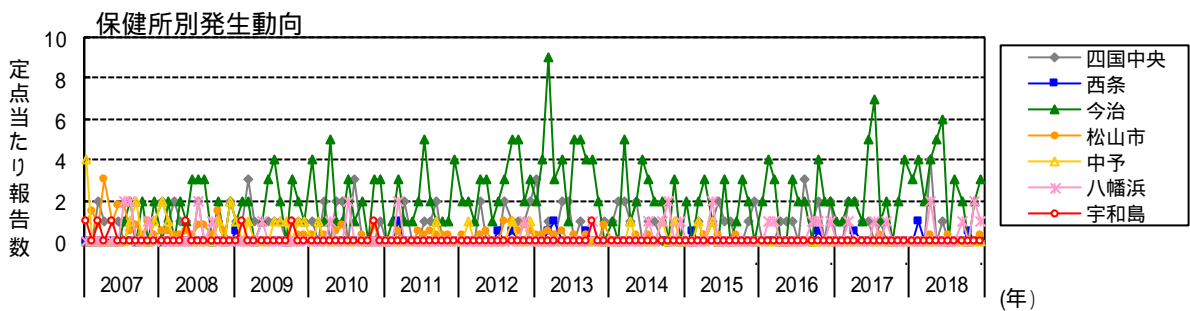
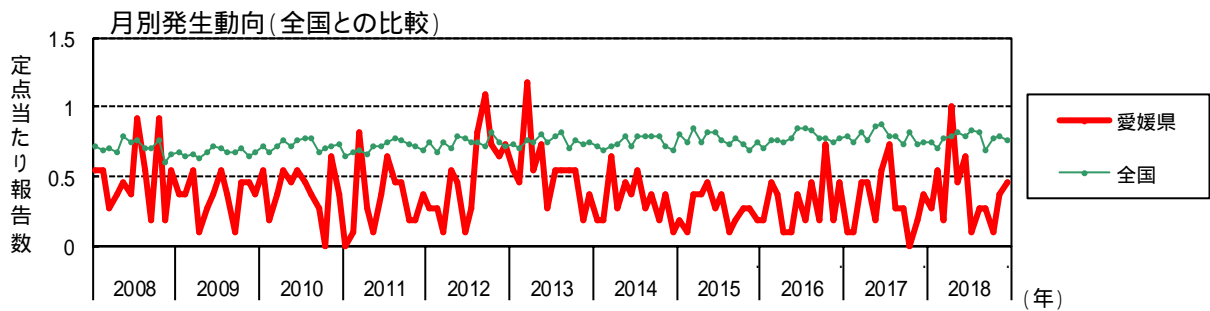
性器クラミジア感染症

2018年の患者報告数は65人(定点当たり5.91人/年)で、前年(患者報告数97人、定点当たり8.82人/年)の0.7倍に減少した。性別は男性48人(73.8%)、女性17人(26.2%)であり、前年(男性64人、女性33人)と比べ、男性と女性ともに報告数が減少した。2009年以降、男性の患者数が女性の患者数を上回った状況が継続している。年齢別では、男性は20歳代が15人(31.3%)と最も多く、次いで30歳代14人(29.2%)からの報告が多かった。女性では30歳代が7人(41.2%)と最も多く、次いで20歳代6人(35.3%)からの報告が多かった。男性では若年層の割合が2016年から減少する傾向が続いている。



性器ヘルペスウイルス感染症

2018年の患者報告数は51人(定点当たり4.64人/年)で、前年(患者報告数40人、定点当たり3.64人/年)の1.3倍に増加した。県内の患者報告数は、2006年の88人(定点当たり8.00人/年)をピークに減少傾向が続いていたが、2018年は前年と比較し増加した。性別は男性45人、女性6人で、前年(男性38人、女性2人)と比較して男性と女性ともに報告数が増加した。年齢別の患者報告数は、男性では20～40歳代が62.2%(28人)を占め、女性では40歳代が4人、20歳代、60歳代が各1人であった。



性器クラミジア感染症

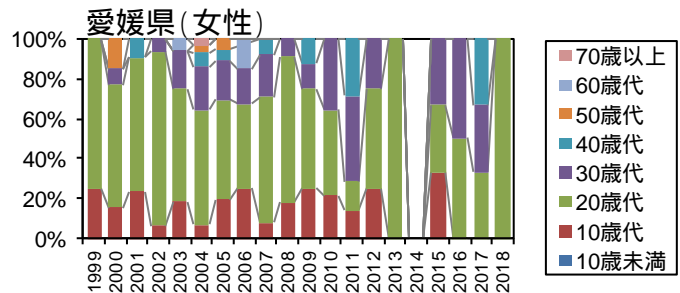
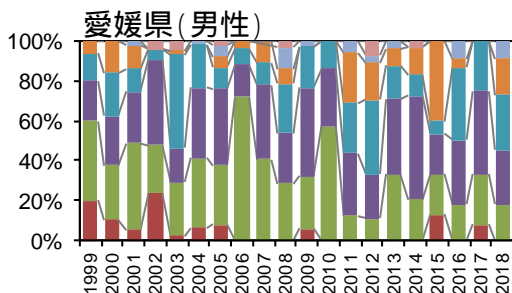
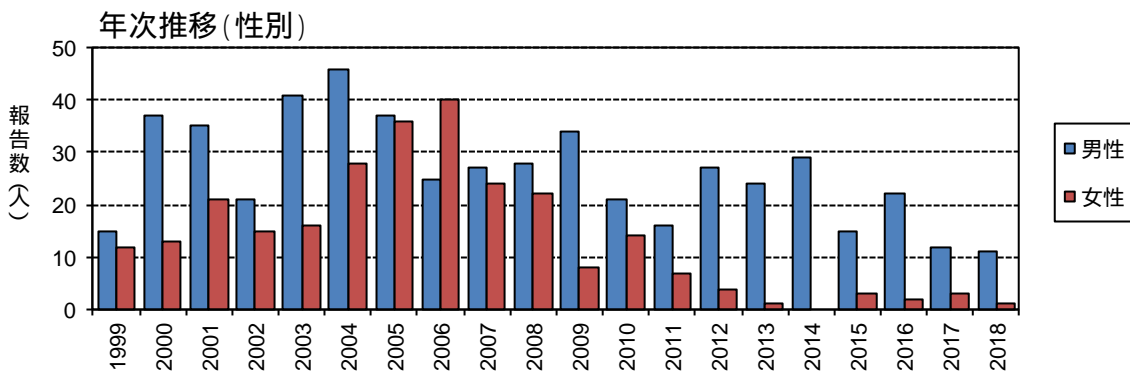
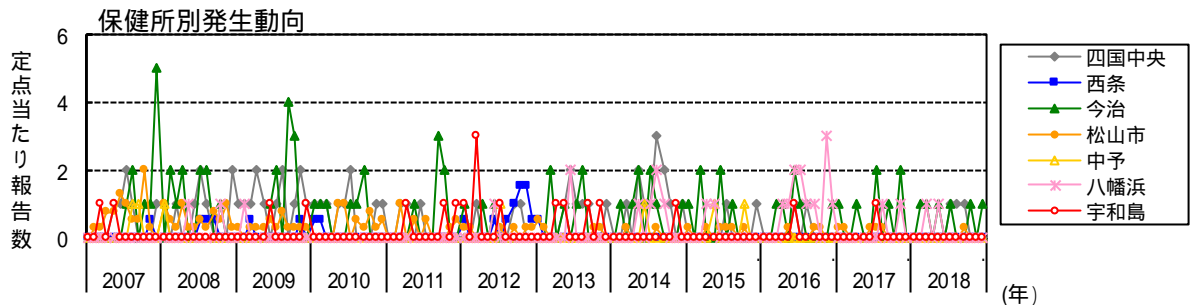
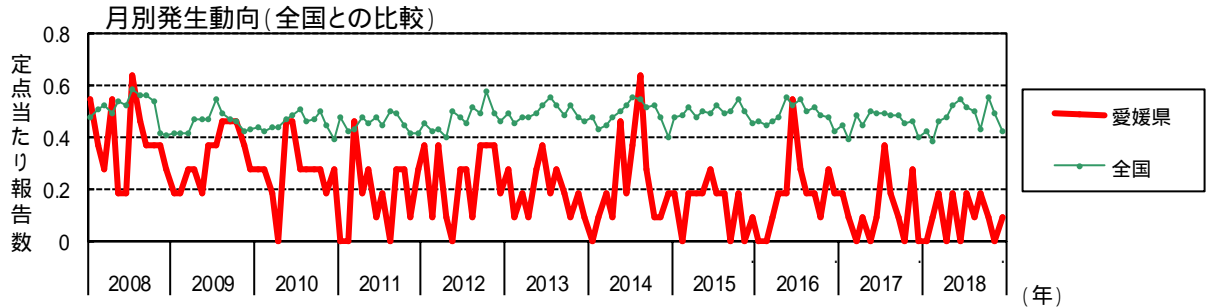
月	患者報告数										定点当たり報告数															
	2018年 保健所別					愛媛県					2018年 保健所別						愛媛県			全国						
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016
1	1			1	1	1	3	6	8	1,974	1,858	1,953	1.00				0.25			1.00	0.27	0.55	0.73	2.01	1.88	1.99
2	1		1	1	1	4	4	4	8	1,845	1,869	1,907	1.00			1.00	0.25	1.00		0.36	0.36	0.73	1.88	1.89	1.94	
3	1		2			1	4	9	12	2,060	1,948	1,992	1.00			2.00			1.00	0.36	0.82	1.09	2.10	1.97	2.03	
4	2		1				3	7	5	1,853	1,893	1,868	2.00			1.00				0.27	0.64	0.45	1.88	1.93	1.89	
5	1			6	2		9	12	10	2,203	2,225	1,960	1.00			1.50	2.00			0.82	1.09	0.91	2.24	2.25	1.99	
6			2	3			5	8	8	2,215	2,186	2,188				2.00	0.75			0.45	0.73	0.73	2.24	2.21	2.22	
7			2	4	1		7	7	5	2,185	2,172	2,126				2.00	1.00	1.00		0.64	0.64	0.45	2.21	2.19	2.15	
8	1		3	3	1		8	15	8	2,276	2,162	2,160	1.00			3.00	0.75	1.00		0.73	1.36	0.73	2.31	2.19	2.19	
9			2	2			4	5	6	2,179	2,274	2,222				2.00	0.50			0.36	0.45	0.55	2.21	2.29	2.25	
10		1	3	4			8	9	4	2,331	2,256	2,089		0.50	3.00	1.00			0.73	0.82	0.36	2.37	2.28	2.12		
11			1	3			4	8	6	2,294	1,983	1,969			1.00	0.75			0.36	0.73	0.55	2.32	2.01	2.00		
12			1	1	3		6	7	9	2,052	1,999	1,963			1.00	0.25	3.00		1.00	0.55	0.64	0.82	2.09	2.02	1.99	
合計	7	1	18	28	8		65	97	89	25,467	24,825	24,397	7.00	0.50	18.00	7.00	8.00		3.00	5.91	8.82	8.09	25.88	25.13	24.77	

性器ヘルペスウイルス感染症

月	患者報告数										定点当たり報告数																		
	2018年 保健所別					愛媛県					2018年 保健所別						愛媛県			全国									
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017
1			3				3	1	2	732	783	687								0.27	0.09	0.18	0.75	0.79	0.70				
2		2	4				6	1	5	686	733	742		1.00	4.00					0.55	0.09	0.45	0.70	0.74	0.76				
3			2				2	5	4	761	797	748			2.00					0.18	0.45	0.36	0.77	0.81	0.76				
4	4		4	1		2	11	5	1	778	744	733	4.00		4.00	0.25		2.00		1.00	0.45	0.09	0.79	0.76	0.74				
5			5				5	2	1	801	854	764			5.00					0.45	0.18	0.09	0.81	0.86	0.77				
6	1		6				7	6	4	780	860	835	1.00		6.00					0.64	0.55	0.36	0.79	0.87	0.85				
7				1			1	8	2	826	775	832				0.25				0.09	0.73	0.18	0.83	0.78	0.84				
8			3				3	3	5	803	772	822			3.00					0.27	0.27	0.45	0.82	0.78	0.83				
9			2			1	3	3	2	684	728	761			2.00			1.00		0.27	0.27	0.18	0.69	0.73	0.77				
10		1					1		8	761	807	756		0.50						0.09		0.73	0.77	0.82	0.77				
11			2			2	4	2	2	771	725	734			2.00			2.00		0.36	0.18	0.18	0.78	0.73	0.74				
12			3	1		1	5	4	5	746	730	761			3.00	0.25		1.00		0.45	0.36	0.45	0.76	0.74	0.77				
合計	5	3	34	3		6	51	40	41	9,129	9,308	9,175	5.00	1.50	34.00	0.75		6.00	4.64	3.64	3.73	9.28	9.42	9.31					

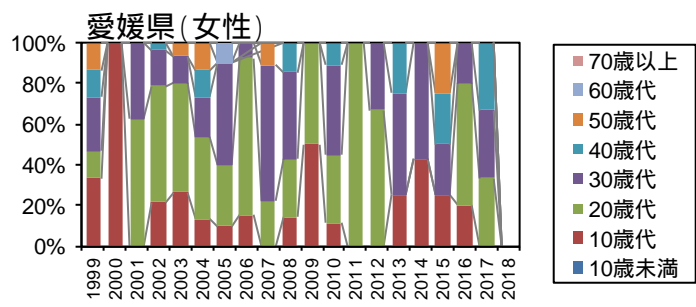
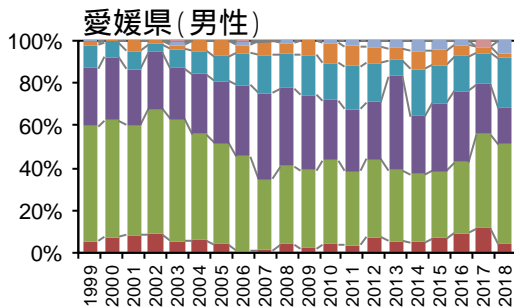
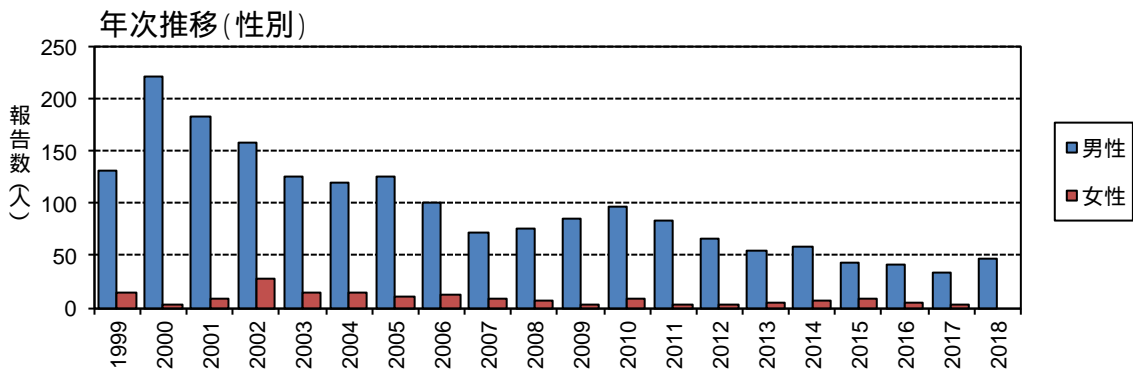
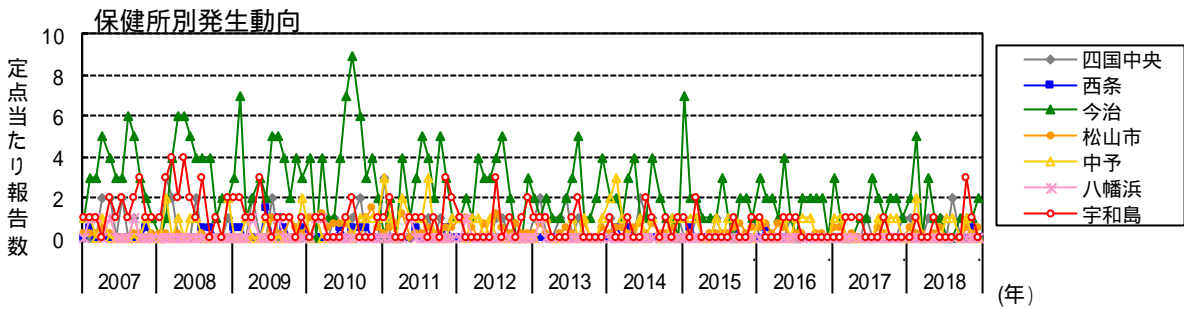
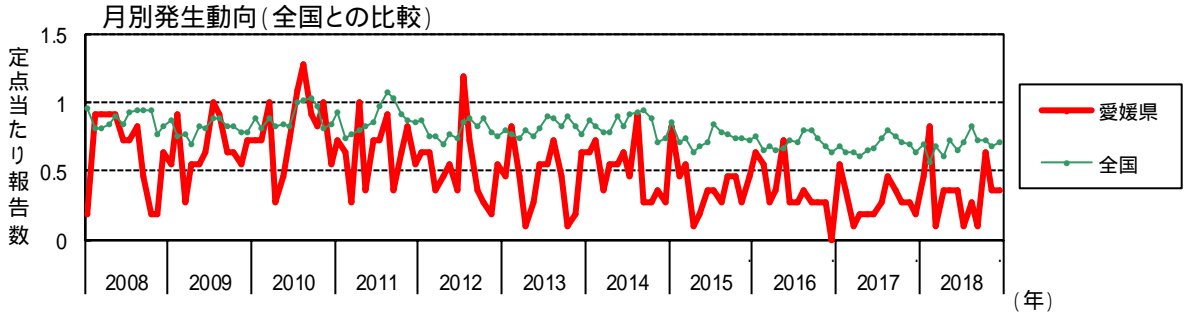
尖圭コンジローマ

2018年の患者報告数は12人(定点当たり1.09人/年)で、前年(患者報告数15人、定点当たり1.36人/年)の0.8倍に減少した。県内の患者報告数は、2004年の74人(定点当たり6.73人/年)をピークに減少傾向が続いていたが、2012年以降増減があり、2018年は前年と比較し減少した。性別は男性11人、女性1人で、2012年以降女性の報告数は5人以下で推移している。年齢別の患者報告数は、男性では30歳代、40歳代が各3人(27.3%)、20歳代、50歳代が各2人、60歳代が1人で、女性では20歳代が1人であった。



淋菌感染症

2018年の患者報告数は47人(定点当たり4.27人/年)で、前年(患者報告数37人、定点当たり3.36人/年)の1.3倍に増加した。県内の患者報告数は、2000年の224人(定点当たり20.36人/年)をピークに減少傾向が続き、2007年以降は定点当たり10人/年以下で推移している。性別は47人のすべてが男性で、1999年の調査開始以降初めて女性の報告はなかった。年齢別の患者報告数は、20歳代が22人(46.8%)と最も多く、40歳代11人(23.4%)と続き、20~40歳代が全体の87.2%を占めた。



尖圭コンジローマ

月	患者報告数												定点当たり報告数										
	2018年 保健所別						愛媛県						全国										
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016				
1								417	439	446		2						0.18			0.42	0.44	0.46
2			1				1	375	384	432		1						0.09			0.38	0.39	0.44
3			1			1	2	448	476	457		2	1					0.18			0.46	0.48	0.46
4						1	2	466	435	462		1	2					0.09			0.47	0.44	0.47
5			1				2	515	498	540		2	2					0.18			0.52	0.50	0.55
6							1	531	484	510		1	6					0.09			0.54	0.49	0.52
7	1		1				2	506	483	534		4	3					0.18			0.51	0.49	0.54
8	1						1	490	475	497		2	2					0.09			0.50	0.48	0.50
9	1			1			2	429	471	500		1	2					0.18			0.43	0.48	0.51
10			1				1	540	443	478		1	1					0.09			0.55	0.45	0.48
11							3	481	453	461		3	3					0.27			0.49	0.46	0.47
12			1				1	411	396	417		2	2					0.09			0.42	0.40	0.42
合計	3		6	1		2	12	5,609	5,437	5,734	24	15	24					1.09			5.70	5.50	5.82

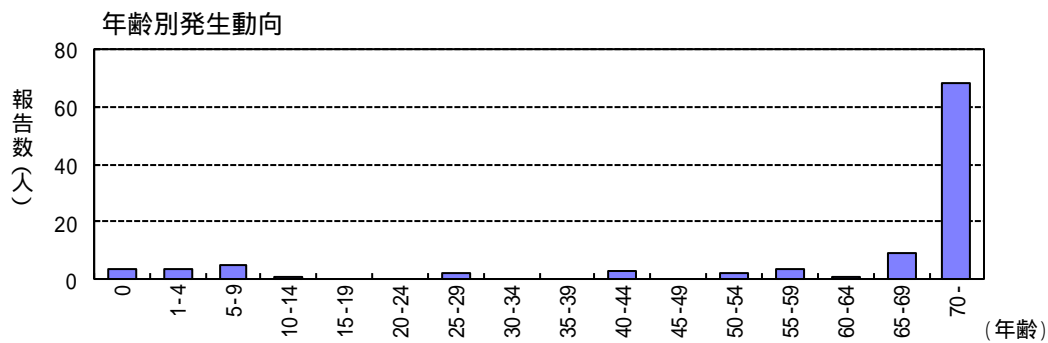
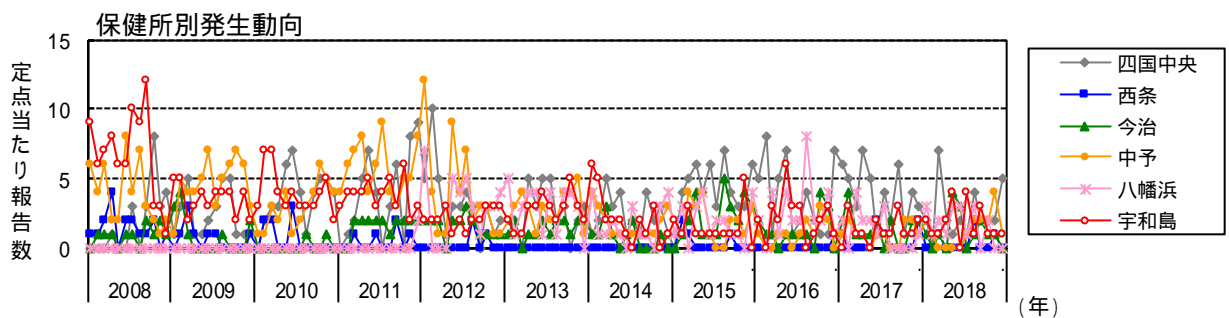
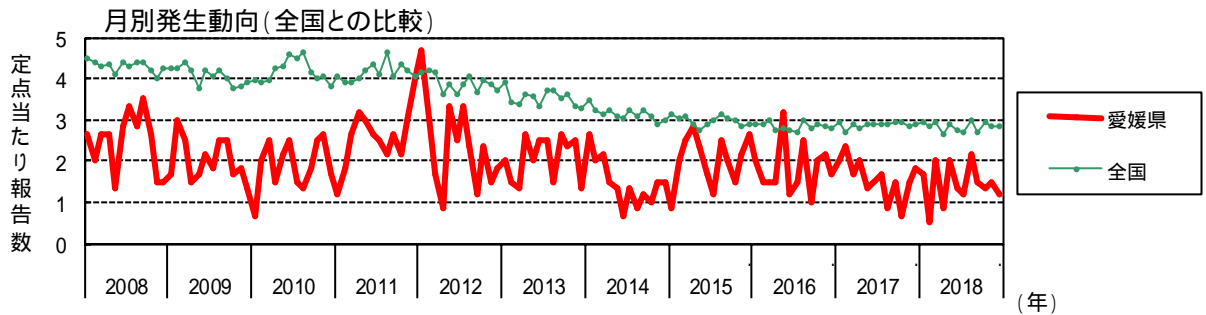
淋菌感染症

月	患者報告数												定点当たり報告数										
	2018年 保健所別						愛媛県						全国										
	四国中央	西条	今治	松山市	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016	2018	2017	2016				
1	1		2	2				5	6	7		6	7					0.45			0.69	0.68	0.75
2			5	1	2		1	9	4	6		4	6					0.82			0.56	0.64	0.65
3				1				1	1	3		1	3					0.09			0.67	0.64	0.67
4	1		3					4	2	4		2	4					0.36			0.61	0.61	0.65
5	1		1	1			1	4	2	8		2	8					0.36			0.72	0.65	0.66
6	1		1	2				4	2	3		2	3					0.36			0.65	0.66	0.72
7					1			1	3	3		3	3					0.09			0.71	0.74	0.70
8	2				1			3	5	4		5	4					0.27			0.82	0.80	0.79
9			1					1	4	3		4	3					0.09			0.72	0.75	0.79
10			1	2	1		3	7	3	3		3	3					0.64			0.72	0.71	0.73
11			1	1			1	4	3	3		3	3					0.36			0.67	0.69	0.68
12			2	2			4	4	2	2		2	2					0.36			0.70	0.63	0.63
合計	6	1	17	12	5	2	6	47	37	47	47	37	47					1.09			8.26	8.21	8.42

(7) 基幹定点対象疾患(月報)

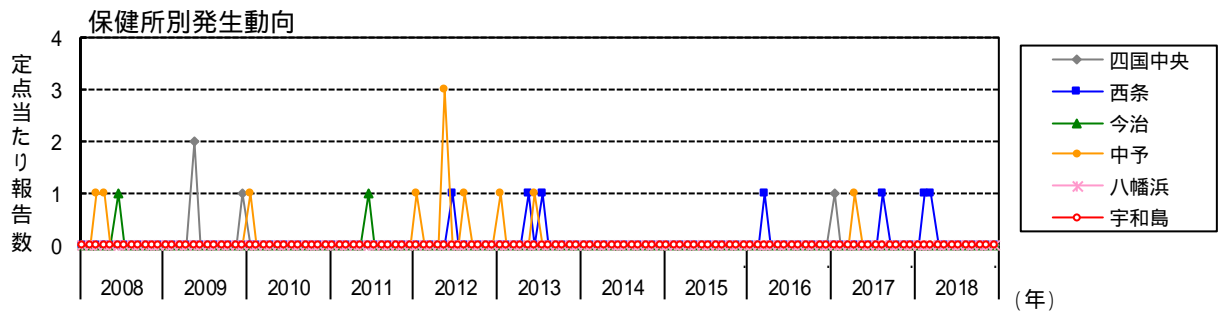
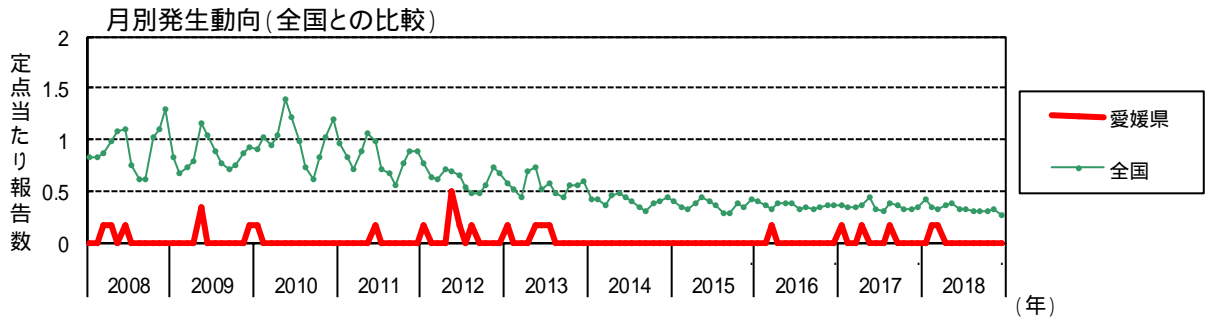
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2018年の患者報告数は103人(定点当たり17.17人/年)で、前年(患者報告数113人、定点当たり18.83人/年)の0.9倍に減少し、例年(過去10年平均定点当たり24.32人/年)に比べ小規模な発生であった。性別は男性65人、女性38人で男性が63.1%を占めた。高齢者に多くみられ、特に70歳以上が68人と全体の66.0%を占めた。



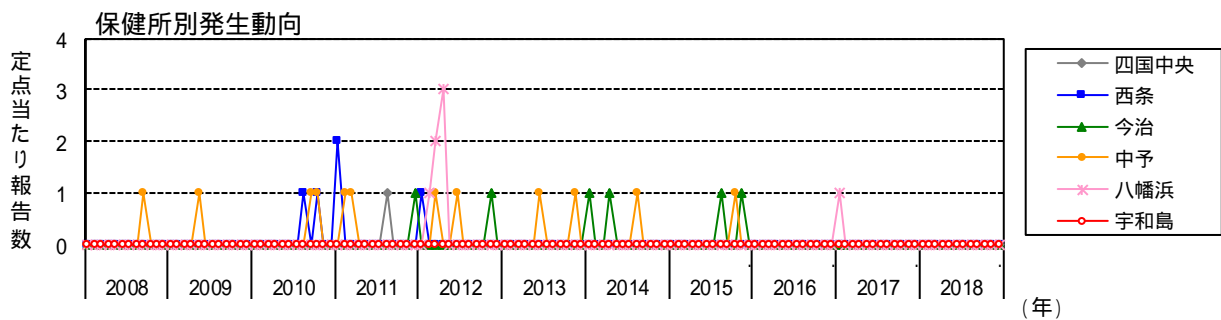
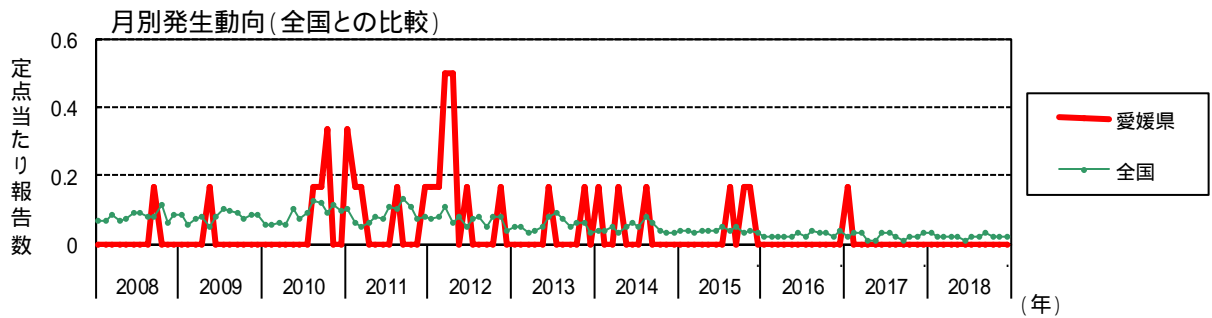
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2018年の患者報告数は2人(定点当たり0.33人/年)で、年齢は70歳代以上が2人であった。県内の患者報告数は、2006年の14人(定点当たり2.33人/年)以降減少し、年間6人以下の少数報告で推移している。



薬剤耐性緑膿菌感染症

2018年に県内での患者報告はなかった。県内の患者報告数は、2003年の15人以降、年間10人以下の少数報告で推移している。



愛媛県感染症発生動向調査事業報告書(2018年)

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

月	患者報告数											定点当たり報告数												
	2018年 保健所別						愛媛県			全国			2018年 保健所別						愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016
1	2		1	2	3	2	10	12	12	1,399	1,409	1,381	2.00		1.00	2.00	3.00	2.00	1.67	2.00	2.00	2.92	2.94	2.88
2				1	1	1	3	14	9	1,349	1,300	1,382			1.00	1.00	1.00	0.50	2.33	1.50	2.82	2.71	2.88	
3	7	1	1		2	1	12	10	9	1,413	1,383	1,426	7.00	1.00	1.00		2.00	1.00	2.00	1.67	1.50	2.94	2.88	2.97
4	2				1	2	5	12	9	1,274	1,335	1,314	2.00				1.00	2.00	0.83	2.00	1.50	2.64	2.78	2.74
5	1		4		3	4	12	8	19	1,386	1,381	1,343	1.00		4.00		3.00	4.00	2.00	1.33	3.17	2.88	2.88	2.80
6	2		3		3		8	9	7	1,315	1,394	1,322	2.00		3.00		3.00		1.33	1.50	1.17	2.73	2.90	2.76
7	1			1	1	4	7	10	9	1,299	1,396	1,293	1.00			1.00	1.00	4.00	1.17	1.67	1.50	2.70	2.91	2.69
8	4	2	1	2	3	1	13	5	15	1,433	1,378	1,426	4.00	2.00	1.00	2.00	3.00	1.00	2.17	0.83	2.50	2.97	2.87	2.97
9	2		2	2		3	9	9	6	1,286	1,407	1,350	2.00		2.00	2.00		3.00	1.50	1.50	1.00	2.67	2.94	2.81
10	2		1	2	2	1	8	4	12	1,417	1,418	1,389	2.00		1.00	2.00	2.00	1.00	1.33	0.67	2.00	2.93	2.96	2.90
11	2	1	1	4		1	9	9	13	1,378	1,367	1,371	2.00	1.00	1.00	4.00		1.00	1.50	1.50	2.17	2.86	2.85	2.86
12	5			1		1	7	11	10	1,362	1,383	1,341	5.00			1.00		1.00	1.17	1.83	1.67	2.83	2.88	2.79
合計	30	4	14	15	19	21	103	113	130	16,311	16,551	16,338	30.00	4.00	14.00	15.00	19.00	21.00	17.17	18.83	21.67	33.91	34.55	34.11

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

月	患者報告数											定点当たり報告数												
	2018年 保健所別						愛媛県			全国			2018年 保健所別						愛媛県			全国		
	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016
1								1		200	170	186								0.17		0.42	0.35	0.39
2		1					1			164	164	172		1.00					0.17			0.34	0.34	0.36
3		1					1		1	153	161	156		1.00					0.17		0.17	0.32	0.34	0.33
4								1		173	172	181									0.17	0.36	0.36	0.38
5										176	205	176										0.37	0.43	0.37
6										153	160	175										0.32	0.33	0.37
7										158	145	153										0.33	0.30	0.32
8								1		146	176	165									0.17	0.30	0.37	0.34
9										145	172	156										0.30	0.36	0.33
10										146	154	161										0.30	0.32	0.34
11										152	157	167										0.32	0.33	0.35
12										129	165	169										0.27	0.34	0.35
合計		2					2	3	1	1,895	2,001	2,017		2.00					0.33	0.50	0.17	3.94	4.18	4.21

薬剤耐性緑膿菌感染症

月	患者報告数											定点当たり報告数													
	2018年 保健所別						愛媛県			全国			2018年 保健所別						愛媛県			全国			
	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	四国中央	西条	今治	中予	八幡浜	宇和島	2018	2017	2016	2018	2017	2016	
1								1		13	11	11									0.17		0.03	0.02	0.02
2										9	14	11											0.02	0.03	0.02
3										11	16	10											0.02	0.03	0.02
4										11	5	10											0.02	0.01	0.02
5										10	6	8											0.02	0.01	0.02
6										6	13	15											0.01	0.03	0.03
7										8	14	10											0.02	0.03	0.02
8										9	10	19											0.02	0.02	0.04
9										13	6	16											0.03	0.01	0.03
10										11	10	16											0.02	0.02	0.03
11										9	11	11											0.02	0.02	0.02
12										11	12	20											0.02	0.03	0.04
合計								1		121	128	157								0.17		0.25	0.27	0.33	

2018 年(平成 30 年)感染症発生動向調査結果
一病原体検査結果一

2018年(平成30年)感染症発生動向調査結果 - 病原体検査結果 -

1 細菌検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

赤痢

県内で細菌性赤痢患者の届出があった場合には、分離された菌株について、当所で確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所では、Multilocus variable-number tandem-repeat analysis (MLVA) 法による型別を実施し、当所では血清型別試験、細胞侵入性関連遺伝子 (*invE*、*ipaH*) の遺伝子検査、薬剤感受性試験を実施している。薬剤感受性試験は CLSI の抗菌薬ディスク感受性試験実施基準に基づき、アンピシリン(ABPC)、セフトキシム(CTX)、ゲンタマイシン(GM)、カナマイシン(KM)、イミペネム(IPA)、ノルフロキサシン(NFLX)、シプロフロキサシン(CPFX)、ナリジクス酸(NA)、ST 合剤(SXT)、メロペネム(MEPM)、セフトジジム(CAZ)、ホスホマイシン(FOM)、クロラムフェニコール(CP)、セフォキシチン(CFX)、アミカシン(AMK)、ストレプトマイシン(SM)、テトラサイクリン(TC)、コリスチン(CL)の18薬剤に対する耐性の有無を判定している。

県内で届出のあった細菌性赤痢患者1名は、ペルーへの渡航歴があり、他県における同ツアー参加者からの細菌性赤痢患者発生に伴う感染症調査の過程で赤痢菌が分離された。当該菌株は、ソンネI相で、*invE*、*ipaH* 遺伝子の保有が確認され、薬剤感受性試験の結果、NA、SXT、SM、TCの4剤に耐性を示した。MLVA型はSsV18-038で、同時期にペルー渡航歴のある輸入例株と類似していた(表1)。

腸管出血性大腸菌感染症

県内で腸管出血性大腸菌(EHEC)感染症患者及び無症状病原体保有者の届出があった場合には、分離された菌株について当所で確認検査を実施するとともに、国立感染症研究所に菌株を送付している。国立感染症研究所ではEHEC O26、O103、O111、O121、O145、O157についてはMLVA法による型別を実施し、その他のEHECについてはパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)法による型別を実施して、全国規模の同時多発的な集団発生“diffuse outbreak(散在的集団発生)”を監視している。当所では、分離株の生化学的性状、O抗原及びH抗原の血清型別、ベロ毒素(VT)の型別、薬剤感受性試験に加え、PFGE法及びEHEC O157、O26、O111についてはMLVA法を実施し、さらにEHEC O157については迅速に検査可能であるIS(Insertion Sequence)-Printing System(東洋紡)を実施している。薬剤感受性試験は赤痢菌と同じ18薬剤に対する耐性の有無を判定している。

表1 愛媛県における細菌性赤痢患者からの分離株(2018年)

診断月日	保健所名	感染地域	菌型(血清型)	<i>invE</i>	<i>ipaH</i>	耐性薬剤	MLVA型 ¹⁾
5/11	今治	ペルー	<i>Shigella sonnei</i> 相	+	+	NA, SXT, SM, TC	SsV18-038

1) MLVA型：ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与されたMLVA型。

県内で届出のあった EHEC 患者及び無症状病原体保有者 23 名から分離された EHEC について解析を行った(表 2)。分離株の血清型別及び VT 型別を併せた分類では、O157:H7 VT1&2 が 9 株、O26:H11 VT1 5 株、O157:H7 VT2 及び O157:H- VT1&2 が各 2 株、O157:H- VT2、O91:H14 VT1&2、O112ab:H2 VT1、O121:H19 VT2、O165:H- VT1&2 が各 1 株であった。

事例 4 (患者 1 名、O26:H11 VT1) は、東京都及び奈良県の分離株と MLVA 型が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例 9 (患者 1 名、O121:H19 VT2) は、神戸市分離株と MLVA 型が一致したが疫学的な関連は見いだせなかった。

事例 10 (患者 1 名、O157:H7 VT1&2) は、同時期に分離された九州ブロックを除く全国広域分離株と MLVA コンプレックス/型(18c035) が一致した。このコンプレックス/型は、2018 年 8 月に東京都内で発生した大規模食中毒事例(患者数 194 人)分離株と同一であった。事例 10 の患者感染者も、大規模食中毒事例の原因施設で喫食しており、食中毒調査の過程で EHEC 株を検出した。

事例 13 (患者 2 名、無症状病原体保有者 1 名、O157:H7 VT1&2) は、MLVA コンプレックス/型(18c023) が、岐阜県、大阪府、大阪市、岐阜県、長崎県分離株と一致したが疫学的な関連は見いだ

表 2 愛媛県における腸管出血性大腸菌感染症患者からの分離株(2018 年)

事例番号	診断月日	保健所名	疫学情報	患者感染者数 (無症状者再掲)	血清型		VT 型別	病原因子	耐性薬剤	MLVA 型 ¹⁾	MLVA ²⁾ コンプレックス	ISコード ³⁾	株数
					O	H							
1	2/9	松山市	散発	1	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0012		141047 -302447	1
2	2/19	松山市	散発	1	157	-	2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0013		305455 -211042	1
3	5/15	西条	散発	1	157	-	1, 2		なし	18m0036		300455 -010416	1
4	6/27	今治	散発	1	26	11	1	<i>eae, hlyA</i>	なし	17m2052			1
5	7/2	中予	散発	1 (1)	157	7	2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0301		114055 -203443	1
6	7/6	松山市	散発	1	26	11	1	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m2094			1
7	7/18	松山市	散発	1 (1)	157	-	1, 2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0302		215457 -311656	1
8	7/19	今治	散発	1 (1)	112ab	2	1	<i>hlyA</i>	なし				1
9	7/26	西条	散発	1	121	19	2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m5012			1
10	8/22	松山市	散発	1	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>	SXT,SM,TC	18m0192	18c035	617577 -610646	1
11	8/24~28	松山市	家族内	3	26	11	1	<i>eae, hlyA</i>	KM,TC	17m2048			3
12	8/24	西条	散発	1 (1)	165	-	1, 2		FOM,SM,TC				1
13	9/3~6	今治	共通喫食者	3 (1)	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0224 18m0420	18c023	317177 -211756	2 1
14	9/10	松山市	散発	1 (1)	91	14	1, 2		なし	18m8021			1
15	10/9	宇和島	散発	1	157	7	2	<i>eae</i>	なし	17m0326		105042 -301443	1
16	10/24~27	今治	家族内	3	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0507 18m0527	18c060	317575 -211756	1 2
17	10/30	今治	散発	1 (1)	157	7	1, 2	<i>eae, hlyA</i>	なし	18m0507	18c060	317575 -211756	1
計				23 (6)									23

1) MLVA : ゲノム上に散在するリピート配列のリピート数の違いを基に菌株を型別する方法。国立感染症研究所によって付与された MLVA 型。“18mXXXX” [- 18, 2018 (分離年), - m, MLVA, - XXXX, 番号] と表記。

2) MLVA コンプレックス : SLV (Shingle locus variant : 一遺伝子座でリピート数が異なる, PFGE における 2~3 バンド違いと同様の意味。) の関係にある MLVA 型。“18cYYY” [- 18, 2018 (分離年), - c, complex, - YYY, 番号] と表記。

3) IS コード : IS (Insertion sequence : 大腸菌ゲノム内部を移動する配列) と 4 種の病原因子の有無を MultiplexPCR で検出することによりタイピングを行う方法。結果をコード化することにより菌株間の比較が可能。

せなかった。

事例 16 (患者 3 名、O157:H7 VT1&2) 及び事例 17 (無症状病原体保有者 1 名、O157:H7 VT1&2) は、事例発生地区が同一であること、1 週間程度の期間に発生していること、IS コード及び MLVA コンプレックス/型が一致していたこと等から関連性を強く疑ったが、疫学的な関連は見いだせなかった。

病原因子関連遺伝子は、*eae* 及び *hlyA* 遺伝子を共に保有していたのは 18 株 (12 事例)、*eae* 遺伝子のみ保有が 1 株 (1 事例)、*hlyA* 遺伝子のみ保有が 1 株 (1 事例)、*eae* 及び *hlyA* 遺伝子を共に保有していなかったのは 3 株 (3 事例) であった。

薬剤感受性試験の結果、SXT、SM、TC 及び FOM、SM、TC の 3 剤耐性が 2 事例 2 株、KM、TC の 2 剤耐性が 1 事例 3 株であった。

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症

県内でカルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症の届出があった場合は、平成 29 年 3 月 28 日付け厚生労働省健康局結核感染症課長通知「カルバペネム耐性腸内細菌科細菌 (CRE) 感染症等に係る試験検査の実施について」に基づき、当該菌株について詳細な分子疫学解析を実施している。

県内で届出のあった CRE 感染症患者から分離された CRE について解析を行った結果、7 株中 1 株 (*Proteus mirabilis*) がカルバペネマーゼ産生株で、カルバペネマーゼ遺伝子型は IMP-1 型であった (表 3)。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症

県内で劇症型溶血性レンサ球菌感染症の届出があった場合には、当所で当該菌株について Lancefield の分類により群別を行い、A 群溶血性レンサ球菌については T 血清型別を実施するとともに、全ての菌株は国立感染症研究所に送付している。国立感染症研究所では、A 群溶血性レンサ球菌については M 血清型別及び *emm* 遺伝子型並びに発熱毒素遺伝子の検査を実施し、C 群・G 群溶血性レンサ球菌については *emm* 遺伝子型別を実施している。また、全ての菌株について、アンピシリン (ABPC)、ペニシリン G (PCG)、セファゾリン (CEZ)、セフォタキシム (CTX)、メロペネム (MEPM)、イミペネム (IMP)、パニペネム (PAPM)、エリスロマイシン (EM)、クリンダマイシン (CLDM)、リネゾリド (LZD)、シプロフロキサシン (CPFX)、ミノサイクリン (MINO) の計 12 剤について薬剤感受性試験を実施している。

表 3 愛媛県における愛媛県における CRE 感染症患者からの分離株 (2018 年)

診断月日	保健所	検体	菌種	βラクタマーゼ遺伝子
1/12	松山市	尿	<i>Enterobacter cloacae</i>	検出せず
4/12	西条	膿 (皮膚潰瘍)	<i>Enterobacter aerogenes</i>	検出せず
7/21	宇和島	尿	<i>Morganella morganii</i>	検出せず
7/30	松山市	尿	<i>Enterobacter aerogenes</i>	検出せず
8/6	西条	尿	<i>Proteus mirabilis</i>	IMP-1型
9/14	宇和島	喀痰	<i>Enterobacter cloacae</i>	検出せず
12/10	西条	尿	<i>Providencia rettgeri</i>	検出せず

表4 愛媛県における劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者からの分離株(2018年)

診断 月日	保健所名	菌種	T蛋白		M蛋白		発熱毒素遺伝子	耐性薬剤 ¹⁾
			血清型別	血清型別	emm 遺伝子型別			
2/5	松山市	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群溶血性レンサ球菌)	T型別不能	M型別不能	emm49.8		speA, speB, speF	EM耐性(mefA 遺伝子保有) MINO耐性
4/9	宇和島	<i>Streptococcus</i> G			stG6.1			EM耐性(ermA 遺伝子保有)
4/18	西条	<i>Streptococcus</i> C			stC6979.0			なし
7/3	宇和島	<i>Streptococcus</i> G			stG6792.3			なし
11/13	松山市	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群溶血性レンサ球菌)	TB3264	M型別不能	emm89.0		speB, speF	なし
12/8	宇和島	<i>Streptococcus pyogenes</i> (A群溶血性レンサ球菌)	T1	M1	emm1.0		speA, speB, speF	EM(mefA 遺伝子保有) CPFV低感受性

1) PCG, ABPC, CEZ, CTX, MEPM, VCM, DAP, EM, LZD, CPFV, MINO について実施。検査はドライプレート(栄研化学)を用い、CLSI M100-S23 に準拠して判定。ただし、CEZ は CTX, CPFV は LVFX, MINO は TC の基準に従う。

県内で届出のあった劇症型溶血性レンサ球菌感染症患者 6 名から分離された溶血性レンサ球菌について群別を行った結果、A 群溶血性レンサ球菌 3 株、G 群溶血性レンサ球菌 2 株、C 群溶血性レンサ球菌 1 株であった。

A 群溶血性レンサ球菌 3 株の T 血清型別は T1、TB3264、T 型別不能が各 1 株ずつであった。M 血清型別は、M1 が 1 株、M 型別不能が 2 株であった。emm 遺伝子型別は emm1.0、emm49.8、emm89.0 が各 1 株であった。発熱毒素遺伝子は speA、speB、speF 遺伝子保有株が 2 株、speB 及び speF 遺伝子保有株が 1 株であった。G 群溶血性レンサ球菌 2 株の emm 遺伝子型別は、stG6.1 及び stG6792.3 が各 1 株であった。C 群溶血性レンサ球菌 1 株の emm 遺伝子型別は stC6979.0 であった。

薬剤感受性試験では、A 群溶血性レンサ球菌 3 株中 2 株に耐性薬剤が確認され、EM (mefA 遺伝子保有) 及び MINO の 2 剤耐性が 1 株、EM (mefA 遺伝子保有) 耐性及び CPFV 低感受性が 1 株であった。G 群溶血性レンサ球菌については 2 株中 1 株に耐性薬剤が確認され、EM (ermA 遺伝子保有) 耐性であった(表 4)。

侵襲性髄膜炎菌感染症

県内で侵襲性髄膜炎菌感染症の届出があった場合には、当該菌株を国立感染症研究所に送付し、血清型別及び遺伝子型別を実施している。

侵襲性髄膜炎菌感染症患者から分離された菌株について解析を行った結果、血清型別は B 型で、遺伝子型別(ST)は ST3496 であった。ST3496 は、2013 年頃欧州で報告されていたが、国内では初めての分離であった。患者に海外渡航歴はなく、疫学的な関連は見いだせなかった(表 5)。

表5 愛媛県における侵襲性髄膜炎菌感染症患者からの分離株(2018年)

診断年月日	検体	病原菌	血清型別	遺伝子型別
2018年7月17日	血液	<i>Neisseria meningitidis</i>	B	3496(ST-213 complex)

表 6 愛媛県における薬剤耐性アシネトバクタ 感染症患者からの分離株(2018年)

診断年月日	保健所	検体	菌種	OXA型	POT
				β-ラクタマーゼ遺伝子	
2018年8月1日	四国中央	喀痰	<i>Acinetobacter baumannii</i>	OXA-23-like OXA-51-like ¹⁾	International Clone

1) IS Aba1 は保有せず

薬剤耐性アシネトバクタ 感染症

県内で薬剤耐性アシネトバクター(MDRA)感染症の届出があった場合は、当所において詳細な分子疫学解析を実施している。

県内で届出のあった感染症患者から分離された MDRA 1 株について解析を行った結果、OXA 型カルバペナマーゼ産生株であり、OXA 型 β ラクタマーゼ遺伝子は OXA-23-like 及び OXA-51-like 型を保有していたが、IS Aba1 は保有していなかった。当該菌株について Cica Geneus Acineto POT KIT(関東化学株)を用いた POT 法を実施した結果、世界的流行株である *A. baumannii* ICIIであった(表 6)。

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた指定届出機関のうち、病原体定点等の医療機関において、A群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎等患者から採取された検体について細菌学的検査を実施している。

A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

咽頭ぬぐい液を羊血液寒天培地で分離を行い、β溶血を認めた集落について同定検査及びLancefieldの分類による群別試験を実施した。A群溶血性レンサ球菌と同定された菌株については、T血清型別を実施した。

病原体定点において A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から採取された咽頭ぬぐい液 5 件中 5 件(100%)から A群溶血性レンサ球菌が分離された。T血清型別は、T12 が 2 株(40%)、T1 及び T25 並びに TB3264 が各 1 株(各 20%)であった(表 7)。

感染性胃腸炎

検査対象病原体は病原大腸菌、サルモネラ属菌及びカンピロバクター属菌とし、選択分離培地上に発育した集落を釣菌し、生化学的性状試験及び血清学的試験等により同定している。

大腸菌は 11 種類(*eae*、*astA*、*aggR*、*bfpA*、*invE*、*elt*、*esth*、*ipaH*、*EAF*、*CVD432*、*stx*)の病原因子関連遺伝子の有無を PCR 法で確認し、腸管出血性大腸菌(EHEC)、腸管侵入性大腸菌(EIEC)、腸管毒素原性大腸菌(ETEC)、腸管病原性大腸菌(EPEC)及び腸管凝集付着性大腸菌(EAaggEC)に分類し、市販免疫血清で血清型別を実施する。カンピロバクター属菌は、*Campylobacter spp.*、*C. jejuni*、*C. coli*、*C. lari*、*C. upsaliensis*、*C. fetus*を対象とした Multiplex-PCR を実施し、*C. jejuni*については Penner の耐熱性抗原による血清型別試験を実施している。

感染性胃腸炎患者糞便検体 11 例について病原菌検索を行なった結果、カンピロバクター属菌 3 株が分離された。分離されたカンピロバクター属菌は全て *C. jejuni* で、Penner 型別は B 群が 2 株、I 群が 1 株であった(表 7)。

表7 愛媛県における定点把握感染症患者からの病原細菌検出情報(2018年)

疾患名	検出病原菌	血清型別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	<i>S. pyogenes</i> (A群)	T1				1									1
		T12				1	1								2
		T25												1	1
		TB3264	1												1
	計		1			2	1						1	0	5
	検査数		1	0	0	2	1	0	0	0	0	0	1	0	5
感染性胃腸炎	病原大腸菌														
	サルモネラ属菌														
	カンピロバクター属菌	<i>C. jejuni</i>	1				2								3
	計		1				2								3
	検査数		1	1	2	1	3	2	1	0	0	0	0	0	11

2 ウイルス検査状況

感染症の病原体に関する情報を収集するため、愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領に基づき、病原体検査を実施した。

(1) 全数把握対象感染症

全数把握対象感染症が発生した場合には、当所で遺伝子検査等によるウイルス検査を実施するとともに、必要に応じて国立感染症研究所へ検体を送付し、確認検査を依頼している。本年、県保健所及び松山市からの依頼により受け付けた検体は、血液(血清)が 22 検体、咽頭ぬぐい液が 16 検体、尿が 11 検体、糞便・直腸ぬぐい液が 4 検体、髄液が 2 検体であった。

鳥インフルエンザ(H5N1)

疑い患者 1 例の咽頭ぬぐい液について検査した結果、鳥インフルエンザウイルスは検出されなかった。

A 型肝炎

2 月に採取された患者 1 例の糞便について検査した結果、A 型肝炎ウイルスが検出された。

重症熱性血小板減少症候群(SFTS)

疑い患者 11 例の血清について検査した結果、5 月、7 月及び 9 月に各 1 例、計 3 例から SFTS ウイルスが検出された。

急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く)

患者 3 例の検体(材料として咽頭ぬぐい液、糞便または直腸ぬぐい液、髄液)について検査した結果、9 月に 1 例からエンテロウイルス D68 型が検出された。

風しん

疑い患者 9 例の検体(材料として咽頭ぬぐい液、血液、尿)について検査した結果、11 月に 2 例、12 月に 1 例、計 3 例から風しんウイルスが検出された。

麻しん

疑い患者 3 例の検体(材料として咽頭ぬぐい液、血液、尿)について検査した結果、麻しんウイルスは検出されなかった。

(2) 定点把握対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱に定められた患者定点として選定された医療機関のうち、病原体定点はインフルエンザ定点(指定提出機関)8(内科 4、小児科 4)、小児科定点 8、基幹定点 6、眼科定点 2 の機関が設定されている(2018.4.1 現在)。病原体検査対象疾患のうちウイルス性疾患は、インフルエンザ定点のインフルエンザ、小児科定点の咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、手足口病、ヘルパンギーナ、流行性耳下腺炎、眼科定点の流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、基幹定点の無菌性髄膜炎である。これらの医療機関から、病原体検査要領に基づいて採取された検体について、ウイルス学的検査を実施した。

検査材料:臨床材料は、2018 年 1 月から 12 月の間に採取された。当所に搬入された呼吸器感染症等患者検体(咽頭ぬぐい液、結膜ぬぐい液等)は、試験に供するまで-80 で冷凍保存した。また、感染性胃腸炎患者検体(糞便、吐物等)は、試験に供するまで-30 で冷凍保存した。

検査方法:呼吸器感染症等患者検体からのウイルス分離には FL、RD-18s、Vero 細胞を常用し、インフルエンザ流行期は MDCK 細胞を併用した。また、必要に応じて PCR 法、リアルタイム PCR 法、イムノクロマト(IC)法を実施した。感染性胃腸炎起因ウイルス検索には、電子顕微鏡法(EM)、PCR 法、リアルタイム PCR 法及び IC 法を用いた。

病原体定点種類別検体数

2018年に病原体定点から受け付けた検体数は270検体であった。病原体定点種類別・臨床診断名別の受け付け状況を表1に示した。

インフルエンザ定点等からのインフルエンザの検体数は116検体で、その内訳はインフルエンザ定点から96検体、小児科定点から20検体であり、82.8%がインフルエンザ定点からの検体であった。小児科定点からの検体数(インフルエンザ検体数を除く)は126検体で、対象疾患別では手足口病が最も多く34検体、次いで感染性胃腸炎が29検体、ヘルパンギーナが17検体であった。眼科定点からの検体数は15検体で、すべて流行性角結膜炎であった。基幹定点からの検体数は13検体で、すべて無菌性髄膜炎であった。

2018年に流行がみられた疾患であるインフルエンザ、感染性胃腸炎、手足口病等において、それぞれの検体からウイルスを検出し、患者情報の裏付けを行うことができた。サーベイランスの対象疾患に該当しない診断名である上気道炎、下気道炎、不明熱、発疹症等の検体も一部含まれているが、これらの検体からもウイルスが検出されており、定点対象疾患の発生動向をみる上で貴重な病原体情報を得ることができた。

表1 定点医療機関からの臨床診断名別検体受付状況(2018年)

保健所名	種別	インフルエンザ	咽頭結膜熱	感染性胃腸炎	手足口病	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	上気道炎	下気道炎	不明熱	発疹症	熱性けいれん	脳症/脳炎	腸炎	その他	合計
四国中央	インフルエンザ	16																16
	小児科			3	6		8					2	3					22
	基幹																	0
西条	インフルエンザ	14																14
	小児科				4		3			3			7					37
	基幹	20																0
今治	インフルエンザ	19																19
	小児科			13	12		2											27
	眼科 基幹							11										11
中予	インフルエンザ	10																10
	小児科 基幹			1														1
八幡浜	インフルエンザ	16																16
	小児科 基幹																	0
宇和島	インフルエンザ	3																3
	小児科			8	1	2				2	4		1	2	6	2	9	37
	基幹								13									13
松山市	インフルエンザ	18																18
	小児科		3	4	11		4											22
	眼科							4										4
合計		116	3	29	34	2	17	15	13	5	4	2	11	2	6	2	9	270

2016年4月1日の改正感染症法施行以降、定点医療機関や地域ごとの検体数は概ね平準化されたものの、インフルエンザ以外の疾患については十分な検体数には至っていない。一年間に流行する疾患の動向をより正確に把握し、県民へ情報提供するために、一定数の検体確保に努める必要がある。

呼吸器感染症等患者検体からの検出

呼吸器感染症等患者検体からのウイルス検出状況について、月別検出状況を表2に、臨床診断名別検出状況を表3に示した。241検体についてウイルス検査を実施した結果、175検体からウイルスが検出され(検出率72.6%)、このうち4検体は2種類の病原体が検出された。

ウイルス別検出状況

インフルエンザウイルス

インフルエンザウイルスは、1月～5月、9月、10月及び12月にインフルエンザ患者検体から107件検出された。内訳は、AH1pdm09が20件、AH3が36件、B(山形系統)が46件、B(Victoria系統)が5件であった。AH1pdm09とB(山形系統)の重複感染が2例みられた。

表2 呼吸器感染症等患者検体からの月別ウイルス検出状況(2018年)

ウイルス型		1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	合計
インフルエンザ	AH1pdm09	13				1				1	2		3	20
	AH3	13	5	6	7	1				1			3	36
	B(山形系統)	26	15	4	1									46
	B(Victoria系統)		3	2										5
コクサッキー	CV-A2					1	4							5
	CV-A4									1	2	2		5
	CV-A6										4	2		6
	CV-A9							2		1				3
	CV-A10						2	4	1					7
	CV-A16						1	8	3	5	6			23
	CV-B3									1				1
エコー	Echo4						2	1						3
	Echo18							2						2
エンテロ	EV-D68										1	1		2
ライノ	Rhino						2							2
アデノ	Ad1	1								1				2
	Ad2							1						1
	Ad3						1				1		2	4
	Ad5									1	1		1	3
	Ad54								1	1			1	3
合 計		53 ^{*1}	23	12	8	3	12	18	5	13 ^{*2}	17 ^{*3}	5	10	179
検 体 数		58	30	14	11	7	18	31	12	12	18	14	16	241

*1: AH1pdm09とB(山形系統)の重複感染例2例を含む

*2: CV-A16とAd5の重複感染例1例を含む

*3: CV-A6とAd5の重複感染例1例を含む

表3 呼吸器感染症等患者検体からの臨床診断名別ウイルス検出状況(2018年)

ウイルス型		インフル エンザ	咽頭結 膜熱	手足口 病	ヘルパ ンギーナ	流行性 角結膜 炎	無菌性 髄膜炎	上気道 炎	下気道 炎	不明熱	発疹 症	合 計
インフルエンザ	AH1pdm09	20										20
	AH3	36										36
	B(山形系統)	46										46
	B(Victoria系統)	5										5
コクサッキー	CV-A2				3			2				5
	CV-A4				5							5
	CV-A6			5	1							6
	CV-A9										3	3
	CV-A10			3	3						1	7
	CV-A16			18	3		1			1		23
	CV-B3				1							1
エコー	Echo4						3					3
	Echo18										2	2
エンテロ	EV-D68			1				1				2
ライノ	Rhino							1		1		2
アデノ	Ad1		1	1								2
	Ad2			1								1
	Ad3		2			2						4
	Ad5			3								3
	Ad54					3						3
合 計		107 ^{*1}	3	32 ^{*2}	16	5	4	3	1	2	6	179
検 体 数		116	3	34	17	15	13	5	4	2	11	220

*1: AH1pdm09とB(山形系統)の重複感染例2例を含む

*2: CV-A6とAd5、CV-A16とAd5の重複感染例各1例を含む

図1に2017/2018シーズン(2017年9月～2018年8月)における、週別のインフルエンザウイルス検出状況を示した。本シーズンは2017年11月中旬から2018年5月下旬(2017年46週から2018年22週)に計135例が検出され、AH1pdm09、AH3及びB(山形系統)が混在するパターンを示した。AH1pdm09は主に11月から1月に検出されたが、AH3は11月から5月まで長い期間検出された。B(山形系統)は1月から検出数が増え、4月まで検出された。B(Victoria系統)は2月と3月に少数検出された。

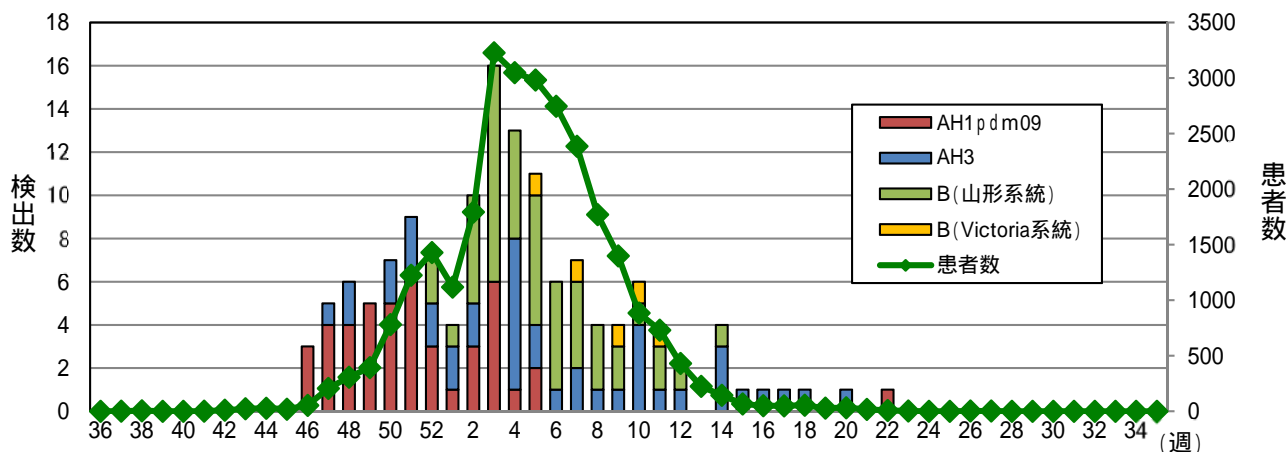


図1 週別インフルエンザウイルス検出数と患者発生数(2017/2018シーズン)

エンテロウイルス

エンテロウイルスは、5月から11月に、手足口病、ヘルパンギーナ、無菌性髄膜炎、上気道炎、下気道炎、不明熱及び発疹症患者検体から計59件検出された。

ウイルス型別では、コクサッキーウイルス(CV)A16が23件と最も多く検出され、次いでCV-A10が7件、CV-A6が6件、CV-A2及びCV-A4が各5件、CV-A9及びエコーウイルス(Echo)4が各3件、Echo18、エンテロウイルス(EV)D68及びライノウイルスが各2件、CV-B3が1件の順であった。

臨床診断別では、手足口病患者検体からの検出が27件と最も多く、次いでヘルパンギーナ患者検体が16件、発疹症患者検体が6件の順であった。

手足口病患者検体からはCV-A16が18件、CV-A6が5件、CV-A10が3件、EV-D68が1件検出され、本年の手足口病の主な原因ウイルスはCV-A16であった。なお、CV-A6とアデノウイルス(Ad)5の重複感染及びCV-A16とAd5の重複感染が各1例みられた。

ヘルパンギーナ患者検体からはCV-A4が5件、CV-A2、CV-A10及びCV-A16が各3件、CV-A6及びCV-B3が各1件検出された。

この他、無菌性髄膜炎患者検体からCV-A16及びEcho4、上気道炎患者検体からCV-A2及びライノウイルス、下気道炎患者検体からEV-D68、不明熱患者検体からCV-A16及びライノウイルス、発疹症患者検体からCV-A9、CV-A10及びEcho18が検出された。

図2に週別のウイルス検出状況を示した。本年の手足口病の主な原因ウイルスとなったCV-A16は6月下旬から10月下旬(26週～44週)と、比較的長い期間検出された。CV-A6及びCV-A10は、手足口病やヘルパンギーナ患者検体から検出され、CV-A6は10月上旬から11月下旬(41週～48週)、CV-A10は6月中旬から8月上旬(25週～32週)と、検出時期が異なった。

アデノウイルス

アデノウイルスは、1月、6月～10月及び12月に、咽頭結膜熱、手足口病及び流行性角結膜炎患者検体から計13件検出された。

ウイルス型別では、Ad1が2件、Ad2が1件、Ad3が4件、Ad5及びAd54が各3件であった。

臨床診断別では、手足口病及び流行性角結膜炎患者検体から各5件、咽頭結膜熱患者検体から3件検出された。手足口病患者検体からはAd1、Ad2及びAd5が、流行性角結膜炎患者検体からはAd3及びAd54が、咽頭結膜熱患者検体からはAd1及びAd3が検出された。

なお、アデノウイルスの検出時期に明らかな季節性はみられなかった。

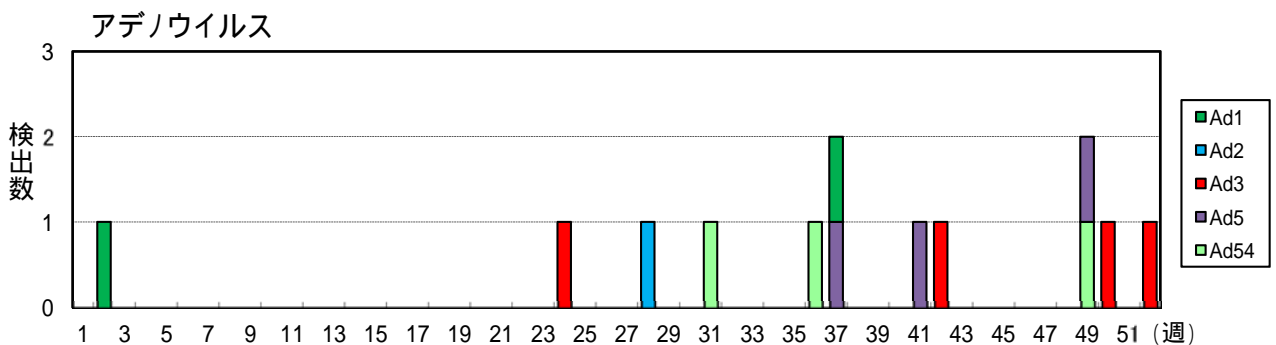
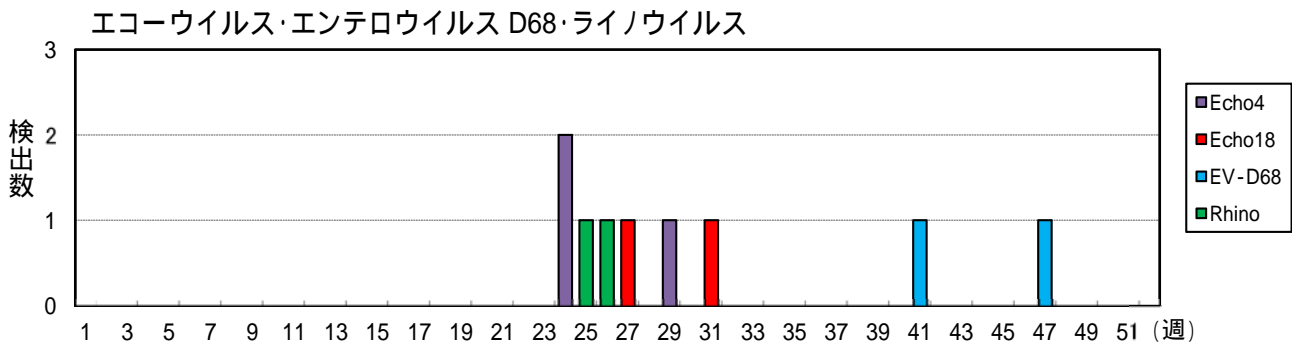
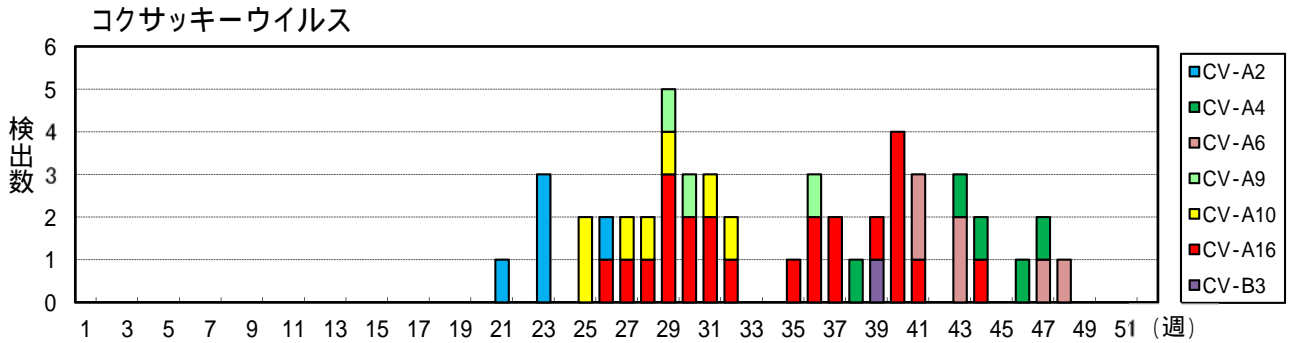


図2 呼吸器感染症等患者検体からの週別ウイルス検出数(2018年)

臨床材料別ウイルス検出状況

呼吸器感染症等患者検体からの臨床材料別のウイルス検出状況を表4に示した。検体数は計241検体で、その内訳は、咽頭ぬぐい液119検体、鼻腔ぬぐい液(鼻汁)85検体、結膜ぬぐい液16検体、便12検体、髄液9検体であった。ウイルス検出率は鼻腔ぬぐい液が91.8%と最も高く、次いで咽頭ぬぐい液(75.6%)、結膜ぬぐい液(31.3%)、便(16.7%)の順であった。鼻腔ぬぐい液はほとんどがインフルエンザ患者から採取されており、検出されたウイルスは全てインフルエンザウイルスであった。

表4 呼吸器感染症等患者検体からの臨床材料別ウイルス検出状況(2018年)

臨床材料別		咽頭ぬぐい液	鼻腔ぬぐい液(鼻汁)	結膜ぬぐい液	便	髄液	合計
検体数		119	85	16	12	9	241
検出数		90	78	5	2	0	175
検出率(%)		75.6	91.8	31.3	16.7	0.0	72.6
インフルエンザ	AH1pdm09	7	13				20
	AH3	9	27				36
	B(山形系統)	11	35				46
	B(Victoria系統)	2	3				5
コクサッキー	CV-A2	5					5
	CV-A4	5					5
	CV-A6	6					6
	CV-A9	3					3
	CV-A10	7					7
	CV-A16	22			1		23
エコー	CV-B3	1					1
	Echo4	2			1		3
エンテロ	Echo18	2					2
	EV-D68	2					2
ライノ	Rhino	2					2
アデノ	Ad1	2					2
	Ad2	1					1
	Ad3	2		2			4
	Ad5	3					3
	Ad54			3			0

年齢別ウイルス検出状況

インフルエンザウイルス、エンテロウイルス及びアデノウイルスの年齢別検出数を、それぞれ表 5、表 6 及び表 7 に示した。

インフルエンザウイルス

AH1pdm09 は 15～19 歳を除く全ての年齢区分において、AH3 及び B(山形系統)は全ての年齢区分において検出された。いずれの型も検出年齢に明らかな傾向はみられなかったが、B(山形系統)は 5～9 歳の年齢区分で比較的多く検出された。B(Victoria 系統)は検出数が少なく、5～9 歳で 5 件検出された。

表 5 インフルエンザウイルスの年齢別検出数(2018 年)

年齢区分	AH1pdm09	AH3	B(山形系統)	B(Victoria系統)
0～4	3	4	3	
5～9	4	5	13	5
10～14	1	2	6	
15～19		3	2	
20～29	1	5	2	
30～39	3	2	2	
40～49	1	3	2	
50～59	1	6	5	
60	6	6	11	
合計	20	36	46	5

エンテロウイルス

2018 年の手足口病の主病因と考えられる CV-A16 は、1～4 歳の年齢区分で検出が多かった。CV-A2、CV-A4、CV-A6、CV-A9、CV-A10 及び CV-B3 は、6 歳以下の手足口病やヘルパンギーナ、発疹症等の患者検体から検出された。Echo4 は 20 歳以上の無菌性髄膜炎患者検体から検出された。

表 6 エンテロウイルスの年齢別検出数(2018 年)

年齢区分	コクサッキー							エコー		EV-D68	Rhino
	CV-A2	CV-A4	CV-A6	CV-A9	CV-A10	CV-A16	CV-B3	Echo4	Echo18		
< 1	1		1		1				1	1	
1～2	4	2	3	3	5	8			1	1	2
3～4		2	1		1	10	1				
5～6		1	1			4					
7～9											
10～19											
20						1		3			
合計	5	5	6	3	7	23	1	3	2	2	2

アデノウイルス

Ad1、Ad2 及び Ad5 は、4 歳以下の手足口病及び咽頭結膜熱の患者検体から検出された。Ad3 は咽頭結膜熱及び流行性角結膜炎患者検体から、Ad54 は流行性角結膜炎検体から検出され、20 歳以上の年齢区分からも検出された。

表7 アデノウイルスの年齢別検出数(2018年)

年齢区分	Ad1	Ad2	Ad3	Ad5	Ad54
< 1					
1 ~ 2	2	1	1	2	
3 ~ 4			1	1	1
5 ~ 6					
7 ~ 9					
10 ~ 19					
20			2		2
合 計	2	1	4	3	3

感染性胃腸炎患者検体からの検出

感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況を表8及び図3に、各ウイルスの患者年齢別検出割合を図4に示した。

感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

2018年に病原体定点から受け付けた感染性胃腸炎患者検体は29検体で、このうち23検体からウイルスが検出された(検出率79.3%)。検出されたウイルスは、ノロウイルスGII(NoV GII)が12件(52.2%)と最も多く、次いでロタウイルスが7件(30.4%)、アデノウイルス及びサポウイルスが各2件(8.7%)であった。ノロウイルスGIは検出されなかった。

月別のウイルス検出数は、4月が11件と最も多く、次に多かったのが5月の5件であった。NoV GIIは主に4月から5月に、ロタウイルスは主に3月から5月に検出された。アデノウイルスは3月と4月、サポウイルスは7月と11月に散発的に検出された。ウイルスの重複感染が確認された事例はなかった。

表8 感染性胃腸炎患者からのウイルス月別検出状況(2018年)

月 別	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計
NoV GII		1		8	2							1	12
Rota			1	2	3							1	7
Ad			1	1									2
Sapo							1				1		2
合 計	0	1	2	11	5		1				1	2	23
検体数	1	1	2	12	7		1				1	4	29

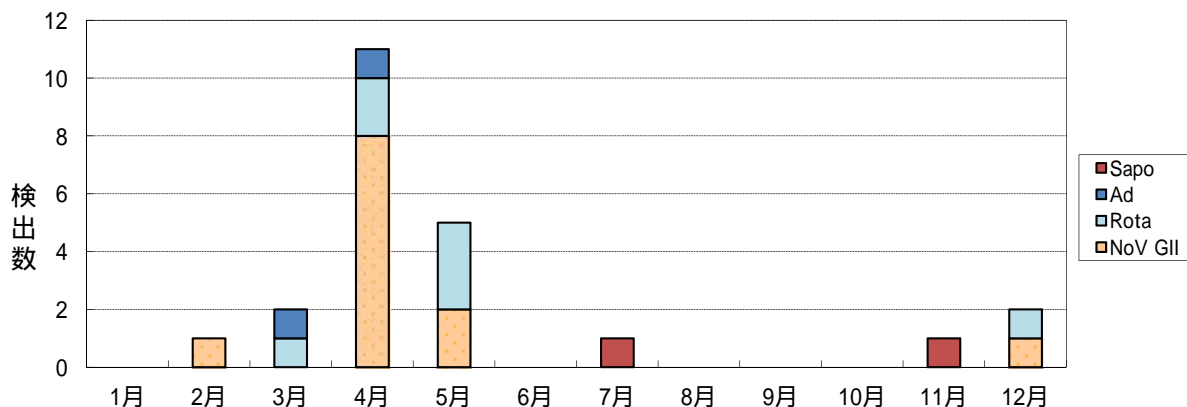


図3 感染症胃腸炎患者からのウイルス検出数(2018年)

胃腸炎起因ウイルス年齢別分布

胃腸炎起因ウイルスは1歳未満から10歳以上まで幅広い年齢層で検出されたが、9割以上は9歳以下の患者が占めており、7～9歳からの検出が最も多かった(43.5%)。

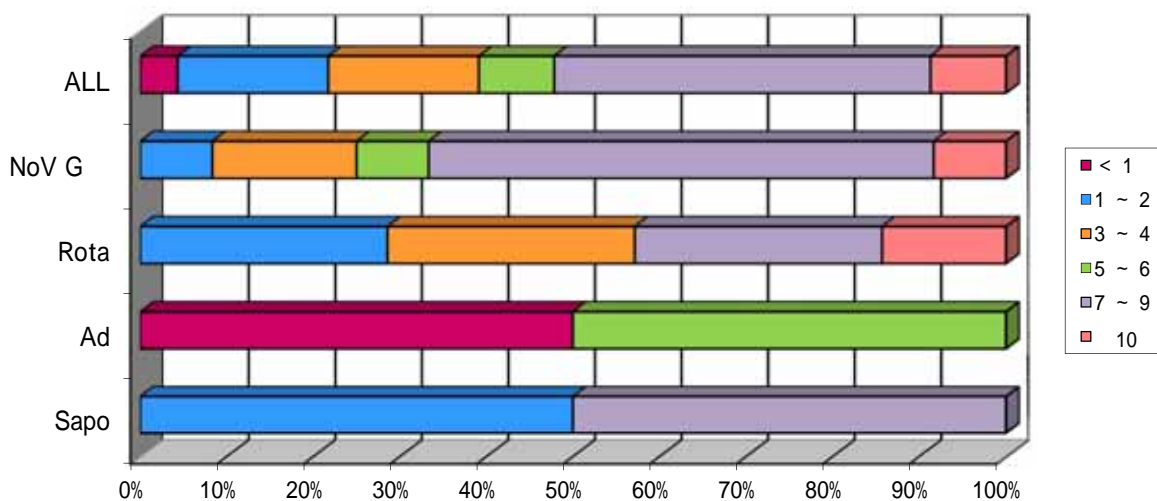


図4 感染症胃腸炎起因ウイルス年齢別検出割合(2018年)

2018 年(平成 30 年)結核登録者情報

2018年(平成30年)結核登録者情報

1 概況

2018年の結核新登録患者数は135人であり、前年(147人)と比較して減少した。結核罹患率(人口10万対率)は10.0で、一般に結核低まん延の指標とされる「罹患率人口10万あたり10以下」と同程度であった。新登録患者における高齢者(70歳以上)の割合は68.9%であり、全国(59.9%)よりも高齢者の占める割合が高い。県内の年齢階級別罹患率の推移をみると、ここ数年ほとんどの年代で減少傾向が続いているが、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代では前年よりも増加した。保健所別の罹患率は今治保健所、八幡浜保健所、宇和島保健所で高く、前年との比較では今治保健所、八幡浜保健所で増加し、四国中央保健所、西条保健所、松山市保健所、中予保健所、宇和島保健所では減少した。排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数は2010年から2016年にかけて減少傾向であったが、2017年に増加に転じ、本年は再び減少した。喀痰塗抹陽性肺結核罹患率(3.4)は全国値(4.6)より下回っている。新登録肺結核患者に占める喀痰塗抹陽性者の割合は依然として高く、46.5%を占めている。患者が発病してから初診までに2ヶ月以上経過している割合(受診の遅れ)は、本年は25.7%で前年(17.4%)と比較して増加した。また、初診から診断までに1ヶ月以上経過している割合(診断の遅れ)は、本年は15.7%と前年(16.7%)と比較して減少した。2018年末現在、結核登録患者数は300人(結核登録率22.2)、活動性結核患者数は98人(有病率7.3)であり、前年と比較して結核登録患者数、活動性結核患者数が減少した。

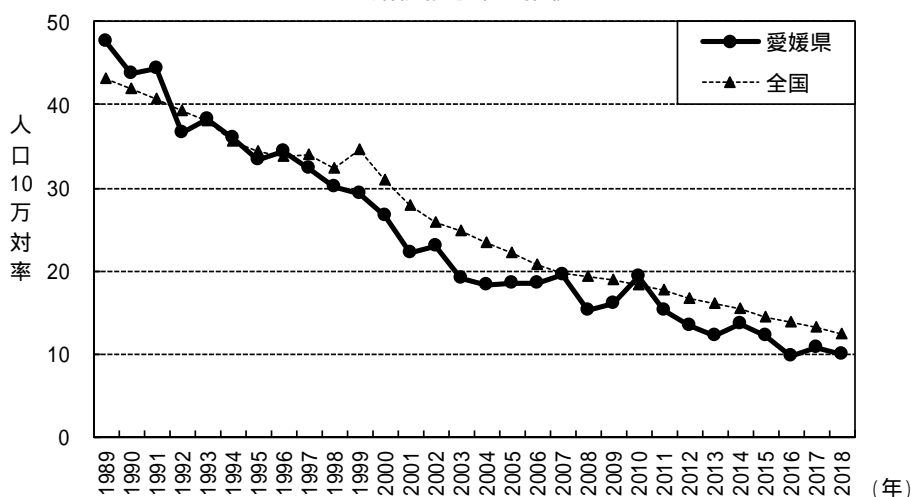
2 新登録患者の状況

(1) 患者数及び罹患率の動向

県内で2018年に新たに結核患者として登録された患者数(新登録患者数)は135人で、前年の147人から12人減少した。2018年の結核罹患率(人口10万人あたりの新登録患者数)は10.0で、前年(同10.8)に比べ0.8減少した。県内の罹患率は、2010年に19.3と全国値を上回ったが、それ以降はすべて全国値を下回った。2011年から減少傾向で2016年に過去最低となったが、前年に増加に転じ、本年は再び減少した。

全国の結核罹患率は、結核緊急事態宣言が出された1999年以降減少傾向が続いており、2007年以降減少傾向に鈍化がみられてはいるものの、毎年着実に減少している。都道府県別の罹患率は、低い順に宮城(3.9)、山形(6.0)、秋田(7.5)、新潟(7.9)と続き、本県は19位(10.0)であり、前年(12位、10.8)よりも順位が下がった。

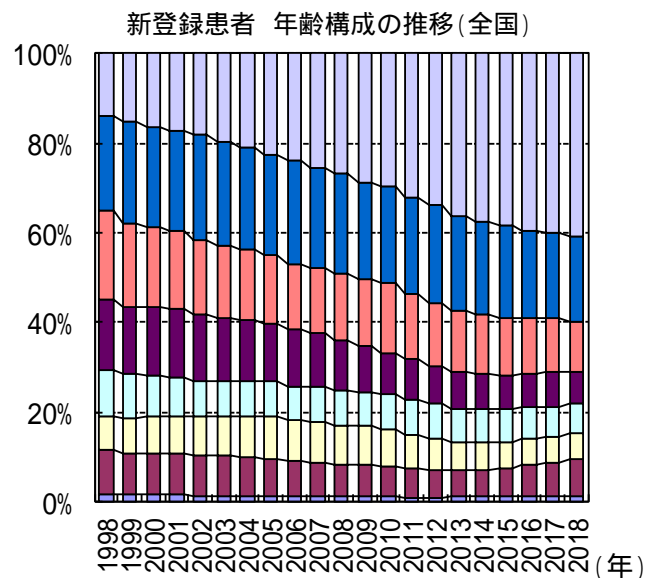
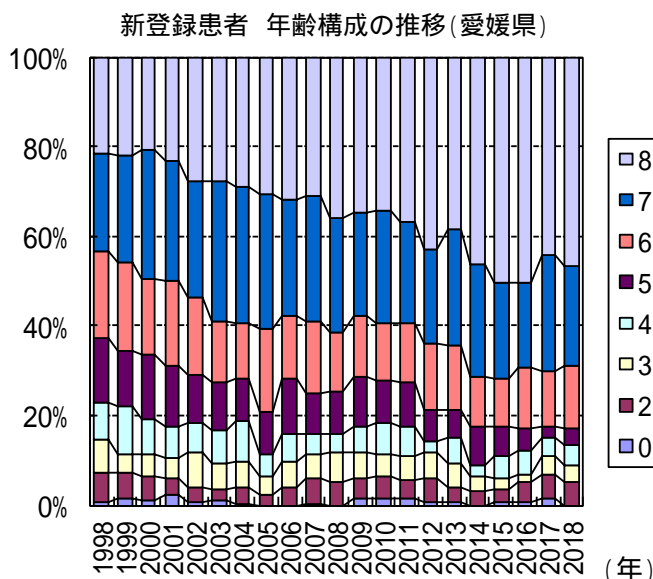
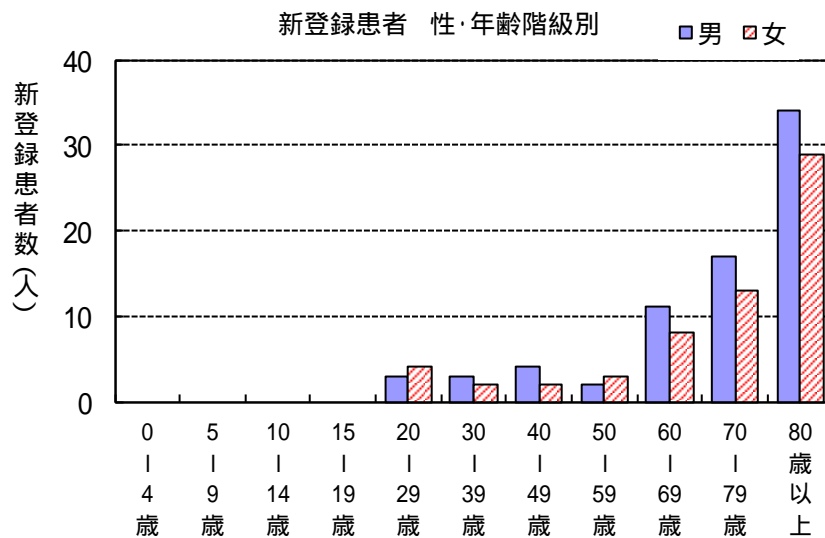
結核罹患率の推移



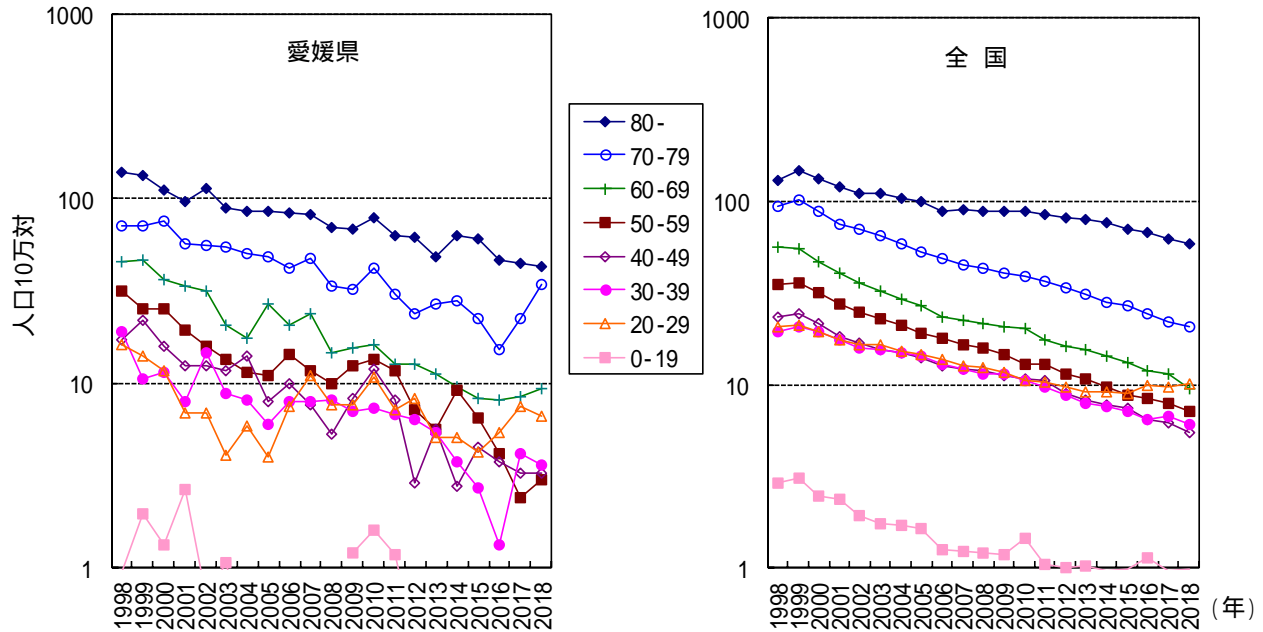
(2) 性・年齢階級別

2018年の新登録患者数の性別は、男性74人、女性61人で、男性が女性の1.2倍であった。前年(男性88人、女59人)に比べ、男性は14人減少し、女性は2人増加した。

年齢構成は70歳以上が93人(前年比10人減)で、新登録患者の68.9%を占めており、全国(59.9%)と比較して高齢者の占める割合が高い傾向がみられる。年齢階級別の罹患率を比較すると、全国では20歳~60歳代の罹患率は5.5~10.1といずれも7前後で大きな差はないが、70歳以上では年齢が高くなるにつれて罹患率が高くなっている。県内では30歳代~50歳代の罹患率は3.0~3.6であるが、これらの年代と比較して20歳代の罹患率は6.6と高くなっている。60歳以上では全国と同様、年齢とともに罹患率が高くなる傾向を示している。県内の年齢階級別罹患率の推移をみると、ここ数年ほとんどの年代で概ね減少傾向が続いていたが、40歳代、50歳代、60歳代、70歳代では前年よりも増加した。



新登録患者 年齢階級別罹患率の推移

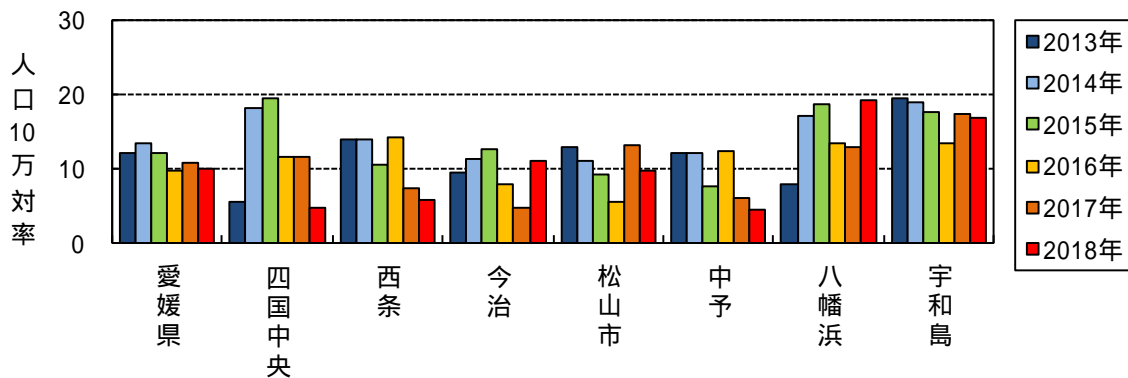


(3) 保健所別

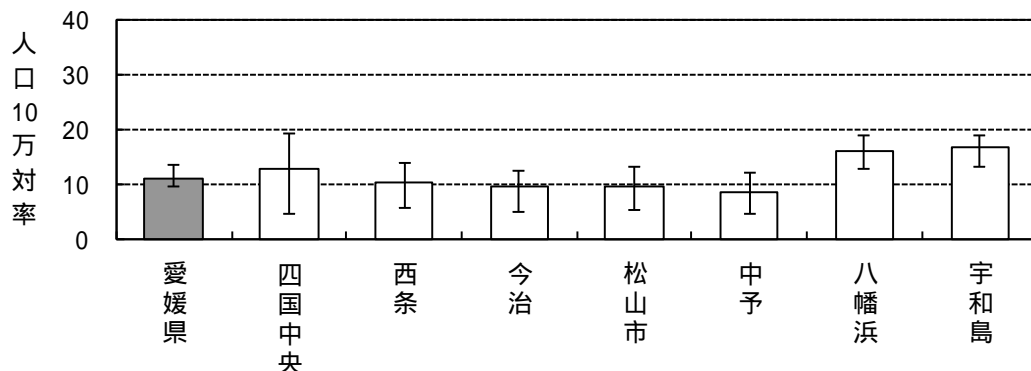
2018年の保健所別の罹患率を比較すると、高い順に、八幡浜保健所 19.1 (対前年比 6.1 増)、宇和島保健所 16.8 (同 0.5 減)、今治保健所 11.2 (同 6.3 増)、松山市保健所 9.8 (同 3.3 減)、西条保健所 5.8 (同 1.7 減)、四国中央保健所 4.7 (同 6.9 減)、中予保健所 4.7 (同 1.5 減)であった。前年との比較では、今治保健所、八幡浜保健所の2保健所が増加し、四国中央保健所、西条保健所、松山市保健所、中予保健所、宇和島保健所が減少した。

保健所別の過去5年間(2014~2018年)の罹患率の平均は、宇和島保健所の16.8を最高に、八幡浜保健所の16.2、四国中央保健所13.1、西条保健所10.4、松山市保健所9.8、今治保健所9.6、中予保健所8.6の順に続き、南予で比較的高い傾向であった。

新登録患者 保健所別罹患率の推移



新登録患者 保健所別罹患率(過去5年間の平均値、最大値、最小値)



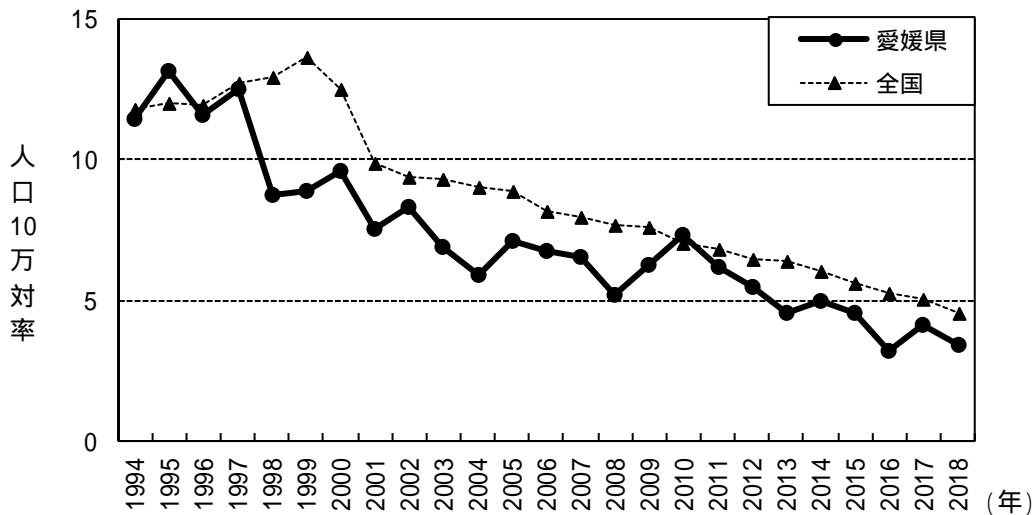
(4) 喀痰塗抹陽性肺結核患者数の動向

新登録患者のうち、排菌により感染拡大の危険が高い喀痰塗抹陽性肺結核患者数は46人で、前年の56人から10人減少した。罹患率は3.4で、前年の4.1から0.7減少した。喀痰塗抹陽性肺結核罹患率の年次推移をみると、2010年から減少傾向で2016年に過去最低となったが、前年に増加に転じ、本年は再び減少した。一方、全国の喀痰塗抹陽性肺結核罹患率は4.6で、前年の5.0より0.4低下し、1999年をピークに減少傾向が続いている。

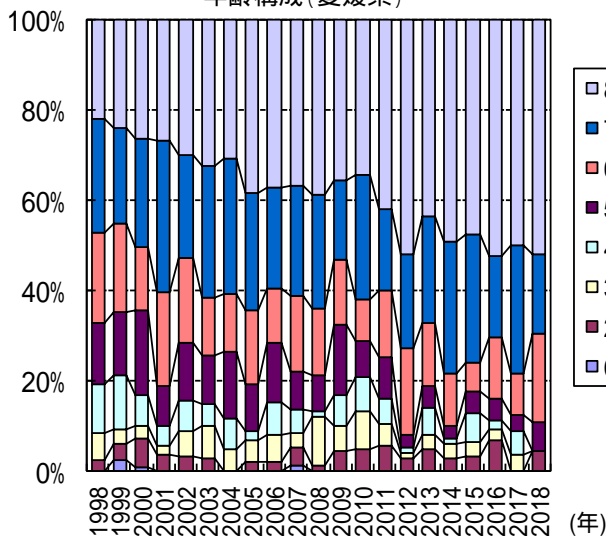
新登録肺結核患者に占める喀痰塗抹陽性者の割合は依然として高く、2018年は46.5%(前年54.4%)であった。

喀痰塗抹陽性肺結核患者の年齢構成は、全国的には高齢者の割合が増加する傾向にある。本県における70歳以上の高齢者の割合は、1998年では全体の47.3%であったが、年々増加し、2018年は69.6%であった。高齢者の排菌患者は症状が出にくく、診断の遅れにより感染が拡大する可能性があるため、早期発見、早期治療が重要である。

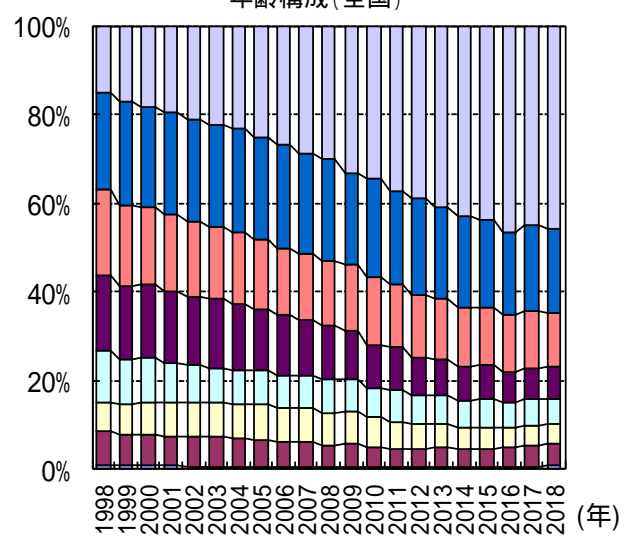
喀痰塗抹陽性肺結核罹患率の推移



新登録塗抹陽性肺結核患者
年齢構成(愛媛県)



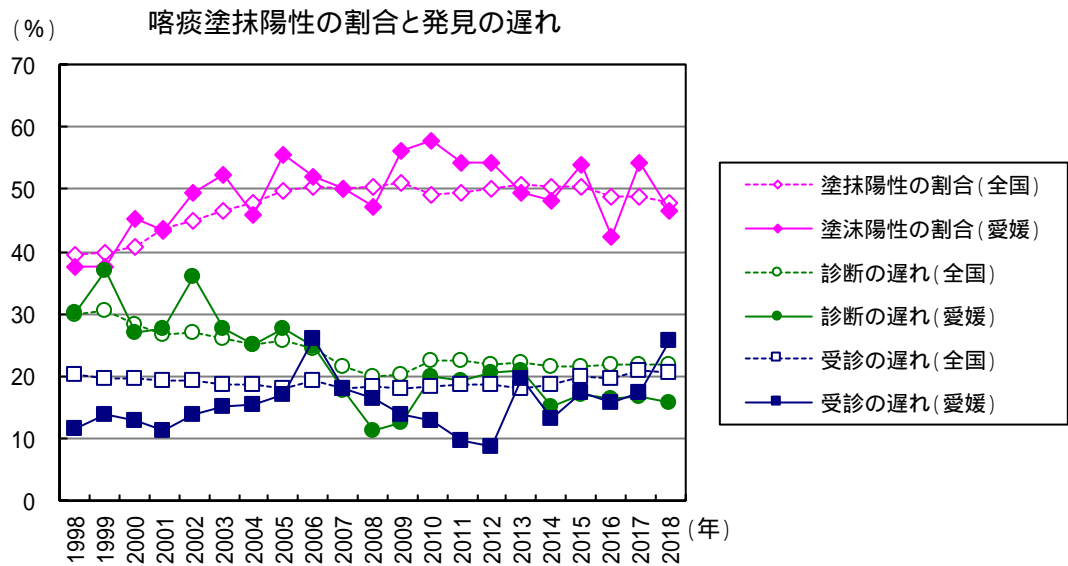
新登録塗抹陽性肺結核患者
年齢構成(全国)



(5) 発見の遅れ

新登録有症状肺結核患者において、発病から初診までに要する期間が2ヶ月以上の割合を「受診の遅れ」の指標とした場合、全国では18~20%でほぼ横ばいで推移している。本県では、2006年の26.2%をピークに減少が続き、2012年には8.9%まで低下したが、その後増減し、本年は25.7%と前年から増加した。

一方、初診から診断(登録)までに要する期間が1ヶ月以上の割合を「診断の遅れ」の指標とした場合、全国では2007年以降20%程度と横ばいで推移している。本県では、2008年、2009年は12%程度に低下し、2010年以降は20%前後と全国と同じレベルで推移していたが、2014年から15%程度に再び減少し、本年は15.7%と前年から減少した。



塗抹陽性の割合：新登録肺結核患者に占める喀痰塗抹陽性者の割合

受診の遅れ：新登録有症状肺結核患者のうち、発病～初診の期間が2ヶ月以上の場合

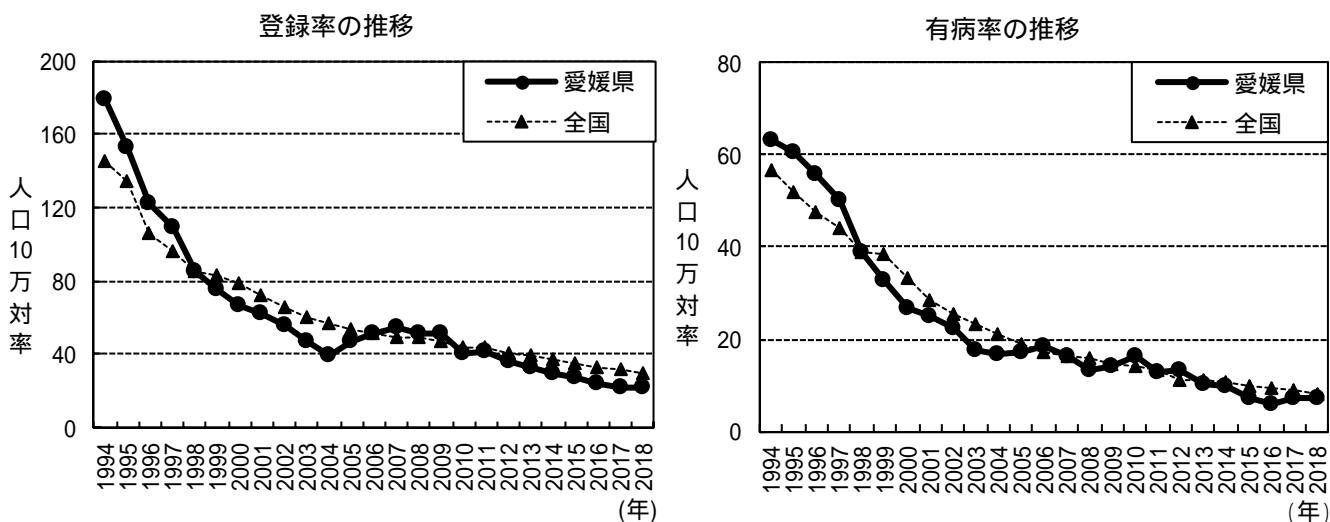
診断の遅れ：新登録有症状肺結核患者のうち、初診～診断(登録)の期間が1ヶ月以上の割合

3 年末現在結核登録者の状況

2018 年末の愛媛県における結核登録患者数は 300 人で、前年の 303 人より 3 人減少した。結核登録率(人口 10 万人当たりの年末現在結核登録者)は 22.2 で、前年の 22.2 から増減はなかった。全国の登録率は 29.4 であり、前年の 31.3 から 1.9 減少した。

年末現在の活動性結核患者数(年末時点で結核の治療を受けている、あるいは治療の必要がある患者数)は 98 人で、前年の 99 人より 1 人減少した。有病率(人口 10 万人当たりの年末現在活動性結核患者数)は 7.3 で、前年の 7.3 から増減はなかった。全国のお有病率は 8.3 で、前年の 8.8 より 0.5 減少している。

県内の登録率の年次推移をみると、2004 年までは順調に減少していたが、2005 年から 2007 年にかけて増加し、2006 年には全国値を上回った。2008 年以降は再び減少傾向を示し、本年は過去最低となった。県内の有病率は、2004 年まで順調に減少した後、2005 年から 2012 年にかけては増減を繰り返しながらほぼ横ばいで推移していた。2013 年以降は再び減少傾向にあり、2016 年は過去最低となったが、前年から増加へ転じた。



登録率：人口 10 万人当たりの年末現在結核登録者数
 有病率：人口 10 万人当たりの年末現在活動性結核患者数

表 4-1 2018 年 新登録患者数 - 保健所別

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他		
		総 数	初 回 治 療	再 治 療					
愛媛県 総数	135	99	46	41	5	45	8	36	35
四国中央	4	3				3		1	2
西 条	13	8	3	3		4	1	5	2
今 治	18	16	9	9		6	1	2	2
松 山 市	50	34	18	15	3	12	4	16	15
中 予	6	5	3	3		2		1	3
八 幡 浜	26	18	6	6		11	1	8	4
宇 和 島	18	15	7	5	2	7	1	3	7

*潜在性結核感染症:結核の無症状病原体保有者のうち医療を必要とするもの

表 4-2 2018 年 新登録患者数 - 性、年齢階級別

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他		
		総 数	初 回 治 療	再 治 療					
愛媛県 総数	135	99	46	41	5	45	8	36	35
男	74	51	22	19	3	25	4	23	11
女	61	48	24	22	2	20	4	13	24
0-4歳									2
男									2
女									
5-9歳									
男									
女									
10-14歳									
男									
女									
15-19歳									
男									
女									
20-29歳	7	6	2	2		3	1	1	4
男	3	2				2		1	
女	4	4	2	2		1	1		4
30-39歳	5	3				2	1	2	4
男	3	2				1	1	1	2
女	2	1				1		1	2
40-49歳	6	5				5		1	3
男	4	3				3		1	1
女	2	2				2			2
50-59歳	5	4	3	3		1		1	5
男	2	2	1	1		1			1
女	3	2	2	2				1	4
60-69歳	19	16	9	8	1	4	3	3	8
男	11	10	7	6	1	1	2	1	1
女	8	6	2	2		3	1	2	7
70-79歳	30	17	8	7	1	8	1	13	6
男	17	9	4	3	1	4	1	8	5
女	13	8	4	4		4		5	1
80歳以上	63	48	24	21	3	22	2	15	3
男	34	23	10	9	1	13		11	1
女	29	25	14	12	2	9	2	4	2

表 4-3 新登録結核患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別

保健所	2018年		2017年		2016年		2015年		2014年		2013年	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
愛媛県 総数	135	10.0	147	10.8	133	9.7	167	12.1	188	13.5	171	12.2
四国中央	4	4.7	10	11.6	10	11.5	17	19.4	16	18.2	5	5.6
西 条	13	5.8	17	7.5	32	14.1	24	10.5	32	14.0	32	13.9
今 治	18	11.2	8	4.9	13	7.9	21	12.7	19	11.4	16	9.5
松 山 市	50	9.8	67	13.1	28	5.5	48	9.3	58	11.2	67	13.0
中 予	6	4.7	8	6.2	16	12.3	10	7.6	16	12.1	16	12.1
八 幡 浜	26	19.1	18	13.0	19	13.4	27	18.7	25	17.0	12	8.0
宇 和 島	18	16.8	19	17.3	15	13.4	20	17.5	22	18.9	23	19.4

表 4-4 新登録結核患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別

年齢階級	2018年		2017年		2016年		2015年		2014年		2013年	
	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率
0-4											1	0.6
5-9												
10-14												
15-19			2	1.4	1	0.8	1	0.6				
20-29	7	5.2	8	5.4	6	4.5	5	3.0	6	3.2	6	3.5
30-39	5	3.7	6	4.1	2	1.5	4	2.4	6	3.2	9	5.3
40-49	6	4.4	6	4.1	7	5.3	8	4.8	5	2.7	10	5.8
50-59	5	3.7	4	2.7	7	5.3	11	6.6	16	8.5	10	5.8
60-69	19	14.1	18	12.2	18	13.5	18	10.8	21	11.2	25	14.6
70-79	30	22.2	38	25.9	25	18.8	36	21.6	47	25.0	44	25.7
80-	63	46.7	65	44.2	67	50.4	84	50.3	87	46.3	66	38.6

表 4-5 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び罹患率の年次推移 - 保健所別

保健所	2018年		2017年		2016年		2015年		2014年		2013年	
	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率	患者数	罹患率
愛媛県 総数	46	3.4	56	4.1	44	3.2	63	4.5	69	4.9	64	4.6
四国中央			1	1.2	2	2.3	7	8.0	7	8.0	1	1.1
西 条	3	1.3	9	4.0	11	4.9	14	6.1	9	3.9	9	3.9
今 治	9	5.6	1	0.6	4	2.4	10	6.1	10	6.0	7	4.1
松 山 市	18	2.8	29	5.7	9	1.8	12	2.3	23	4.5	29	5.6
中 予	3	2.3	3	2.3	6	4.6	5	3.8	4	3.0	4	3.0
八 幡 浜	6	4.4	6	4.3	4	2.8	5	3.5	5	3.4	3	2.0
宇 和 島	7	6.5	7	6.4	8	7.2	10	8.8	11	9.4	11	9.3

表 4-6 新登録喀痰塗抹陽性患者数及び構成率の年次推移 - 年齢階級別

年齢階級	2018年		2017年		2016年		2015年		2014年		2013年	
	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率	患者数	構成率
0-4												
5-9												
10-14												
15-19												
20-29	2	4.3			3	6.8	2	3.2	2	2.9	3	4.7
30-39			2	3.6	1	2.3	2	3.2	2	2.9	2	3.1
40-49			3	5.4	1	2.3	4	6.3	1	1.4	4	6.3
50-59	3	6.5	2	3.6	2	4.5	3	4.8	2	2.9	3	4.7
60-69	9	19.6	5	8.9	6	13.6	4	6.3	8	11.6	9	14.1
70-79	8	17.4	16	28.6	8	18.2	18	28.6	20	29.0	15	23.4
80-	24	52.2	28	50.0	23	52.3	30	47.6	34	49.3	28	43.8

表 4-7 2018 年 新登録患者数 - 結核病類、性、年齢階級別

	新登録患者数	肺結核		肺外結核									
		肺結核	気管支結核	咽頭・喉頭結核	粟粒結核	結核性胸膜炎	結核性膿胸	肺門リンパ節結核	他のリンパ節結核	腸結核	腎・尿路結核	結核性腹膜炎	その他の臓器の結核
愛媛県 総数	135	99	2		2	26		1	6	6	1	1	3
男	74	51	2		2	22		1		4	1		1
女	61	48				4			6	2		1	2
0-4歳													
男													
女													
5-9歳													
男													
女													
10-14歳													
男													
女													
15-19歳													
男													
女													
20-29歳	7	6				1							
男	3	2				1							
女	4	4											
30-39歳	5	3	1			1			1				
男	3	2	1			1							
女	2	1							1				
40-49歳	6	5				1							
男	4	3				1							
女	2	2											
50-59歳	5	4											1
男	2	2											
女	3	2											1
60-69歳	19	16			1	1			2				
男	11	10			1	1							
女	8	6							2				
70-79歳	30	17			1	4		1	1	5	1	1	1
男	17	9			1	3		1		3	1		
女	13	8				1			1	2		1	1
80歳以上	63	48	1			18			2	1			1
男	34	23	1			15				1			1
女	29	25				3			2				

表 4-8 2018 年 新登録肺結核患者数 - 職業、菌情報、保健所別

	総 数		接客業等		看護師・保健師		医師		その他の医療職	
	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他
愛媛県 総数	46	53				1				4
四国中央		3								
西 条	3	5								
今 治	9	7								
松 山 市	18	16								2
中 予	3	2								
八 幡 浜	6	12								1
宇 和 島	7	8				1				1

	教員・保母		小中学生等児童		高校生以上の 生徒学生等		その他 常用勤労者		その他 臨時雇・日雇	
	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他
愛媛県 総数							5	8		2
四国中央										
西 条							1	3		
今 治										
松 山 市							1	4		2
中 予							2			
八 幡 浜								1		
宇 和 島							1			

	その他 自営業・自由業		家事従事者		乳幼児		無職・その他		不明	
	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他	喀 痰 塗 抹 陽 性	その他
愛媛県 総数	1	2	1	1			39	35		
四国中央								3		
西 条		1					3	4		
今 治							8	4		
松 山 市	1		1				15	8		
中 予							1	2		
八 幡 浜		1		1			6	8		
宇 和 島							6	6		

表 4-9 2018 年 新登録患者数 - 発見方法別

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結 核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性					肺 外 結 核 活 動 性		
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性		そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他			
		総 数	初 回 治 療	再 治 療					
愛媛県 総数	135	99	46	41	5	45	8	36	35
健康診断	17	16	1	1		10	5	1	20
個別健康診断	1	1				1			1
定期健康診断	13	12	1	1		8	3	1	
学校健診									
住民健診	1							1	
職場健診	10	10	1	1		6	3		
施設健診	2	2				2			
接触者健康診断	3	3				1	2		19
家族健診	2	2					2		8
その他	1	1				1			11
その他の集団検診									
医療機関	116	82	44	39	5	35	3	34	15
受診	70	51	31	26	5	18	2	19	6
他疾患入院中	21	13	7	7		6		8	5
他疾患通院中	25	18	6	6		11	1	7	4
その他	1	1	1	1					
不明									
登録中の健康診断	1							1	

表 4-10 2018 年 新登録有症状肺結核患者数 - 発見の遅れの期間別

	肺 結 核 活 動 性					
	総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他
		総 数	初 回 治 療	再 治 療		
発病～初診の期間						
総数	74	43	38	5	30	1
2週未満	35	20	16	4	14	1
2週以上1月未満	12	6	6		6	
1月以上2月未満	5	3	3		2	
2月以上3月未満	11	9	9		2	
3月以上6月未満	3	3	2	1		
6月以上	4	2	2		2	
不明・該当せず	4				4	
初診～診断の期間						
総数	74	43	38	5	30	1
2週未満	52	34	31	3	17	1
2週以上1月未満	7	4	4		3	
1月以上2月未満	8	3	2	1	5	
2月以上3月未満	2	1	1		1	
3月以上6月未満	1	1		1		
6月以上						
不明・該当せず	4				4	
発病～診断の期間						
総数	74	43	38	5	30	1
2週未満	18	10	7	3	7	1
2週以上1月未満	17	11	11		6	
1月以上2月未満	14	8	7	1	6	
2月以上3月未満	13	9	9		4	
3月以上6月未満	2	1	1		1	
6月以上	6	4	3	1	2	
不明・該当せず	4				4	

表 4-11 2018年 新登録患者数 - 化療内容、保健所別(その1)

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性		そ の 他 の 結 核 菌 陽 性	菌 陰 性 ・ そ の 他			
		総 数	初 回 治 療	再 治 療					
愛媛県									
総数	135	99	46	41	5	45	8	36	35
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	87	66	32	27	5	28	6	21	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上	1	1				1			
他INH、RFP含む3剤以上	39	27	12	12		13	2	12	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤	2	1	1	1				1	
その他の3剤以上	2	1	1	1				1	
INH単独									35
その他単独	1							1	
不明・化療なし	3	3				3			
四国中央									
総数	4	3				3		1	2
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	3	2				2		1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	1	1				1			
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									2
その他単独									
不明・化療なし									
西条									
総数	13	8	3	3		4	1	5	2
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	6	3	2	2		1		3	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	7	5	1	1		3	1	2	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									2
その他単独									
不明・化療なし									
今治									
総数	18	16	9	9		6	1	2	2
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	13	12	6	6		5	1	1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	3	2	2	2				1	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上	1	1	1	1					
INH単独									2
その他単独									
不明・化療なし	1	1				1			

INH: イソニアジド、RFP: リファンピシン、PZA: ピラジナミド、EB: エタンブロール、SM: ストレプトマイシン

表 4-11 2018年 新登録患者数 - 化療内容、保健所別(その2)

	活 動 性 結 核								(別掲) 潜在性 結核 感染症 治療中
	総 数	肺 結 核 活 動 性						肺 外 結 核 活 動 性	
		総 数	喀 痰 塗 抹 陽 性			その他の 結 核 菌 陽 性	菌陰性 ・ その他		
			総 数	初 回 治 療	再 治 療				
松山市									
総数	50	34	18	15	3	12	4	16	15
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	34	23	11	8	3	8	4	11	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	13	10	6	6		4		3	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤	1	1	1	1					
その他の3剤以上	1							1	
INH単独									15
その他単独	1							1	
不明・化療なし									
中予									
総数	6	5	3	3		2		1	3
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	6	5	3	3		2		1	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上									
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									3
その他単独									
不明・化療なし									
八幡浜									
総数	26	18	6	6		11	1	8	4
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	11	9	4	4		4	1	2	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上									
他INH、RFP含む3剤以上	12	7	2	2		5		5	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤	1							1	
その他の3剤以上									
INH単独									4
その他単独									
不明・化療なし	2	2				2			
宇和島									
総数	18	15	7	5	2	7	1	3	7
INH、RFP、PZAとEBまたはSMの4剤	14	12	6	4	2	6		2	
他INH、RFP及びPZA含む3剤以上	1	1				1			
他INH、RFP含む3剤以上	3	2	1	1			1	1	
INH及びRFPの2剤									
その他の2剤									
その他の3剤以上									
INH単独									7
その他単独									
不明・化療なし									

INH: イソニアジド、RFP: リファンピシン、PZA: ピラジナミド、EB: エタンブロール、SM: ストレプトマイシン

表 4-12 2018 年 年末現在登録者数 - 保健所別

	総数	活動性結核								不活動性結核	活動性不明	(別掲)潜在性結核感染症	
		肺結核活動性							肺外核活動性				
		総数	喀痰塗抹陽性			登録時 他の結核 菌陽性	登録時 菌陰性 その他	肺外核 活動性					
			総数	初回 治療	再治療				治療中			観察中	
愛媛県 総数	300	98	68	29	27	2	30	9	30	198	4	16	63
四国中央	10	4	3				3		1	6		1	2
西条	46	12	7	2	2		4	1	5	34		1	
今治	37	16	13	8	8		4	1	3	21		1	4
松山市	104	35	23	10	8	2	7	6	12	68	1	5	32
中予	25	4	3	2	2		1		1	18	3	1	5
八幡浜	44	19	14	5	5		9		5	25		1	19
宇和島	34	8	5	2	2		2	1	3	26		6	1

表 4-13 2018 年 年末現在登録者数 - 性、年齢階級別

	総数	活動性結核								不活動性結核	活動性不明	(別掲)潜在性結核感染症	
		肺結核活動性							肺外核活動性				
		総数	喀痰塗抹陽性			登録時 他の結核 菌陽性	登録時 菌陰性 その他	肺外核 活動性					
			総数	初回 治療	再治療				治療中			観察中	
愛媛県 総数	300	98	68	29	27	2	30	9	30	198	4	16	63
男女	152	55	37	14	14		19	4	18	95	2	6	21
0-4歳	148	43	31	15	13	2	11	5	12	103	2	10	42
男女													4
5-9歳													4
男女													
10-14歳													
男女													
15-19歳													1
男女													1
20-29歳	11	4	4				3	1		7		2	5
男女	6	2	2				2			4			2
30-39歳	5	2	2				1	1		3		2	3
男女	13	4	2				1	1	2	9		1	9
男女	6	3	2				1	1	1	3		1	3
40-49歳	7	1							1	6			6
男女	17	3	3				3			14		2	6
男女	6	2	2				2			4			3
50-59歳	11	1	1				1			10		2	3
男女	16	5	4	2	2		2		1	10	1	2	10
男女	8	3	3	1	1		2			5			4
60-69歳	8	2	1	1	1				1	5	1	2	6
男女	46	12	10	5	5		2	3	2	34		4	15
男女	26	8	7	4	4		1	2	1	18		1	1
70-79歳	20	4	3	1	1		1	1	1	16		3	14
男女	63	24	13	5	5		7	1	11	39		4	8
男女	29	15	8	3	3		4	1	7	14		4	3
80歳以上	34	9	5	2	2		3		4	25			5
男女	134	46	32	17	15	2	12	3	14	85	3	1	5
男女	71	22	13	6	6		7		9	47	2		4
男女	63	24	19	11	9	2	5	3	5	38	1	1	1

参 考 资 料

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱

第一 目的

本事業は、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(平成10年法律第114号。以下「法」という。)に基づき、感染症の患者発生状況に関する情報(以下「患者情報」という。)、疑似症発生状況に関する情報(以下「疑似症情報」という。)及び感染症の病原体に関する情報(以下「病原体情報」という。)を迅速かつ的確に収集、分析し、その結果を感染症情報として速やかに地域に公表することにより、感染症の予防、医療、研究等に役立て、有効かつ的確な感染症対策の確立に資することを目的とする。

第二 対象感染症

事業の対象とする感染症は次のとおりとする。

一 全数把握の対象

1 一類感染症

- (1) エボラ出血熱 (2) クリミア・コンゴ出血熱 (3) 痘そう (4) 南米出血熱
(5) ペスト (6) マールブルグ病 (7) ラッサ熱

2 二類感染症

- (8) 急性灰白髄炎 (9) 結核 (10) ジフテリア (11) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)
(12) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。) (13) 鳥インフルエンザ(H5N1) (14) 鳥インフルエンザ(H7N9)

3 三類感染症

- (15) コレラ (16) 細菌性赤痢 (17) 腸管出血性大腸菌感染症 (18) 腸チフス
(19) パラチフス

4 四類感染症

- (20) E型肝炎 (21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。) (22) A型肝炎
(23) エキノコックス症 (24) 黄熱 (25) オウム病 (26) オムスク出血熱 (27) 回帰熱
(28) キャサヌル森林病 (29) Q熱 (30) 狂犬病 (31) コクシジオイデス症 (32) サル痘
(33) ジカウイルス感染症 (34) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SF-TSウイルスであるものに限る。) (35) 腎症候性出血熱 (36) 西部ウマ脳炎
(37) ダニ媒介脳炎 (38) 炭疽 (39) チクングニア熱 (40) つつが虫病 (41) デング熱
(42) 東部ウマ脳炎 (43) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)
(44) ニパウイルス感染症 (45) 日本紅斑熱 (46) 日本脳炎 (47) ハンタウイルス肺症候群
(48) Bウイルス病 (49) 鼻疽 (50) ブルセラ症 (51) ベネズエラウマ脳炎
(52) ヘンドラウイルス感染症 (53) 発しんチフス (54) ボツリヌス症 (55) マラリア
(56) 野兎病 (57) ライム病 (58) リッサウイルス感染症 (59) リフトバレー熱
(60) 類鼻疽 (61) レジオネラ症 (62) レプトスピラ症 (63) ロッキー山紅斑熱

5 五類感染症

- (64) アメーバ赤痢 (65) ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)
(66) カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 (67) 急性弛緩性麻痺 (急性灰白髄炎を除く。)
(68) 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)
(69) クリプトスポリジウム症 (70) クロイツフェルト・ヤコブ病 (71) 劇症型溶血性レンサ球菌感染症
(72) 後天性免疫不全症候群 (73) ジアルジア症 (74) 侵襲性インフルエンザ菌感染症
(75) 侵襲性髄膜炎菌感染症 (76) 侵襲性肺炎球菌感染症 (77) 水痘 (患者が入院を要すると認められるものに限る。)
(78) 先天性風しん症候群 (79) 梅毒 (80) 播種性クリプトコックス症 (81) 破傷風 (82) バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
(83) バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (84) 百日咳 (85) 風しん (86) 麻しん
(87) 薬剤耐性アシネトバクター感染症

6 新型インフルエンザ等感染症

- (112) 新型インフルエンザ (113) 再興型インフルエンザ

7 指定感染症

該当なし

二 定点把握の対象

1 五類感染症

- (88) R S ウイルス感染症 (89) 咽頭結膜熱 (90) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (91) 感染性胃腸炎 (92) 水痘 (93) 手足口病 (94) 伝染性紅斑 (95) 突発性発しん (96) ヘルパンギーナ (97) 流行性耳下腺炎
(98) インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
(99) 急性出血性結膜炎 (100) 流行性角結膜炎 (101) 性器クラミジア感染症 (102) 性器ヘルペスウイルス感染症 (103) 尖圭コンジローマ (104) 淋菌感染症 (105) クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)
(106) 細菌性髄膜炎 (インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
(107) ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 (108) マイコプラズマ肺炎 (109) 無菌性髄膜炎
(110) メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 (111) 薬剤耐性緑膿菌感染症

2 疑似症

(114) 摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。)(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

(115) 発熱及び発しん又は水疱(ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

三 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象二類感染症

- (13) 鳥インフルエンザ (H5N1)

第三 実施主体

実施主体は県とし、愛媛県医師会等関係機関の協力を得て事業を実施する。

第四 実施体制の整備

一 愛媛県感染症情報センター

愛媛県感染症情報センター（以下「感染症情報センター」という。）を、愛媛県立衛生環境研究所（以下「衛生環境研究所」という。）に設置する。感染症情報センターは、県及び松山市（以下、「県等」という。）から報告された患者情報、疑似症情報及び病原体情報（検査情報を含む。以下同じ。）を収集、分析し、その結果を全国情報等と併せて速やかに関係機関等へ提供・公開する。

二 指定届出機関及び指定提出機関（定点）

1 県は、定点把握対象の感染症について、患者情報及び疑似症情報を収集するため、法第14条第1項に規定する指定届出機関として、患者定点及び疑似症定点を選定する。

2 県は、定点把握対象の五類感染症について、患者の検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）を収集するため、病原体定点を選定する。

なお、法施行規則第7条の2に規定する五類感染症については、法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として、病原体定点を選定する。

三 愛媛県感染症対策推進協議会

本事業に関する事項については、愛媛県感染症対策推進協議会において協議することとし、愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱第8条の規定に基づく解析評価担当委員（以下「解析評価委員」という。）が解析評価を行う。

四 検査施設

本事業に係る検体等の検査については、衛生環境研究所又は保健所の検査施設（以下「衛生環境研究所等」という。）において実施する。衛生環境研究所等は、別に定める病原体等検査の業務管理要領（以下「病原体検査業務管理要領」という。）に基づき検査を実施し、検査の信頼性確保に努める。

また、県等は、県等域内における検査が適切に実施されるよう施設間の役割を調整するとともに、衛生環境研究所は、松山市において実施できない項目について検査事務を受託する等、検査実施体制の整備を図る。

第五 事業の実施

一 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第二の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

1 医師

医師は、一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症（第二の(75)、(85)及び(86))、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（以下「届出基準等通知」という。）に基づき診断した場合は、届出基準等通知別記様式により、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

2 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供について、依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1の検査票を添付して提供する。

3 保健所

(1) 医師から届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。

(2) 保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対し、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼等する。

なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生環境研究所と協議する。

(3) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生環境研究所等に検査を依頼するものとし、検体等の送付は、保健所において実施する。

4 衛生環境研究所等

(1) 衛生環境研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査業務管理要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、本庁健康増進課及び感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報について、速やかに病原体検出情報システムに入力する。

(2) 衛生環境研究所等において検査の困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(3) 患者が一類感染症と診断されている場合、県域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

5 感染症情報センター

感染症情報センターは、患者情報について、保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

二 全数把握対象の五類感染症（(75)、(85)及び(86)を除く。）

1 医師

医師は、第二の一の5に掲げる全数把握対象の五類感染症（(75)、(85)及び(86)を除く。）を届出基準等通知に基づき診断した場合は、届出基準等通知別記様式を用いて診断後7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

2 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、保健所に協力し、別記様式1の検査票を添付して提供する。

3 保健所

(1) 医師から届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力する。

(2) 保健所は、病原体検査が必要と判断した場合には、検体等を所持している医療機関等に対し、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼する。

なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生環境研究所と協議する。

(3) 保健所は、検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生環境研究所等に検査を依頼するものとし、検体等の送付は、保健所において実施する。

4 衛生環境研究所等

(1) 衛生環境研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が送付された場合にあっては、別に定める病原体検査業務管理要領に基づき当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、本庁健康増進課及び感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報について、速やかに病原体検出情報システムに入力する。

(2) 衛生環境研究所等において検査の困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

(3) 県域を超えた感染症の集団発生があった場合等の緊急の場合及び国から提出を求められた場合にあっては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

5 感染症情報センター

感染症情報センターは、患者情報について、保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

三 定点把握対象の五類感染症

1 定点の選定

(1) 患者定点

県は、第二の二の1に掲げる定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、関係医師会等の協力を得て、対象感染症に応じ、次に掲げる医療機関のうちから可能な限り無作為に患者定点を選定する。患者定点数は、別に定める基準（国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱。以下「算定基準」という。）を準用し算定する。

対象感染症	医療機関
ア 第二の(88)から(97)までに掲げるもの (小児科定点)	小児科を標榜する医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）
イ 第二の(98)に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。） (インフルエンザ定点及び基幹定点) なお、基幹定点における届出基準は、インフルエンザ定点と異なり、入院患者に限定されることに留意する。	上記アで選定した小児科に加え、内科を標榜する医療機関（主として内科医療を提供しているもの）
ウ 第二の(99)及び(100)に掲げるもの (眼科定点)	眼科を標榜する医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）

エ 第二の(101)から(104)までに掲げるもの (性感染症定点(STD定点))	産婦人科、産科若しくは婦人科(産婦人科系)、医療法施行令(昭和23年政令第326号)第3条の2第1項第1号ハ及びニ(2)の規定により性感染症と組み合わせた名称を診療科名とする診療科、泌尿器科又は皮膚科を標榜する医療機関(主として各々の標榜科の医療を提供しているもの)
オ 第二の(90)のうち病原体がロタウイルスであるもの及び(105)から(111)までに掲げるもの (基幹定点)	原則患者を300人以上収容する施設を有する病院であつて内科及び外科を標榜する病院(小児科医療と内科医療を提供しているもの)

(2) 疑似症定点

県は、第二の二の2に掲げる定点把握対象の疑似症の発生状況を地域的に把握するため、関係医師会等の協力を得て、対象感染症に応じ、次に掲げる医療機関のうちから可能な限り無作為に疑似症定点を選定する。疑似症定点数は、算定基準を準用し算定する。

対象感染症	医療機関
ア 第二の(114)に掲げるもの (第一号疑似症定点)	小児科を標榜する医療機関(主として小児科医療を提供しているもの)又は内科を標榜する医療機関(主として内科医療を提供しているもの)
イ 第二の(115)に掲げるもの (第二号疑似症定点)	小児科を標榜する医療機関(主として小児科医療を提供しているもの)、内科を標榜する医療機関(主として内科医療を提供しているもの)又は皮膚科を標榜する医療機関(主として皮膚科医療を提供しているもの)

(3) 病原体定点

県は、病原体の分離等の検査情報を収集するため、患者定点として選定された医療機関の中から、次の基準により病原体定点を選定する。

病原体定点	算定基準	対象感染症
ア 小児科病原体定点	(1)のアにより選定された小児科定点の概ね10%	第二の(88)から(97)までに掲げるもの
イ インフルエンザ病原体定点(法第14条の2第1項に規定する指定提出機関として指定)	(1)のイにより選定されたインフルエンザ定点の概ね10%(小児科定点から10%以上及び内科定点から10%以上とし、それぞれ3定点と2定点を下回らないように選定)	第二の(98)に掲げるもの
ウ 眼科病原体定点	(1)のウにより選定された眼科定点の概ね10%	第二の(99)及び(100)に掲げるもの
エ 基幹病原体定点	(1)のオにより選定された基幹定点の全て	第二の(90)のうち病原体がロタウイルスであるもの、(106)及び(109)に掲げるもの

2 調査単位等

(1) 患者情報のうち、前記1の(1)のア、イ、ウ及びオ(第二の(107)、(110)及び(111))に関する患者情報を除く。)により選定された患者定点にあつては1週間(月曜日から日曜日)を調査単位とし、前記1の(1)のエ及びオ(第二の(107)、(110)及び(111))に関する患者情報のみ)により選定された患者定点にあつては各月を調査単位とする。

(2) 疑似症情報については、速やかな情報提供を図る趣旨から、直ちに疑似症発生状況の

把握を行う。

- (3) 病原体情報のうち、前記1の(3)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点にあっては、第二の(98)に掲げるインフルエンザの流行期（1の(1)のイにより選定されたインフルエンザ定点当たりの患者発生数が県単位で1を超えた時点から1を下回るまでの間）には1週間（月曜日から日曜日）を調査単位とし、非流行期（流行期以外の期間）には各月を調査単位とする。その他の病原体定点にあっては、各月を調査単位とする。

3 実施方法

(1) 患者定点

ア 患者定点として選定された医療機関は、調査単位の期間の診療時における報告基準により患者発生状況を把握するとともに、届出基準等通知別記様式により、管轄保健所に届出を行う。

イ 前記アの報告は、調査単位が週の場合は翌週の月曜日に、月単位の場合は翌月の初日に、郵送又はFAXその他地域の特性に応じた適切な方法により報告するものとする。

(2) 疑似症定点

ア 疑似症定点として選定された医療機関は、調査単位の期間の診療時における報告基準により疑似症発生状況を把握するとともに、届出基準等通知別記様式により、管轄保健所に届出を行う。

イ 前記アの報告は、直ちに電話又はFAXその他地域の特性に応じた適切な方法により報告するものとする。

(3) 病原体定点

ア 病原体定点として選定された医療機関は、必要に応じて病原体検査のための検体等を採取する。

イ 病原体定点は、検体等について、別記様式1の検査票を添えて、保健所との連携を図りながら速やかに衛生環境研究所へ送付する。

ウ 1の(3)のアにより選定された小児科病原体定点においては、第二の(88)から(97)までの対象感染症のうち、患者発生状況等を踏まえ県等においてあらかじめ選定した複数の感染症について、調査単位ごとに、概ね4症例からそれぞれ少なくとも1種類の検体を送付する。

エ 1の(3)のイにより選定されたインフルエンザ病原体定点においては、第二の(98)に掲げるインフルエンザ（インフルエンザ様疾患を含む。）について、調査単位ごとに、少なくとも1検体を送付する。

(4) 検体等を所持している医療機関等

保健所等から当該患者の病原体検査のための検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、検体等について、保健所に協力し、別記様式1の検査票を添えて提供する。

(5) 保健所

ア 保健所は、患者定点から得られた患者情報を、調査単位が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染

症発生動向調査システムに入力する。

イ 保健所は、疑似症定点から得られた疑似症情報を、直ちに症候群サーベイランスシステムに入力する。

ウ 対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、本庁健康増進課及び感染症情報センターへ報告する。

エ 保健所は、病原体検査が必要と判断した場合は、検体等を所持している医療機関等に対して、病原体検査のための検体等の提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼する。

なお、病原体検査の必要性の判断及び実施等について、必要に応じて衛生環境研究所と協議する。

オ 保健所は、医療機関等から検体等の提供を受けた場合には、別記様式1の検査票を添付して衛生環境研究所等に検査を依頼するものとし、検体等の送付は、保健所において実施する。

(6) 衛生環境研究所等

ア 衛生環境研究所等は、別記様式1の検査票及び検体等が送付された場合にあつては、別に定める病原体検査業務管理要領に基づき当該検体を検査し、その結果を病原体情報として保健所を経由して病原体定点に通知するとともに、本庁健康増進課及び感染症情報センターに送付する。

また、病原体情報については、速やかに病原体検出情報システムに入力する。

イ 検査の困難なものについては、必要に応じて、他の都道府県等又は国立感染症研究所に協力を依頼する。

ウ 県域を超えた感染症の集団発生があつた場合等の緊急の場合及び国から検体等の提出を求められた場合にあつては、検体等を国立感染症研究所に送付する。

(7) 感染症情報センター

感染症情報センターは、患者情報及び疑似症情報について、保健所から情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

四 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の実施方法

1 保健所

鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査を実施した保健所は、別に定める国の基準に従い、直ちに疑い症例調査支援システムに調査内容を入力する。

なお、医療機関から提出される検体等には、疑い症例調査支援システムが発行する検査依頼票を添付する。

2 衛生環境研究所

(1) 衛生環境研究所は、検査依頼票及び検体等が送付された場合にあつては、当該検体等を別に定める病原体検査業務管理要領に基づき検査し、その結果を直ちに保健所に通知する。通知を受けた保健所においては、その内容を直ちに疑い症例調査支援システムに入力する。

(2) 鳥インフルエンザ(H5N1)に係る積極的疫学調査の結果を厚生労働省に報告する場合にあつては、法施行規則第9条第2項に従い、検体等を国立感染症研究所に送付する。

第六 情報の分析、提供及び対応

一 感染症情報センター

感染症情報センターは、収集した患者情報、疑似症情報、病原体情報並びに全国情報等と併せて、解析委員の意見を聴取し、県域全体としての総合的解析評価を行い、その結果を愛媛県感染症情報として、速やかに本庁健康増進課、保健所、県医師会、教育委員会その他の関係機関へ提供する。

二 保健所

保健所は、感染症の発生状況等を把握し、市町、指定届出機関、指定提出機関、その他の関係医療機関、医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し連携を図る。

三 本庁健康増進課

本庁健康増進課は、感染症情報センターが収集、分析した患者情報及び病原体情報を感染症対策に利用し、関係機関との連携・調整を行う。

なお、緊急の場合及び国から対応を求められた場合においては、本庁健康増進課は、直接必要な情報を収集するとともに、国及び他の都道府県等とも連携の上、迅速な対応を行う。

第七 その他

一 県は、効果的かつ円滑な感染症発生動向調査体制を構築するため、松山市と密接な連携を図る。

二 感染症発生動向調査のために取り扱うこととなった検体等については、感染症の発生及びまん延防止策の構築、公衆衛生の向上のために使用されるものであり、それ以外の目的に用いてはならない。また、検体採取の際には、その使用目的について説明の上、できるだけ本人等に同意をとることが望ましい。

なお、上記に掲げる目的以外の研究に使用する場合は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針」等の別に定める規定に従う。

三 情報の提供を行うときは、個人情報保護に十分留意する。

四 本事業に協力を得た医師、解析評価委員に対して予算の範囲内で謝金を支出する。

五 この要綱で定めるもののほか、感染症発生動向調査事業の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

1 この要綱は、平成13年1月1日から施行する。

2 愛媛県結核・感染症発生動向調査実施要綱（昭和62年1月1日）は、廃止する。

附 則

この実施要綱の改正は、平成14年11月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成15年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 6 月 12 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 9 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この要綱施行の際現にある改正前の要綱の様式の規定による書類の用紙は、平成 18 年度に限り使用することができる。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成 18 年 11 月 22 日から施行する。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 19 年 4 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この要綱施行の際現にある改正前の要綱の様式の規定による書類の用紙は、平成 19 年度に限り使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 20 年 1 月 1 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

3 この要綱施行の際現にある改正前の要綱の様式の規定による書類の用紙は、平成 19 年度に限り使用することができる。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

(経過措置)

2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附 則

(施行期日)

1 この実施要綱の一部改正は、平成 23 年 2 月 1 日から施行する。

(経過措置)

- 2 この要綱施行の際現に改正前の要綱の様式の規定により提出され、又は交付している書類は、改正後の要綱の規定により提出され、又は交付した書類とみなす。

附 則

(施行期日)

この実施要綱の一部改正は、平成23年9月5日から施行する。

ただし、第五の三の1の(1)の表中イの指定については、平成23年8月17日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年3月4日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年5月6日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成25年10月14日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成26年7月26日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成26年9月19日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成27年1月21日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成27年5月21日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成28年2月15日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成30年1月1日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成30年3月27日から施行する。

附 則

この実施要綱の一部改正は、平成30年5月1日から施行する。

別記様式 1 保健所コード

保健所登録全数報告 ID

衛研受付番号(検体提供者番号)

□□□□-□□□□-□□□□□□

□□-□□□□□

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症検査票(病原体)

患者コード	性別 (男・女)	住所 市町	定点医療機関の場合は、該当するものに○ ・インフルエンザ定点 ・小児科定点 ・眼科定点 ・性感染症定点 ・基幹定点
氏名	年齢 (歳 カ月)	住所	

[主治医等記載欄]

医療機関等名及び主治等医師名(記載者)			
検体送付日		年 月 日	分離株(無・有・検査中)
診断名			
発病日		年 月 日	
検査材料	採取日	年 月 日	
	材料の種類 [該当するもの一つを○で囲んでください]	・ふん便(腸内容物、直腸ぬぐい液) ・髄液 ・尿 ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・穿刺液(腹水、胸水、関節液、その他[]) ・咽頭ぬぐい液(うがい液、鼻汁) ・皮膚病巣(水疱内容、痂皮、創傷) ・結膜ぬぐい液(結膜擦過物、眼脂) ・陰部尿道頸管擦過物 / 分泌物 ・細胞診、生検、剖検材料(臓器)) ・血液(全血、血清、血漿、抗凝固剤[]) ・その他()	
臨床的事項	臨床症状・徴候等 [該当するものを全て○で囲んでください] (基礎疾患を除く)	・無症状 ・頭痛 ・発熱(最高 °C) ・熱性けいれん ・関節痛(関節炎)、筋肉痛 ・口内炎 ・上気道炎(咽頭炎/痛、扁桃炎) ・下気道炎(肺炎、気管支炎) ・水泡 ・発疹(丘疹、紅斑、バラ疹) ・出血傾向(全身性・局所:部位) ・リンパ節腫脹(部位) ・唾液腺腫脹(耳下腺炎、顎下腺炎) ・浮腫(部位) ・その他の症状(上記以外の症状や臨床徴候) []	
	基礎疾患		
転帰		経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡(原因)	
主治医等から地方衛生研究所への連絡事項(関連の臨床検査結果等)			
* インフルエンザ迅速キット使用(無・有 :メーカー・品名[]、陰性・陽性[]型)・保留)			
* 抗インフルエンザ薬投与(無・有 :薬剤名[]、投与開始日 年 月 日 予防・治療投与)			

[保健所等記載欄](主治医記載可)

発生の状況	・散发 ・地域流行 ・家族内発生(無、有) ・集団発生(無、有) ・発生市町() 有の場合(保育所、幼稚園、小学校、中学校、高校、大学、宿舎・寮、病院、老人ホーム(介護施設を含む)、福祉・養護施設、旅館・ホテル、飲食店、事業所、海外ツアー、国内ツアー、その他 [])		
最近の海外渡航歴	国名		
	期間	年 月 日 ~ 年 月 日	
ワクチン接種歴	無、有、不明 [最終接種年月日 年 月 日] ワクチン名 (Lot No)		

[地方衛生研究所記載欄]

記載者名			
抗体検出方法結果		(蛍光、IP、ELIZA、CF、HI、PA、中和、イムノブロット、ゲル内沈降、凝集反応、その他 [])	
病原体検出	検出年月日	年 月 日	
	検出方法 [陽性となった方法を○で囲んでください]	・分離培養 (培養細胞 : 細胞名 []) 人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []) ・抗原検出 (蛍光、EIA、RPHA、LA、PA、IC [イムノクロマト]、その他 []) ・遺伝子検出 1.非増幅(ハイブリ、PAGE、その他 []) 2.増幅(PCR、PCR+ハイブリ、PCR+シーケンス、LAMP、その他 []) ・電顕 ・鏡検	
	検出病原体(群、型、亜型)		
その他特記事項			

注1) 患者の氏名及び住所欄については、感染症法第16条の3、第26条の3、第26条の4、第44条の7及び第50条に基づく一類感染症、二類感染症、新型インフルエンザ等感染症又は新感染症に係る検査の場合に記載をお願いします。
 注2) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。
 注3) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載してください。
 注4) 医療機関(民間検査所を含む)で病原体を分離した場合は、地方衛生研究所への分離株の送付をお願いします。

愛媛県感染症対策推進協議会設置要綱

(設置)

第1条 愛媛県における感染症の発生動向の把握、感染拡大防止対策等の一元化を図り、健康危機管理に即した迅速で実践的な体制を構築するとともに、予防接種業務の円滑な推進及び知事が県内居住者に対し実施した予防接種に起因する事故原因の調査・究明に資することを目的として、愛媛県感染症対策推進協議会(以下「協議会」という。)を設置する。

(任務)

第2条 協議会は、次の各号に掲げる事項について協議する。

- (1) 感染症発生の防止の施策に関する事項
- (2) 医療機関の確保、医療機関の連絡体制に関する事項
- (3) 感染症及び予防接種に関する知識の普及啓発に関する事項
- (4) 感染症患者の人権への配慮等に関する事項
- (5) 予防接種法(昭和23年法律第68号)に基づき、知事が県内居住者に対し実施した予防接種に起因する事故原因の調査・究明に関する事項
- (6) 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱(平成13年1月1日制定)に基づく感染症発生動向調査に関する事項

(組織)

第3条 協議会は、委員16人以内で組織する。

(委員)

第4条 協議会は、次に掲げる者のうちから、知事が委嘱し、又は任命する。

- (1) 社団法人愛媛県医師会の会員
- (2) 社団法人愛媛県獣医師会の会員
- (3) 感染症発生動向調査の専門家
- (4) 感染症対策の専門家
- (5) 第二種感染症指定医療機関の医師
- (6) 愛媛県予防接種センターの医師
- (7) 学識経験者
- (8) 感染症対策関係の行政担当者

2 委員の任期は、3年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任させることができる。

(会長及び副会長)

第5条 協議会に会長を置く。

- 2 会長は、委員の互選によって定め、副会長は会長が指名した者をもって充てる。
- 3 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。
- 4 副会長は会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

(会 議)

第 6 条 協議会は、会長が必要に応じ招集し、会長が議長となる。

(部 会)

第 7 条 協議会に、麻しん排除に向けた活動の推進を図ることを目的に、麻しん対策部会を置く。

- 2 部会に、部会長及び部会員を置き、委員及び医療、学校、行政その他関係者のうちから会長が指名する。
- 3 部会は、部会長が必要に応じて招集し、部会長が議長となる。

(解析評価担当委員)

第 8 条 愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱(平成 13 年 1 月 1 日制定)に規定する感染症発生動向調査にかかる情報の解析評価を担当する解析評価担当委員をおく。

- 2 解析評価担当委員は、会長が協議会の委員のうちから指名する。

(関係者の出席)

第 9 条 会長が必要と認めた時は、協議会の会議に委員以外の者の出席を求めることができる。

(庶 務)

第 10 条 協議会の庶務は、保健福祉部健康衛生局健康増進課において処理する。

(雑 則)

第 11 条 この要綱に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が、協議会に諮って定める。

附 則

この要領は、平成 15 年 8 月 1 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 16 年 1 月 13 日から施行する。

附 則

この要領は、平成 20 年 7 月 30 日から施行する。

愛媛県感染症発生動向調査事業病原体検査要領

第一 趣旨

本要領は、感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律（平成10年10月2日号外法律第114号）に基づき、感染症の発生の予防及びまん延の防止を図るために実施する愛媛県感染症発生動向調査事業において、病原体の検査情報の収集に関する必要な事項を定めるものとする。

第二 病原体検査の対象感染症

愛媛県感染症発生動向調査事業において病原体検査の対象とする感染症は、次のとおりとする。

一 全数把握の対象

愛媛県感染症発生動向調査事業実施要綱（以下、要綱という。）第二の一に掲げる全数把握対象感染症とする。

二 定点把握対象の五類感染症（病原体定点別）

要綱第二の二に掲げるもののうち、次の定点把握対象感染症とする。

1 小児科病原体定点

(88)咽頭結膜熱 (89)A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (90)感染性胃腸炎
(92)手足口病 (95)ヘルパンギーナ (96)流行性耳下腺炎

2 インフルエンザ病原体定点(内科病原体定点及び小児科病原体定点)

(97)インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)

3 眼科病原体定点

(98)急性出血性結膜炎 (99)流行性角結膜炎

4 基幹病原体定点

(90)感染性胃腸炎(病原体がロタウイルスであるものに限る。)(105)細菌性髄膜炎
(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
(108)無菌性髄膜炎

第三 関係機関の役割

一 検査実施機関

検査実施機関は、衛生環境研究所又は保健所とする。

ただし、衛生環境研究所で検査の実施が困難なものについては、国立感染症研究所又は検査可能な機関（以下、「国立感染症研究所等」という。）に、衛生環境研究所が協力を依頼する。

検査実施機関別の検査対象感染症は、別表1のとおりとする。

二 医療機関・医師

第二の一に掲げる検査対象感染症の患者を診断あるいは感染疑いと判断した医師は、保健所から病原体検査のための検体又は当該感染症の病原体（以下「検体等」という。）の提供の依頼又は命令を受けた場合にあっては、検体等について、別記様式1（要綱第五の一の2に定める様式をいう。以下同じ。）の検査票を添えて、速やかに保健所に提供

する。

三 病原体定点に選定された医療機関

- 1 第二の二に掲げる病原体定点の検査対象感染症の患者を診断した医師は、第四に示した検体数について、第五の別表2に掲げる検査材料を、別表3に従い採取する。採取された検体等は、別記様式1に掲げる検査票を添えて、速やかに保健所に提供する。
- 2 基幹病原体定点は、第二の二の4に掲げる検査対象感染症のほか、保健所から第二の二に掲げる検査対象感染症の検体等の提供の依頼を受けた場合にあっては、可能な範囲で検体等の提供に協力する。

四 保健所

- 1 保健所は、検査対象感染症の発生状況から、必要に応じて病原体検査のための検体等の提供を医療機関に依頼等する。
- 2 保健所は、医療機関における検体等の採取や搬送に協力し、第二の一に掲げる検査対象感染症のうち三類感染症の検体等の提供を受けた場合は、可能な範囲において検査を実施し、その結果を診断した医師に通知する。
- 3 保健所は、三類感染症の病原体を分離した場合又は第二の一に掲げる検査対象感染症の検体等の提供を受けた場合は、別記様式1の検査票を添えて、検体等を衛生環境研究所に搬送する。
- 4 保健所は、特定病原体を衛生環境研究所に搬送する場合は、省令第31条の36に規定された運搬基準を遵守すること。

五 衛生環境研究所

- 1 衛生環境研究所は、検体等と別記様式1の検査票が搬入された場合は、当該検体等を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、本庁及び感染症情報センターに通知する。
- 2 衛生環境研究所において、検査の実施が困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所等に協力を依頼する。
- 3 衛生環境研究所は、病原体検査情報を、病原体検出情報システムに入力する。

第四 定点把握の五類感染症の病原体検査検体数

定点把握の五類感染症の病原体検査検体数は、要綱第五の三の3の(3)に示すとおりとする。

なお、眼科病原体定点及び基幹病原体定点については、検査対象感染症につき、概ね月4件の検体を採取することとし、基幹病原体定点については、検査対象感染症以外に必要なに応じて小児科病原体定点対象感染症の検体を採取する。

第五 検体採取

一 器材

検体採取に必要な器材、培地等は衛生環境研究所が準備し、必要に応じ保健所から関係医療機関に配布する。

二 検査材料

病原体検査のために採取すべき検査材料は、別表2のとおりとする。

第六 病原体検査検体の採取、保存、輸送等

一 細菌感染症

1 採取方法

(1) 糞便

ア 抗生物質投与前の糞便の一部を滅菌綿棒で取り、輸送用培地（キャリーブレイア培地等）の寒天部に深く差し込み密栓する。止むを得ない場合は、直腸スワブを採取し、前項と同様輸送用培地に綿棒を差し込み密栓する。

イ 検体採取後は、室温で保存し、速やかに検査に供する。遅くとも24時間以内に分離培養するのが望ましい。

(2) 鼻咽頭ぬぐい液

ア 滅菌綿棒で鼻腔又は咽頭部を十分に拭い、輸送用培地（キャリーブレイア培地等）中に綿棒を深く差し込み、直ちにキャップを確実に閉める。

イ 検体採取後は、室温で保存し、24時間以内に分離培養するのが望ましい。

2 保存及び輸送方法

(1) 検査材料は、容器から内容物が漏れないようにビニールテープ等で密栓する。所定の搬送用ボックスに入れ、できるだけ速やかに室温で搬送する。

(2) 検体は、冷凍での保存・搬送はしてはならない。

二 ウイルス感染症

1 採取方法

(1) 糞便

ア できるだけ早期（急性期）に排泄直後の糞便を採取する。

イ ウイルス分離培養検査用は糞便2g（2ml）を採取するか、又は滅菌綿棒で少量（0.1-0.2g）をウイルス分離用保存液中に取り、よく攪拌後綿棒を取り除いて密栓する。

ウ 下痢症ウイルス検査用は、母指頭大（約5g）以上の糞便あるいは嘔吐物を容器に採取し密栓する。

(2) 鼻咽頭ぬぐい液

滅菌綿棒で鼻腔又は咽頭部を十分に拭い、ウイルス分離用保存液中でよく攪拌し、綿球部をよく絞ったのち綿棒を取り除いて密栓する。

(3) 咽頭うがい液

滅菌生理食塩水8～10mlを用い咽頭の奥でよくうがいをさせ、清浄なコップ等に吐き出されたうがい液を5mlのウイルス分離用保存液又は滅菌ブイヨン液に等量加え密栓する。

(4) 髄液

1～5mlを無菌的に採取し、滅菌容器に入れ密栓する。

(5) 水疱内溶液

水疱又は膿疱の表面をアルコール綿等で消毒し、毛細管、ツベルクリン注射器等で局所を突き刺して内容液を吸引し、ウイルス分離用保存液に入れ密栓する。

(6) 結膜擦過物

滅菌綿棒で下瞼結膜を強くこする。綿棒をウイルス分離用保存液中でよく振とうして擦過物を浮遊させた後、綿球部を管壁でよく絞ったのち綿棒を取り除いて密栓する。

(7) 血液、血清

ウイルス分離用の血液は、抗凝固剤（クエン酸又はEDTA）入り採血管に4～5mlを採取し、室温でできるだけ速やかに検査機関に搬送する。

血清免疫学的診断用の場合は、凝固剤入り採血管に3～5mlを採血する。30分程度静置後3,000rpmで遠心分離し、血清を滅菌セラムチューブ等に採取し、搬送するまで冷凍庫（-25℃以下）に保存する。

血清免疫学的診断には、急性期（発病3日以内）と回復期（発病後2～3週間後）のペア血清が必要なことが多い。

2 保存及び搬送方法

- (1) 検体は、できるだけ速やかに検査実施機関に搬送する。
- (2) 検体採取当日又は翌日に検査が可能な場合は、氷冷して保存・搬送する。
- (3) 2日以上保存する場合は、密封しドライアイスアセトン又は液体窒素で急速凍結した後、-25℃以下（できれば-70℃以下が望ましい）で冷凍保存する。
- (4) 冷凍して搬送する場合は、断熱性の搬送用ボックスに入れ、ドライアイス又は寒剤（例：氷75%＋食塩25%）等を使用し、搬送中に融解しないようにする。
- (5) 保存又は搬送にドライアイスを使用する場合は、CO₂ガスが容器に入り、pHが低下するのを防ぐため、検体容器をビニールテープでシールして密封する。

三 原虫感染症

1 採取方法

- (1) 母指頭大（約5g）以上の糞便を、保存培地の入っていない採便容器に採取し密栓する。
- (2) 連日あるいは1日おきに複数回採取するのが望ましい。

2 保存及び搬送方法

- (1) 検体は、できるだけ速やかに検査実施機関に搬送する。
- (2) 保存、輸送は冷蔵(4℃)で行う。
- (3) 長期間(3日以上)の保存が避けられない場合は-25℃以下で冷凍保存し、溶解しないよう氷冷して搬送する。

第七 その他

- 一 県は、県内の病原体に関する情報を統一的に収集し、分析し、及び公表する体制を構築するため、松山市と緊密な連携を図る。
- 二 この要領に定めるもののほか、病原体検査の実施に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この要領は、平成13年1月1日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成15年11月5日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成 20 年 5 月 12 日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成 28 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この要領の一部改正は、平成 30 年 1 月 1 日から施行する。

別表 1

検査実施機関別検査対象感染症

類型	疾 病	BSL	検 査 可 能 機 関			
			保健所	衛生環境 研究所	国立感染症 研究所	備 考
一類	エボラ出血熱	4			○	
	クリミア・コンゴ出血熱	4			○	
	痘そう	4			○	
	南米出血熱	4			○	
	ペスト	4			○	
	マールブルグ病	4			○	
	ラッサ熱	4			○	
二類	急性灰白髄炎	2		○	○	
	結核	3		○	(結研)	V N T R 検査
	ジフテリア	2		○	○	
	重症急性呼吸器症候群 ※1	3		○	○	
	中東呼吸器症候群 ※2	3		○	○	
	鳥インフルエンザ (H5N1)	3		○	○	
鳥インフルエンザ (H7N9)	3		○	○		
三類	コレラ	2	○	○		
	細菌性赤痢	2	○	○		
	腸管出血性大腸菌感染症	2	○	○		
	腸チフス	3	○	○		
	パラチフス	3	○	○		
四類	E型肝炎	2		○	○	
	ウエストナイル熱 (ウエストナイル脳炎を含む)	3		○	○	
	A型肝炎	2		○		
	エキノコックス症	2			○	
	黄熱	3			○	
	オウム病	2			○	
	オムスク出血熱	2			○	
	回帰熱	3			○	
	キャサヌル森林病	3			○	
	Q熱	3			○	
	狂犬病	3		○	○	
	コクシジオイデス症	3			○	
	サル痘	2			○	
	ジカウイルス感染症	2		○	○	
	重症熱性血小板減少症候群 ※3	3		○	○	
	腎症候性出血熱	3			○	
	西部ウマ脳炎	3			○	
	ダニ媒介脳炎	3			○	
	炭疽	3		○		
	チクングニア熱	3		○		
	つつが虫病	3			○	
	デング熱	2		○		
	東部ウマ脳炎	3			○	
	鳥インフルエンザ (H5N1及びH7N9を除く。)	3			○	
	ニバウイルス感染症	3			○	
	日本紅斑熱	3		○		
	日本脳炎	2		○		
	ハンタウイルス肺症候群	3			○	
	Bウイルス病	3			○	
	鼻疽	3			○	
	ブルセラ病	3			○	
	ベネズエラウマ脳炎	3			○	
	ヘンドラウイルス感染症	3			○	
	発しんチフス	3			○	
	ボツリヌス症	2		○		
	マラリア	2			○	
	野兔病	3			○	
	ライム病	3			○	
	リッサウイルス感染症	3			○	
	リフトバレー熱	3			○	
類鼻疽	2			○		
レジオネラ症	2		○			
レプトスピラ症	2			○		
ロッキー山紅斑熱	3			○		

類型	疾 病	BSL	検 査 可 能 機 関			
			保健所	衛生環境 研究所	国立感染症 研究所	備 考
五類 全数	アメーバ赤痢	2			○	
	ウイルス性肝炎 (A型肝炎及びE型肝炎を除く)	2	○	○	○	
	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	2		○	○	
	急性脳炎 ※4	-		○	○	
	クリプトスポリジウム症	2		○		
	クロイツフェルト・ヤコブ病	2			○	
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	2		○		
	後天性免疫不全症候群	3	○	○	○	
	ジアルジア症	2		○		
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	2			○	
	侵襲性髄膜炎菌感染症	2			○	
	侵襲性肺炎球菌感染症	2			○	
	水痘 (患者が入院を要すると認められる例に限る)	2				病原体検査対象外
	先天性風しん症候群	2			○	
	梅毒	2	○			
	播種性クリプトコックス症	2			○	
	破傷風	2			○	
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2		○	○	
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	2		○	○	
	百日咳	2		○		
	風しん	2		○		
麻しん	2		○			
薬剤耐性アシネトバクター感染症	2		○	○		
五類 定点	RSウイルス感染症	2		○		病原体検査対象外であるが対応可能
	咽頭結膜熱	2		○		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	2		○		
	感染症胃腸炎	2		○		
	水痘	2				病原体検査対象外
	手足口病	2		○		
	伝染性紅斑	2				病原体検査対象外であるが対応可能
	突発性発しん	2				病原体検査対象外
	ヘルパンギーナ	2		○		
	流行性耳下腺炎	2		○		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ・新型インフルエンザ等感染症を除く)	2		○		
	急性出血性結膜炎	2		○		
	流行性角結膜炎	2		○		
	性器クラミジア感染症	2				病原体検査対象外
	性器ヘルペスウイルス感染症	2				病原体検査対象外
	尖圭コンジローマ	2				病原体検査対象外
	淋菌感染症	2				病原体検査対象外
	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	2				病原体検査対象外
	細菌性髄膜炎 ※5	2		○		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	2		○	○	病原体検査対象外
	マイコプラズマ肺炎	2				病原体検査対象外
	無菌性髄膜炎	2		○		
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	2		○	○	病原体検査対象外
	薬剤耐性緑膿菌感染症	2		○	○	病原体検査対象外
新型	新型インフルエンザ	3		○	○	衛研でH亜型、国立感染研でN亜型検出
	再興型インフルエンザ	3		○	○	衛研でH亜型、国立感染研でN亜型検出

※1 病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。
 ※2 病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。
 ※3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。
 ※4 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。
 ※5 インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

別表 2

感染症別の採取材料一覧表

類型	検査対象感染症名	病原体	BSL	採取検査材料								検査方法				検査担当機関	
				血液・血清	咽頭拭液	糞便	髄液	結膜拭液	尿	水疱内容	剖検材料その他	生検	検そ	培養法	抗原検出法		抗体検出法
一類	1 エボラ出血熱	V	4	S									○	○	○	○	感染研
	2 クリミア・コンゴ出血熱	V	4	○									○	○	○	○	感染研
	3 痘そう	V	4	○							○		○	○	○	○	感染研
	4 南米出血熱	V	4	○									○	○	○	○	感染研
	5 ペスト	B	4	○									○				感染研
	6 マールブルグ病	V	4	○									○	○	○	○	感染研
	7 ラッサ熱	V	4	○									○	○	○	○	感染研
二類	8 急性灰白髄炎	V	2	S	○	○	○						○		○		衛環研・感染研
	9 結核	B	3														衛環研
	10 ジフテリア	B	2	S	○								○	○			衛環研
	11 重症急性呼吸器症候群(SARS)	V	3	○	○	○							○		○	○	衛環研・感染研
	12 中東呼吸器症候群(MERS)	V	3		○											○	衛環研・感染研
	13 鳥インフルエンザ(H5N1)	V	3	S	○								○			○	衛環研・感染研
	14 鳥インフルエンザ(H7N9)	V	3	S	○								○			○	衛環研・感染研
三類	15 コレラ	B	2			○							○				保健所
	16 細菌性赤痢	B	2			○							○				保健所
	17 腸管出血性大腸菌感染症	B	2	○	○	○							○				保健所
	18 腸チフス	B	3	○	○	○				○			○				保健所
	19 パラチフス	B	3	○	○	○				○			○				保健所
四類	20 E型肝炎	V	2	S		○										○	衛環研・感染研
	21 ウエストナイル熱	V	3	S			○						△		○	○	感染研
	22 A型肝炎	V	2	S		○										○	衛環研
	23 エキノコックス症	条虫	2	S										○	○		感染研
	24 黄熱	V	3	○									○	○		○	感染研
	25 オウム病	クラミジア	2	○	○								○	○	○	○	感染研
	26 オムスク森林病	V	2	○			○								○	○	感染研
	27 回帰熱	スピロヘータ	3	○									○	○		○	感染研
	28 キャサヌル森林病	V	3	○			○								○	○	感染研
	29 Q熱	リケッチア	3	○	○										○		感染研
	30 狂犬病	V	3				○	○					○	○		○	衛環研・感染研
	31 コクシジオイデス症	真菌	3										○				感染研
	32 サル痘	V L3扱い	2	S	○								○	○	○	○	感染研
	33 ジカウイルス感染症	V	2	S							○					○	衛環研・感染研
	34 重症熱性血小板減少症候群(SFTS)	V	3	S												○	衛環研
	35 腎症候性出血熱	V	3	○									○		○	○	感染研
	36 西部ウマ脳炎	V	3	○			○								○	○	感染研
	37 ダニ媒介脳炎	V	3	○			○								○	○	感染研
	38 炭疽	B	3	○		○					○		○				衛環研
	39 チクングニア熱	V	3	S												○	衛環研
	40 つつが虫病	リケッチア	3	S											○		感染研
	41 デング熱	V	2	○									○			○	衛環研
	42 東部ウマ脳炎	V	3	○			○								○	○	感染研
	43 鳥インフルエンザ(H5N1、H7N9を除く)	V	3	S	○								○			○	感染研
	44 ニパウイルス感染症	V	3	S	○						○			○	○	○	感染研
45 日本紅斑熱	リケッチア	3	○											○		衛環研	
46 日本脳炎	V	2	○		○									○		衛環研	
47 ハンタウイルス肺症候群	V	3	○											○	○	感染研	
48 Bウイルス病	V	3	S	○								○			○	感染研	
49 鼻疽	B	3	○									○				感染研	
50 ブルセラ病	B	3	○		○							○				感染研	
51 ベネズエラウマ脳炎	V	3	○											○	○	感染研	
52 ヘンドラウイルス感染症	V	3	○											○	○	感染研	
53 発しんチフス	リケッチア	3	○									○				感染研	
54 ボツリヌス症	B	2	S	○								○				新研研 (国立医薬品食品衛生研究所)	
55 マラリア	原虫	2	○												○	感染研	

別表 2

感染症別の採取材料一覧表

類型	検査対象感染症名	病原体	BSL	採取検査材料										検査方法			検査担当機関		
				血液・血清	咽頭拭液	糞便	髄液	結膜拭液	尿	水疱内容	剖検材料の他	生検	検そ	培養法	抗原検出法	抗体検出法		遺伝子検出	
四類	56 野兔病	B	3	○												○	○	感染研	
	57 ライム病	スピロヘータ	3	○			○					皮膚病巣	○					感染研	
	58 リッサウイルス感染症	V	3	○			○					脳	○	○			○	感染研	
	59 リフトバレー熱	V	3	○												○	○	感染研	
	60 類鼻疽	B	3	○								膿・呼吸器分泌物	○					感染研	
	61 レジオネラ症	B	2	S	○	○		○				痰、気管吸引液	○		○			衛環研	
	62 レプトスピラ症	スピロヘータ	2	○			○		○					○		○	○	感染研	
63 ロッキー山紅斑熱	リケッチア	3	○												○	○	感染研		
五類全数	64 アメーバ赤痢	原虫	2	S		○						肝臓瘍液、腸、肝					△	感染研	
	65 ウイルス性肝炎（E型、A型除く）	V	2	○											○			保健所	
	66 カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症	B	2									菌株	○				○	衛環研	
	67 急性脳炎	V、B	一	○	○	○	○		○				○	△	△	△		衛環研・感染研	
	68 クリプトスポリジウム症	原虫	2			○											○	衛環研	
	69 クロイツフェルト・ヤコブ病	プリオン	2				○					膿、扁桃、脾臓等		○				感染研	
	70 劇症型溶血性レンサ球菌感染症	B	2		○		○	○		○		皮膚、腹水、胸水	○	△				衛環研	
	71 後天性免疫不全症候群	V	3	○										○	○			保健所・衛環研	
	72 ジアルジア症	原虫	2			○											○	衛環研	
	73 侵襲性インフルエンザ菌感染症	B	2									菌株						感染研	
	74 侵襲性髄膜炎菌感染症	B	2									菌株						感染研	
	75 侵襲性肺炎球菌感染症	B	2									菌株						感染研	
	76 水痘（入院を要すると認められるものに限る）	V	2															対象外	
	77 先天性風しん症候群	V	2	○	○					○		白内障レンズ	○				○	感染研	
	78 梅毒	スピロヘータ	2	○												○		保健所	
	79 播種性クリプトコックス症	真菌	2															感染研	
	80 破傷風	B	2	S								創傷部組織	○		○			感染研	
	81 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	B	2									菌株	○				○	衛環研・感染研	
82 パンコマイシン耐性腸球菌感染症	B	2									菌株	○				○	衛環研		
83 百日咳	B	2	○	○							痰、気管吸引液	○		△	○		衛環研		
84 風しん	V	2	○	○		○		○								○	衛環研		
85 麻しん	V	2	○	○		○		○			脳(SSPE)	○		○	○		衛環研		
86 薬剤耐性アシネトバクター感染症	B	2									菌株						衛環研		
五類定点	87 RSウイルス感染症	V	2		○								○	○				衛環研	
	88 咽頭結膜熱	V	2	S	○	○	○	○	○		痰、気管吸引液	○	○			○		衛環研	
	89 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	B	2		○								○	△				衛環研	
	90 感染症胃腸炎	V B 原虫	2	S		○							○	○			○	衛環研	
	91 水痘	V	2															対象外	
	92 手足口病	V	2	S	○	○	○			○			○				○	衛環研	
	93 伝染性紅斑	V	2	○	○												○	衛環研	
	94 突発性発しん	V	2															対象外	
	95 ヘルパンギーナ	V	2	S	○	○								○				○	衛環研
	96 流行性耳下腺炎	V	2	S	○		○		○				○					衛環研	
	97 インフルエンザ	V	2	S	○		○	○			肺、脳	○		○	○			衛環研	
	98 急性出血性結膜炎	V	2	S	○	○		○					○				○	衛環研	
99 流行性角結膜炎	V	2	S	○	○		○					○				○	衛環研		
105 細菌性髄膜炎	B	2									菌株	○				△	衛環研		
108 無菌性髄膜炎	V	2	S	○	○	○						○				△	衛環研		

(注)病原体：B…細菌、V…ウイルス
 血液・血清：S…血清、○…全血
 検査担当機関：感染研…国立感染症研究所、衛環研…衛生環境研究所
 保健所…西条保健所、宇和島保健所

別表3

愛媛県感染症発生動向調査事業の病原体検査に係る検体採取及び保存方法

定点分類	疾病	検体	採取方法	採取容器	保存
小児科	咽頭結膜熱	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で咽頭をよく拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
	A群溶レン菌咽頭炎	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で咽頭をよく拭い、輸送用培地に綿棒を差し込み密栓する。48時間以内に搬送。	咽頭用スワブ	常温
	感染性胃腸炎 (細菌性)	糞便	滅菌綿棒で糞便を採取し、輸送用培地に綿棒を差し込み密栓する。48時間以内に搬送。	シードスワブ γ1号	常温
	感染性胃腸炎 (ウイルス性)	糞便	糞便を5g以上採取する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	採便容器	冷蔵 または 冷凍
		おう吐物	おう吐物を5g以上採取する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	採便容器	冷蔵 または 冷凍
	手足口病	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で咽頭をよく拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 2~3日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
		水疱	滅菌綿棒で水疱内容物を拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 2~3日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
		糞便	滅菌綿棒で便(又は直腸)を拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。2~3日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
		(菌株)	(菌分離ができた場合、菌株での提供もお願いします。)		常温
	ヘルパンギーナ	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で咽頭をよく拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 2~3日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
流行性耳下腺炎	咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で咽頭をよく拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍	
インフル	インフルエンザ	鼻腔ぬぐい液 咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で鼻腔または咽頭をよく拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。4~6日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
眼科	急性出血性結膜炎	結膜ぬぐい液	滅菌綿棒で下瞼結膜をよく拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
	流行性角結膜炎				
基幹	細菌性髄膜炎	菌株	(菌株での提供をお願いします)		常温
	無菌性髄膜炎 (髄液、咽頭ぬぐい液、糞便の3点セットが望ましい)	髄液	滅菌容器に1~5mL採取する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	滅菌容器	冷蔵 または 冷凍
		咽頭ぬぐい液	滅菌綿棒で咽頭を拭い、ウイルス分離用保存液中でよく攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。 1~2日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍
		糞便	滅菌綿棒で便(又は直腸)を拭い、ウイルス分離用保存液中で攪拌し、綿棒を取り除いて密栓する。2~3日冷蔵、それ以上冷凍	保存液 (使用前解凍)	冷蔵 または 冷凍

参考

感染症の予防及び感染症患者に対する医療に関する法律
第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について
(届出基準等通知、平成30年5月1日施行)

1 全数把握対象疾患

一類感染症	(1) エボラ出血熱
	(2) クリミア・コンゴ出血熱
	(3) 痘そう
	(4) 南米出血熱
	(5) ペスト
	(6) マールブルグ病
	(7) ラッサ熱
二類感染症	(8) 急性灰白髄炎
	(9) 結核
	(10) ジフテリア
	(11) 重症急性呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。)
	(12) 中東呼吸器症候群(病原体がベータコロナウイルス属MERSコロナウイルスであるものに限る。)
	(13) 鳥インフルエンザ(H5N1)
	(14) 鳥インフルエンザ(H7N9)
三類感染症	(15) コレラ
	(16) 細菌性赤痢
	(17) 腸管出血性大腸菌感染症
	(18) 腸チフス
	(19) パラチフス
四類感染症	(20) E型肝炎
	(21) ウエストナイル熱(ウエストナイル脳炎を含む。)
	(22) A型肝炎
	(23) エキノコックス症
	(24) 黄熱
	(25) オウム病
	(26) オムスク出血熱
	(27) 回帰熱
	(28) キャサスル森林病
	(29) Q熱
	(30) 狂犬病
	(31) コクシジオイデス症
	(32) サル痘
	(33) ジカウイルス感染症
	(34) 重症熱性血小板減少症候群(病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。)
	(35) 腎症候性出血熱
	(36) 西部ウマ脳炎
	(37) ダニ媒介脳炎
	(38) 炭疽
	(39) チクングニア熱
	(40) つつが虫病
	(41) デング熱
	(42) 東部ウマ脳炎
	(43) 鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く。)
	(44) ニパウイルス感染症
	(45) 日本紅斑熱
	(46) 日本脳炎
	(47) ハンタウイルス肺症候群
	(48) Bウイルス病
	(49) 鼻疽
	(50) ブルセラ症
	(51) ベネズエラウマ脳炎
	(52) ヘンドラウイルス感染症
	(53) 発しんチフス
	(54) ボツリヌス症
(55) マラリア	
(56) 野兎病	
(57) ライム病	
(58) リッサウイルス感染症	
(59) リフトバレー熱	
(60) 類鼻疽	
(61) レジオネラ症	
(62) レプトスピラ症	
(63) ロッキー山紅斑熱	

1 全数把握対象疾患(つづき)

五類感染症	(64)	アメーバ赤痢
	(65)	ウイルス性肝炎(E型肝炎及びA型肝炎を除く。)
	(66)	カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症
	(67)	急性弛緩性麻痺(急性灰白髄炎を除く。)
	(68)	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)
	(69)	クリプトスポリジウム症
	(70)	クロイツフェルト・ヤコブ病
	(71)	劇症型溶血性レンサ球菌感染症
	(72)	後天性免疫不全症候群
	(73)	ジアルジア症
	(74)	侵襲性インフルエンザ菌感染症
	(75)	侵襲性髄膜炎菌感染症
	(76)	侵襲性肺炎球菌感染症
	(77)	水痘(患者が入院を要すると認められるものに限る。)
	(78)	先天性風しん症候群
	(79)	梅毒
	(80)	播種性クリプトコックス症
	(81)	破傷風
	(82)	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症
	(83)	バンコマイシン耐性腸球菌感染症
(84)	百日咳	
(85)	風しん	
(86)	麻しん	
(87)	薬剤耐性アシネトバクター感染症	
新型インフルエンザ等感染症	(112)	新型インフルエンザ
	(113)	再興型インフルエンザ

2 定点把握対象疾患

五類感染症	(88)	RSウイルス感染症
	(89)	咽頭結膜熱
	(90)	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎
	(91)	感染性胃腸炎
	(92)	水痘
	(93)	手足口病
	(94)	伝染性紅斑
	(95)	突発性発しん
	(96)	ヘルパンギーナ
	(97)	流行性耳下腺炎
	(98)	インフルエンザ(鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)
	(99)	急性出血性結膜炎
	(100)	流行性角結膜炎
	(101)	性器クラミジア感染症
	(102)	性器ヘルペスウイルス感染症
	(103)	尖圭コンジローマ
	(104)	淋菌感染症
	(105)	クラミジア肺炎(オウム病を除く。)
	(106)	細菌性髄膜炎(インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。)
	(107)	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
(108)	マイコプラズマ肺炎	
(109)	無菌性髄膜炎	
(110)	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	
(111)	薬剤耐性緑膿菌感染症	
疑似症	(114)	摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状(明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。) (ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)
	(115)	発熱及び発しん又は水疱 (ただし、当該疑似症が二類感染症、三類感染症、四類感染症又は五類感染症の患者の症状であることが明らかな場合を除く。)

3 オンラインシステムによる積極的疫学調査結果の報告の対象

二類感染症	(13)	鳥インフルエンザ(H5N1)
-------	------	----------------

* 上記疾患の診断基準及び届出票は、愛媛県感染症情報センターホームページ(<http://www.pref.ehime.jp/h25115/kanjyo/index.html>)に掲載している。

愛媛県感染症発生動向調査事業報告書
平成 30 年(2018 年)

令和元年 12 月発行

発 行 愛媛県感染症情報センター
(愛媛県立衛生環境研究所)
愛媛県松山市三番町 8 丁目 234 番地
電話(089)931-8757
